

授業科目名： 幼児と健康	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 新井猛浩、大森桂
			担当形態：オムニバス
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・ 健康		
授業のテーマ及び到達目標			
幼児にとっての健康とは何か、何が健康を保ち何が健康を脅かすのかを理解するとともに、幼児の健やかな発育発達とそれを促進する事は何かを考えるための知識や態度を習得する。			
授業の概要			
子どもの最大の課題は発育発達することであり、健康はそれを支える重要な資源であることを解説する。生命体としての人をよく理解し、生命・人体の自然に従って生活リズムを確立することが健やかな発育発達のために大切であることを理解できるような基礎知識を身につける。また、子どもが育てられる良い環境づくりに貢献できるよう、社会や地域のつながりも含めた現代的な健康問題について考え、その問題解決能力を身につけていく。			
授業計画（各回 2 時間、計 16 時間を授業時間とする。）			
第 1 回：健康の概念、乳幼児の生理機能とその発達（新井）			
第 2 回：乳幼児のからだ、心、動き（新井）			
第 3 回：発育発達と乳幼児の主な疾病（新井）			
第 4 回：地域保健活動（子育て支援や児童虐待の防止）の実際（新井）			
第 5 回：乳幼児期の生活リズムと生活習慣（大森）			
第 6 回：乳幼児期の食生活（大森）			
第 7 回：乳幼児期の身体活動（大森）			
第 8 回：心身の健康を支える環境の整備、家庭との連携（大森）			
テキスト			
保育・教育ネオシリーズ16 保育内容・健康（河鍋きよし 編著、同文書院）			
参考書・参考資料等			
幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）			
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）			
学生に対する評価			
授業への積極的関与度、提出物（30％）、期末レポート（70％）で評価します。			

授業科目名： 幼児と人間関係	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：本島 優子 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・ 人間関係		
授業のテーマ及び到達目標 乳幼児期の対人関係の発達について扱い、乳幼児期における対人関係の経験とそれに関わる諸要因や他の発達側面との関連について学び、保育実践に必要な基本的理解を獲得する。			
授業の概要 乳児期の対人関係（アタッチメントなど）について解説した後、自己や認知などの心の育ちや遊びとの関連から幼児期の対人関係の様相を詳しく述べる。そして、非認知的能力の観点から乳幼児期における対人関係の重要性について説明し、保育実践に向けての考察を促す。			
授業計画（各回 2 時間、計 16 時間を授業時間とする。） 第 1 回：乳児の社会的能力 第 2 回：対人関係の基礎となるアタッチメント 第 3 回：認知発達と対人関係 第 4 回：自己の発達と対人関係 第 5 回：情動の発達と対人関係 第 6 回：遊びと対人関係 第 7 回：非認知能力と対人関係 第 8 回：乳幼児期における対人関係のまとめと試験			
テキスト 新時代の保育双書 保育内容 人間関係〔第 2 版〕（濱名 浩、株式会社みらい）			
参考書・参考資料等 授業中、適宜参考資料を配布する。			
学生に対する評価 以下の観点に基づいて、レポート課題（60％）および期末試験（40％）で評価する。 ・ 乳幼児期の対人関係の発達の過程について説明できる。 ・ 乳幼児期の対人関係の育ちに関わる諸要因や他の発達側面との関連について理解できる。 ・ 幼児の対人関係の経験について保育実践と関連付けながら考察を深めることができる。			

授業科目名： 幼児と環境	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 鈴木宏昭、後藤みな
			担当形態： オムニバス
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・ 環境		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業では、幼稚園教育の一領域である「環境」について、領域「環境」の専門事項における保育内容の構成を理解するとともに、理論と実践の両方から関連の知識・技能を身につける。特に、幼児を取り巻く物的、人的、社会的環境が幼児の発達にどのように影響するのか、幼児が身近な環境に好奇心や探究心を持って関わるができる保育とはいかなるものかについて理解を深める。			
授業の概要			
本授業では、幼稚園教育の一領域である「環境」について、幼児の発達にとっての環境の意義を考える。幼児が身近な環境に親しみ、発見を楽しんだり、考えたりできるような保育活動を理解するための一助として、海外における具体的な保育事例（アメリカ、ドイツにおける科学的体験・STEM活動・プロジェクト活動）を検討するとともに、その環境構成のあり方を学ぶ。			
授業計画（各回 2 時間、計 16 時間を授業時間とする。）			
第 1 回：幼児と自然との関わりー自然体験を中心としてー（担当：鈴木・後藤）			
第 2 回：季節ごとの自然と人間生活ー好奇心・探究心の育成に着目してー（担当：後藤）			
第 3 回：幼児と物との関わりーSTEM活動を中心としてー（担当：鈴木）			
第 4 回：幼児と動植物との関わりーアメリカの実践を事例としてー（担当：鈴木）			
第 5 回：幼児と図形・数との関わりードイツの実践を事例としてー（担当：後藤）			
第 6 回：幼児を取り巻く標識・文字（担当：鈴木）			
第 7 回：幼稚園教育における情報・施設・地域連携ープロジェクト活動を事例としてー（担当：後藤）			
第 8 回：幼稚園内外における行事、及び授業のまとめ（定期試験を含む）（担当：鈴木・後藤）			
テキスト			
幼稚園教育要領解説（平成29年3月告示 文部科学省）			
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省）			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を周知・配布する。			

学生に対する評価

定期試験（60％）、授業課題（レポートを含む）への取り組み（40％）

授業科目名： 幼児と言葉		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 1 単位		担当教員名：藤岡久美子 担当形態：単独	
科 目		領域および保育内容の指導法に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		領域に関する専門的事項 ・ 言葉					
授業の到達目標及びテーマ							
1)言葉の意義や機能を説明できる。 2)乳幼児期の言葉の発達の基礎を説明できる。 3)乳幼児期の言葉の発達における大人の関わりの影響について説明できる。 4)言葉にかかわる児童文化財の意義を理解している。							
授業の概要							
領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、創造する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身につけることを目標とする。映像教材や事例等により乳幼児期の言葉の実際から具体的に学ぶ。また、言葉遊び、絵本などの児童文化財にも触れることで、子どもにとってのそれらの意義を体験的に学ぶ。							
授業計画（各回 2 時間、計 1 6 時間を授業時間とする。）							
第 1 回：言葉の意義と機能 第 2 回：乳児期の言葉の発達：初語までのみちのり 第 3 回：幼児期の言葉の発達1：話し言葉の完成と言語的思考の芽生え 第 4 回：幼児期の言葉の発達2：一次的ことばから二次的ことばへ 第 5 回：幼児期の言葉の発達3：文字への関心 第 6 回：遊びと言葉：ことばあそび、ごっこ遊びの言葉 第 7 回：絵本の世界 第 8 回：まとめと振り返り							
テキスト							
特に指定しない							
参考書・参考資料等							
事例で学ぶ保育内容 領域「言葉」（無藤隆 監修、萌文書林） ことばと発達（岡本夏木 著、岩波新書） 幼児の心理と保育（無藤隆 編、ミネルヴァ書房） 発達心理学 ことばの獲得と教育（内田伸子 著、岩波書店） 絵本はともだち（中村稚子著、福音館書店）							
学生に対する評価							
授業のテーマごとにミニレポート（感想・意見・質問）の提出を求める。このミニレポート（50%）と最終レポート（50%）を併せて、到達目標に照らして総合的に評価する。							

授業科目名： 幼児と表現A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：佐川馨 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・ 表現		
授業のテーマ及び到達目標 1. 幼児のための音楽教育の基盤となる音楽理論の基礎的事項について理解し活用できる。 2. 幼児のための教材の弾き歌い及び自作伴奏による弾き歌いができる。 本授業では、音楽理論の基礎的事項の理解及びピアノ伴奏による弾き歌いの技能を修得することを通して幼児のための音楽指導の基盤となる諸能力の向上を目指す。			
授業の概要 ○音楽理論の基礎的事項（講義・演習） ○ピアノ奏法の基礎と伴奏法（講義・演習） ○幼児のための教材の弾き歌い及び自作伴奏による弾き歌い（講義・演習・発表）			
授業計画（各回2時間、計16時間を授業時間とする。） 第1回：オリエンテーション[授業計画、目標、評価について] コードネームについて（講義・演習） 第2回：長調の右手メジャーコード、左手ベース音の伴奏と弾き歌い（講義・演習） 第3回：短調の右手マイナーコード、左手ベース音の伴奏と弾き歌い（講義・演習） 第4回：セブンスコードの学習と弾き歌い（講義・演習） 第5回：和音の転回型による伴奏と弾き歌い（講義・演習） 第6回：いろいろな伴奏型による伴奏と弾き歌い（講義・演習） 第7回：いろいろなコードを取り入れた伴奏と弾き歌い（講義・演習） 第8回：弾き歌いの実技試験、音楽理論の筆記試験（講義・演習） 学習成果と課題の確認			
テキスト 教科書：自作教材を配布する。			
参考書・参考資料等 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 文部科学省） 2訂版 歌唱教材伴奏法（教育芸術社）			
学生に対する評価 以下の評価の観点に則り、授業時の課題の遂行状況等を加味して総合的に評価する。 ①音符、休符、記号などの音楽の基礎的な理論を理解している。（30%） ②歌い方の基礎的な技能を修得している。（20%） ③ピアノ演奏の基礎的な奏法を修得している。（20%） ④伴奏を自作して弾き歌いができる。（30%）			

授業科目名： 幼児と表現B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：小林俊介 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 ・ 表現		
授業のテーマ及び到達目標 幼児期における造形表現の特性と発達段階を理解したうえで、有効な支援について説明することができる。			
授業の概要 幼児の表現活動の画像や動画などを分析し、討議によって理解を深める。また、幼児の表現活動を支援するために必要な材料や用具、表現方法、カリキュラムの考え方などを理解する。			
授業計画（各回2時間、計16時間を授業時間とする。） 第1回：子どもの発達と造形活動①(保育現場での実践と幼稚園教育要領) 第2回：子どもの発達と造形活動②(描画を例にした発達段階と表現の変化) 第3回：表現活動支援の考え方：プロジェクトと緊急カリキュラム 第4回：環境構成・言語と表現（保育内容の他領域との関わり） 第5回：造形的表現活動における多様な表現手段ーモダンテクニックなどー 第6回：屋内での造形表現（個別と協働） 第7回：屋外での造形表現（個別と協働） 第8回：授業のまとめ；討議とプレゼンテーション 定期試験は行わない。			
テキスト なし。必要な資料を適宜配布する。			
参考書・参考資料等 保育のなかのアート プロジェクト・アプローチの実践から（磯部錦司・福田泰雅・社会福祉法人 赤碕保育園 著 小学館） アートがひらく保育と子ども理解ー多様な子どもの姿と表現の共有を目指してー（笠原広一 著、東京学芸大学出版会） ほか、適宜紹介する。			
学生に対する評価 幼児期における造形表現の特性や有効な支援に対する理解について、レポート（30%）および支援に関する実技やプレゼンテーション(70%)によって評価する。			

授業科目名： 保育内容（健康）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 新井猛浩、大森桂 担当形態：オムニバス
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
幼児が自ら活動することを意欲的に取り組み、健康で安全な生活を営む力をつけていくための保育のあり方を理解する。			
授業の概要			
幼稚園における生活を通して「心身の健康」をどのように指導すればよいか解説する。幼児にとっての健康とは何かを考え、健やかな発育発達を促す保育のあり方について検討する。幼児期はとくに健康と発育発達との関係が深く、また心とからだが密接に関連していることを重点的に説明する。			
授業計画			
第1回：幼稚園教育要領の各領域のねらいおよび内容、乳幼児の健康（新井）			
第2回：領域「健康」における保育者の役割、指導計画と幼児理解に基づいた評価について（新井）			
第3回：乳幼児の発育・発達と健康（新井）			
第4回：乳幼児期の生活習慣、幼児期の生活習慣の形成とその課題（新井）			
第5回：生活習慣に関わる指導－食事、睡眠および休養、排泄（指導案作成）（大森）			
第6回：生活習慣に関わる指導－着脱衣、清潔、整理整頓、姿勢（指導案作成）（大森）			
第7回：食育に関わる指導－発達段階に応じた食育の内容・方法と評価（指導案作成）（大森）			
第8回：乳幼児期の安全－安全な保育環境（指導案作成）（新井）			
第9回：乳幼児期の安全－安全教育と救急対応（指導案作成、危険回避能力を高めるための視聴覚教材の活用方法も含む）（新井）			
第10回：運動遊びの指導（指導案作成、幼児の動機づけや意欲に配慮した指導の立案）（新井）			
第11回：模擬保育－基本的生活習慣（動画等生活記録の分析から支援や評価の方法を構想する）（大森）			
第12回：模擬保育－食育に関わる指導（情報機器による食事の様子等の分析を踏まえた指導と評価）（大森）			
第13回：模擬保育－運動遊びの指導（レパートリーの多様さを引き出す）（評価を生かした指導計画の改善を含む）（新井）			

第14回：模擬保育—運動遊びの指導（バリエーションの多様さを引き出す）（評価を生かした指導計画の改善を含む）（新井）

第15回：領域「健康」と小学校教育とのつながり、授業のまとめ（新井）

テキスト

「保育・教育ネオシリーズ16 保育内容・健康」（岸井勇雄・無藤隆・柴崎正行 監修、河鍋きよし 編著、相川徳孝・池森隆虎・石井智子・井戸ゆかり・岩崎洋子・大江敏江・倉田新・鈴木明・鈴木隆・武山隆子・坪井宏・根津明子・松永静子 著、同文書院）

参考書・参考資料等

「幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省）」

学生に対する評価

授業への積極的関与度、提出物（30%）とレポート（70%）で評価します。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：本島 優子
保育内容（人間関係）	必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
保育における領域「人間関係」の内容を扱い、幼児期における対人関係の発達の過程と社会的経験の重要性について理解し、他者とかかわる力を育む保育の方法について考察し、実践力を身に付ける。			
授業の概要			
幼児期における対人関係の発達と社会的環境の役割について講義を行った後、幼稚園で観察実習を行い、幼児期における他者とかかわりと保育援助について、実際の事例を通して実践的理解を促す。また、他者とかかわる力を育むことをねらいとした保育の指導案を作成し、模擬保育を通した振り返りを行い、保育構想の向上を図る。			
授業計画			
第1回：幼稚園教育要領における領域「人間関係」のねらいと内容			
第2回：幼児期における対人関係の発達と社会的環境の役割			
第3回：幼稚園における保育（情報機器・教材の活用法も含む）の観察実習			
第4回：3歳児の対人関係の特徴と保育援助（グループ発表）			
第5回：3歳児の対人関係の特徴と保育援助（解説）			
第6回：4歳児の対人関係の特徴と保育援助（グループ発表）			
第7回：4歳児の対人関係の特徴と保育援助（解説）			
第8回：5歳児の対人関係の特徴と保育援助（グループ発表）			
第9回：5歳児の対人関係の特徴と保育援助（解説）			
第10回：子どもと保育者との関係性			
第11回：保育者と保護者との関係性			
第12回：指導案および情報機器・教材の活用法についての解説と指導案作成			
第13回：模擬保育に向けての準備と教材作成			
第14回：模擬保育の実践と保育ドキュメンテーションを活用した振り返り（情報機器・教材の活用法も含む）			
第15回：対人関係を育む保育の構想にむけてのまとめと期末試験			
テキスト			
幼稚園教育要領（平成29年3月 文部科学省）			
演習保育内容人間関係（田代和美・松村正幸 編、建帛社）			
参考書・参考資料等			

幼稚園教育要領解説（平成30年2月 文部科学省）

学生に対する評価

以下の観点に基づいて、レポート課題（60％）および期末試験（40％）で評価する。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 幼児期における対人関係の発達過程と社会的経験の重要性について基本的理解が得られている。・ 人とかかわりを育むための保育援助について実践的に考察し、保育の構想に取り組むことができる。 |
|---|

授業科目名： 保育内容（環境）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：後藤みな、 鈴木宏昭、今村哲史 担当形態：複数・オムニバス
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
幼稚園教育の一領域である領域「環境」について、その「ねらい」と「内容」を理解し、幼児に身に付けるべき“周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力”を育成する基礎的指導力を付ける。			
授業の概要			
“身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」”のねらいである“遊び”を通して育成する「環境にかかわる探究心」や「環境を構成するものの性質や働きについて実感する感性力」，すなわち自然現象を対象にした「発見」「探究」「活用」の在り方を修得させる。自然現象を「形」「数」「時間」「物性」「季節」の側面から捉え、これらの側面に規則性を発見する学修を通し、規則性の発見が「探究心」や「活用力」の育成、及び「なぜ」という「感性力」の育成の出発点であることを意識させる。これらの学修により「環境」の指導基盤である「自然科学の見方や考え方」を身に付ける。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、幼児の「環境」概念と領域「環境」について （担当：後藤・鈴木）			
第2回：幼稚園教育5領域における「環境」の位置づけと他領域・小学校との関係 （担当：今村）			
第3回：幼稚園教育における「環境」のねらいと内容について（担当：今村）			
第4回：海外における「環境」領域の取り扱いについて（森の幼稚園を事例として） （担当：後藤）			
第5回：幼児の好奇心・探究心等の保育的特性（担当：後藤・今村）			
第6回：幼稚園教育における人的環境（友だち・保育者）と物的環境（園具・遊具） （担当：後藤）			
第7回：自然環境としての動植物（担当：鈴木）			
第8回：幼稚園教育における地域・行事とのかかわり（担当：今村）			
第9回：幼児教育における数量や図形・標識や文字の取り扱い（担当：鈴木）			
第10回：幼稚園教育における領域「環境」の学習評価（担当：後藤・鈴木）			
第11回：領域「環境」の内容を中心とした指導計画の作成とグループ検討			

(担当：後藤・今村) 第12回：領域「環境」の内容を中心とした保育指導案の作成（担当：後藤・今村） 第13回：保育指導案に基づく領域「環境」に関する教材（ICT教材の活用を含む） (担当：鈴木) 第14回：模擬保育（グループ別）及び相互評価（担当：後藤） 第15回：授業の振り返り及び定期試験（担当：後藤・鈴木）
テキスト 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。
学生に対する評価 定期試験（40％）、模擬保育の発表（30％）、レポート（30％）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：藤岡 久美子
保育内容（言葉）	必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	領域および保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
1) 子どもの言葉の発達の基礎を理解している。			
2) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、言葉の各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。			
3) 言葉の領域と他の領域の関連性や言葉の領域と小学校の国語とのつながりを理解している。			
4) 言葉を育てる環境構成、保育者の援助について提案できる。			
5) 「絵本」等の言葉を育む教材について理解し、保育への用い方を提案できる。			
授業の概要			
乳幼児期の言葉の獲得に果たす保育者の役割は重要である。本講義では、子どもが生き生きとした言葉を獲得していくための保育のあり方について学ぶ。言葉の発達の道筋を理解した上で、言葉の発達を支える、環境の構成、保育者の援助、絵本等の保育教材について、実践例をもとに学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：「保育」とは何か			
第2回：保育における言葉：「言葉」の領域とは？			
第3回：小学校「国語」とのつながり			
第4回：話し言葉の発達を支える大人の関わり1：乳児期・幼児期前期			
第5回：話し言葉の発達を支える大人の関わり2：幼児期後期			
第6回：書き言葉の発達：読み書きの発達と子どもの生活の中の文字体験			
第7回：文字への興味と環境構成：掲示物、ドキュメンテーションの活用			
第8回：保育教材としての絵本の活用1：保育室内の絵本の配架			
第9回：保育教材としての絵本の活用2：読み聞かせ演習			
第10回：幼稚園での保育観察と構想づくり：子どもの言葉、保育者の言葉、遊びの中の文字、保育環境の中の文字(ドキュメンテーションを含む)について記録し、保育の構想に活用する（情報機器の活用含む）			
第11回：幼稚園での保育観察記録の検討			
第12回：言葉を育てる保育教材：絵本以外の多様な保育教材の理解			
第13回：言葉を育てる保育教材を用いた指導案の作成			
第14回：言葉を育てる保育教材を用いた指導案の発表(模擬保育)			

第15回：模擬保育の振り返り

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領（平成29年 3 月告示 文部科学省） ・ 幼稚園教育要領解説（平成30年 2 月 文部科学省） ・ 事例で学ぶ保育内容〈領域〉言葉（無藤隆 監修、萌文書林） ・ ことばと発達（岡本夏木 著、岩波書店） ・ 幼児の心理と保育（無藤隆 編、ミネルヴァ書房） ・ 発達心理学：ことばの獲得と教育（内田伸子 著、岩波書店） |
|--|

学生に対する評価

授業のテーマごとにミニレポート（感想・意見・質問）の提出を求める。ミニレポート（50%）、保育観察レポート(20%)、模擬保育指導案と実践（30%）を併せて、総合的に評価する。

授業科目名：		教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：佐川 馨
保育内容（表現A）		必修科目	2単位	担当形態：単独
科 目		領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
幼児の音楽教育及び幼稚園教育における音楽指導の基礎的事項を理解し活用できる。 本授業では、①幼稚園教育要領の領域「表現」に関連する音楽教育の諸理論の理解と、②幼児の音楽教育及び幼稚園教育における音楽指導の基礎的事項及び指導法を身につけることを目指す。				
授業の概要				
○幼児の発達と音楽教育（講義） ○幼児の音楽指導のための基礎的事項（講義・演習） ○教材曲の研究と指導法（演習）				
授業計画				
第1回：幼児の発達と音楽的成長（講義） 第2回：幼児の生活と遊びにおける音楽表現（講義） 第3回：幼児の音楽的成長における保育者の役割（講義） リズムと拍子1[わらべうた遊び]（講義・演習） 第4回：幼児の音楽教育の諸理論[ダルクローズ、オルフ、コダーイほかの音楽教育]（講義） リズムと拍子2[言葉とリズム]（講義・演習） 第5回：指導計画と保育案の作成：（講義・演習） いろいろなリズム[付点、シンコペーション、三連符]（講義・演習） 第6回：保育指導における情報機器の活用（ミュージックデータプレーヤーなど）：（講義・演習） 拍子を感じてリズム打ち[単純拍子]（講義・演習） 第7回：幼児の身体表現と音楽（講義・演習） 拍子を感じてリズム打ち[複合拍子]（講義・演習） 第8回：幼児と楽器[打楽器の特徴と奏法]（講義・演習） 声や体のリズム表現[ボディー・リズム]（講義・演習） 第9回：保育指導における教材研究(1)[季節の歌]（講義・演習） いろいろな音階（講義・演習） 第10回：保育指導における教材研究(2)[生活の歌]（講義・演習） 和音[主要三和音と属七]（講義・演習） 第11回：保育指導における教材研究(3)[生き物の歌]（講義・演習） 和音[副三和音]（講義・演習） 第12回：保育指導における教材研究(4)[愛唱歌]（講義・演習） [コードネーム]（講義・演習） 第13回：保育案の作成と模擬保育の計画（演習・討議） 第14回：わらべうた、遊び歌、手遊び歌を取り入れた模擬保育の実施（演習・討議） 第15回：季節の歌、生活の歌、生き物の歌、愛唱歌による模擬保育の実施（演習・討議） 学習成果のまとめ及び課題の確認（演習・講義）				
テキスト				
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月（内閣府・文部科学省・厚生労働省 著、フレーベル館） おんがくのしくみ（今川恭子・志民一成・木村充子ほか著、教育芸術社）				
参考書・参考資料等				
幼稚園教育要領（平成29年3月、文部科学省） 幼児のための音楽教育（神原雅之・鈴木恵津子 編、教育芸術社）				
学生に対する評価				
以下の評価の観点に則り、授業時の取り組み状況等も加味して総合的に評価する。 ・幼児の発達と音楽教育の関わりについて理解しているか。（20%） ・幼児教育における音楽指導の基礎的事項について理解しているか。（20%） ・保育案の構想や作成にあたって情報機器や音楽ソフトを効果的に活用しているか。（20%） ・教材曲の音楽的特徴を踏まえた模擬保育を構想し、適切な省察ができているか（40%）				

授業科目名： 保育内容（表現B）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河合規仁、廖曦彤、小林俊 介、具志堅裕介 担当形態：複数・オムニバス
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 幼児の造形活動について、またそれに伴う様々な素材、画材、道具等の基礎知識および技能を習得するために、制作活動を通じた演習を行う。 (1) 造形活動に関する様々な素材、道具に触れ、それぞれの特質を知ることができる。 (2) 造形活動の基礎知識、表現技法を理解することができる。 (3) 児童文化財を制作し、それを活用した表現ができる。			
授業の概要 幼稚園教諭及び保育士資格の養成のために、保育内容の一つの造形表現活動について、実際に材料や用具を用いて造形活動に取り組み、造形活動の楽しさや魅力を理解する。			
授業計画 第1回：子どもの発達段階と造形活動・幼稚園教育要領について（担当：河合・小林・具志堅） 第2回：オイルパステルの特徴と子どもの描画行為について（担当：河合） 第3回：オイルパステルの特徴を活かした表現（担当：河合） 第4回：水彩絵の具の特徴と可能性について（担当：河合・小林・廖） 第5回：水彩絵の具の特徴を活かした表現（担当：河合・小林・廖） 第6回：知覚の基礎Ⅰ 幼児期における視知覚の形成過程（担当：河合） 第7回：知覚の基礎Ⅱ 視覚と触覚と表現との関係性（担当：河合） 第8回：粘土の特質と表現Ⅰ 個人の表現について（担当：河合） 第9回：粘土の特質と表現Ⅱ 集団での表現と相互作用について（担当：河合・小林・廖） 第10回：版画技法と造形表現（担当：河合・小林・廖） 第11回：児童文化財の制作と活用（担当：河合） 第12回：幼児の造形表現活動を中心とした指導計画の構想とグループ討議（担当：河合・廖） 第13回：映像機器を活用した保育指導案の作成（担当：河合・具志堅） 第14回：映像機器を活用した模擬保育と相互評価（担当：河合、具志堅） 第15回：授業の振り返りとグループ相互評価（担当：河合・小林・具志堅・廖） 定期試験は実施しない。			
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 幼稚園教育要領解説（平成30年2月告示 文部科学省）			
学生に対する評価			

学習内容の理解・活動への取り組み(40%)、制作・提出物(30%)、振り返りレポート(30%)

授業科目名： 幼児教育指導法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：坂本明美 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
子どもたちの幼児期における遊びを通した学びと、保育者のかかわり、環境構成について考えることを中心テーマとし、次のような到達目標を設定する。			
①『幼稚園教育要領解説』の「5領域」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解できる。			
②子どもの遊び〔学び〕、保育者の子どもへのかかわりや援助、環境構成について考察することができる。			
③海外の幼児教育実践について学び、多様な保育実践に触れ、我が国の幼児教育において参考にしたい点について考察することができる。			
④具体的な保育の場面を想定して、指導案を作成することができる。			
授業の概要			
本授業では、『幼稚園教育要領解説』を扱いながら「五領域」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」など、幼児教育についておさえておきたい事柄について学ぶ。内外の多様な幼児教育実践について学びながら、保育者のかかわりや援助、環境構成などについて考察を深める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、「五領域」について、			
第2回：「幼稚園教育において育みたい資質・能力及び『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』」 模擬保育についての話し合い			
第3回：「保育者と子どもとのかかわり」、模擬保育の準備			
第4回：模擬保育 幼児の主体性と教師の意図（プレゼンテーションソフトを使用）			
第5回：模擬保育 「環境」～海外における保育実践（レッジョ・エミリアの保育など）～ （映像資料、ビデオ、写真のデータを使用）			
第6回：山形大学附属幼稚園における保育参観			
第7回：模擬保育 附属幼稚園における保育参観のふりかえり			
第8回：模擬保育 「環境」「健康」～ある保育園の実践（ビデオと写真のデータを使用）～			

第9回：模擬保育

「言葉」「表現」～フランスの「フレネ教育」における幼児教育実践～
(ビデオと写真のデータを使用)

第10回：模擬保育

「人間関係」～ある保育園の事例を通して(文献)～
実習生の保育実践から学ぶ

第11回：保育指導案の作成

「幼児教育」をテーマとした探究学習 ～課題の説明と情報機器を利用したWeb検索～

第12回：「幼児教育」をテーマとした探究学習

～Web検索、プレゼンテーションソフトを使った発表の準備～

第13回：「幼児教育」をテーマとした探究学習の発表(第1日程)

～プレゼンテーションソフトを使った発表、LMSを使った感想の交流～

第14回：「幼児教育」をテーマとした探究学習の発表(第2日程)

～プレゼンテーションソフトを使った発表、LMSを使った感想の交流～

第15回：「幼児教育」をテーマとした探究学習の発表(第3日程)

～プレゼンテーションソフトを使った発表、LMSを使った感想の交流～

※前半の複数回の授業の冒頭で、短時間の「模擬保育」を行う。

※第11～15回の探究学習の発表準備と発表の時間は、情報処理教室を使用する。

テキスト

- ・幼稚園教育要領解説(平成30年2月告示 文部科学省)
- ・プリントを配布する。

参考書・参考資料等

- ・幼稚園教育要領(平成29年3月、文部科学省)
- ・その他の参考書は、適宜、紹介する。

学生に対する評価

三分の二以上の回数を出席していることを前提として、次のように評価する。

①模擬保育の発表(25%)、②指導案(25%)、③「幼児教育」をテーマとした探究学習の発表(30%)、④その他の提出課題(随時 20%)

授業科目名： 国語の基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：菊田 尚人 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 言語やコミュニケーションに関する知識を再確認して国語の様々な事象を見つめ直すことができる ・ 作品を創作したり発表したりする活動を通して、言語活動の様々な方法を身につけることができる			
授業の概要 ・ 国語科の基礎である言語やコミュニケーション、言語文化に関する講義と演習を行う。 ・ 話す／聞く／書く／読むのそれぞれの力を育むために、実際に言語活動に取り組む。			
授業計画 第1回：本講義の説明／言語活動を通じた人間関係の形成 第2回：言語とコミュニケーションを再考する①—書字文化について／言語とは— 第3回：言語とコミュニケーションを再考する②—コミュニケーションの形式について— 第4回：様々な表現活動に触れる①—題材集めのワークショップ— 第5回：様々な表現活動に触れる②—作品の制作— 第6回：様々な表現活動に触れる③—作品の交流会— 第7回：様々な表現活動に触れる④—スピーチ発表会／対話ゲーム— 第8回：伝統的な言語文化への理解を深める—地域の言語文化に関わる施設の見学— 第9回：レポートの「問い」とアウトラインを作成する 第10回：図書館の活用方法を学ぶ 第11回：探究の仕方について学ぶ 第12回：レポートの草稿を書く 第13回：レポートの修正の仕方について学ぶ 第14回：レポートの草稿を修正する 第15回：レポートを交流する／本授業のまとめ			
テキスト 基礎からわかる 論文の書き方（小熊英二 著、講談社現代新書）			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領解説 国語編（平成29年 文部科学省）			
学生に対する評価 各回の言語活動への取り組み(70%)、学期末レポート(30%)を総合して評価する。			

授業科目名： 社会の基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大喜直彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(小学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 社会		
授業のテーマ及び到達目標			
小学校の社会科教育において、地域社会に対する誇りと愛情を育て地域社会の一員として自覚し、環境の保全や自然災害防止の重要性に関心を深め、我が国の産業発展や社会の情報化の進展に関心をもちたせることが求められている。さらに日本の歴史や伝統を大切にすること、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共生することを自覚させることも求められている。しかも各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味について考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てることも求められている。そこで本授業では、小学校社会科の授業で教師に求められる基礎的教育内容をあつかう。特に、歴史と地域、文化と伝統の内容、さらに現代社会の問題にも焦点を当てる。講義、発表、教科書の分析、課題レポート作成を通じて、小学校社会科教育の基礎的知識・技能を身につけることができる。			
授業の概要			
授業前半は、教科書や環境問題など社会問題に注目して講義し、関係論文の輪読も実施する。授業後半には、個人またはグループによる発表を行う。具体的には、日本史関係を対象に教科書の興味有る箇所を取り上げ、教員として教える際、留意する点などを踏まえ、それについて調べた内容を発表する。それを受けて受講生全員で議論する。			
授業計画			
第1回：授業の概要説明、授業の進め方			
第2回：教科書について			
第3回：現代の社会の問題を考える～災害と環境問題～			
第4回：3・4年生の歴史授業－地域の歴史と文化・伝統			
第5回：6年生の歴史授業－古代・中世史分野について			
第6回：6年生の歴史授業－近世史分野について			
第7回：6年生の歴史授業－近代・現代史分野について			
第8回：『小学校学習指導要領解説』を読む			
第9回：グループまたは個人による発表 古代・中世史分野			
第10回：グループまたは個人による発表 近世・近代史分野			
第11回：グループまたは個人による発表 近代・現代史分野			
第12回：グループまたは個人による発表 古代・中世史分野			
第13回：グループまたは個人による発表 近世・近代史分野			
第14回：グループまたは個人による発表 近代・現代史分野			

第15回：授業のまとめと課題レポートの提出

定期試験は実施しない。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領解説 社会編』（文部科学省、平成29年7月）

日本社会の歴史（上・中・下巻）（網野善彦 著、岩波書店）

その他については、授業の際に適宜指示する。

学生に対する評価

以下の総合で判断する。

- ・課題レポート提出結果(70%)
- ・講義時の発表の有無やその内容(30%)

授業科目名： 算数の基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：平林 真伊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 算数		
授業のテーマ及び到達目標 算数科の学習指導を実施する小学校教員に必要な基礎的能力を育成することを目指し、算数科の学習内容に関する知識を身につけ、理解を深めることができる。			
授業の概要 本授業では、算数科の学習指導を実施する小学校教員に必要な基礎的能力を育成することを目指し、算数科の学習内容に関する知識を身につけ、理解を深めることをねらいとしている。本授業は講義のみならず、各回の授業内容に即した課題に対して考察を行うといった演習を含めて展開する。他受講者とのコミュニケーションを踏まえ、授業内容について多面的に思考できるように主体的に取り組んでもらいたい。			
授業計画 第1回：カリキュラム上での本授業の位置づけ、本授業の進め方の説明 第2回：算数・数学教育の目的と算数科の目標 第3回：加減乗除の意味の統合に関する講義および教材研究 第4回：加減乗除の計算に関する講義および教材研究 第5回：測定に関する講義および教材研究 第6回：割合に関する講義および教材研究 第7回：面積と体積に関する講義および教材研究 第8回：図形教育の目標、図形の概念形成を促すための指導に関する講義および教材研究 第9回：関数の考えに関する講義および教材研究 第10回：集合の考えに関する講義および教材研究 第11回：統計教育の目的、統計と確率が実生活や社会で果たす役割、統計教育における情報通信技術の活用方法 第12回：データの活用に関する講義および教材研究 第13回：問題解決型学習の目的、問題解決を行う力や態度・姿勢、問題解決型学習における情報通信技術の活用方法 第14回：算数科におけるプログラミング教育に関する講義および教材研究、プログラミング教育における情報通信技術の活用方法 第15回：授業のまとめ：各自の到達点と課題の明確化 定期試験			

テキスト 小学校学習指導要領解説 算数編（平成29年 文部科学省）
参考書・参考資料等 新版 算数科教育研究（東洋館出版） MINERVAはじめて学ぶ教科教育②初等算数科教育（ミネルヴァ書房）
学生に対する評価 定期試験（50％）、レポート（50％）

授業科目名： 理科の基礎(実験を含む)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 津留俊英、後藤みな、滝澤匡、 竹林知大 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 理科		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、小学校の教員に必要とされる理科授業における観察や実験に関する基礎的な知識と観察や実験の技能等を習得することを目的とする。			
授業の概要 小学校理科の内容構成の柱である「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の領域にかかわる基本的な知識と観察・実験などを取り上げ、講義を行う。また、講義中に行う実験においてレポートを作成することにより、科学の研究方法とまとめ方を習得する。			
授業計画 第1回: ガイダンス/小学校理科の内容とその指導について全般的な解説(津留) 第2回: 物理学領域の内容とその基礎知識(津留) 第3回: 物理領域の基礎実験(バネの働き)(津留) 第4回: 物理領域の基礎実験(振り子の運動)(津留) 第5回: 物理領域の基礎実験(電流の働き)(津留) 第6回: 物理領域の基礎実験(電気の利用)(津留) 第7回: 化学領域の内容とその基礎知識(後藤) 第8回: 化学領域の基礎実験(溶液の濃度調整)(後藤) 第9回: 生物学領域の内容とその基礎知識(滝澤) 第10回: 生物学領域の基礎実験(実体顕微鏡の使い方・食う-食われる関係の観察)(滝澤) 第11回: 地学領域の内容とその基礎知識(竹林) 第12回: 地学領域の基礎実験(野外での岩石観察基礎・野外調査の基礎知識)(竹林) 第13回: 地学領域の基礎実験(岩石・鉱物標本の作り方)(竹林) 第14回: 地学領域の基礎実験(惑星観察法・ダジックアース)(竹林) 第15回: 地学領域の基礎実験(鉱物の物理学実験・偏光顕微鏡の使い方)(竹林)			
テキスト テキストは特になし。適宜、資料を配付する。			
参考書・参考資料等 小学校理科の観察、実験の手引き(平成23年3月 文部科学省) 小学校学習指導要領解説 理科編(平成29年7月 文部科学省)			
学生に対する評価 物理学、化学、生物学、地学の領域ごとに課すレポートで評価する(4領域×25%)。			

授業科目名： 生活の基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：坂本明美 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生活		
授業のテーマ及び到達目標 幼児教育から小学校教育への架け橋となる生活科という教科について、次のことを到達目標としながら学んでいく。 ○「生活科」の目標、特徴、意義を理解することができる。 ○幼小接続、スタートカリキュラムについて理解することができる。 ○「活動や体験を通した学び」の意義について、実践を通して考察できる。			
授業の概要 本授業では、「生活科」の目標、特徴、意義を理解し、『小学校学習指導要領解説 生活編』のポイントを理解することを目的とする。また、「生活科」における活動や体験を通した学びの意義、教師の役割、「生活科」と学級活動との関連、幼小接続、スタートカリキュラムなどについて、理解を深めることを目的とする。			
授業計画 第1回 ガイダンス、「生活科」の思い出の交流 第2回 「生活科」の誕生の背景、新設から今日に至るまで、学級活動との関係 第3回 「学校たんけん」、スタートカリキュラム 第4回 幼小接続、架け橋プログラム 第5回 「町たんけん」～自分と地域とのかかわり～ 第6回 「町たんけん」～子どもの興味と表現～ 第7回 「町たんけん」の実施 第8回 「町たんけん」～振り返り、まとめ～ 第9回 「町たんけん」～発表の準備～ 第10回 「町たんけん」～発表と交流～ 第11回 「飼育・栽培」活動について 第12回 「飼育・栽培」に関するクイズの問題づくり 第13回 「飼育・栽培」についての「クイズ大会」（前半） 第14回 「飼育・栽培」に関する「クイズ大会」（後半） 第15回 生活科の授業づくりと教師の役割 ～附属小学校の先生による講義～			
テキスト 小学校学習指導要領解説 生活編（平成30年 文部科学省）（東洋館出版社）			

参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価
三分の二以上の回数、授業に出席していることを前提に、「町たんけん」の発表（30％）、 「飼育・栽培」のクイズの出題（30％）、レポート（20％）、感想文（20％）

授業科目名： 音楽の基礎		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名： 佐川馨・佐藤映・名倉明子・ 深瀬廉・渡辺修身	
						担当形態：クラス分け・複数	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・音楽					
授業のテーマ及び到達目標							
1. 小学校音楽科の指導の基盤となる音楽理論の基礎的事項について理解し活用できる。 2. 小学校音楽科の教材の弾き歌い及び簡単な自作伴奏による弾き歌いができる。 本授業では、音楽理論の基礎的事項の理解及びピアノ伴奏による弾き歌いの技能を修得することを通して小学校における実践力の基盤となる音楽の諸能力の向上を目指す。							
授業の概要							
○音楽理論の基礎的事項（講義・演習） ○ピアノ奏法の基礎と伴奏法（講義・演習） ○小学校音楽科の教材の弾き歌い及び簡単な自作伴奏による弾き歌い（講義・演習・発表）							
授業計画							
第1回：オリエンテーション[授業計画、目標、評価について]（講義） ハ長調のⅠ・Ⅴによる和音伴奏（講義・演習） 第2回：ハ長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ7による伴奏型（講義・演習） 第3回：右手の八分音符，左手の八分音符（講義・演習） 第4回：両手の八分音符（講義・演習） 第5回：ト長調の音階とⅠ・Ⅴ・Ⅴ7による和音伴奏（講義・演習） 第6回：ト長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ7による伴奏型（講義・演習） 第7回：ヘ長調の音階とⅠ・Ⅴ・Ⅴ7による和音伴奏（講義・演習） 第8回：ヘ長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ7による伴奏型（講義・演習） 第9回：付点のリズム、移調と転調（講義・演習） 第10回：ニ長調、ニ短調、イ短調の音階と主要三和音（講義・演習） 第11回：三連符と十六分音符（講義・演習） 第12回：重音と臨時記号（講義・演習） 第13回：複付点のリズム（講義・演習） 第14回：弱起の曲（講義・演習） 第15回：弾き歌いの実技試験，音楽理論の筆記試験（講義・演習・発表） 学習成果と課題の確認（演習）							
テキスト							
2訂版 歌唱教材伴奏法（教育芸術社） Music Navigation（教育出版）							
参考書・参考資料等							
小学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年3月 文部科学省） 小学生の音楽（1年から6年全巻）（教育芸術社）							
学生に対する評価							
以下の評価の観点に則り、授業時の課題の遂行状況等を加味して総合的に評価する。 ①音符，休符，記号などの音楽の基礎的な理論を理解している。（30%） ②歌い方の基礎的な技能を修得している。（20%） ③ピアノ演奏の基礎的な奏法を修得している。（20%） ④簡単な伴奏を自作して弾き歌いができる。（30%）							

授業科目名： 図画工作の基礎		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：廖曦彤 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 図画工作		
授業のテーマ及び到達目標 図画工作科教育の目標や造形遊び・絵や立体・工作・鑑賞などの教科内容について正しく理解するとともに、教科目標を達成するための授業実践に必要な造形的な見方・考え方を身につけ、題材研究の基本的な能力を身につける。 (1) 講義及び表現・鑑賞活動を通して、図画工作科教育のあり方を実践的に考察し理解できる。 (2) 表現・鑑賞活動や題材研究などの演習を通して、造形美術およびその教育における重要な理念に対する理解を深めることができる。				
授業の概要 授業では、指定された教科書を用いながら図画工作科教育の基礎知識への理解を目指しつつ、図画工作科の教科内容に含まれる造形遊び、絵や立体、工作、鑑賞などの造形活動を実際に行いながら、造形的な見方・考え方の深化を図る。				
授業計画 第1回：ガイダンス：図画工作科教育の意義とねらい／図画工作科教育の変遷 第2回：形の基本（形の最小単位）—様々な形を使った造形遊び— 第3回：形の題材研究—身近な形を生かした協同描画— 第4回：色の基本（三原色と色相環）—水彩絵の具による多様な表現— 第5回：色の題材研究—混色の仕方と工夫、花札作り— 第6回：鑑賞と遊びの一体化—花札を用いた相互鑑賞— 第7回：版画による表現1—版画の基本知識— 第8回：版画による表現2—版画の表現演習— 第9回：コラージュによる表現—わたしだけの表紙を作る— 第10回：粘土による立体表現1—粘土の基本知識— 第11回：粘土による立体表現2—粘土の表現演習— 第12回：工作に表す活動1—自然素材、木の端材を使った工作— 第13回：工作に表す活動2—身近材を使った工作— 第14回：鑑賞の題材研究—対話を重視した鑑賞活動— 第15回：授業のまとめ、振り返り、グループ発表・相互評価 定期試験は実施しない。				
テキスト 『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省（平成 29年 7月）				
参考書・参考資料等 『初等図画工作科教育』吉田武男 監修、ミネルヴァ書房				
学生に対する評価 授業内の表現・鑑賞活動への取り組み状況（30%）、毎回の記録と感想（30%）、授業振り返り課題レポート（40%）				

授業科目名： 家庭の基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 石垣和恵、大森桂 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 家庭		
授業のテーマ及び到達目標 1）小学校家庭科の学習内容が理解できる。【知識・理解】 2）教材研究の基礎となる各領域（家庭の機能、家庭経営、衣生活・食生活・住生活など）の知識・技能が習得できる。【技能】 3）小学校家庭科を指導するに必要な家庭生活における知識・技能を応用して、日常生活で実践することができる。【態度・習慣】			
授業の概要 小学校家庭科の指導を行う上で必要な学習内容の理解を深めるとともに、小学校家庭科で指導する生活技能を習得することを目的とする。			
授業計画 第1回 オリエンテーション（小学校家庭科の学習内容確認）（石垣） 第2回 衣生活の基礎知識①被服の機能（身体的な快適さと心理的な快適さ）（石垣） 第3回 衣生活の基礎知識②衣服の素材と取扱い調理実習の基礎（石垣） 第4回 食生活の基礎知識①現代の食生活の課題を知る（大森） 第5回 食生活の基礎知識②栄養素と食品群、献立作成（大森） 第6回 食生活の基礎知識③調理の科学性、食文化（大森） 第7回 調理実習の基礎（大森） 第8回 製作実習（ミシン縫いを用いた小作品）不織布による試作と製作計画作成（石垣） 第9回 製作実習（ミシン縫いを用いた小作品）製作と相互評価（石垣） 第10回 家族と家庭生活の基礎知識①現代家族と家庭生活の現状と課題（石垣） 第11回 家族と家庭生活の基礎知識②ユニバーサルデザインと共生社会（石垣） 第12回 住生活の基礎知識①住環境・生活行為と空間配置（石垣） 第13回 住生活の基礎知識②住居の安全性と防災（避難所生活体験）（石垣） 第14回 消費生活と環境の基礎知識①食生活と消費・環境（石垣） 第15回 消費生活と環境の基礎知識②消費と経済（石垣）			
テキスト 小学校学習指導要領解説 家庭編（平成 29 年 7 月 文部科学省） 小学校わたしたちの家庭科 5・6（開隆堂）			
参考書・参考資料等 必要に応じて授業時に紹介，配布する。			
学生に対する評価 1）小学校家庭科の学習内容を十分理解できたか、2）家庭科に関する専門的知識・技能を十分に習得できたかを合格の基準とします。 上記の基準に基づき、縫製実習の作品・レポート(30%)、調理実習のレポート(30%)、その他授業中の課題・小テスト等(40%)を総合的に評価します。			

授業科目名： 体育の基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小松恒誠，井上功一郎，清水香
			担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 体育科の内容を構成する「運動領域」および「保健領域」について、児童の発達特性を踏まえて説明できる。			
2. 心と体を一体としてとらえ、生涯スポーツの実践力と体力の向上を目指す体育科教育の考え方を正しく理解できる。			
3. 体育科の教科特性を理解した授業実践のための基礎的な知識・技術を身につけることができる。			
授業の概要			
本授業では、小学校体育科に関する基礎的な知識を習得し、体育の授業計画を構想できるようになることを目的とする。			
本授業は講義形式を中核とするが、授業計画の後半部では、教員による師範授業を通じて、これまで学習してきた知識や理論を実際の場面で確認させる。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（授業の進め方，受講のあり方等）（小松）			
第2回：日本における体育科の歴史的変遷（明治期から昭和・高度経済成長期にかけて）（小松）			
第3回：現代日本における体育科の役割ー子どもの生活と運動の関係からー（小松）			
第4回：体育科の目標・内容（学習指導要領の趣旨・内容の構造）（小松）			
第5回：体育科の目標・内容（運動の特性・保健）（小松）			
第6回：体育科の学習指導法（年間計画の立案，単元の配列）（小松）			
第7回：体育科の学習指導法（単元計画の立案，学習過程）（小松）			
第8回：体育科の学習指導法（本時計画の立案，心理学的基礎及び教師行動・学習活動）（小松）			
第9回：体育科の学習指導法（学習形態，学習資料・ICTの活用，学習評価，安全への配慮）（小松）			
第10回：体づくり運動及びダンスの内容構成・学習指導について（小松）			
第11回：陸上運動・器械運動・水泳の内容構成・学習指導について（小松）			
第12回：ボール運動・保健の内容構成・学習指導について（小松）			
第13回：体育授業の実際と省察①ー低学年の学習指導ー（小松・井上・清水）			
第14回：体育授業の体験と省察②ー中学年の学習指導ー（小松・井上・清水）			
第15回：体育授業の体験と省察③ー高学年の学習指導ー，講義のまとめ（小松・井上・清水）			
テキスト			
小学校学習指導要領解説 体育編（平成29年3月 文部科学省）			
その他，適宜必要に応じて示す			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
・小学校体育科の目標・内容・方法に関する基礎的知識の理解（40%）			
・基礎的知識を活用して体育科の授業設計について考察して説明することができる（40%）			
・授業に対して主体的・積極的に参加し、発表・議論等に意欲的に取り組んだか（20%）			

授業科目名： 外国語の基礎		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大高茜、三枝和彦、佐藤博晴
				担当形態：オムニバス
科 目		教科および教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 外国語		
授業のテーマ及び到達目標 小学校外国語活動及び外国語の目標を正しく理解するとともに、その目標を達成するための授業実践に必要な英語運用能力と英語に関する背景的な知識を獲得する。				
授業の概要 授業は毎時間、座学と実践演習とを組み合わせた形で行う。座学では、指定された教科書のユニットや補足資料を読みながら、外国語活動・外国語の授業実践に必要な英語に関する背景的知識の獲得を目指す。実践演習では授業を実践するうえで必要とされる「聞く力」「読む力」「話す力〔やり取り・発表〕」「書く力」の4技能に渡る英語運用能力の向上を図る。				
授業計画 第1回：「コミュニケーション能力について」／「聞く力」の訓練（1）（担当：佐藤博晴） 第2回：「第二言語習得理論」（1）／「聞く力」の訓練（2）（担当：佐藤博晴） 第3回：「第二言語習得理論」（2）／「聞く力」の訓練（3）（担当：佐藤博晴） 第4回：「英語の音声」／「話す力〔やり取り・発表〕」の訓練（1）（担当：大高茜） 第5回：「英語の文字」／「話す力〔やり取り・発表〕」の訓練（2）（担当：大高茜） 第6回：「英語の書き方」／「話す力〔やり取り・発表〕」の訓練（3）（担当：佐藤博晴） 第7回：「英語の語彙」／「読む力」の訓練（1）（担当：三枝和彦） 第8回：「英語の文法」（1）／「読む力」の訓練（2）（担当：大高茜） 第9回：「英語の文法」（2）／「読む力」の訓練（3）（担当：大高茜） 第10回：「相互作用の中で生じる発話の意味と働き」／「書く力」の訓練（1）（担当：三枝和彦） 第11回：「現代社会における英語」／「書く力」の訓練（2）（担当：三枝和彦） 第12回：「コーパスの活用」／「書く力」の訓練（3）（担当：大高茜） 第13回：「絵本を選ぶ視点」／4技能統合的な訓練（1）（担当：三枝和彦） 第14回：「異文化理解」／4技能統合的な訓練（2）（担当：三枝和彦） 第15回：まとめと試験（担当：佐藤博晴）				
テキスト 小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズー小学校外国語科内容論―（酒井秀樹他著 三省堂）				

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編（平成29年7月 文部科学省）

中学校学習指導要領解説解説 外国語編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編（平成30年7月 文部科学省）

学生に対する評価

以下の観点で授業中の口頭発表、作成したレジュメ、試験の結果などを総合的に評価する。

- ・授業に主体的かつ積極的に参加し、発表や議論に意欲的に取り組んでいる。（20%）
- ・口頭発表やレジュメの内容が設定した目標に達している。（30%）
- ・試験結果が設定した目標に達している（50%）

授業科目名：初等教科 教育法Ⅰ（国語）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：菊田 尚人 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・ 国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 小学校国語科の目標や内容、指導方法、評価について理解し、授業の構想ができる。 ・ 作成した学習指導案をもとに模擬授業を実施し、その改善ができる。			
授業の概要			
・ 小学校国語科の目標と内容、指導方法、評価について講義と演習を行う。 ・ 受講者が各自で選んだ教材をもとに学習指導案を作成し、模擬授業と検討会を行う。			
授業計画（各回2時間、計30時間を授業時間とする。）			
第1回：本講義についての説明／国語科で育む「資質・能力」について			
第2回：国語科の目標と内容、指導方法、評価の関係性について			
第3回：国語科授業の構成について ―授業場面の映像資料を用いて―			
第4回：「話すこと・聞くこと」の目標と内容について			
第5回：「話すこと・聞くこと」の指導方法と評価について ―マイクロティーチングの実施―			
第6回：「書くこと」の目標と内容について			
第7回：「書くこと」の指導方法と評価について ―マイクロティーチングの実施―			
第8回：「知識及び技能」（書写を含む）の目標と内容、指導方法、評価について			
第9回：「読むこと」の目標と内容について			
第10回：「読むこと」の指導方法と評価について／教材分析の方法について			
第11回：学習指導案の作成① ―単元の目標、指導計画を中心に―			
第12回：学習指導案の作成② ―本時の指導と情報通信技術の活用方法の検討―			
第13回：学習指導案の交流／模擬授業の構想			
第14回：模擬授業と授業検討会の実施①			
第15回：模擬授業と授業検討会の実施②／本講義のまとめ			
テキスト			
『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』			
参考書・参考資料等			
授業で適宜資料を配付する。			
学生に対する評価			
各回の活動(70%)、学習指導案作成と模擬授業への取り組み(30%)を総合して評価する。			

授業科目名：初等教科 教育法Ⅱ(国語)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：三浦 登志一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 国語（書写を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 学習指導要領(国語)についての理解を深め、演習を通して教材研究と授業実践の力を付ける。 ○小学校学習指導要領国語科の構造と言語活動例について説明することができる。 ○「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」に関する教材研究を行い、授業を構想して学習指導案 書くことができる。 ○模擬授業を通して授業研究を行い、その結果に基づいて授業改善を図ることができる。			
授業の概要 ○児童への指導とともに学生自身も国語表現力を身に付けるように、演習を重視する。 ○「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の教材について研究する。 ○様々な実践例について学び、目標に即した指導方法を考えて授業を構想する。 ○模擬授業を通して授業研究を行い、その結果を振り返りながら改善案を立てる。			
授業計画（各回2時間、計30時間を授業時間とする。） 第1回：国語科教育の現状と課題（講義・演習） 第2回：学習指導要領における国語科の構成（講義） 第3回：学習指導要領「知識及び技能」：国語の特質に関する事項（講義・演習） 第4回：学習指導要領「思考力、判断力、表現力等」：文章の種類（講義・演習） 第5回：学習指導要領「思考力、判断力、表現力等」：創作的文章の表現 タブレット活用した意見交換（講義・演習） 第6回：学習指導要領「思考力、判断力、表現力等」：論理的文章の表現（講義・演習） 第7回：学習指導要領「思考力、判断力、表現力等」：文章の検討と推敲（講義・演習） 第8回：学習指導要領「思考力、判断力、表現力等」：音声言語表現（講義・演習） 第9回：国語科における言語活動（プレゼンテーションソフトの活用等）と評価（講義・演習） 第10回：他教科との関連と授業構想（講義・演習） 第11回：授業計画と教材：年間指導計画と単元指導計画（講義） 第12回：学習指導案の作成：単元計画（演習） 第13回：学習指導案の作成：本事案（演習） 第14回：模擬授業と授業研究（演習） 第15回：授業研究と授業改善（講義・演習） 定期試験は実施しない			
テキスト 小学校学習指導要領解説国語編（平成29年6月 文部科学省）			
参考書・参考資料等 適宜、資料を配付する。			
学生に対する評価 成績評価基準：C（合格に必要な最低限度）基準 「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の教材研究を行って授業を構想し、学習指導案を書 くことができる。授業改善の具体的な方法を説明することができる。 成績評価の方法：次の事項について授業中の小テストや発表、模擬授業等を通して評価する。 ・学習指導要領の構造と言語活動例に対する理解（30%） ・音声言語教材や書くことの教材についての教材研究（30%） ・授業の構想と学習指導案の作成（30%） ・授業研究と授業改善の方法の考案（10%）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：江間史明
初等教科教育法Ⅰ(社会)	必修科目	1 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
科目区分又は事項等	・ 社会		
授業のテーマ及び到達目標			
小学校社会科における資質・能力ベースの目標と内容構成の特質を理解できる。授業を構成する教材と教授行為のレパートリーを身に付ける。社会科の学習指導案の要件を理解できる。			
授業の概要			
次の点を取りあげる。小学校社会科と「深い学び」、小学校社会科カリキュラムの歴史的展開、発問づくりと教科書分析、見たこと作文と情報機器の活用、学習指導案の作成演習。			
授業計画（各回2時間、計30時間を授業時間とする。）			
第1回：「深い学び」と大学入学共通テスト「公共」の問題分析			
第2回：「深い学び」と学習ゲーム、論理的思考の三角ロジック			
第3回：社会科指導でなぜディベートを取りあげるか（ディベートの条件と公正の意味）			
第4回：ディベートに埋め込まれた反論の2つのタイプ（主張型と論証型の区別）			
第5回：マイクロディベートにおける審判体験と複眼的思考			
第6回：社会科授業記録論における事実と解釈の方法			
第7回：発問づくりと社会科の教科書分析			
第8回：学習指導案の要件と学習評価の基本的な考え方			
第9回：学習指導案の作成演習			
第10回：小学校社会科カリキュラムの歴史的展開			
第11回：2017年版学習指導要領における小学校社会科の目標と内容の構造			
第12回：学習指導案レポートの返却と説明。書き直し			
第13回：社会科における情報機器の活用（見たこと作文による見学指導との連動）			
第14回：見たこと作文システムにおける「教える」と「学ぶ」の区別			
第15回：レポートの返却及びその評価と解説			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』（平成29年6月）			
『教育の方法と技術』（江間史明・黒上晴夫・奈須正裕著、ミネルヴァ書房出版、2023年）			
参考書・参考資料等	適宜、資料を WebClass にアップロードする。		
学生に対する評価			
講義内容へのコメント（15%）、課題レポート4回（72%）、大学入学共通テスト問題へのコメント(6%)、選択課題図書レポート(7%)			

授業科目名： 初等教科教育法Ⅱ(社会)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：江間史明 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・ 社会		
授業のテーマ及び到達目標 小学校社会科の単元構成の基本を身に付ける。単元を見通した「学びのしかけ」を事例から分析できる。学習指導案の作成と1時間の模擬授業を行い、自己の課題を明確に説明できる。			
授業の概要 次の点を取り上げる。小学校社会科における「見方・考え方を働かせる」指導の特質、活動中心と発問指示中心の2つの単元構成の分析、小3～6年の模擬授業と事後検討会。			
授業計画（各回2時間、計30時間を授業時間とする。） 第1回：資質・能力ベースの授業づくりとは何か。 第2回：「見方・考え方を働かせる」とはどういうことか。小3販売と小4飲料水と廃棄物の分析。 第3回：学習指導案の要件と学習評価の基本的な考え方。 第4回：活動中心の単元。明治維新の人物ランキング（小6）を考える。 第5回：明治維新の人物ランキングにみる「学びのしかけ」と育成する資質・能力 第6回：模擬授業演習で扱う4単元の教科書分析、グループ編成。 第7回：模擬授業グループの活動、主たる教材と学習課題の検討 第8回：模擬授業グループの活動、学習指導案の作成と教材・情報機器の活用 第9回：模擬授業演習と事後検討①、小3販売、小4廃棄物の単元 第10回：模擬授業演習と事後検討②、小5農業、食料自給率の単元 第11回：模擬授業演習と事後検討③、小6歴史、南蛮貿易の単元 第12回：発問中心の単元。竹崎季長がんばる（小6）の授業ビデオを視聴・分析 第13回：「竹崎季長がんばる」の「学びのしかけ」と歴史学の史料分析 第14回：カリキュラム・オーバーロードをどう考えるか 第15回：模擬授業演習の振り返りと授業場面分析の論述試験とその解説 定期試験は実施しない			
テキスト 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』（平成29年6月） 『教育の方法と技術』（江間史明・黒上晴夫・奈須正裕著、ミネルヴァ書房出版、2023年）			
参考書・参考資料等 適宜、資料を WebClass にアップロードする。			
学生に対する評価 授業内容へのコメント(10%)、活動中心と発問中心の単元分析コメント(10%)、レポート2回(課題図書と学習指導案、30%)、模擬授業演習の振り返りと授業場面分析の論述試験(50%)			

授業科目名：初等教科 教育法Ⅰ（算数）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：平林真伊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・算数		
授業のテーマ及び到達目標 「数と計算」領域を中心に、教材の内容と指導方法を理解し、算数科の学習指導案を作成することができる。			
授業の概要 本授業では、「数と計算」領域を中心に、教材の内容と指導方法を理解し、算数科の学習指導案を作成できるようになることを目的とする。本授業は講義のみならず、各回の授業内容に即した課題に対して考察を行うといった演習を含めて展開する。他受講者とのコミュニケーションを踏まえ、授業内容について多面的に思考できるよう主体的に取り組んでももらいたい。また、「数と計算」領域に関する教材を題材とした指導案を作成し、グループ内で指導案の検討会を行うため、グループワークにも積極的に取り組んでももらいたい。			
授業計画（各回2時間、計30時間を授業時間とする。） 第1回：算数・数学教育に係る国内外の調査等に見る算数教育の今日的課題 第2回：よい算数の授業とは何か：算数の授業における目標、内容、学習評価に焦点を当てて 第3回：自然数に関する講義及び教材研究（数えること、集合論、ペアノの公理系） 第4回：加法・減法に関する講義及び教材研究（加減の意味と活用） 第5回：乗法・除法に関する講義及び教材研究（乗除の意味と活用） 第6回：数の表現に関する講義及び教材研究（命数法と記数法、十進位取り記数法、p進法） 第7回：小数と分数に関する講義及び教材研究 第8回：数感覚に関する講義及び教材研究 第9回：「数と計算」領域における問題解決型指導、問題解決型指導における情報通信技術の活用方法 第10回：「数と計算」領域における数学的活動、数学的活動における情報通信技術の活用方法 第11回：「数と計算」領域における数学的な見方・考え方、数学的な見方・考え方を育むための情報通信技術の活用方法 第12回：学習指導案（学習評価の考え方を含む）の意味と作成方法 第13回：学習指導案（学習評価の考え方を含む）作成の演習 第14回：学習指導案（学習評価の考え方を含む）の検討会 第15回：模擬授業と事後検討会 定期試験			

テキスト 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編（文部科学省） 新版 算数科教育研究（東洋館出版） MINERVAはじめて学ぶ教科教育②初等算数科教育（ミネルヴァ書房）
参考書・参考資料等 算数科 検定教科書
学生に対する評価 学習指導案を含むレポート（50％）、定期試験（50％）

授業科目名：初等教科 教育法Ⅱ（算数）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：平林 真伊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） 算数		
授業のテーマ及び到達目標			
数学的な見方・考え方を育てる算数科授業のあり方について、数学的活動の視点から考察し、実際に授業を設計することができる。			
授業の概要			
本授業では、数学的な見方・考え方を育てる算数科授業のあり方について、数学的活動の視点から考察し、実際に授業を設計できるようになることを目的とする。本授業は、算数科の各領域における教材の特徴と授業の注意点について講義を行う。そして、それを基にグループで授業を設計する。さらに、学生を子ども役にして模擬授業を実施し、数学的な見方・考え方を育てる授業について理解を深める。グループワークに積極的に取り組み、数学的な見方・考え方を育てる授業について多面的に思考してもらいたい。			
授業計画（各回2時間、計30時間を授業時間とする。）			
第1回：小学校算数科における数学的活動に関する今日的課題			
第2回：授業の分析方法：算数の授業における目標、内容、学習評価に焦点を当てて			
第3回：「数と計算」領域における教材の特徴と授業の注意点、「数と計算」領域に関する教材研究と情報通信技術の活用方法			
第4回：「図形」領域における教材の特徴と授業の注意点、「図形」領域に関する教材研究と情報通信技術の活用方法			
第5回：「測定」領域における教材の特徴と授業の注意点、「測定」領域に関する教材研究と情報通信技術の活用方法			
第6回：「変化と関係」領域における教材の特徴と授業の注意点、「変化と関係」領域に関する教材研究と情報通信技術の活用方法			
第7回：「データの活用」領域における教材の特徴と授業の注意点、「データの活用」領域に関する教材研究と情報通信技術の活用方法			
第8回：学習指導案における単元の「目標」と「評価」、「指導計画」、「教材観」の意味と作成			
第9回：学習指導案における「児童観」、「指導観」の意味と作成			
第10回：学習指導案の本時案における本時の「目標」と「評価」、「本時の展開」の意味と作成			
第11回：学習指導案における「板書計画」の意味と作成			
第12回：数学的な見方・考え方を育てる算数科授業の設計と学習指導案（学習評価の考え方を含む）作成			

第13回：数学的な見方・考え方を育てる算数科授業プラン（学習評価の考え方を含む）の発表会 第14回：数学的な見方・考え方を育てる算数科授業（学習評価の考え方を含む）の振り返り 第15回：模擬授業と事後検討 定期試験は実施しない。
テキスト 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 算数編（文部科学省）
参考書・参考資料等 新版 算数科教育研究（東洋館出版） MINERVAはじめて学ぶ教科教育②初等算数科教育（ミネルヴァ書房） 算数科 検定教科書
学生に対する評価 学習指導案を含むレポート（50％）、模擬授業の発表内容（50％）

授業科目名：初等教科 教育法Ⅰ（理科）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：鈴木宏昭 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・理科		
授業のテーマ及び到達目標 小学校教員として小学校理科を実践するため、学習指導要領の基本的性格（教科の目標構造と教育内容）及び理科教育に関する基礎的な知識を理解することを目標とする。			
授業の概要 小学校の理科を教える教員としての基本的な力量を身につけることを目的とする。そのため、現代理科教育研究の動向を踏まえつつ、理科の目的論、内容論、教授学習論、教材論、評価論をはじめとした、初等理科教育の理論と実践について解説する。特に、学習指導要領で規定されている理科の目標と内容構成について重点的に解説する。			
授業計画（各回2時間、計30時間を授業時間とする。） 第1回：講義についてのオリエンテーション、教科「理科」の特徴 第2回：現代理科教育を取り巻く諸問題 ①国際学力調査の結果の解説、②実際の理科授業をビデオ視聴 第3回：理科の歴史（日本や欧米の初等理科教育の歴史） 第4回：現代欧米の理科教育の実態（米国を中心として） 第5回：初等理科教育の意義と目標 第6回：学習指導要領理科の特徴 第7回：初等理科の内容構成①（物質・エネルギー） 第8回：初等理科の内容構成②（生命・地球） 第9回：現代理科教授学習論 ①構成主義学習論、②問題解決学習 第10回：理科教育の教材研究 ①理科教材の特徴と変遷、②ICT教材の活用 第11回：理科教育実験における安全管理（観察実験活動における事故対策） 第12回：理科教育評価（理科における観点別評価を中心に） 第13回：理科学習指導案の書き方 第14回：模擬授業（グループ）および模擬授業の相互評価 第15回：講義のまとめ及び定期試験			
テキスト 小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月 文部科学省）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			

学生に対する評価

定期試験（60％）、レポート（20％）、模擬授業の発表（20％）

授業科目名：初等教科 教育法Ⅱ（理科）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：今村哲史
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
我が国の小学校理科の現状と課題、理科の目的・目標、カリキュラム編成、学習指導と評価の方法等を理解し、理科授業を構想するための基礎的能力を身につけることを目標とする。			
授業の概要			
小学校理科を指導する上で必要な能力を育成することを目的とする。そのために、まず、我が国の理科教育の現状と課題について、特に、歴史的な経緯や欧米の科学教育改革との関係も含めて解説する。次に、小学校理科の目的・目標、カリキュラム、学習と評価に関する基礎的理論と方法について、実際の授業場面を想起させながら解説する。そして、これら理論を踏まえた具体的な授業展開（学習指導案）を検討し、理科の授業づくりの方法について考察する。			
授業計画（各回2時間、計30時間を授業時間とする。）			
第1回：オリエンテーション、国内外の学力調査（理科）等の結果と理科の実践的課題			
第2回：欧米の科学教育改革の変遷－カリキュラム改革運動とその後の科学教育改革－			
第3回：我が国の戦後から現在までの理科教育の変遷－学習指導要領（理科）を中心に－			
第4回：平成29年改訂小学校学習指導要領「理科」の目標・内容・指導上の留意点等－			
第5回：子どもの自然事象の見方・考え方の実態－素朴概念と概念調査の方法－			
第6回：理科学習論（1）－問題解決学習・発見学習・探究学習・有意味受容学習－			
第7回：理科学習論（2）－構成主義学習・概念変換・状況主義に基づく理科学習の考え方－			
第8回：理科における評価方法（真性の評価・ポートフォリオ評価）と評価結果の活かし方			
第9回：理科の4領域の教材研究の方法－教材の取り扱いと授業設計－			
第10回：理科授業における情報機器の活用とICT教育の考え方			
第11回：科学的探究の理論とその過程に基づく理科の授業設計と学習指導の在り方－			
第12回：理科学習指導案の作成－「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した提案－			
第13回：理科学習指導案の検討と評価－各グループでの検討と発表－			
第14回：理科学習指導案の改善策の提案と振り返り			
第15回：新しい理科の考え方（STEM/STEAM教育）と今後の理科教育の課題と展望			
定期試験			
テキスト			
小学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月 文部科学省）			
初等理科教育ハンドブック－山形版学習指導のデザイナー－（今村哲史編著、山形大学出版）			

参考書・参考資料等
授業中に適宜資料を配布する。参考書については適宜紹介する。
学生に対する評価
定期試験（65％）、レポート（学習指導案を含む）（25％）、発表や討論の状況や態度(10％)

授業科目名：初等教科 教育法（生活）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：野口徹 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・生活		
授業のテーマ及び到達目標			
幼児教育から小学校教育への架け橋の柱となる「生活科」における子どもの学びと教師の役割について考察することをテーマとし、次のことができるようになることを到達目標とする。 ○学習指導要領に示されている生活科の「九つの内容」に即した実践記録を検討することで、生活科の特徴と意義、生活科の指導計画の立て方などを適切に考察することができる。 ○子ども理解と教師の役割の視点から生活科の実践例を検討することで、生活科における授業を構成する様々な要素および学習指導と学習評価のあり方について考察する。 ○生活科の学習指導案を作成し、それに沿った模擬授業を検討することで生活科の授業における指導のあり方について考察することができる。			
授業の概要			
低学年を対象とした教科である生活科教育を実践する上で必要な事項（「子どもの主体的な学びを誘発する環境のあり方」「子どもの学びを導き、支え、見取る教師の役割」）を、低学年における様々な実践事例（年間計画・指導計画などを含む）を検討することを通じて学ぶ。特に、児童が自らの学習活動時に「タブレット」を用いて学習対象を撮影した画像を通して考察する手法である「ドキュメンテーション」の必要性など、生活科における学習環境のあり方について検討する。さらに、生活科の学習指導案を作成し、それに沿った模擬授業を実施することで、生活科の授業における指導上の様々な工夫について考察する。			
授業計画			
第1回 生活科とはどのような科目か 教育理念の視点から			
第2回 生活科の年間計画と指導計画について			
第3回 学習指導要領における生活科の位置付け（三つの視点・九つの内容）および評価について			
第4回 生活科の実践記録を検討・評価①（学校・家庭及び地域の生活に関する内容：自分と人や社会との関わり：学校たんけん、まちたんけん 等の活動から）			
第5回 生活科の実践記録を検討・評価②（身近な人々・社会及び自然と関わる活動に関する内容A：季節の変化と生活、自然や物を使った遊び 等の活動から）			
第6回 生活科の実践記録を検討・評価③（身近な人々・社会及び自然と関わる活動に関する内容B：動植物の飼育・栽培を取り入れた活動から）			
第7回 生活科の実践記録を検討・評価④（自分自身の生活や成長に関する内容：自分の成長を見つめる活動から）			
第8回 生活科の単元構成の原理と学習指導案の作成について			

第9回 生活科の授業構成について（環境構成と学習評価のあり方の視点から） 第10回 生活科授業の方法について（子どもの学びの視点に応じた学習指導の視点から） 第11回 生活科学習指導案（プラン）の作成・検討・評価 第12回 生活科学習指導案（プラン）の検討・評価・模擬授業実施の準備 第13回 模擬授業の実施・分析および検討・評価① 第14回 模擬授業の実施・分析および検討・評価② 第15回 総括
テキスト 文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』東洋館出版社、平成29年6月
参考書・参考資料等 適宜、プリントを配布する。
学生に対する評価 三分の二以上の回数を出席していることを前提とする。 生活科の教育理念と学習指導要領の生活科の内容についての理解（30％）、生活科の実践分析と生活科の九つの内容の理解（30％）、学習指導案の作成と模擬授業の分析・検討の課題（30％）、他の課題（10％）

授業科目名：		教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：佐川 馨
初等教科教育法（音楽）		必修科目	2単位	担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
科目区分又は事項等		・音楽		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 小学校音楽科の基礎的事項（学習指導要領の目標および内容、指導法等）について、講義及び演習を通して理解する。				
2. 小学校音楽科の授業を構想し、模擬授業と省察を通して実践的指導力を身につける。				
本授業では、受講者各自の音楽経験や音楽科の学習を通して身につけた「音楽を愛好する心情」「音楽に対する感性」「音楽活動の基礎的な能力」を基にして、小学校音楽科の指導をするための基礎的な知識・技能と実践力を身につけることを目指す。				
授業の概要				
○音遊びや音楽ゲームから音楽づくりへの発展（講義・演習）				
○歌い方や楽器演奏の基礎的な奏法の習得（講義・演習）				
○音符、休符、記号などの音楽の基礎的な理論の理解（講義・演習）				
○教材を特徴付けている要素の働きから教材の特徴を見極めて授業を構想（講義・演習）				
授業計画				
第1回：オリエンテーション[授業計画、学習内容、評価等]（講義）				
音遊び(1)[ラップで自己紹介、音楽教育アンケート]（演習）				
第2回：音遊び(2)[わらべうた遊びの教材性]（演習）				
小学校音楽科学習指導要領について(1)[音楽科の目標]（講義）				
第3回：小学校音楽科の学習指導要領について(2)[内容、共通事項等]（講義）				
音遊びから音楽づくりへ(1)[諸要素の働きに着目した音遊び]（演習）				
第4回：音楽科の評価(1)[音楽科の特性と評価]（講義）				
音遊びから音楽づくりへ(2)[音遊びからクラッピングアンサンブルづくり]（演習）				
第5回：音楽科の評価(2)[音楽科の評価の実際]（講義）				
音楽づくりの実際(1)[音楽科における学び合い]（演習）				
第6回：音楽づくりの実際(2)[学び合い、諸要素の働きに着目して]（講義・演習）				
第7回：音楽づくりの発表と相互評価（演習）				
第8回：リコーダーと鍵盤ハーモニカの基礎（講義・演習）				
第9回：リコーダーと鍵盤ハーモニカのアンサンブル（演習）				
第10回：リコーダーと鍵盤ハーモニカのアンサンブル発表（演習）				
第11回：音楽科の学習指導案の作成と教材研究の進め方[情報機器を有効活用して]（講義）				
第12回：表現教材を用いた模擬授業の構想[授業展開の検討と教材研究]（演習）				
第13回：鑑賞教材を用いた模擬授業の構想[副教材の検討、評価]（演習）				
第14回：模擬授業の実施と相互評価(1)[表現教材を中心に]（発表・討議）				
第15回：模擬授業の実施と相互評価(2)[鑑賞教材を中心に]（発表・討議）				
学習成果のまとめと自己の課題の検討（レポート）				
テキスト				
文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』（平成29年7月告示）				
『小学音楽 音楽のおくりもの』（1年から6年全巻）教育出版				
参考書・参考資料等				
小学生の音楽（1年から6年全巻）教育芸術社				
学生に対する評価				
以下の評価の観点に則り、授業時の取り組み状況等も加味して総合的に評価する。				
・小学校音楽科の学習指導要領の目標および内容、指導法等について理解している。（30%）				
・歌い方や楽器演奏の基礎的な奏法を習得している。（20%）				
・音符、休符、記号などの音楽の基礎的な理論の理解している。（20%）				
・音楽を特徴付けている要素の働きから教材の特徴を見極めて授業を構想できる（30%）				

授業科目名：初等教科 教育法（図画工作）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小林俊介・廖曦 彤・山田唯仁 担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む） 図画工作		
授業のテーマ及び到達目標 図画工作科教育の目標や内容、評価、指導法などに関する理解を深めるとともに、図画工作科の授業を構想し、模擬授業と省察を通して、児童・教師・題材の視点から考察し、授業づくりの重要なポイントを実践的に把握し、学習指導案の書き方を習得する。 (1) 題材研究における試行錯誤を通して、教科内容や児童の発達段階に適切な題材を開発し、授業設計を行うこと、学習指導案を書くことができる。 (2) 模擬授業と相互評価を通して、授業づくりの注意点や改善点を踏まえて授業改善を行うことができる。			
授業の概要 具体的な題材研究、模擬授業、振り返りと意見交換を通して、小学校図画工作科教育における学びのあり方について実践的に理解する。模擬授業では、グループに分けて、授業者と児童役を交互にすることでを行い、意見交換することで授業改善を行う。学校現場の教師を招いて実際の学校教育現場と教育の実践を理解する。			
授業計画 第1回：ガイダンス：子どもの造形表現と鑑賞の発達及び図画工作科教育の指導の基礎的視点（小林・廖） 第2回：図画工作科の目標・学習指導要領における教育目標（山田） 第3回：図画工作科の教科内容・教科書研究を踏まえて（山田） 第4回：図画工作科における評価と学年別実践例（山田） 第5回：造形遊びをする活動の題材研究と実践（廖） 第6回：絵に表す活動の題材研究と実践（小林） 第7回：立体に表す活動の題材研究と実践（小林） 第8回：工作に表す活動の題材研究と実践（廖） 第9回：電子黒板を活用した鑑賞活動の題材研究と指導実践（廖） 第10回：ゲストティーチャーの先生による授業—小学校教育現場の実態、授業作りと学習評価、タブレット端末の活用を踏まえて—（廖） 第11回：模擬授業に向けた題材研究—題材構想と材料の可能性の探求—（小林・廖） 第12回：模擬授業に向けた題材研究—電子黒板を活用した授業の流れと学習評価方法の検討、指導案の作成—（小林・廖） 第13回：模擬授業の実施と授業の流れと学習評価の妥当性の検討（小林・廖） 第14回：模擬授業の実施、授業の流れと学習評価方法の検討を踏まえた指導案の改善（小林・廖） 第15回：授業まとめ、振り返り、グループ発表・相互評価（小林・廖） 定期試験は実施しない			
テキスト 『小学校学習指導要領解説 図画工作編』文部科学省（平成 29年 7月）			
参考書・参考資料等			

『初等図画工作科教育』 吉田武男 監修、ミネルヴァ書房

学生に対する評価

題材研究や模擬授業への積極的な参加（30%）、学習指導案（40%）、模擬授業への省察と改善点の課題レポート（30%）

授業科目名：初等教科 教育法（家庭）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石垣和恵 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・家庭		
授業のテーマ及び到達目標			
1）小学校家庭科教育の目標・内容・方法を説明できる。【知識・理解】 2）小学校家庭科を指導するための知識・技能を身につけるとともに、教材研究をすることができる。【知識・理解】 3）授業を構想して学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。【技能】 4）児童の主体的な学びを深める授業について、討議することができる。【態度・習慣】			
授業の概要			
小学校家庭科教育における目標・内容・方法・学習者について学び、学習指導案を作成して模擬授業を行い、実践のための基礎力をつけることを目的とする。			
授業計画			
第1回：授業ガイダンス 小学校家庭科教育の理念及び意義 第2回：家庭生活の社会的変化と家庭科教育の歴史的変遷 第3回：学習指導要領の目標と内容構成及び他教科との関連 第4回：学習指導案と年間指導計画作成・授業計画と学習の改善につなげる評価方法 第5回：教材研究① 家族と家庭生活 第6回：教材研究② 食生活 第7回：教材研究③ 衣生活（基礎的技能の習得を含む） 第8回：教材研究④ 衣生活（生活に役立つものの製作） 第9回：教材研究⑤ 住生活 第10回：教材研究⑥ 消費生活と環境 第11回：学習指導案の検討（目標と評価、内容と方法）・ICTを用いた学習方法の検討 第12回：模擬授業（家族・家庭生活領域）と事後検討会 第13回：模擬授業（食生活領域）と事後検討会 第14回：模擬授業（住生活領域）と事後検討会 第15回：模擬授業（消費生活・環境領域）と事後検討会			
テキスト			
文部科学省「小学校学習指導要領解説 家庭編」， 「小学校家庭科教育法」（大竹美登利・鈴木真由子・綿引 伴子編著、建帛社出版） 「小学校わたしたちの家庭科5・6」（開隆堂出版）			
参考書・参考資料等			
必要に応じて授業時に紹介，配布する。			
学生に対する評価			
1）小学校家庭科教育の目標・内容・方法を適切に説明できること、2）学習指導案を作成し、模擬授業を行えること、3）グループワークに積極的・能動的に参画できていることを合格の基準とします。 上記の基準に基づき、縫製技術を用いた小作品と評価レポート（20％）学習指導案作成と模擬授業（30％）授業後小課題（50％）などを総合的に評価する。			

授業科目名：初等教科 教育法（体育）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小松恒誠、渡邊信晃、沼田尚 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 体育領域について、運動の特性に応じた学習指導の考え方を理解することができる。 2. 体育の学習指導案を作成し、模擬授業を通して実践することができる。			
授業の概要			
本授業では、小学校体育科の授業を行うための基礎的な知識・技能を習得した上で、体育の授業を構想して実践することができるようになることが目的である。 本授業は演習形式を中核とするが、その過程で、学習指導案の作成と模擬授業を通じた実践力の向上を目指す。演習の効果をより高めていくために、クラス分けを行い3人の教員が専門的立場から実技指導にあたる。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（授業の進め方、受講のあり方等）（小松・渡邊・沼田）			
第2回：理論と実技① 体づくり運動・陸上運動・器械運動の特性と身体動作の特徴を知る（小松・渡邊・沼田）			
第3回：理論と実技② 体づくり運動・陸上運動・器械運動の特性に応じた学習指導の考え方とポイント（小松・渡邊・沼田）			
第4回：理論と実技③ 体づくり運動・陸上運動・器械運動の特性に応じた運動の苦手な児童への配慮（小松・渡邊・沼田）			
第5回：体づくり運動・陸上運動・器械運動の基本技能の学習（小松・渡邊・沼田）			
第6回：体づくり運動・陸上運動・器械運動の応用技能の学習（小松・渡邊・沼田）			
第7回：体づくり運動・陸上運動・器械運動と個別指導法（小松・渡邊・沼田）			
第8回：小学校体育科における学習指導計画の方法（心理学的基礎及び教師行動・学習活動、学習形態、学習資料・ICTの活用、学習評価、安全への配慮等についての理解）（小松・渡邊・沼田）			
第9回：小学校体育科における学習指導計画の立案（心理学的基礎や学習評価、安全への配慮等を含めた計画づくり）（小松・渡邊・沼田）			
第10回：立案した学習指導計画の検証・修正（心理学的基礎や学習活動、学習評価、安全への配慮等を踏まえた検討・修正）（小松・渡邊・沼田）			
第11回：学生による模擬授業・授業検討会① 体づくり運動（体ほぐしの運動）（小松・渡邊・沼田）			
第12回：学生による模擬授業・授業検討会② 陸上運動（走・跳の運動）（小松・渡邊・沼田）			
第13回：学生による模擬授業・授業検討会③ 器械運動（マット運動・跳び箱運動）（小松・渡邊・沼田）			
第14回：学生による模擬授業・授業検討会④ 体づくり運動（体の動きを高める運動）（小松・渡邊・沼田）			
第15回：学生による模擬授業・授業検討会⑤ 体づくり運動・陸上運動・器械運動から選択、授業全体のまとめ（小松・渡邊・沼田）			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領解説体育編（平成29年6月文部科学省）			
学生に対する評価			
・運動の特性に応じた学習指導に関する基礎的知識の理解（40%） ・体育科の学習指導計画を立案し、授業を実践することができる（40%） ・授業に対して主体的・積極的に参加し、発表・議論等に意欲的に取り組んだか（20%）			

授業科目名：初等科教育法（外国語）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：佐藤博晴、ミラー ジェリー
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。） ・ 外国語		
授業のテーマ及び到達目標			
小学校外国語活動及び外国語科の目標を正しく理解するとともに、その目標を達成するための学習・指導・評価に関する基礎知識の習得と授業実践に必要とされる指導技術を養成することを目標とする。			
授業の概要			
毎時間、指定された教科書のユニットや補助教材を読みながら、外国語活動・外国語科に関する基礎的な知識の習得を目指す。また、授業計画の中盤からは、映像による師範授業と使用教材の分析を通して、授業分析力や授業の構想力の養成も行う。授業計画の後半部では、教員による師範授業や学生同士の模擬授業とその後の授業検討会などを通じて、これまで学習してきた知識や理論を実際に場面で活用・確認する。			
授業計画			
第1回：「外国語活動と外国語科の目標」・「小学校英語教育の変遷」・「小中高の連携と小学校の役割」			
第2回：「児童の多様性への対応」・「児童の認知・情意発達に即した指導法」			
第3回：「言語使用を通じた言語習得・音声インプット」・「コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確にした言語活動」			
第4回：「音声から文字へ」・「国語教育との連携」			
第5回：「題材の選定と教材」・「学習到達目標」・「学習指導案の作り方」			
第6回：「ALT等とのティーム・ティーチングによる指導の在り方」・「ICT等の活用の仕方」・ビデオによる授業分析（1）			
第7回：「外国語科の学習評価」・「外国語活動の学習評価」・ビデオによる授業分析（2）			
第8回：「Classroom English、Small Talk、Teacher Talk」・「言葉への気づきをもたらす指導」・ビデオによる授業分析（3）			
第9回：「第二言語習得に関する基本的な知識」・ビデオによる授業分析（4）			
第10回：「発達心理学の基礎」・ビデオによる授業分析（5）			
第11回：教員による師範授業（1）・授業検討会（1）			
第12回：教員による師範授業（2）・授業検討会（2）			
第13回：学生による模擬授業（1）・授業検討会（3）			
第14回：学生による模擬授業（2）・授業検討会（4）			
第15回：授業のまとめ、テスト、テスト解説			

テキスト

小学校はじめる教科書（改訂版）（小川隆夫・東仁美著、吉田研作監修 mpi松香フォニックス）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編（平成29年7月 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編（平成30年7月 文部科学省）

学生に対する評価

以下の観点で、授業中の口頭による発表や作成した指導案・教材、テストなどを中心に総合的に評価する。

- ・授業に対して主体的・積極的に参加し、模擬授業・発表・議論等に意欲的に取り組んだか。
(30%)
- ・テストや口頭による発表、提出された指導案・教材等が設定された目標に達しているか。
(40%)
- ・授業内容に対する理解や作成された指導案・教材等に工夫が見られたか。(30%)

授業科目名： 国語学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：坂喜 美佳 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 日本語の基礎知識を適切に理解し、具体例を用いて内容を説明することができる。			
授業の概要 ・ 日本語についての基礎知識を広く得ることを目的とし講義する。 ・ 毎回配布プリントを用いて講義形式で行い、学生に適宜質疑応答をしながら進める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 国語学とは 第2回：母音と子音：日本語の音声構造の基礎となる母音体系と子音体系について学び、その特徴を理解する。 第3回：五十音図と特殊拍：日本語の基本的な音韻体系のうち、五十音図の配列と特殊拍の特徴について学ぶ。 第4回：アクセント：日本語の高低アクセントの仕組みと地域差について学ぶ。 第5回：形態素：日本語の最小単位である形態素の種類と機能を理解し、語構成の分析方法を学ぶ。 第6回：語と句：日本語の語と句の構造について学び、その文法的な特徴を分析する。 第7回：格ととりたて：日本語の格助詞ととりたて助詞の機能と用法について体系的に学ぶ。 第8回：複文：日本語の従属節の種類と機能について体系的に学び、文の構造を分析する。 第9回：活用：日本語の動詞・形容詞の活用の仕組みと種類について体系的に学ぶ。 第10回：ヴォイス：日本語の受身・使役・可能などの態の体系とその文法的な機能を学ぶ。 第11回：アスペクト・テンス：日本語の時間表現における動作の進行や完了、時制の体系について学ぶ。 第12回：モダリティ：日本語の文末に現れる話者の判断や心的態度を表す表現について学ぶ。 第13回：待遇表現：日本語の敬語の種類と用法について、社会的な文脈や人間関係に基づいて学ぶ。 第14回：語彙：日本語の語彙体系の特徴と語種（和語・漢語・外来語）について、言語学的な観点から学ぶ。 第15回：言語変化：日本語の音韻・文法・語彙における歴史的な変化のプロセスと要因について分析的に学ぶ。			
定期試験			
テキスト なし 適宜資料を配布する。			

参考書・参考資料等

『やさしい日本語のしくみ改訂版 日本語学の基本』（庵 功雄著、日高 水穂著、前田 直子著、山田 敏弘著、大和 シゲミ著 くろしお出版 （2021））

学生に対する評価

定期試験(80%)、毎回課す課題への取り組み(20%)

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：坂喜 美佳
国語学演習Ⅰ	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
・日本語の歴史を正しく理解し、説明できるようになる。			
・日本語史の研究方法を具体的に説明できるようになる。			
・テキストの内容をまとめる演習を通して、日本語について考える基盤となる力をつける。			
授業の概要			
・日本語の歴史を理解し、古典の言葉から現代の言葉への変遷に関する理解を深めること、日本語史の研究方法を知ることなどを目的とし演習を行う。			
・先行研究を用いて内容をまとめ発表、その後講義を行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス 日本語史とは			
第2回：第1章 ことばは変化する―歴史言語学序説(講義)			
第3回：第2章 ことばはなぜ変化するのか(発表)			
第4回：第2章 ことばはなぜ変化するのか(講義)			
第5回：第3章 信頼できるテキストを求めて(発表)			
第6回：第3章 信頼できるテキストを求めて(講義)			
第7回：第4章 文献にあらわれた言語の性格(1)作品成立時の言語の姿にせまる(発表)			
第8回：第4章 文献にあらわれた言語の性格(1)作品成立時の言語の姿にせまる(講義)			
第9回：第5章 文献にあらわれた言語の性格(2)言語の位相差と地域差(発表)			
第10回：第5章 文献にあらわれた言語の性格(2)言語の位相差と地域差(講義)			
第11回：第6章 文献による言語の歴史(発表)			
第12回：第6章 文献による言語の歴史(講義)			
第13回：第7章 文献以前の言語の姿をさぐる(発表)			
第14回：第7章 文献以前の言語の姿をさぐる(講義)			
第15回：日本語史のまとめ			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
『ガイドブック 日本語史』（大木一夫著、ひつじ書房、(2013)）			
参考書・参考資料等：なし			
学生に対する評価			
担当回の発表内容(30%)、章ごとの小テスト(30%)、期末レポート(40%)			

授業科目名： 国語学演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：坂喜 美佳 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・言語を体系的、歴史的、総合的に把握する必要性を理解する。 ・テキストの内容をまとめる演習を通して、日本語について考える基盤となる力をつける。			
授業の概要 ・日本語の歴史を理解し、古典の言葉から現代の言葉への変遷に関する理解を深めること、日本語史の研究方法を知ることがを目的とし演習を行う。 ・先行研究を用いて内容をまとめ発表、その後講義、演習を行う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 7章までのまとめ 第2回：第8章 言語の地域差と言語の歴史(1)比較方言学とその方法(発表) 第3回：第8章 言語の地域差と言語の歴史(1)比較方言学とその方法(講義) 第4回：第8章 言語の地域差と言語の歴史(1)比較方言学とその方法(演習) 第5回：第9章 言語の地域差と言語の歴史(2)言語地理学とその方法(発表) 第6回：第9章 言語の地域差と言語の歴史(2)言語地理学とその方法(講義) 第7回：第9章 言語の地域差と言語の歴史(2)言語地理学とその方法(演習) 第8回：第10章 方言による言語史と文献による言語史(発表) 第9回：第10章 方言による言語史と文献による言語史(講義) 第10回：第10章 方言による言語史と文献による言語史(演習) 第11回：第11章 言語の体系性と言語の歴史(発表) 第12回：第11章 言語の体系性と言語の歴史(講義) 第13回：第11章 言語の体系性と言語の歴史(演習) 第14回：第12章 社会のなかの言語と言語変化(発表) 第15回：第12章 社会のなかの言語と言語変化(講義・演習) 定期試験は実施しない。			
テキスト 『ガイドブック日本語史』（大木一夫著、ひつじ書房、(2013)）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 担当回の発表内容(30%)、章ごとの小テスト(30%)、期末レポート(40%)			

授業科目名： 国語学講義	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：坂喜 美佳 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 日本語の文法について、基礎知識の概要を正しく理解し、的確に説明することができる。			
授業の概要 ・ 毎回文法の問題を解いてくることを課し、その確認を行いながら講義を進める。 ・ 小テストを行い、理解度を確認しながら進める。			
授業計画 第1回：第1章 品詞 第2回：第2章 活用 第3回：第3章 文の組み立て 第4回：第4章 格助詞 第5回：第5章 副助詞 第6回：第6章 接続助詞 第7回：第7章 連用修飾・連体修飾 第8回：第8章 助動詞(1) 受身・使役・可能 第9回：第9章 助動詞(2) 否定・時間 第10回：第10章 助動詞(3) 判断ともくろみ 第11回：第11章 助動詞に似た働きの形式(1) 評価と働きかけ 第12回：第12章 助動詞に似た働きの形式(2) 補助動詞・複合動詞 第13回：第13章 敬語・待遇表現 第14回：第14章 文章・談話 第15回：第15章 文法とは 定期試験			
テキスト 『国語教師が知っておきたい日本語文法』（山田敏弘著、くろしお出版（2003））			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 3回の小テスト(60%)、定期試験(40%)			

授業科目名： 国語学特別講義	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：坂喜 美佳 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 日本語方言を客観的・具体的に説明できる。 ・ 現代の方言について説明できる。 ・ 方言の社会的な機能について討議することができる。			
授業の概要 ・ この授業は方言や方言学について様々な視点から理論的に考察することで、幅広い知識と多様なものの見方を習得するものである。 ・ グループワークでの意見交換や発表によって授業を進める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 方言とは何か 第2回：地図から見えることばの地域差①方言の区画 第3回：地図から見えることばの地域差②方言の分布 第4回：ことばの仕組みから見える地域差①発音・イントネーション 第5回：ことばの仕組みから見える地域差②アクセント 第6回：ことばの仕組みから見える地域差③条件表現 第7回：コミュニケーションから見えることばの地域差 第8回：社会の変化から見えることばの地域差①共通語 第9回：社会の変化から見えることばの地域差②伝統方言・中間方言 第10回：社会の変化から見えることばの地域差③新しい方言 第11回：社会の変化から見えることばの地域差④近代化と方言 第12回：「方言」から見える日本の社会①方言の社会的位置づけ 第13回：「方言」から見える日本の社会②ヴァーチャル方言 第14回：「方言」から見える日本の社会③方言コスプレ 第15回：方言研究の社会的意義 定期試験			
テキスト なし 毎回必要な資料を配布する。			
参考書・参考資料等 ・ 『方言学入門』（木部暢子・竹田晃子・田中ゆかり・日高水穂・三井はるみ編著、三省堂出版(2013)）			

・『ガイドブック方言研究』（小林隆・篠崎晃一編 ひつじ書房出版（2003））

学生に対する評価

毎回の小テスト(20%)、課題(30%)、定期試験(50%)

授業科目名： 日本文学概論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山崎 義光 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学(国文学史を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 日本の古典について、歴史的な観点でジャンルや作品の多様性を知り概略を理解する。 2. 古文を読みこなす基礎を身につける。 3. 自ら調べ、考察したことを口頭・論述によって表現する。			
授業の概要			
和歌・物語・随筆・劇などの日本の言語文化は、言葉によって何を・いかに表現してきたかを、具体的な作品の概要を知り、本文読解を通じて理解する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（講義の概要、取りあげる作品と時代の紹介） 第2回：万葉集 古典和歌 第3回：古今和歌集 古典和歌 第4回：土佐日記 日記文学 第5回：伊勢物語 歌物語 第6回：源氏物語 物語 第7回：今昔物語集 説話 第8回：西行物語 西行の和歌と紀行 第9回：平家物語 軍記物語 第10回：徒然草 随筆 第11回： レポートの対象と観点の構想発表 第12回：奥の細道 俳諧と紀行 第13回：曾根崎心中 浄瑠璃 第14回：雨月物語 読本 第15回：たけくらべ 古典と近代小説 レポートの提出			
テキスト			
『教養としての日本古典文学史』（村尾誠一著 笠間書院出版2022）			
参考書・参考資料等			
『日本文学の見取り図』（千葉一幹、西川貴子、松田 浩、中丸 貴史編著 ミネルヴァ書房出版2022）			
学生に対する評価			
授業での課題(50%) とレポート(50%)を総合して評価する。			

授業科目名： 日本文学概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山崎 義光 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学(国文学史を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 1. 近代文学のおもな作品を読み、歴史的視野から理解するための基礎知識を身につける。 2. 作品の多様性を知るとともに、読み解くための観点を理解する。 3. 自ら調べ、考察したことを口頭・論述によって表現する。			
授業の概要 19世紀後半以後（明治以後）のおもな文学作品を対象とする。近代化する社会のなかで、文学という文化領域では、言葉によって何を・いかに表現してきたのかを理解する。			
授業計画 第1回：ガイダンス（講義計画、進め方、評価）日本の近代史と文学 第2回：1890～1910年代（明治から大正期）：近代国家化と言語の近代化 第3回：二葉亭四迷「浮雲」 第4回：森鷗外「舞姫」 第5回：1910-1920年代（大正から昭和期）：〈私〉という思想 第6回：志賀直哉「和解」 第7回：江戸川乱歩「屋根裏の散歩者」 第8回：メディアの横断 文学と映画 第9回：1930-60年代（昭和戦前から戦後期）：廃墟と未来の想像 第10回：坂口安吾「青鬼の禪を洗う女」 第11回：安部公房「第四間氷期」 第12回：レポートの観点と構想の発表 第13回：1970-2000年代（昭和から平成期）：幻想と現実 第14回：古井由吉「杏子」 第15回：奥泉光「石の来歴」 レポートの提出			
テキスト 『日本近現代文学史への招待』（山崎義光・尾崎名津子・仁平政人・野口哲也・村田裕和・森岡卓司編著 ひつじ書房出版 2024）			
参考書・参考資料等 『日本文学の見取り図』（千葉一幹、西川貴子、松田 浩、中丸 貴史編著 ミネルヴァ書房出版2022）			

学生に対する評価

授業での課題(50%) とレポート(50%)を総合して評価する。

授業科目名： 日本文学講読		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 2単位		担当教員名：山崎 義光 担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・国文学(国文学史を含む。)					
授業のテーマ及び到達目標							
1. 古典文学の作者や作品の概要を説明できる。2. 古文を読むことができる。3. 図書館の文献を活用できる。4. 自ら調べ、考察したことを口頭・論述によって表現できる。							
授業の概要							
古典文学を原文で読み、その背景となる関連事項について図書館資料を活用して調べることを通じて、独力で古典を読解し背景をふまえて理解する基本を身につける。							
授業計画							
第1回：ガイダンス（講義計画、進め方、評価） 鴨長明と『方丈記』の概説							
第2回：p.81- ゆく河の流れは絶えずして、							
第3回：p.82- 予ものの心をしれりしより、							
第4回：p.83- 治承四年卯月のころ、							
第5回：p.85- 又、治承四年みな月の比、 p.85- その時、おのづから事のたよりありて、							
第6回：p.87- 又、養和のころとか、久しくなりておぼえず、							
第7回：p.89- いとあはれなる事も侍りき。							
第8回：p.90- 又同じころかとよ、							
第9回：p.92- すべて世中のありにくく							
第10回：p.93- わがかみ、父かたの祖母 p.94- ここに六そぢの露消えがたに、							
第11回：p.95- いま日野山のおくにあとをかくしてのち、 p.96- その所のさまをいはば、							
第12回：p.97- 又ふもとに p.98- 若夜しづかなれば、 p.99- おほかたこの所に住み							
第13回：p.100- 惣て世の人の、 p.101- いかが奴婢とするとならば、							
第14回：p.102- 夫、三界は、只心ひとつなり。 p.102- 抑、一期の月かげかたぶきて							
第15回：『無名抄』と『発心集』							
レポートの提出							
テキスト							
『方丈記』（鴨長明著 蜂飼耳訳 光文社古典新訳文庫出版2018）							
参考書・参考資料等							
テキストやレポートに関連する図書館等の資料							
学生に対する評価							
授業での課題（60%）とレポート（40%）を総合して評価する。							

授業科目名： 日本文学演習Ⅰ		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 2単位		担当教員名：山崎 義光 担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・国文学(国文学史を含む。)					
授業のテーマ及び到達目標							
1. 近代文学の作家・作品について概要を説明できる。2. 作品を独力で精読し解釈できる。図書館の文献を活用できる。3. 自ら調べ、考察したことを口頭・論述によって表現できる。							
授業の概要							
近代文学の1作品を精読する。従来の評価、研究論文を調べて理解し、それを踏まえて自らの課題を立て、図書館資料を活用して調査研究を行い、成果を発表しレポートにまとめる。							
授業計画							
第1回：ガイダンス（講義計画、進め方、評価） 樋口一葉・「たけくらべ」とその時代							
第2回：一の読解 ※「一」は「たけくらべ」の章番号を指す。以下同様。							
第3回：二の読解、「たけくらべ」の論文講読1-1 前田愛「『たけくらべ』論」前段							
第4回：三の読解、「たけくらべ」の論文講読1-2 前田愛「『たけくらべ』論」中段							
第5回：四の読解、「たけくらべ」の論文講読1-3 前田愛「『たけくらべ』論」後段							
第6回：五の読解、「たけくらべ」の論文講読2-1 山田有策「『たけくらべ』の語り手」前段							
第7回：六の読解、「たけくらべ」の論文講読2-2 山田有策「『たけくらべ』の語り手」中段							
第8回：七の読解、「たけくらべ」の論文講読2-3 山田有策「『たけくらべ』の語り手」後段							
第9回：八、九の読解							
第10回：十、十一の読解							
第11回：十二、十三の読解							
第12回：十四、十五の読解							
第13回：十六の読解							
第14回：「たけくらべ」の読解を深めるトピックを立て調べたことについての発表							
第15回：レポートの相互閲覧と修正							
レポートの提出							
テキスト							
『にぎりえ・たけくらべ』（樋口一葉著 岩波文庫出版）							
参考書・参考資料等							
なし							
学生に対する評価							
授業での課題（60%）とレポート（40%）を総合して評価する。							

授業科目名： 日本文学演習Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山崎 義光 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 近代文学の作家・作品について概要を説明できる。2. 作品を独力で精読し解釈できる。3. 図書館の文献を活用できる。4. 自ら調べ、考察したことを口頭・論述によって表現できる。				
授業の概要				
テキストの中から1つの作品を選び、従来の評価をふまえて自ら観点立て、図書館で文献資料調査したことを関連づけて解釈・評価したことを、発表し論文形式でレポートをまとめる。				
授業計画				
第1回：ガイダンス（講義計画、進め方、評価） 横光利一とその時代				
第2回：「蠅」の読解				
第3回：「蠅」に関する従来評価の調査				
第4回：「蠅」に関する論文1（志賀直哉作品との比較に関する論文）の講読				
第5回：「蠅」に関する論文2（物語論的に読解した論文）の講読				
第6回：「火」についての発表				
第7回：「笑われた子」についての発表				
第8回：「御身」についての発表				
第9回：「赤衣着物」についての発表				
第10回：「ナポレオンと田虫」についての発表				
第11回：「春は馬車に乗って」についての発表				
第12回：「花園の思想」についての発表				
第13回：「機械」についての発表				
第14回：「日輪」についての発表				
第15回：レポートの相互閲覧と修正				
レポートの提出				
テキスト				
横光利一『日輪・春は馬車に乗って 他八篇』（横光利一著 岩波文庫出版）				
参考書・参考資料等				
なし				
学生に対する評価				
授業での課題・発表（60％）とレポート（40％）を総合して評価する。				

授業科目名： 日本文学特別講義	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：生田 慶穂 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 連歌の輪読を通じて、日本古典文学を研究する専門的手法を身につける。			
授業の概要 新撰菟玖波集は室町後期に編纂された准勅撰連歌集である。新撰菟玖波集の中から本歌取り・本説取りをした連歌を選んで分析対象とし、古今和歌集・新古今和歌集・伊勢物語・源氏物語などの古典が室町の文芸に摂取されていくありようを学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス、発表分担 第2回：概説1（連歌について） 第3回：概説2（新撰菟玖波集について） 第4回：教員による模擬発表、発表資料の作成方法 第5回：受講生による発表と質疑応答1（古今和歌集の本歌取り） 第6回：受講生による発表と質疑応答2（後撰和歌集の本歌取り） 第7回：受講生による発表と質疑応答3（拾遺和歌集の本歌取り） 第8回：受講生による発表と質疑応答4（新古今和歌集の本歌取り） 第9回：受講生による発表と質疑応答5（漢詩の本歌取り） 第10回：受講生による発表と質疑応答6（伊勢物語初段の本説取り） 第11回：受講生による発表と質疑応答7（伊勢物語九段の本説取り） 第12回：受講生による発表と質疑応答8（源氏物語若紫の本説取り） 第13回：受講生による発表と質疑応答9（源氏物語須磨の本説取り） 第14回：受講生による発表と質疑応答10（漢籍の本説取り） 第15回：総括、期末レポート出題			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 日本古典文学大系『連歌集』 岩波書店出版 1960 『新撰菟玖波集全釈』全9巻 三弥井書店出版 1999-2009			
学生に対する評価 発表（50点）、聞き手としての貢献度（10点）、レポート（40点）			

授業科目名： 漢文学概論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三上 英司 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 漢文学		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 漢文により表現される普遍的な人間性について説明できる。 ・ 漢文学における文体・作品分野・表現技巧を理解して読解できる。				
授業の概要 ・ 古体詩、近体詩に関する概説。 ・ 諸子百家、史書、小説に関する概説。 ・ 日本漢詩文に関する概説				
授業計画 第1回：ガイダンス 「文学と文芸」 第2回：「韻文と散文」（言語表現における文体の役割） 第3回：韻文1 『詩経』と『楚辞』（言語表現と地域性） 第4回：韻文2 『文選』（文学論と詞華集） 第5回：韻文3 唐詩（格律の成立） 第6回：韻文4 宋詩以降（叙情性と叙述性） 第7回：散文1 『論語』（対話が生み出す語りのリズム） 第8回：散文2 『老子』『莊子』（対偶と寓言） 第9回：散文3 「寓言」という技法（創造的表現に込められる主張） 第10回：散文4 『史記』（歴史記述における人間描写） 第11回：散文5 史書と文芸（歴史記述と詠史詩） 第12回：散文6 史実とフィクション（文芸における「現実味」と「現実」の違い） 第13回：散文7 「志怪」と「伝奇」（小説における表現力の進歩） 第14回：日本漢文1 菅原道真と新井白石（漢詩文における日本の美意識） 第15回：日本漢文2 良寛と夏目漱石（心象と景色）				
テキスト 教員作成資料（毎回配布）				
参考書・参考資料等 『中国文学の歴史』安藤信廣著（東方書店 二〇二一年） 『漢文名文選 故事成語編』三上英司編著（筑摩書房 二〇二二年）				
学生に対する評価 理解度確認課題（8回計40点）、レポート（2回計60点）の合算により評定する。				

授業科目名： 漢文学講読	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：三上 英司 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 漢文学		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 漢文読解の基礎的な知識と技能を理解し、古典学習の今日的意義を説明できる。 ・ 歴史的背景を踏まえて漢文を鑑賞し、現代人の感性や思考の特長と比較して説明できる。			
授業の概要 ・ 国語科の代表的漢文教材を通し、訓点の打ち方、書き下し文の作り方を理解させる。 ・ 古典分野教材の国語科教育における価値と役割を講義する。			
授業計画 第1回：ガイダンス（古典の定義、古典学習の今日的意義） 第2回：訓点の打ち方・書き下し文の作り方 第3回：「漢文」分野が包含する領域と「故事成語」という教材 第4回：『論語』と音読・視写 第5回：『論語』における「仁」「知」「勇」 第6回：『老子』の視点（テーゼとアンチテーゼ） 第7回：『莊子』の寓意性 第8回：『詩経』と漢詩の形式 第9回：近体詩 第10回：『史記』における人物描写 第11回：『史記』にあける天道観 第12回：唐代伝奇『杜子春伝』と『杜子春』 第13回：唐代伝奇『人虎伝』と『山月記』 第14回：日本人の漢詩1（空海・菅原道真） 第15回：日本人の漢詩2（新井白石・夏目漱石） 定期試験			
テキスト 『標註 論語集註』（渡邊末吾著、武蔵野書院出版）ならびに教員作成資料			
参考書・参考資料等 『詳説 漢文句法 改訂版』（三上英司編著、筑摩書房）			
学生に対する評価 毎回行う確認小課題（計60点）と4回の演習課題（計40点）の合計点で評価する。			

授業科目名： 漢文学演習Ⅰ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：三上 英司 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 漢文学		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 個々の近体詩に関し、その格律を説明できる。 ・ 作品が生み出された背景を理解して読解できる。 ・ 作品の魅力をプレゼンテーションできる。				
授業の概要 ・ 近体詩の格律に関する講義。 ・ 演習発表と鑑賞文の作成。				
授業計画 第1回：ガイダンス 演習資料の作成方法解説と担当作品の決定 第2回：脚韻解説 第3回：平仄解説 第4回：対句解説 第5回：唐詩概説 第6回：演習 王維1 (絶句三首「九月九日憶山東兄弟」「竹里館」「送元二使安西」) 第7回：演習 王維2 (律詩一首「過香積寺」 古詩一首「送別」) 第8回：演習 孟浩然 (律詩一首「留別王維」 絶句一首「春暁」) 第9回：演習 李白1 (絶句三首「山中対酌」「贈汪倫」「黄鶴楼送孟浩然之広陵」) 第10回：演習 李白2 (律詩一首「沙丘城下寄杜甫」 古詩「子夜呉歌」) 第11回：演習 杜甫1 (律詩二首「春日憶李白」「春夜喜雨」) 第12回：演習 杜甫2 (律詩二首「春望」「月夜」) 第13回：演習 柳宗元 (絶句一首「江雪」 古詩「漁翁」) 第14回：演習 白居易 (律詩二首「香鑪峰下新卜山居草堂初成偶題東壁」「八月十五夜禁中独直対月憶元九」) 第15回：演習 杜牧 (絶句三首「江南春」「山行」「贈別」其二)				
テキスト 教員作成資料ならびに履修者作成発表資料				
参考書・参考資料等 『唐詩』村上哲見著(講談社学術文庫) 『唐詩概説』小川環樹著(岩波文庫)				
学生に対する評価：理解度確認課題(30点)、発表資料(30点)、発表内容(20点)、鑑賞文(20点)の合算により評定する。				

授業科目名： 漢文学演習Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：三上 英司 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 漢文学		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 初等教育、及び中等教育用国語科教科書教材の漢文（散文）の内容を理解できる。 ・ 作品の魅力をプレゼンテーションできる。				
授業の概要 ・ 学習素材としての漢文に関する講義。 ・ 演習発表と鑑賞文の作成。				
授業計画 第1回：講義 ガイダンス 演習資料の作成方法解説と担当作品の決定 第2回：講義 漢文教材の価値と可能性 第3回：演習 故事成語1（『韓非子』「矛盾」 『戦国策』「蛇足」） 第4回：演習 故事成語2（『淮南子』「塞翁馬」 『列子』「朝三暮四」） 第5回：演習 故事成語3（『孫子』「風林火山」 『歴代名画記』「画竜点睛」） 第6回：演習 『論語』（学而「切磋琢磨」 微子「問津」） 第7回：演習 『老子』（第七「天長地久」 第八「上善若水」 第四十一「大器晚成」） 第8回：演習 『莊子』（応帝王「渾沌之徳」 天地「機心」） 第9回：演習 「漁父辞」（発表後：「屈原と漁父とのどちらの生き方を支持するか」討論） 第10回：演習 「桃花源記」（発表後：李白「山中問答」との比較検討） 第11回：演習 「春夜宴桃李園序」（発表後：「駢儷文」講義） 第12回：演習 「離魂記」（発表後：「伝奇」講義） 第13回：演習 「雑説」其四（発表後：「文章表現における技巧」講義） 第14回：演習 「三戒」（発表後：「寓言」講義） 第15回：演習 「愛蓮説」（発表後：「漢文における花の象徴性」講義）				
テキスト 教員作成資料、及び履修者作成の発表資料				
参考書・参考資料等 小学校・中学校・高等学校国語科国語教科書				
学生に対する評価 理解度確認課題（30点）、発表資料（30点）、発表内容（20点）、鑑賞文（20点）の合算により評定する。				

授業科目名： 漢文学特別講義	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：三上 英司 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 漢文学		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 時代背景を踏まえて漢文テキストを読解することができる。 ・ 史伝に描かれた普遍的な人間性を理解することができる。			
授業の概要 ・ 史伝の講読。 ・ 時代背景の講義。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：史伝概説（歴史記述方法の種類） 第3回：『春秋左氏伝』（「経」と「伝」） 第4回：『史記』 1（全世界史としての「通史」） 第5回：『史記』 2（歴史の流れと個人の生き方） 第6回：『漢書』（「断代史」という歴史記述の発生） 第7回：『後漢書』（価値観の多様化と記述対象の拡大） 第8回：『三国志』（「伝」と「注」） 第9回：『隋書』（中国史書に描かれる「古代の日本」） 第10回：『旧唐書』（近文体と史書） 第11回：『新唐書』（古文体と史書） 第12回：『宋史』（日本と大陸との交流） 第13回：『資治通鑑』（政治観と歴史観） 第14回：『日本書紀』（日本の勅撰史書） 第15回：『日本外史』（日本の私撰史書）			
テキスト 『漢文名文選 史伝編』三上英司編著（筑摩書房 二〇二四年）			
参考書・参考資料等 『中国文明の歴史 1～12』（中公文庫）『倭国伝』藤堂明保他訳注（講談社学術文庫 二〇一〇年）			
学生に対する評価 理解度確認課題（40点）、レポート（2回計60点）の合算により評定する。			

授業科目名： 書道実技Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：渡部 祥子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 書道（書写を中心とする。）		
授業のテーマ及び到達目標 国語科の書写指導に必要な書道実技を身に付けることをテーマとし、以下の項目を到達目標とする。 ・ 書体の変遷を知り、楷書を書くことができる。 ・ 平易な行書と仮名を書くことができる。 ・ 日常生活に役立つ細字を工夫して書くことができる。			
授業の概要 解説や示範・添削を行いながら指導し、作品を提出させる。			
授業計画（各回2時間、計30時間を授業時間とする。） 第1回：執筆法、用具、用材について（ガイダンス） 第2回：楷書の基本的点画と用筆・運筆について 第3回：文字の組み立て方、字形の整え方 第4回：楷書古典臨書（1）孔子廟堂碑 第5回：楷書古典臨書（2）雁塔聖教序 第6回：楷書古典臨書（3）牛橛造像記 第7回：行書の点画（変化・連続・省略） 第8回：行書古典臨書（1）蘭亭序 第9回：行書古典臨書（2）集字聖教序 第10回：行書古典臨書（3）風信帖 第11回：仮名の用筆と字形 第12回：いろは歌を書く 第13回：漢字仮名交じり書の学習 第14回：漢字と調和する仮名 第15回：篆書・隸書の学習 定期試験は実施しない。			
テキスト なし 適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 『書道全集』（平凡社出版 1954-1968）			

学生に対する評価

授業への参加態度と作品の完成度により、総合的に評価する。

作品評価（70点）＋態度（20点）＋積極性（10点）

授業科目名： 書道実技Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：植松 浩祥 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 書道（書写を中心とする。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 行草書の書写力及び運用筆法を身につける。 ・ 中国漢字の行草書体の基本書法ならびに歴史的背景を理解する。 ・ 日本の三筆・三蹟の基本書法ならびに歴史的背景を理解する。			
授業の概要 ・ 中国、日本の名跡を臨書することにより、行草書の書写力、運用筆法の基本を習得する。			
授業計画（各回2時間、計30時間を授業時間とする。） 第1回：ガイダンス 授業内容、用具の解説 第2回：王羲之（蘭亭序）の臨書 第3回：王羲之（蘭亭序）の臨書清書 第4回：唐太宗（温泉銘）の臨書練習 第5回：唐太宗（温泉銘）の臨書清書 第6回：顔真卿（祭姪文稿）の臨書練習 第7回：顔真卿（祭姪文稿）の臨書清書 第8回：三筆（唐様の基本・風信帖）の臨書練習 第9回：三筆（唐様の基本・風信帖）の臨書清書 第10回：三蹟（和様の基本・屏風土代）の臨書練習 第11回：三蹟（和様の基本・屏風土代）の臨書清書 第12回：創作（漢詩・漢字仮名交じり文を題材に）原稿作り 第13回：創作（漢詩・漢字仮名交じり文を題材に）練習 第14回：創作（漢詩・漢字仮名交じり文を題材に）清書 第15回：まとめ 定期試験：なし			
テキスト 特になし、毎回の授業で配布する。			
参考書・参考資料等 『書道テキスト』全11巻（大東文化大学書道研究所編集 二玄社出版） 『書の古典と理論』（全国大学書道学会編 光村図書出版）			
学生に対する評価 提出作品（80％）、学習意欲（20％） 提出された作品により学修の程度を評価し、これに受講態度を加味して総合的に評価する。			

授業科目名： 国語科教育法		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員名：三浦 登志一 担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標							
中学校及び高等学校の国語科教育の目標、内容、方法について学び、国語科教育の意義を理解する。中学校及び高等学校の学習指導要領（国語）に示されている目標や内容について概観するとともに、授業構想との関連性を把握させ、国語科教員としての資質を身に付けさせる。							
1 学習指導要領(国語)の趣旨や構造を理解し、教材研究の方法を身に付けることができる。							
2 学習指導要領(国語)との関連を考慮しながら、学習指導案を作成することができる。							
授業の概要							
○国語科教育の意義や構造について考察する。（講義）							
○教材研究の方法を理解し、学習指導要領に基づいて目標を設定する。（講義・演習）							
○学習の基本となる単位時間の学習過程の基本的な構成について考察する。（講義・演習）							
○学習指導要領との関連を図った学習指導案を作成し、指導方法について考察する。（演習）							
授業計画							
第1回：学習指導要領（国語）の位置付けと構造 （講義）							
第2回：学習指導要領（国語）の基本的な枠組み ―学習指導要領改訂の趣旨― （講義）							
第3回：学習指導要領（国語）の基本的な枠組み ―指導事項と言語活動例― （講義・演習）							
第4回：国語科の学習指導の課題 ―「思考力、判断力、表現力等」、I C T活用について―（講義）							
第5回：国語科で扱う教材の特徴と教材研究の観点 （講義・演習）							
第6回：学習指導案の意義と構造 ―実践事例を参考にした検討― （講義・演習）							
第7回：学習指導案の作成―目標を明確にし、情報通信機器を活用した単元の構想―（講義・演習）							
第8回：学習評価の観点と方法 ―生徒の作品例を用いた評価― （講義・演習）							
第9回：学習指導案の作成 ―指導のための具体的な方策の工夫― 情報提示・意見交換・プレゼンテーションソフトの活用（講義・演習）							
第10回：学習指導案の作成 ―評価の基本的な考え方と「評価規準」の作成― （講義・演習）							
第11回：学習評価の観点と方法 ―評価の観点に応じた方法の工夫― （講義・演習）							
第12回：授業研究の意義と方法 ―授業実践例を参考にした実践的理解― （演習）							
第13回：模擬授業の実践 ―構想と実際との比較による授業についての考察― （演習）							
第14回：国語科の学力と評価の課題 ―国際的・国内的な学力調査の動向― （講義）							
第15回：これからの国語科教育の在り方についての考察 （演習・講義）							
定期試験は実施しない							

テキスト

中学校学習指導要領解説 国語編（平成29年6月 文部科学省）

高等学校学習指導要領 国語編（平成30年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

成績評価基準：C（合格に必要な最低限度）基準

国語科の授業構想について、学習指導要領と関連付けて具体的に説明することができる。

成績評価の方法：次の事項について、授業での発表やレポート等を通して総合的に評価する。

- ・国語科教育の基本的な考え方を理解し、社会生活と結び付けて理解している。（50%）
- ・演習や口頭発表の場面で、課題について十分に検討し積極的に発言している。（25%）
- ・授業に主体的に参加し、必要な情報を積極的に収集し検討を加えている。（25%）

授業科目名： 国語の教材分析 A	教員の免許状取得のための 中学校：必修科目 高等学校：選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：菊田 尚人 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 ・教材に応じた的確な分析の方法を理解し実践できる。・学習指導要領との関連性を図りながら教材を開発し、模擬授業を通してその成果と課題を検討することができる。			
授業の概要 ・指導事項に沿って中学校・高等学校国語科教科書にある教材の分析を行う。 ・受講者が各自で選定した文章を教材化し、「読むこと」の模擬授業を行う。			
授業計画 第1回：学習指導要領との関連性を考慮した教材分析の観点と方法 第2回：「話すこと・聞くこと」に関する教材の分析とレポートの作成 第3回：「話すこと・聞くこと」に関する教材分析の交流と学習指導の検討 第4回：「書くこと」に関する教材の分析とレポートの作成 第5回：「書くこと」に関する教材分析の交流と学習指導の検討 第6回：「読むこと(文学的な文章)」に関する教材の分析とレポートの作成 第7回：「読むこと(文学的な文章)」に関する教材分析の交流と学習指導の検討 第8回：「読むこと(説明的な文章)」に関する教材の分析とレポートの作成 第9回：「読むこと(説明的な文章)」に関する教材分析の交流と学習指導の検討 第10回：「知識及び技能」に関する教材の分析とレポートの作成 第11回：「知識及び技能」に関する教材分析の交流と学習指導の検討 第12回：教材文の選定と教材化の実践 第13回：模擬授業の構想(情報通信技術の活用方法の検討を含む)と学習指導案の作成 第14回：模擬授業の実施 第15回：模擬授業の反省と授業のまとめ			
テキスト 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編』			
参考書・参考資料等 授業で適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 教材分析レポート及び授業中の取り組み(85%)、学習指導案(15%)を総合して評価する。			

授業科目名： 国語の教材分析 B	教員の免許状取得のための 中学校：必修科目 高等学校：選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：山崎義光、坂喜 美佳、三上英司 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 1. 教材の開発・研究の進め方を身につける。2. 国語科の授業課題を踏まえて教材を工夫し実践できる。3. 学習指導要領に示された目標・内容を理解した上で、教材研究ができる。			
授業の概要 国語の授業を行っていく上で、教材をどう扱うか、どう活かすかを、自ら考え発案し授業計画を立てる実践をおこなう。			
授業計画 第1回：ガイダンス a国語学、b国文学、c 漢文学などによってグループに分ける。 第2回：(グループ) 素材の検討1 各自が素材を持ち寄り意見交換 第3回：(グループ) 素材の検討2 教材としての用い方について意見交換 第4回：(グループ) 教材案の決定 学習指導要領をふまえた教材の検討 第5回：(グループ) 教材分析1 事前に調査研究しておくべき事柄の検討 第6回：(グループ) 教材分析2 教材をどう扱うか(授業の計画／情報通信技術の活用方法の検討) 第7回：(グループ) 教材研究の結果報告と意見交換 第8回：(グループ) 教材の扱い方の検討1 模擬授業の実施 第9回：(グループ) 教材の扱い方の検討2 模擬授業の省察 第10回：(全体) グループ a の発表1 適切な用字用語を身につける教材 第11回：(全体) グループ a の発表2 同義語・類語を使い分ける教材 第12回：(全体) グループ b の発表1 物語の読解教材 第13回：(全体) グループ b の発表2 詩歌の読解教材 第14回：(全体) グループ c の発表1 故事成語を知り用いる教材 第15回：(全体) グループ c の発表2 漢文の読解教材			
テキスト 配布される教員作成の資料、履修者が作成する発表資料			
参考書・参考資料等 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編』			
学生に対する評価 開発した教材と研究状況(70%)と授業計画(30%)を総合して評価する。			

授業科目名： 国語科実践演習	教員の免許状取得のための 中学校：必修科目 高等学校：選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：坂喜美佳、山崎 義光、三上英司 担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 学習指導要領の求める「深い学び」を実現する授業を構想することができるようになる。 ・ 国語科の課題を踏まえて授業構成を考え、実践できる能力を身につける。			
授業の概要 ・ グループに分かれ課題を設定し、授業構成を考え発表する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 講義のねらいおよび進め方について（担当：坂喜美佳、山崎義光、三上英司） 第2回：国語学からみた国語科の課題（担当：坂喜美佳） 第3回：国文学からみた国語科の課題（担当：山崎義光） 第4回：漢文学からみた国語科の課題（担当：三上英司） 第5回：課題の設定およびグループ編成（担当：坂喜美佳、山崎義光、三上英司） 第6回：学習指導要領と教科書内容の検討（担当：坂喜美佳、山崎義光、三上英司） 第7回：設定課題からみた内容検討(情報通信技術の活用方法の検討を含む) （担当：坂喜美佳、山崎義光、三上英司） 第8回：設定課題に関わる内容構成(情報通信技術の活用方法の検討を含む) （担当：坂喜美佳、山崎義光、三上英司） 第9回：設定課題に関わる指導案等の作成（担当：坂喜美佳、山崎義光、三上英司） 第10回：模擬授業の発表(1)国語学前半グループ（担当：坂喜美佳、山崎義光、三上英司） 第11回：模擬授業の発表(2)国語学後半グループ（担当：坂喜美佳、山崎義光、三上英司） 第12回：模擬授業の発表(3)国文学前半グループ（担当：坂喜美佳、山崎義光、三上英司） 第13回：模擬授業の発表(4)国文学後半グループ（担当：坂喜美佳、山崎義光、三上英司） 第14回：模擬授業の発表(5)漢文学グループ（担当：坂喜美佳、山崎義光、三上英司） 第15回：模擬授業の振り返り（担当：坂喜美佳、山崎義光、三上英司） 定期試験は実施しない。			
テキスト なし 適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 ・ 『中学校学習指導要領解説 国語編』（平成29年7月 文部科学省） ・ 『高等学校学習指導要領解説 国語編』（平成30年3月 文部科学省）			

学生に対する評価

発表内容(60%)、期末レポート(40%)

授業科目名： 日本文化史概論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大喜直彦
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 ・ テーマは「日本の身近な文化を学ぶ」である。 ・ 日本列島上に展開した歴史を、世界の歴史と関連づけながら総合的に考察し、日本の伝統と文化の特色について広い視野に立って理解する。 ・ 本授業により日本の伝統文化への理解を深め、日本文化研究の意義や楽しさも習得できる。 ・ 身近な文化財をはじめ、日本の伝統文化を大切にする気持ちを養うことができる。 ・ 中学校社会科および高等学校地理歴史科担当教員として必要な専門的知識を理解できる。				
授業の概要 ・ 本授業は、身近な文化史を理解してもらうため、日本文化を基礎編及び地域編を含め、古代から近代に分けて講義をする。 ・ 日本文化の基層にある宗教を主軸に文化の歴史を説明する。 ・ 多様な文化の理解を深めるために、古文書・日記などの文献史料のみならず、絵画・仏像・民俗などの多様な史料を取り上げる。 ・ 各時代のテーマから、文化財の文化史ではなく、神仏、信仰、自然、災害、生と死、動物、女性、寺院、婚姻など多様な視点からの文化の広まりを理解できる。 ・ 身近な地域の歴史にも関心をもってもらうため、地域の事例も解説する。 ・ 講義形式ではあるが、テーマごとに資料を配付して、それを読解して共感を得ながら理解を深めていく。				
授業計画 第1回： 授業の概要説明、授業の進め方 第2回： 基礎編 文化史を知る論文を読む(1) 文化史とは 第3回： 基礎編 文化史を知る論文を読む(2) 時代区分 第4回： 古代から中世へ 日本の神とは 第5回： 中世(1) 神社と祭 第6回： 中世(2) 日本の神仏 第7回： 中世(3) 鎌倉時代の仏教 第8回： 中世から近世へ ヨーロッパとの出会い 第9回： 近世(1) 民衆の生活				

第10回：近世(2) 災害文化史①～地震～

第11回：近世(3) 災害文化史②～地震と信仰～

第12回：近世から近代へ 天皇を巡る文化史

第13回：地域編 山形の文化史

第14回：地域編 大阪の文化史

第15回：本講義のまとめと課題レポート提出

定期試験は実施しない。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

日本文化史（家永三郎 著、岩波新書）、日本文化史講義（大隅和雄 著、吉川弘文館）

日本とは何か 日本の歴史00（網野善彦 著、講談社学術文庫）

日本人のしきたり（飯倉晴武 編著、青春新書）

日本の文化（村井康彦 著、岩波ジュニア新書）

災害文化史の研究（笹本正治 著、高志書院）

近代天皇制の文化史的研究（高木博志 著、校倉書房）

史蹟論（羽賀祥二 著、名古屋大学出版会）など。その他の参考書は講義中に適宜指摘する。

学生に対する評価

以下の総合で判断する。

- ・ 課題レポート提出結果(80%)
- ・ 授業中の質問や課題に対応できている(20%)

授業科目名： 日本史概論		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2 単位		担当教員名：大喜直彦 担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史					
授業のテーマ及び到達目標 ・ テーマは、「日本の歴史を学ぶ」である。主として日本国の成立と歩みを学び、そこから日本史の基盤的知識を獲得し、さらに進んで専門的知識の取得も目的とする。 ・ 本授業により、日本国の成立過程が理解できる。 ・ 日本史の考察に必要な基本的及び専門的な概念、用語が理解できる。 ・ 日本列島の歴史を多様な視点から探ることができる。 ・ 過去の歴史から諸教訓を学ぶとともに、受け継がれてきた伝統や歴史的遺産を尊重する力を身に着けることができる。 ・ 「日本」とは何かを正しく理解できる。 ・ 中学校社会科および高等学校地理歴史科担当教員として必要な専門的知識を理解できる。							
授業の概要 ・ 日本列島上に成立した日本国を、古代から近現代という区分にしたがい、広い視野に立って総合的に検討する。 ・ 身近な歴史を、考古学・民俗学・歴史地理学・文化人類学などの成果を活用し、様々な資料を援用しつつ大きな歴史の流れの中に位置づけながら考察する。 ・ 歴史研究の成果と高校までの日本史学習（歴史教科書の叙述）との関係に留意する。代表的な研究法や基礎的な資料・史料の読解から豊かな日本史像を探る。 ・ 講義形式ではあるが、テーマごとに関係資料を配付し、それを読解して共感を得ながら理解を深める。							
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：日本史を学ぶための論文を輪読（1） 歴史学とは 第3回：日本史を学ぶための論文を輪読（2） 時代区分 第4回：古代から中世へ（1） 「日本国」の国号と「天皇」号 第5回：古代から中世へ（2） 「日本」という意味 第6回：中世（1） 拡大する日本国の支配領域 第7回：中世（2） 鎌倉幕府の成立 第8回：中世（3） 関西と関東							

第9回：中世から近世へ 乱立する小国家～戦国時代の大名領国～

第10回：近世(1) 統一される日本国～近世的平和～

第11回：近世(2) 幕藩体制

第12回：近世(3) 庶民の暮らし

第13回：近世から近代へ 明治新政府の誕生

第14回：近現代 戦争の時代

第15回：まとめと課題レポート提出

定期試験は実施しない。

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

日本の歴史（1巻～9巻）（吉村武彦ほか 著、岩波ジュニア新書）

日本とは何か 日本の歴史00（網野善彦 著、講談社学術文庫）

日本社会の歴史（上・中・下巻）（網野善彦 著、岩波新書）

その他の参考書は、授業中に適宜指示する。

学生に対する評価

以下の総合で判断する。

- ・ 課題レポート提出結果(80%)
- ・ 授業中の質問や課題に答えている(20%)

授業科目名： 日本史講読	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大喜直彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 ・ テーマは、「特定の時代の歴史史料を読むー中世の日記・記録ー」である。 ・ 日本の歴史を諸史料にもとづいて総合的に考察し、日本の伝統と文化の特色についての認識を深めていくためには、基本史料の読み方と読解力の基礎を身につけておく必要がある。そこで特定の時代の基本的史料を取り上げ、史料学の基礎知識をふまえつつ、独特の読み方、解釈の仕方などの知識を得ることを目的とする。 ・ 本授業によって、漢文体や平仮名で書かれた史料を、辞書・事典を用い、史料に書かれた用語・人名・地名などについて詳細に調べることができる。 ・ 関連史料や参考文献を探し調べることで、史料内容を理解するだけではなく、時代背景、歴史的意義を分析する手法を身につけることができる。 ・ 調べた内容を分かりやすく、時間内に口頭で発表することができる。 ・ 中学校社会科および高等学校地理歴史科担当教員として必要な専門的知識を理解できる。			
授業の概要 ・ 本授業においては、『政基公旅引』や「菅浦文書」、及び鎌倉・室町時代の古文書をもテキストとして取り上げ、中世の村落や百姓の実態をつかむことを目的とする。 ・ 『政基公旅引』は戦国時代に前関白九条政基が、和泉国日根荘（現、大阪府泉佐野市）に下向し滞在していた時に記した日記。「菅浦文書」は滋賀県長浜市西浅井町菅浦に伝来した中世在地史料で、国宝に指定された文書である。両史料とも、戦国時代の村落や百姓の実態を記す貴重な史料として著名である。 ・ 授業は、戦国の村の基本的論文を読み、次いで史料を輪読し、時代や史料読解の基礎知識を身につけ、その後、受講生による発表とする。報告者は担当する箇所を必ず調べておき、豊かな内容の報告となるように努める。報告終了後、担当教員によるコメント、他の受講生による質疑討論を行う。			
授業計画 第1回：授業の概要説明、授業の進め方 第2回：『戦国の村を行く』を読む～戦う村の姿～ 第3回：『戦国の村を行く』を読む～村の習俗～ 第4回：『政基公旅引付』文亀4年正月条を輪読			

第5回：『政基公旅引付』文亀4年2月条を輪読
 第6回：『政基公旅引付』文亀4年3月条を輪読
 第7回：『政基公旅引付』文亀4年4月条を輪読
 第8回：『政基公旅引付』永正元年閏3月条を輪読
 第9回：『政基公旅引付』永正元年4月条を輪読
 第10回：『政基公旅引付』永正元年7月条を輪読
 第11回：「菅浦文書」関係の論文を読む
 第12回：「菅浦文書」を読む～合戦注記(戦う組織)を輪読～
 第13回：「菅浦文書」を読む～合戦注記(戦い方)を輪読～
 第14回：「菅浦文書」を読む～騒動記を輪読～
 第15回：まとめと課題レポート提出
 定期試験は実施しない。

テキスト

政基公旅引付(中世公家日記研究会 編、和泉書院)、菅浦文書が語る民衆の歴史(長浜市長浜城歴史博物館 編、長浜城歴史博物館)及び幕府・武家関係史料の中から必要箇所や古文書などをコピーして配布する。

参考書・参考資料等

戦国の作法(藤木久志 著、講談社学術文庫)
 戦国の村を行く(藤木久志 著、朝日新聞出版)
 古記録学概論(齋木一馬 編著、吉川弘文館)
 古記録入門(高橋秀樹 著、吉川弘文館)
 その他の参考書は、授業時などで適宜指示する。

学生に対する評価

以下の総合で判断する。

- ・課題レポート提出結果(80%)
- ・講義時の発表の有無やその内容(20%)

授業科目名： 日本史演習		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 2単位		担当教員名：大喜直彦 担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 日本史					
授業のテーマ及び到達目標							
・ テーマは「日本史の代表的史料を読解する」である。 ・ 日本の歴史を諸史料に基づいて総合的に考察し、日本の伝統と文化の特色についての認識を深めるために、基本史料の読み方と読解力を身につける。 ・ 本授業によって、主に漢文体で書かれた史料について、辞書を用い、史料に書かれた用語・人名・地名などについて詳細に調べることができる。 ・ 関連史料や参考文献を探して調べることで、史料内容を理解するだけではなく、時代背景、歴史的意義を分析する手法を身につけることができる。 ・ 調べた内容を、分かりやすく、時間内に口頭で発表することができる。 ・ 中学校社会科および高等学校地理歴史科担当教員として必要な専門的知識を理解できる。							
授業の概要							
・ 日本の古代から近代にかけての日本史の基礎知識をふまえつつ、各時代の独特の読み方、解釈の仕方などを学んでいく。 ・ 身近な地域の歴史に対する認識を深めるために、地域史の史料を取り上げる。 ・ 授業は、天皇の文書などのテーマごとの史料の講義し、その後、受講生が配布された史料を調べ発表する形式で進める。 ・ 発表は、受講生による少数グループ、ないしは一人による発表形式となる。報告者は必ず担当箇所を調べて、内容豊かな報告となるように努める。 ・ 報告終了後、担当教員によるコメント、他の受講生による質疑討論を行う。							
授業計画							
第1回：授業の概要説明、授業の進め方							
第2回：史料論							
第3回：平安～鎌倉時代の史料 天皇家の文書							
第4回：鎌倉幕府の史料(1) 源頼朝の文書							
第5回：鎌倉幕府の史料(2) 鎌倉幕府の文書							
第6回：戦国大名の史料(1) 織田信長文書							
第6回：戦国大名の史料(2) 豊臣秀吉文書							
第7回：戦国大名の史料(3) 徳川家康文書							

第8回：女性の文書

第9回：近世史料(1) 徳川幕府の文書

第10回：近世史料(2) 大名の文書

第11回：近世史料(3) 農村・商家の文書

第12回：近代史料 明治維新期の文書

第13回：地域史の史料(1) 山形大学の重要文化財「中条家文書」

第14回：地域史の史料(2) 山形大学の重要文化財「中条家文書」を読む

第15回：本授業のまとめとレポート提出

定期試験は実施しない。

テキスト

日本史史料(歴史学研究会 編、岩波書店)の活字史料集ほかより必要箇所をコピーして配布。

参考書・参考資料等

『新版 古文書学入門』(佐藤進一 著、法政大学出版局)

概説 古文書学 古代・中世編(日本歴史学会 編、吉川弘文館)

概説 古文書学 近世編(日本歴史学会 編、吉川弘文館)

古記録入門(高橋秀樹 著、東京堂出版)

日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法(苅米一志 著、吉川弘文館)

その他の参考書は授業中に適宜指示する。

学生に対する評価

以下の総合で判断する。

- ・課題レポート提出結果(70%)
- ・講義時の発表の有無やその内容(30%)

授業科目名： 東アジア史概論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 新宮 学
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標				
テーマは、唐宋変革期以後の農村と都市の変容、伝統社会の形成である。中国を中心とする東アジア地域の時代的变化をふまえながら、その伝統社会の構造と特質について説明できる。				
授業の概要				
東アジアの伝統社会の形成を考えるうえで規範的役割を果たしてきた中国の歴史を中心に学ぶ。 アジア認識や時代区分論を手がかりにして、唐宋変革期以後の農村社会と都市社会の変貌、及び伝統社会の構造と特質について、史料に基づいて理解を深める。				
授業計画				
第1回：序論 「東洋」とアジア 「坤輿万国全図」の世界認識				
第2回：アジア認識の展開（福澤諭吉・岡倉天心・竹内好・溝口雄三など） 近代日本における東洋史学の成立				
第3回：時代区分論 1 三区分法と四区分法				
第4回：時代区分論 2 西アジア史と東アジア史の時代区分				
第5回：世界史教科書に見る時代区分				
第6回：唐宋変革期の発見1 内藤湖南の政治史・文化史研究（君主独裁・科挙・士大夫・庶民化）				
第7回：唐宋変革期の発見2 宮崎市定の経済史研究（貨幣経済・財政国家・銀の流入）				
第8回：宋代以降の農村社会の変容1 地主・佃戸関係				
第9回：宋代以降の農村社会の変容2 農業技術の改良（二年三毛作）と農村副業				
第10回：都市社会の変貌1 長安と開封の比較（立地条件・歴史・都市構造）				
第11回：都市社会の変貌2 坊制・市制の崩壊				
第12回：都市社会の変貌3 大運河・漕運、南京から北京への遷都				
第13回：伝統社会の形成1 構造と特質 第14回：伝統社会の形成2 同業疎組織と同郷団体				
第15回：授業のまとめと定期試験				
テキスト				
特になし 講義資料のプリントを配布する。				

参考書・参考資料等

- ・中国経済史（岡本隆司 編、名古屋大学出版会）
- ・北京の歴史（新宮学 著、筑摩書房）

学生に対する評価

期末試験は論述形式の試験を行い、知識の修得や理解の度合い、論理的思考力を評価する（70％）。出席確認を兼ねた小テストを随時行い、主体的な参加の度合いや理解の度合いを点検する（30％）。

授業科目名： ヨーロッパ史概論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山崎彰 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 日本史・外国史 ・ 外国史		
授業のテーマ及び到達目標 1．ヨーロッパに固有の社会は中世に成立したといわれる。この社会の基本的特性について理解を深めることを目的とする。 2．ヨーロッパ近世社会に関して宗教改革や経済社会、公共圏（公論）など重要な現象の意義について理解を深めることを目的とする。 3．ヨーロッパと合衆国の近現代社会や国際関係の変遷について、理解を深めることを目的とする。				
授業の概要 授業では、ヨーロッパ社会の特性を中世まで遡りつつ考え、ヨーロッパにおける近代社会の成立と、冷戦終了までに至るヨーロッパと合衆国の近現代史の変遷を追う。				
授業計画 第1回：はじめに 第2回：第1章 中世ヨーロッパの成立 第1節 古代から中世へ 第3回：第2節 農村と都市 第4回：第3節 キリスト教信仰と教会 第5回：第4節 領主制と政治権力 第6回：第5節 ローマ教会と中世ヨーロッパ世界 第7回：第2章 近代ヨーロッパ社会の形成とアメリカ 第1節 中世から近代へ 第8回：第2節 宗教改革と主権国家 第9回：第3節 重商主義戦争とアメリカの独立 第10回：第4節 経済社会と市民社会 第11回：第3章 近現代のヨーロッパ社会と合衆国 第1節 フランス革命とヨーロッパ政治 第12回：第2節 産業化と都市化の時代 第13回：第3節 社会主義運動と社会国家 第14回：第4節 世界大戦の時代				

第15回：第5節 現代ヨーロッパ統合の歴史的意義第2回： 定期試験
テキスト なし
参考書・参考資料等 フランス史10講（柴田三千雄 著、岩波新書）、ドイツ史10講（坂井榮八郎 著、岩波新書） イギリス史10講（近藤和彦 著、岩波新書）、イタリア史10講（北村暁夫 著、岩波新書） 物語 アメリカの歴史（猿谷要 著、中公新書）
学生に対する評価 中間レポート（20点）と学期末試験（80点）によって評価する。期末試験を受けるためには中 間レポートの提出と、3分の2以上の出席日数が必要。

授業科目名：内陸アジア史概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村 篤志
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 この授業は、「遊牧と定住・都市」をキーワードに、内陸アジアの王朝や社会の特徴を通時代的に学ぶ。内陸アジア史に関する通時代的知識や、講義で説明した重要な概念について、論理的に記述できるようになること、講義をてがかりに比較史の視点から自ら文献を調べ分析できるようになることが目標である。			
授業の概要 モンゴル高原の遊牧民が歴史上形成してきた諸王朝が、漢人社会や中央アジア・オアシス社会との間に築いてきた関係を、単に掠奪や支配ではなく、相互に与えた影響や、定住集落や都市の形成とそこでの共存をキーワードに通観する。さらに、17－19世紀、清朝治下に組み込まれたモンゴル社会の変化を学ぶことで、近世から近代にかけて、内陸アジア遊牧民に起こった歴史的変化について学ぶ。			
授業計画 第1回：遊牧民への視座(1)：モンゴル遊牧民の今 第2回：遊牧民への視座(2)：遊牧社会に対する歴史学的アプローチ 第3回：遊牧民への視座(3)：遊牧社会に対する考古学・文化人類学的アプローチ 第4回：初期遊牧帝国の形成：匈奴とスキタイ 第5回：遊牧帝国の特徴：遊牧と定住 第6回：ウイグルと唐王朝 第7回：遼・金の領域支配とその特徴 第8回：モンゴル帝国の形成と社会構造 第9回：モンゴル帝国における人の移動と情報ネットワーク 第10回：北元時代のモンゴルと清朝の成立 第11回：清朝の国家構造とモンゴル 第12回：清朝治下モンゴルの社会構造 第13回：清末の変容とモンゴル社会 第14回：清朝崩壊後のモンゴル 第15回：まとめ 定期試験			

テキスト
特になし
参考書・参考資料等
遊牧王朝興亡史 モンゴル高原の5000年（白石典之、講談社、2025年）
学生に対する評価
以下の基準から、期末試験およびレポートの結果などを中心に、総合的に評価する。
基準１：内陸アジア史に関する通時代的知識や、講義で設定した重要なキーワードについて深く理解し、論理的に記述することができる（70％）。
基準２：講義を手がかりに、自分でテーマを決め文献を調べ、分析することができる（30％）。

授業科目名： 人文地理学概論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：熊谷 誠 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 地理学（地誌を含む。） ・ 人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 人文地理学の幅広い研究領域のなかから都市地理学をはじめ産業、経済の地理学、歴史地理学など主要な研究分野の位置づけを確認する。その上で、都市の成立、立地と機能、都市の内部構造などをめぐる都市地理学とその周辺諸科学の成果や基礎的な理論を理解する。あわせて、山形県内の都市と仙台都市圏を主たる素材として日本についての自然、社会環境を含む基本的な地誌的知識を獲得する。 (1) 地理学的思考法（事象の空間的側面に注目すること、事象を自然環境を含めて地域的・地誌的に理解しようとする、事象を空間的マルチスケールで理解しようとする）の基本を理解する。 (2) 人文地理学の諸分野および地形学、地形学や気候学の基本的知識を獲得する。 (3) 授業の受講や現地巡検を通じて山形や他の都市、地域への関心が高まる。				
授業の概要 都市の成立、立地と機能、都市の内部構造、都市問題等をめぐる研究を、いわゆる都市地理学をはじめ歴史地理学、産業、経済地理学等の人文地理学、地形学や気候学等の自然地理学および周辺諸科学の研究成果を踏まえて、主として山形県内と仙台圏を事例にしつつ講義を行う。				
授業計画 第1回：オリエンテーションー地理行列ー高校までの地理と地理学、地理学の中の都市地理学の位置づけについて把握する 第2回：城下町の成立とその変容(1) 近世城下町の成立とその地理的特徴（地形利用と空間構成）について把握する 第3回：城下町の成立とその変容(2) 城下町山形・城下町仙台的地理的特徴（地形利用と空間構成）について把握する 第4回：山形県内各地の城下町と宿場町・街道について把握する 第5回：山形市街巡検（1）：山形市街の近世の河川改修と城郭都市・城下町の開発・発展について把握する 第6回：山形市街巡検（2）：山形市街に見る城下町構造と県都、旧街道の姿について把握する 第7回：生産業の地理（1）：農業の立地理論について理解する 第8回：生産業の地理（2）：工業の立地理論について理解する 第9回：商業・流通の地理：社会経済と流通構造の変化について理解する 第10回：市街地拡大と都市ーDIDー：人口集中地区の形成について理解し、市街地拡大の実態を把握する 第11回：都市周辺の宅地開発：山形都市圏と仙台都市圏、日本の宅地開発について理解する 第12回：都市順位・規模法則・中心地理論について把握する 第13回：都市の開発と災害：都市や宅地の開発に伴い引き起こされる自然災害とその被害について把握する 第14回：地理情報システム（1）：地理情報システム（GIS）の概要やその各種分野における利用について理解する 第15回：地理情報システム（2）：地理情報システム（GIS）を用いた主題図作成を実践する				
テキスト 特になし				
参考書・参考資料等 よくわかる都市地理学（藤井正・神谷浩夫 編著、ミネルヴァ書房） 経済・政策分析のためのGIS入門①基礎（河端瑞貴著、古今書院）				

学生に対する評価

授業と巡検、参考書の内容理解に関するレポート（40%）、及び人文地理学の諸分野に関連して自らの課題意識を反映したレポート（60%）による。

授業科目名： 地理学野外実習A		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 熊谷 誠
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 地理学（地誌を含む。） ・ 人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 フィールド調査を通して景観学としての地理学の特性を理解し、景観を構成する諸要素を認知し各要素間の連関・相互作用とそれらが織りなす地表システムを理解する。 ・ 関東・伊豆地方の自然（地形等）都市および村落の景観と昨日、地域の産業について、実際に観察して理解できるようになる。 ・ グループでの事前学習および事後報告会を含めて、地域のさまざまな側面について調べる方法（地形図の読図や利用、各種統計の入手と加工、フィールドノートの取り方、写真撮影と整理法等）を身につける。				
授業の概要 関東・伊豆地方をフィールドとして4泊5日の実習を行う。そこで、地形と土地利用、都市および村落の景観と機能、地域の産業等について実際に観察する。フィールドノートの取り方や写真撮影とその整理法についても学習する。事前学習会を設けグループ担当地域の文献・資料を紹介しあいながら理解を深め、地形図の読図や利用法についても学習する。実習後には、各グループが作成したレポートを報告し合い、実習で得た知識を深化、定着させる。				
授業計画 第1回：オリエンテーション：実習概要の説明、調査地分担、事前学習会の準備・日程調整。 第2回：東京地域に関する事前学習会（前半グループ担当による報告・質疑応答） 第3回：小田原・伊豆地域に関する事前学習会（後半グループ担当による報告・質疑応答） 第4回：実習1日目 東京下町の景観と産業観察（東京スカイツリー、城東地区） 第5回：実習1日目 東京下町の景観と治水対策の現状観察（神田川舟運 ほか） 第6回：実習2日目 震災・戦災復興の痕跡観察（江戸東京博物館、東京都復興記念館） 第7回：実習2日目 震災・戦災復興の痕跡観察（復興小学校、復興公園・復興小学校） 第8回：実習3日目 地方都市の歴史・地形観察（小田原城と城下町の開発） 第9回：実習3日目 地方都市の地形・産業観察（熱海-温泉資源を利用した観光地再開発） 第10回：実習4日目 地方都市の開発と災害痕跡（熱海の土石流被災地区） 第11回：実習4日目 伊豆半島ジオパークでのジオパーク学習（ジオリア見学・ジオサイト観察） 第12回：実習5日目 地方都市の地形観察（三島市街地の三島溶岩地形と湧水資源） 第13回：実習5日目 地方都市の産業と景観（三島市街地の湧水資源の産業利用と都市景観観察） 第14回：東京地域に関する事後報告会（前半グループ担当による報告） 第15回：小田原・伊豆地域に関する事後報告会（後半グループ担当による報告）				
テキスト 特になし				
参考書・参考資料等 江戸の崖 東京の崖（芳賀ひらく 著、講談社） プラタモリ⑤（「NHKプラタモリ」制作班 監修、角川書店）				
学生に対する評価 ・ 事前学習会への参加と発表：20％ ・ 実習への取り組み姿勢（調査実践・議論への参加など）：60％ ・ 実習後のレポートおよび報告会への参加と発表：20％				

授業科目名： 地理学野外実習B		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 熊谷 誠
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 地理学（地誌を含む。） ・ 人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 フィールド調査を通して景観学としての地理学の特性を理解し景観を構成する諸要素を認知し各要素間の連関・相互作用とそれらが織りなす地表システムを理解する。 ・ 東北地方の自然（地形等）都市および村落の景観と昨日、地域の産業について、実際に観察して理解できるようになる。 ・ グループでの事前学習および事後報告会を含めて、地域のさまざまな側面について調べる方法（地形図の読図や利用、各種統計の入手と加工、フィールドノートの取り方、写真撮影と整理法等）を身につける。				
授業の概要 東北地方をフィールドとして4泊5日の実習を行う。そこで、地形と土地利用、都市および村落の景観と機能、地域の産業等について実際に観察する。フィールドノートの取り方や写真撮影とその整理法についても学習する。事前学習会を設け各グループ担当地区の文献・資料を紹介しあいながら理解を深め、地形図の読図や利用法についても学習する。実習後には各グループが作成したレポートを報告し合い、実習で得た知識を深化、定着させる。				
授業計画 第1回：オリエンテーション：実習概要の説明、調査地分担、事前学習会の準備・日程調整 第2回：栗駒・気仙沼地域に関する事前学習会（前半グループ担当による報告・質疑応答） 第3回：盛岡・宮古・釜石地域に関する事前学習会（後半グループ担当による報告・質疑応答） 第4回：実習1日目 栗駒山麓の景観と農業、土地利用観察（栗駒山麓ジオパークビジターセンター） 第5回：実習1日目 栗駒山麓の景観と農業、土地利用観察（地すべり・河川地形、水稻耕作） 第6回：実習2日目 気仙沼の海岸地形と水産業、土地利用観察（リアス海岸、栽培漁業） 第7回：実習2日目 気仙沼の海岸地形と水産業、土地利用観察（漁港、水産加工業、海の市） 第8回：実習2日目 気仙沼の海岸地形と水産業、土地利用観察（震災伝承館、災害公営住宅） 第9回：実習3日目 地方都市の歴史・地形観察（盛岡-もりおか歴史文化館・岩手公園城址） 第10回：実習3日目 地方都市の産業・観光観察（盛岡-北東北の観光・経済拠点とまちづくり） 第11回：実習4日目 津波防災の町・被災と復興（田老-津波防災の町の取組みと震災復興） 第12回：実習4日目 被災地における新たな観光産業の観察（宮古-三陸復興国立公園と観光） 第13回：実習5日目 東日本大震災後の防災教育（釜石・鶴住居トモスでの防災教育・普及啓発） 第14回：栗駒・気仙沼地域に関する事後報告会（前半グループ担当による報告） 第15回：盛岡・宮古・釜石地域に関する事後報告会（後半グループ担当による報告）				
テキスト				
特になし				
参考書・参考資料等 栗駒山麓ジオパークガイドブック（栗駒山麓ジオパーク推進協議会） 三陸ジオBOOK-三陸ジオパーク副読本-（三陸ジオパーク推進協議会）				
学生に対する評価 ・ 事前学習会への参加と発表：20％ ・ 実習への取組み姿勢（調査実践・議論への参加など）：60％ ・ 実習後のレポートおよび報告会への参加と発表：20％				

授業科目名： 環境動態概論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 酒井恵祐
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 地理学（地誌を含む。） ・ 人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標				
1. 過去・現在の地球環境変動に関する基礎知識について理解する				
2. 現代の環境問題と人間活動の影響に関して説明できる				
3. 持続可能な未来になるために、人間の生活と環境について考察し、自分の考えを論述できる				
授業の概要				
本授業は、地球規模の環境変動と、私たちの生活圏である地球環境、環境変動の両方に焦点を当て、グローバルからローカルへと範囲を広げた環境の基礎知識など様々な自然地理学について学習します。また、過去の地球環境の変動から自然サイクル（地球のシステム）や人的要因による環境変動について学習し、現代における環境問題とその背後にある人間活動の影響についての理解を目指します。さらに、地域ごとに異なる風土がどのように形成され、人々の暮らしや文化に影響を与えてきたかについて、環境と風土の多様性や変化についての理解を深めることを目指します。そして、持続可能な未来への貢献に必要な知識・理解・能力を身につけることが本授業の目的です。				
授業計画				
第1回：環境動態・自然地理について				
第2回：地球環境変動の基礎について				
第3回：地球環境のサイクルの理解について				
第4回：地球の気候・海洋システムについて				
第5回：水域環境について				
第6回：湖沼環境について				
第7回：地殻変動について				
第8回：大陸と地形について				
第9回：海洋と地形について				
第10回：環境問題（食料・水・ゴミなど）について				
第11回：土壌・植生について				

第12回：身近な環境変動について

第13回：環境（気候）変動の復元方法と掘削科学について

第14回：世界の風土について

第15回：日本の風土について

最終試験

テキスト

指定なし

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布します。

イラストで学ぶ 地理と地球科学の図鑑（柴山元彦、中川昭男 監修、創元社）

自然のしくみがわかる地理学入門（水野一晴 著、KADOKAWA）

学生に対する評価

授業中のリフレクションペーパー・質疑応答(30%)と試験・レポート(70%)

授業科目名： 地誌学特論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 熊谷誠
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 地理学（地誌を含む） ・ 地誌		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 山形とは異なる気候や地形の条件を持ち、変動帯の影響を強く受ける三陸地域の自然・社会環境のもとで人々がいかにそれらに対応して暮らしてきたかを理解できるようになる。 ・ 変動帯地域について、海外との対比で取りあげる南の変動帯・インドネシアの自然、社会環境と人々の暮らしについても理解できるようになる。 ・ 日常的な生活環境とは異なる自然や社会を目にした際に、当該地域における自然環境や歴史・社会環境の元で合理的に醸成されてきたものであることを理解できるようになる。				
授業の概要 本授業では、山形県とは異なる気候・風土を持ち国内でも変動帯としての影響を受けやすい三陸地域と国外の変動帯地域であるインドネシア地域を取りあげ、そこでの自然景観や人々の暮らしを諸資料から紹介しながら、それら人文・自然景観の形成背景・要因を読み取る。さらに両地域における人的移動を含んだ歴史的背景を学んだうえで、それぞれの地域性をどのように捉えていくか、さらに両地域が現在抱える問題や将来の課題について考察していく。				
授業計画 第1回：オリエンテーション-地誌学とは・地域性を読み取る- 第2回：地域のキーワードから読み取る地誌 第3回：三陸の自然環境（地質と地形、気候と植生・海洋） 第4回：三陸の歴史ー通史の中の三陸ー 第5回：三陸と他地域との交流-産業・文化- 第6回：インドネシアの地質と地形の構造 第7回：インドネシアの気候特性と植生・海洋環境 第8回：インドネシアの歴史と王朝の変遷 第9回：インドネシアの人々と民族、宗教 第10回：インドネシアの他地域との交流-産業- 第11回：インドネシアの生活と文化 第12回：インドネシアの観光産業とツーリズム 第13回：三陸とインドネシアにおける自然災害と災害復興 第14回：三陸またはインドネシアに関するプレゼンテーション作成（グループワーク） 第15回：三陸またはインドネシアに関するプレゼンテーション（学生による発表）				
テキスト： 三陸ジオBOOK-三陸ジオパーク副読本-（三陸ジオパーク推進協議会）				
参考書・参考資料等 授業ごとに資料を配布する。				
学生に対する評価 授業とテキストや資料の内容理解に関するリフレクションペーパー（40％）、および期末プレゼンテーションによる発表（60％）による。				

授業科目名： 政治過程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 芦谷圭祐
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
（１）政治過程論に関する基本的な知識を身につける。【知識・理解】 （２）政治過程論の知識を基礎に、過去や現在の政治現象について、理論的な説明や分析を行うことができる。【技能】 （３）政治過程論の知識を基礎に、現代日本政治について批判的に検討し、自らの見解を表明することができる。【態度・習慣】			
授業の概要			
政治過程論とは、私たちの社会において政治がどのように機能しているのかを理論的・実証的に分析する政治学の一分野です。社会には様々な「もめごと」があり、それを解決するためのルールが設けられています。では、誰がどのようにそのルールを決定しているのでしょうか。首相でしょうか、有権者でしょうか、あるいは特定の集団や一部の政治的エリートでしょうか。この授業の目的は、日本政治を主な事例として、政治学や政治過程論の基本的な理論や概念について解説し、現代社会における政治過程の全体像を把握することです。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：戦後日本の政治過程①：55年体制			
第3回：戦後日本の政治過程②：非自民連立内閣と政治改革			
第4回：戦後日本の政治過程③：「加藤の乱」から小泉政権へ			
第5回：戦後日本の政治過程④：民主党政権の成立と瓦解			
第6回：戦後日本の政治過程⑤：第二次安倍政権以降の政治			
第7回：政治参加と投票行動			
第8回：マスメディア			
第9回：政党			
第10回：選挙制度：二つのトレードオフ			
第11回：政府と議会①：議院内閣制			
第12回：政府と議会②：大統領制			

第13回：中央地方関係

第14回：地方政治

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

特段指定しない。

参考書・参考資料等

境家史郎．2023．『戦後日本政治史：占領期から「ネオ55年体制」まで』中央公論新社．

上神貴佳・三浦まり．2023．『日本政治の第一歩〔新版〕』有斐閣．

学生に対する評価

・基準

以下を基準に提出物を評価します。

授業内容を理解しているか、政治学・政治過程論の専門用語や理論をもとに現実の政治過程を説明できるか、自分の考えを論理的に伝えられるか。

・方法

期末レポート（60%）と毎回のコメントペーパー（40%）

・方法

期末試験（60点満点）と毎回のコメント（40点満点）

授業科目名： 国際法 1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 丸山 政己
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。） 、政治学（国際政治を含む。） 」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：国際法の基本的な枠組みと主な規律内容について 到達目標：履修した学生は、1) 国際法の基本的な概念や用語について説明できる。【知識・理解】 2) 国際的な実行や学説について調べることができる。【技能】 3) 実際に起こっている様々な国際的な事例について、国際法の観点から討議できる。【態度・習慣】			
授業の概要 複雑で多様化している国際関係を理解するためには、国際法の基礎知識が不可欠である。本講義では、国際法が国際関係をどのように規律し、国際社会の秩序維持に寄与しているか（いないのか）について検討する。今日、国際法の対象範囲は、伝統的な戦争と平和の問題から世界経済、人権、地球環境などといったように、大変広範なものとなっている。本講義では、いわば国際法総論として、それらの問題を考えるための基礎的な概念や知識を習得することを目的とする。			
授業計画 第1回：イントロダクション：国際社会と法 第2回：国際法成立・発展の歴史 第3回：国際法総論（特徴、性質、成立形式） 第4回：国際法総論（国際法と国内法） 第5回：国際法総論（国家責任） 第6回：国家（国家の成立、承認、基本的権利義務） 第7回：国家（国家管轄権、国家免除） 第8回：条約法（締結、留保） 第9回：条約法（解釈、効力） 第10回：外交・領事関係法 第11回：国家領域（陸・空・宇宙） 第12回：国家領域（日本の領土問題） 第13回：海洋法（領海、接続水域、排他的経済水域） 第14回：海洋法（大陸棚、公海、深海底）			

第15回：海洋法（境界画定、紛争解決手続）

定期試験

テキスト

ビジュアルテキスト国際法 第3版（加藤信行・植木俊哉・森川幸一・真山全・酒井啓亘・立松美也子 編著、有斐閣）

国際条約集2025年版（植木俊哉・中谷和弘 編、有斐閣）

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

課題・期末試験を課して、知識の習得、理解の度合い、汎用的技能（論理的思考力、文章表現力）、参加の度合いについて総合的に評価する。具体的には、次のような点が合格の基準となる。①国際法の基本的内容を理解し、自分の言葉で説明できるか。②国際社会において実際に起こっている事例について、国際法の基礎知識に基づいて論理的、説得的に評価できるか。③国際法に対する問題関心が高いことを示すことができるか。

課題：40%、期末試験：60%

課題は、授業の進行度合いを見ながら適宜提示する。

授業科目名： グローバル・ガバナンス論 1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村 文子
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：国際関係論の基礎的な概念・理論と歴史を通して諸問題を理解する			
到達目標：(1) 国際関係論の基礎的な概念と理論に関する知識を深めながら、現代の国際社会における諸問題の本質を分析し、理解する。(2) 受講者自身が国際社会の一アクターであるという認識を持ち、グローバル・イシューをより身近な問題として考えることにできる力を身につける。			
授業の概要			
現代のグローバル化社会において、私たちは環境問題、貧困、難民・移民、人権、国際犯罪、核兵器をめぐる問題など、さまざまな問題に直面している。これらの問題は1カ国だけで対応することが困難であり、国家間協力や、国際機構、地域機構、非政府組織(NGO)との協力関係が必要である（グローバル・ガバナンス）。この授業では、国家だけでなく個人にも焦点をあて、1) 現代の国際社会にはどのような問題があるのか、2) このような問題を解決するために、国際社会がどのような取り組みをしているのかについて学ぶ。これまで世界の舞台で主役を演じてきた国家は、今日の社会においてまだその役割を果たすことはできているのか。人権を保障し、環境問題を解決し、第三世界の貧困を乗り越える国際的な制度や取り組みはどのようなものなのか。国際社会におけるさまざまな問題を分析するための歴史的背景や国際関係論の主要な理論、歴史、アクターについて学ぶ。			
授業計画			
第1回 国際社会を考えるーグローバル・イシューとグローバル・ガバナンス			
第2回 歴史1:国家とはなにかー主権国家のはじまり(ウェストファリア体制)			
第3回 歴史2:主権の変遷ー主権はだれのものか			
第4回 歴史3:二つの世界大戦			
第5回 歴史4:第二次世界大戦後の世界ー冷戦・第三世界の独立・テロ			
第6回 理論1:リアリズムー平和と戦争を説明する			
第7回 理論2:リベラリズムー新しい秩序作りを説明する			
第8回 理論3:ネオ・リアリズムとネオ・リベラリズムー戦後の国際社会を説明する			
第9回 理論4:コンストラクティヴィズムー冷戦後の国際社会を説明する			

第10回 理論5:マルクス主義とフェミニズム—批判理論

第11回 国際社会のアクター1:国際機構と地域機構(EU, ASEAN等)の役割

第12回 国際社会のアクター2:市民社会・非政府組織(NGO)と多国籍企業の役割

第13回 日本外交1:国連中心主義と日米安保体制

第14回 日本外交2:東アジアの中の日本

第15回 日本外交3: 21世紀の新たな外交戦略—人間の安全保障

テキスト

日本外交の論点〔新版〕（佐藤史郎・川名晋史・上野友也・齊藤孝祐・山口航 編、法律文化社）

国際紛争—理論と歴史（原書第10版）（ジョセフ・S・ナイ・ジュニア 著、デイヴィッド・A・ウェルチ 著、田中明彦・村田晃嗣 訳、有斐閣）、ほか

参考書・参考資料等

授業中またはオンラインで適宜紹介する。

学生に対する評価

知識の習得，理解の度合い，汎用的技能（論理的思考力，文章表現力），参加の度合いの4つの基準により評価する。より具体的な評価の基準は以下のとおりである。

- 1) 国際関係論の基礎的な概念や理論が理解できているか。
- 2) 現代の国際社会における諸問題の本質を分析し，理解できているか。
- 3) 諸問題に対して自分の意見を述べ，解決策を提案できるか。

授業参加20%，中間レポート30%，期末レポート50%で評価する。

授業科目名： 社会学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岡田彩 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標：ボランティア、NPO・NGO、市民社会、地域活動 1. ボランティアやNPO・NGOが、現代社会において果たす役割を、理論的な知見に基づき説明できる。 2. 自身とボランティアやNPO・NGOとの関わりを、批判的に考察できる。			
授業の概要 ニュースでも耳にすることのある「ボランティア」や「非営利組織（NPO）」「非政府組織（NGO）」は、私たちが暮らす社会において、どのような意義を持っているのでしょうか。ご自身の経験や身近な活動の例、そして理論の知見を手掛かりに、他者や社会に貢献する様々な行動を、社会学の観点から考察することを目的とします。			
授業計画 第1回 この授業で学ぶこと、考えること 第2回 「ボランティア」とは？（自発性、利他性、パラドックス） 第3回 「ボランティア」とは？（4つの理論と世界ランキングの分析） 第4回 NPO・NGOとは？（台頭の背景と5つの条件） 第5回 NPO・NGOとは？（広い捉え方、狭い捉え方、法人格） 第6回 NPO・NGO調査（団体検索と情報収集） 第7回 NPO・NGO調査（情報収集と分析） 第8回 NPO・NGO調査報告（前半グループ・履修者名簿のあいうえお順で区分） 第9回 NPO・NGO調査報告（後半グループ・履修者名簿のあいうえお順で区分） 第10回 理論①：政府の失敗・市場の失敗 第11回 理論②：NPO・NGOが果たし得る様々な役割 第12回 理論③：相互に助け合う場としてのNPO・NGO 第13回 理論④：アドボカシーを行うNPO・NGO 第14回 理論⑤：市民参加・社会貢献の場としてのNPO・NGO 第15回 まとめ ・受講者の関心やレベルに応じて細部や順序を調整する可能性もあります。			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

NPOとは何か ―災害ボランティア、地域の居場所から気候変動対策まで（宮垣元 著、中央公論新社）

入門ソーシャルセクター ―新しいNPO/NGOのデザイナー（宮垣元 著、ミネルヴァ書房）

学生に対する評価

- ・毎回の授業で課されるワークシートの提出（全体の40%）
- ・中間プロジェクト「NPO・NGO調査」（全体の30%）
- ・理論的観点の理解を確認する期末レポート（全体の30%）

授業科目名： 男女共同参画社会と 教育		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 水谷 智彦
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
① 男女共同参画社会をめぐる日本の現状およびその取組を説明できる。				
② 男女共同参画社会の形成に向けて学校教育にできることを提案できる。				
授業の概要				
男女共同参画社会とは何かを概説するとともに、その重要な論点となる政治・経済・教育分野での日本社会の現状を講義する。とくにジェンダーという観点から教育分野の現状をデータをもとに分析し、男女共同参画社会の形成に必要な学校教育の取組みとは何かを提案できるようになることを目指す。 授業は主に配付資料を中心とした担当者による説明と、学生同士のディスカッションにより進める。ディスカッションのあとには、自分の意見をまとめるミニツツペーパーを書く。また男女平等を推進する教育や学習のあり方に関わる調査と結果報告をおこなう。				
授業計画				
第1回：イントロダクション 男女共同参画社会とはなにか				
第2回：政治参画				
第3回：進学行動				
第4回：文系と理系の選択				
第5回：大学入試				
第6回：教員世界				
第7回：男女平等を推進する教育・学習の取組の現状調査				
第8回：男女平等を推進する教育・学習の取組の調査報告				
第9回：労働世界				
第10回：管理職				
第11回：性差別				
第12回：メディア				
第13回：多様な選択を可能にするための教育・学習機会の充実に向けた取組の調査				
第14回：多様な選択を可能にするための教育・学習機会の充実に向けた取組の報告				
第15回：男女共同参画社会を実現するための教育のあり方とは				

テキスト

テキストは指定せず、各回に配付するレジュメをもとに講義をおこなう。

参考書・参考資料等

内閣府HPよりダウンロード可能な「男女共同参画社会基本法」「女性活躍推進法」を適宜使用する。参考文献等は授業内に紹介する。

学生に対する評価

平常点：30％／調査・報告：30％／レポート：40％（計100点）

平常点の評価は、ディスカッション後に記入するミニツツペーパーによりおこなう。

調査・報告では、男女共同参画と教育にかかわる国内外の事例を調査し、報告する。

レポートでは、法律や事例、授業内で紹介したデータ等を踏まえて、男女共同参画社会の形成に向けて学校にできることを提案する。

授業科目名： 社会と学力	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 水谷 智彦
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
① 社会学的視点から日本の学力問題を考察できる。			
② 各国の学力格差問題および格差是正策を踏まえ、日本の学力問題を解決するために必要な政策や対応策を説明できる。			
授業の概要			
授業では、前半部において日本の学力問題を考察するために必要な社会学的視点を概説する。後半部では、世界各国で議論されている学力格差問題や格差是正策について、各国の事例をもとに検討し、受講者が今後の日本の学力問題や格差問題を広い視座から考察できるようになることを目指す。			
授業計画			
第1回：学力とはなにか			
第2回：能力シグナルとしての学力・学歴			
第3回：能力の社会的構成			
第4回：日本の学力観・能力観の変遷			
第5回：学力測定および評価方法をめぐる議論			
第6回：日本の学力観・評価方法をめぐる調査			
第7回：日本の学力観・評価方法をめぐる報告			
第8回：学力格差是正政策の国際比較			
第9回：各国の学力格差是正政策（1）アメリカ			
第10回：各国の学力格差是正政策（2）ドイツ			
第11回：各国の学力格差是正政策（3）オーストラリア			
第12回：各国の学力格差是正政策（4）フランス			
第13回：各国の学力格差是正政策（5）イギリス			
第14回：各国の学力格差是正政策（6）日本			
第15回：これからの日本の学力格差問題を考える			
テキスト			
テキストは指定せず、配付するレジュメをもとに講義をおこなう。			

参考書・参考資料等

学力格差是正策の国際比較（志水宏吉・山田哲也 編、岩波書店）

そのほか参考文献等は授業時に紹介する。

学生に対する評価

平常点：30％ ／ 調査・報告：30％ ／ レポート：40％（計 100 点）

平常点の評価は、各回のディスカッション後に記入するミニツツペーパーによりおこなう。

調査・報告では、日本の学力観および日本での学力の測定方法、評価方法を調査、報告する。

レポートでは、授業で扱った学力観、学力格差問題についての各国の議論や対応策を踏まえながら、今後の日本社会に必要な学力をめぐる議論や政策のあり方を考察する。

授業科目名： 社会と文化	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 水谷智彦、高吉嬉、松本大理
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 わたしたちの生に対して意味を与えている文化のありようを、①社会学的な視点、②他の社会や文化との比較や関係性といった視点から捉えることができる。			
授業の概要 わたしたちは社会のなかの文化によって生きる意味を与えられていると同時に、新しい文化を創出しながら社会のなかで生きている。こうした文化をめぐる人びとの営みを読み解く方法を、講義やディスカッション、調査等をとおして習得することを目指す。			
授業計画 第1回：イントロダクション（水谷） 第2回：社会のなかの個人（1）社会化（水谷） 第3回：社会のなかの個人（2）階層構造（水谷） 第4回：個人のなかの社会（1）役割（水谷） 第5回：個人のなかの社会（2）知識（水谷） 第6回：個人のなかの社会（3）準拠集団（水谷） 第7回：ドラマとしての社会（1）権力（水谷） 第8回：ドラマとしての社会（2）逸脱（水谷） 第9回：ドラマとしての社会（2）社会変動（水谷） 第10回：文化を調査する方法（水谷） 第11回：調査結果の分析（水谷） 第12回：調査結果の報告（水谷） 第13回：社会学的な方法と視点の意義（水谷） 第14回：異なる文化との関係から（高） 第15回：異なる社会・文化と共通性（松本）			
テキスト 特に指定せず、配付するレジュメをもとに講義をおこなう。			
参考書・参考資料等 社会学への招待（ピーター・L・バーガー 著、水野節夫・村山研一 訳、筑摩書房）			

バーガー社会学（ピーター・L・バーガー、ブリジット・ベルガー、安江考司、樋口祐子、鎌田彰仁 著、学習研究社）

そのほか、授業内に適宜紹介する。

学生に対する評価

平常点：30％／レポート：30％／調査・報告：40％（計100点）

平常点の評価は、各回のディスカッション後に記入するミニツツペーパーによりおこなう。

レポートでは、わたしたちの文化に関わる課題について、講義をとおして身に付けた方法や視点にもとづき考察する。

調査・報告では、わたしたちの文化に関わる課題について調査し、報告する。

授業科目名：経済学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：石田祐 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 この授業の到達目標は次のようである。 (1) 市場のメリットとデメリットを理論に基づき説明できる。 (2) 市場のデメリットを克服する政府の役割を理論に基づき説明できる。 (3) 市場で活動する営利・非営利組織の経済活動を説明できる。			
授業の概要 この授業の大きな目的は、政府と市場の関係、市場で活動する営利・非営利の組織について学び、理解することである。例えば、民間企業が財・サービスを提供するのが難しかったり、供給すると問題が生じてしまったりする場合があります、そのようなとき、国や自治体などの公的組織が財・サービスを提供することによって、人々がよりよい暮らしを営めるようになる。授業では、政府の役割や経済活動はどのようなものか、また国や自治体による介入が期待される場面はどのようなものか、どのような場合には政府の関与が期待されないのか、関与が期待される場合にはどのような関与が望ましいのか、そういったことを考えるための基礎的な理論を学ぶとともに、市場では多くの営利・非営利の組織が活動をしているので、その活動の戦略やモデルについても学び、現在や過去の事情を見ながら、経済活動を考える。			
授業計画 第1回 ガイダンス：公共経済学を通じて学ぶこと 第2回 需要と供給 第3回 市場の失敗と価格 第4回 市場の失敗と外部性 第5回 市場の失敗と情報 第6回 公共財とフリーライダー 第7回 公共財の供給メカニズム 第8回 民間企業の行動原理 第9回 身近な企業の収入と収益 第10回 社会課題を解決する事業モデルと事例 第11回 事業の社会性と経済性のバランス 第12回 学校教育を題材に社会性と経済性から検討する			

第13回 学校教育を題材に事業モデルを検討する

第14回 学校教育を題材に事業計画を検討する

第15回 グループワークの発表と振り返り

テキスト

無し.

参考書・参考資料等

私たちと公共経済（寺井公子・肥前洋一 著、有斐閣ストゥディア）

入門 NP0のガバナンスとマネジメント（ゲイリー・M・グロブマン、晃洋書房）

ソーシャル・イノベーションの教科書（「レジリエンス人材」育成プログラム開発チーム編、ミネルヴァ書房）

学生に対する評価

・基準：授業の到達目標で示した以下3点を基準とします。

(1) 市場のメリットとデメリットを理論に基づき説明できる。

(2) 市場のデメリットを克服する政府の役割を理論に基づき説明できる。

(3) 市場で活動する営利・非営利組織の経済活動を説明できる。

・方法：・毎回の授業で課される個人課題の提出(全体の40%)

・グループワーク課題の提出(全体の30%)

・グループワークでの発表および期末レポート(全体の30%)

授業科目名： マクロ経済学 1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：溜川健一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 (1) 学んだ知識の範囲内ではあるが、一国経済に今起きていることを理解し、今後起きるかもしれないことについて予想できる。 (2) これにより、新聞の経済欄を理解しながら読むことができる。			
授業の概要 マクロ経済学は、一国を対象に、経済活動の水準や物価水準がどう変動するかなどを分析する学問である。また、マクロ経済学では、一国の経済が財政政策や金融政策などのマクロ経済政策によってどう変化するかについても分析する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：経済学とは 第2回：経済の状態を表す様々な指標(1)：GDP 第3回：経済の状態を表す様々な指標(2)：物価指数、失業率 第4回：45度線分析(1)：総所得の決定 第5回：45度線分析(2)：経済政策の効果 第6回：消費について 第7回：設備投資について 第8回：貨幣とは 第9回：貨幣市場の均衡 第10回：IS-LMモデル(1)：LM曲線の導出 第11回：IS-LMモデル(2)：IS曲線の導出 第12回：IS-LMモデル(3)：総所得の決定と経済政策の効果 第13回：IS-LMモデル(4)：総所得の決定と経済政策の効果(2) 第14回：日本の経済政策 第15回：これまでのまとめ			
テキスト 配布する講義資料で講義を進める。			
参考書・参考資料等 基礎からわかるマクロ経済学（家森信善 著、中央経済社）			

マンキュー マクロ経済学 第3版I入門篇 (N・グレゴリー・マンキュー 著、足立英之・地主敏樹・中谷武・柳川隆 訳、東洋経済新報社)

学生に対する評価

学期の中間に課す課題40%、学期末に行われる試験60%の割合に基づいて評価する。

授業科目名：哲学・倫理学概論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：松本大理 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 西洋哲学・倫理学における様々な問題と、それに対する多様なアプローチの特徴を確認し、その現代的意義を確認する。現代文明が抱える様々な哲学的・倫理学的課題を理解した上で、それについて思考するために、思想史上の知識と批判的考察が不可欠であることを理解する。			
授業の概要 西洋哲学史および倫理学史の基礎について、おおよそ時代順に概説する。主体性、理性、善悪、幸福、自由、といった基本概念をめぐって様々な角度から問われてきた経緯を解説し、現代の考え方にも通じる統一的な理解を浮き彫りにする。			
授業計画 第1回：序論：哲学とは何か、倫理学とは何か 第2回：古代ギリシャの哲学と倫理学1：ソクラテス、プラトン 第3回：古代ギリシャの哲学と倫理学2：アリストテレス 第4回：ヘレニズム期の哲学と倫理学：ストア派とエピクロス派 第5回：中世の哲学と倫理学：トマス・アクィナス 第6回：大陸合理論：デカルト、スピノザ、ライプニッツ 第7回：イギリス経験論：ホッブズ、ロック、ヒューム、アダム・スミス 第8回：カント1：認識論の転換（認識主体の確立） 第9回：カント2：倫理思想の転換（自律的主体の確立） 第10回：ドイツ観念論：フィヒテ、ヘーゲル、シェリング 第11回：実存哲学と生の哲学：キルケゴール、ニーチェ、ハイデガー、ベルクソン 第12回：個人主義と功利主義：ベンサム、ミル、他 第13回：環境と生命と技術（応用哲学および応用倫理学の問題を中心に） 第14回：自由と正義と平等（現代正義論の問題を中心に） 第15回：全体のまとめと補足 定期試験			
テキスト 特になし。適宜プリントを配布。			

参考書・参考資料等

哲学の歴史（全13巻）（内山勝利ほか 編、中央公論新社）

世界哲学史（全8巻）（伊藤邦武ほか 編、ちくま新書）

学生に対する評価

以下の観点に則り、試験・レポート・発表等の内容を中心に、総合的に判断し評価する。

- ・ 取り扱った様々な解釈やその意義を理解しているか（20%）
- ・ 思想史上の知識を現実の問題に結びつけ、多角的に考察できるか（20%）
- ・ 哲学や倫理学の考え方を理解し、試験やレポートに成果を反映できるか（60%）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：松本大理
哲学・倫理学基礎演習	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
哲学および倫理学の原典に直接取り組むことにより、基本的な思考のあり方を学ぶ。使用するテキストは、社会思想や文化思想なども含め、広い範囲から選定する。選定したテキストを精密に読解することにより、大卒の理論に加えて、個々の議論とその論拠を多方面から批判的に吟味しながら、細部の論理展開を精密に読み解く技術を習得する。これにより、哲学・倫理学の諸問題を深めると同時に、自ら批判的かつ多面的に思考するための基礎的読解を行う。			
授業の概要			
受講者の関心に対応しながら、哲学・倫理学の諸問題の理解に資するテキストを選定し、熟読・精読する。テキストは日本語訳を使用する。毎回扱う範囲を設定し、どの受講者も質疑応答に参加する仕方で進める。節や章のまとまりごとに、全体討議を行う。			
授業計画			
第1回：導入：テキストの読解方法について。受講者との相談によるテキストの選定。 （以下は、テキストにカントの『道徳形而上学の基礎づけ』を選んだ場合の計画例）			
第2回：選定テキストに関する導入的解説。			
第3回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「善意志」について。			
第4回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「義務」について。			
第5回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「仮言命法」について。			
第6回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「定言命法」について。			
第7回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「善意志」について。			
第8回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「人格」について。			
第9回：全体討議1 読解した箇所全体を振り返りながら、身近な問題と関連させて討議する。			
第10回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「自律」について。			
第11回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「他律」について。			
第12回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「理性」について。			
第13回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「道徳法則」について。			
第14回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「信仰」について。			
第15回：全体討議2 読解した箇所全体を振り返りながら、身近な問題と関連させて討議する。			
最終レポート			

テキスト

(例) イマヌエル・カント『道徳形而上学の基礎づけ』

参考書・参考資料等

使用テキストに応じてそのつど指示する。

学生に対する評価

以下の観点に則り、発表・討議の内容、レポートの内容を中心として、総合的に判断し評価する。

- ・テキストを正確に読解し、その哲学的倫理的含意を理解することができるか (40%)
- ・質疑応答を適切に、かつ発展的に行うことができるか (40%)
- ・哲学や倫理学の考え方を理解し、レポートに成果を反映できるか (20%)

授業科目名： 哲学・倫理学演習A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松本大理 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
哲学および倫理学の原典に直接取り組むことにより、発展的な思考のあり方を学ぶ。使用するテキストは、社会思想や文化思想なども含め、広い範囲から選定する。やや上級向けのテキストを選択するとともに、英語原典や英訳による読解を重視する。選定したテキストを精密に読解することにより、個々の議論とその論拠を多方面から批判的に吟味しながら、細部の論理展開を精密に読み解く技術を習得する。これにより、哲学・倫理学の諸問題を深めると同時に、自ら批判的かつ多面的に思考するための発展的読解を行う。			
授業の概要			
受講者の関心に対応しながらテキストを選定し、熟読・精読する。テキストは英語原典や英訳を使用し、適宜日本語訳を併用する。毎回扱う範囲を設定し、どの受講者も質疑応答に参加する仕方で進める。節や章のまとめごとに、全体討議を行う。			
授業計画			
第1回：導入：テキストの読解方法について。受講者との相談によるテキストの選定。 （以下は、テキストにヒュームの『人間本性論(A Treatise of Human Nature)』を選んだ場合の計画例）			
第2回：選定テキストに関する導入的解説。			
第3回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「観念」について。			
第4回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「記憶」について。			
第5回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「想像」について。			
第6回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「連合」について。			
第7回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「関係」について。			
第8回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「実体」について。			
第9回：全体討議1 読解した箇所全体を振り返りながら、身近な問題と関連させて討議する。			
第10回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「知識」について。			
第11回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「蓋然性」について。			
第12回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「原因と結果」について。			
第13回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「推論」について。			
第14回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「感覚と印象」について。			

第15回：全体討議2 読解した箇所全体を振り返りながら、身近な問題と関連させて討議する。
最終レポート

テキスト

(例) ヒュームの『人間本性論(A Treatise of Human Nature)』

参考書・参考資料等

使用テキストに応じてそのつど指示する。

学生に対する評価

以下の観点に則り、発表・討議の内容、レポートの内容を中心として、総合的に判断し評価する。

- ・テキストを正確に読解し、その哲学的倫理的含意を理解することができるか (40%)
- ・質疑応答を適切に、かつ発展的に行うことができるか (40%)
- ・哲学や倫理学の考え方を理解し、レポートに成果を反映できるか (20%)

授業科目名： 哲学・倫理学演習B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松本大理 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
哲学および倫理学の原典に直接取り組むことにより、発展的な思考のあり方を学ぶ。使用するテキストは、社会思想や文化思想なども含め、広い範囲から選定する。やや上級向けのテキストを選択するとともに、英語原典や英訳による読解を重視する。選定したテキストを精密に読解することにより、個々の議論とその論拠を多方面から批判的に吟味しながら、細部の論理展開を精密に読み解く技術を習得する。これにより、哲学・倫理学の諸問題を深めると同時に、自ら批判的かつ多面的に思考するための発展的読解を行う。			
授業の概要			
受講者の関心に対応しながらテキストを選定し、熟読・精読する。テキストは英語原典や英訳を使用し、適宜日本語訳を併用する。毎回扱う範囲を設定し、どの受講者も質疑応答に参加する仕方で進める。節や章のまとめごとに、全体討議を行う。			
授業計画			
第1回：導入：テキストの読解方法について。受講者との相談によるテキストの選定。 （以下は、テキストにアリストテレス『ニコマコス倫理学(The Nicomachean Ethics)』を選んだ場合の計画例）			
第2回：選定テキストに関する導入的解説。			
第3回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「思考の徳」について。			
第4回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「欲求と選択」について。			
第5回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「学的理解」について。			
第6回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「技術」について。			
第7回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「思慮」について。			
第8回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「知性」について。			
第9回：全体討議1 読解した箇所全体を振り返りながら、身近な問題と関連させて討議する。			
第10回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「知恵」について。			
第11回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「思慮」について。			
第12回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「思慮の種類」について。			
第13回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「熟慮」について。			
第14回：テキスト読解。各段落や各節内の質疑応答（全員）。特に「分別」について。			

第15回：全体討議2 読解した箇所全体を振り返りながら、身近な問題と関連させて討議する。
最終レポート

テキスト

(例) アリストテレス『ニコマコス倫理学(The Nicomachean Ethics)』

参考書・参考資料等

使用テキストに応じてそのつど指示する。

学生に対する評価

以下の観点に則り、発表・討議の内容、レポートの内容を中心として、総合的に判断し評価する。

- ・テキストを正確に読解し、その哲学的倫理的含意を理解することができるか (40%)
- ・質疑応答を適切に、かつ発展的に行うことができるか (40%)
- ・哲学や倫理学の考え方を理解し、レポートに成果を反映できるか (20%)

授業科目名： 社会・地歴科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高吉嬉 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
中学社会と高等学校地理歴史科の当該教科の学習評価の考え方や各科目の特質と相互の関連性を理解し、世界や日本の歴史的事象や地理的事象についての見方や考え方を成長させるとともに、その授業づくりのための基礎的力量と授業実践力や指導力を向上させることを到達目標とする。			
授業の概要			
地歴科の各科目の特質と相互の関連性を理解し、教材研究、グループ活動、指導案の作成、模擬授業などを組み合わせて授業を行う。			
授業計画			
第1回： オリエンテーション／講義のねらい及び進め方についての説明／グループ分け ＊課題：模擬授業に向けたグローバルな課題設定及び教材開発のための自主学習			
第2回： 学習指導要領（地歴編）における地歴科の各科目の特質と関連性、学習評価の考え方			
第3回： 自主学習の内容を持ち合わせて課題設定のためのグループ活動			
第4回： 教材研究（近代化と私たち」グループPPT発表）、質疑応答及び意見交換			
第5回： 教材研究（「国際秩序の変化や大衆化と私たち」グループPPT発表）、質疑応答及び意見交換			
第6回： 教材研究（「グローバル化と私たち」グループPPT発表）、質疑応答及び意見交換			
第7回： 教材研究（「地図や地理情報システムでとらえる現代世界」または「国際理解と国際協力」グループPPT発表）、質疑応答及び意見交換			
第8回： 教材研究（「さまざまな地球的課題と国際協力」または「持続可能なまちづくりと私たち」グループPPT発表）、質疑応答及び意見交換 ＊受講生数によってグローバル数や歴史分野と地理分野のテーマは変更の可能性有り。			
第9回： 教材研究の内容を踏まえて、模擬授業のための指導案作成に向けたグループ活動			
第10回： 附属中学校の授業参観 ＊授業参観後ミニレポート提出			
第11回： 模擬授業（ICTの活用を含む）（近代化と私たち」グループ）、質疑応答及び意見交換			
第12回： 模擬授業（ICTの活用を含む）（「国際秩序の変化や大衆化と私たち」グループ）、質疑応答及び意見交換			
第13回： 模擬授業（ICTの活用を含む）（「グローバル化と私たち」グループ）、質疑応答及び			

意見交換

第14回： 模擬授業（ICTの活用を含む）（「地図や地理情報システムでとらえる現代世界」または「国際理解と国際協力」グループ）、質疑応答及び意見交換

第14回： 模擬授業（ICTの活用を含む）（「さまざまな地球的課題と国際協力」または「持続可能なまちづくりと私たち」グループ）、質疑応答及び意見交換

第15回： 授業のまとめとふり振り返り（当該教科の学習評価の考え方の理解や、模擬授業の反省点などについて意見交換）

＊ 課題： 学習指導案の最終版を提出する。

テキスト

中学校学習指導要領解説 社会編（平成29年7月告示、文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 地理歴史編（平成30年年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

・授業の際に適宜指示する。

学生に対する評価

以下の評価の観点に則り、レポート及び発表内容などを中心に、総合的に評価する。

- ・積極的に授業に取り組む態度（20%）
- ・関連資料の収集方法および発表伝達の工夫（20%）
- ・指導案づくりと模擬授業（60%）

授業科目名： 社会の教材分析 A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：江間史明 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 資質・能力ベースの社会科・地理歴史科のカリキュラムの特質と課題を理解できる。 ・ 「深い学び」を位置づけた社会科の単元を構成し、1 時間の模擬授業を実施できる。			
授業の概要 ・ 資質・能力ベースの学習論と「社会的見方・考え方を働かせる」単元構成について、事例をもとに考察する。歴史・地理・公民の主題に基づき学習指導案を作成し、模擬授業を行う。			
授業計画 第1回：資質・能力ベースの社会科の特質とカリキュラムの内容構成 第2回：学習指導案の作成と学習評価の基本的な考え方 第3回：「社会的な見方・考え方を働かせる」単元構成の検討。中学地理・中学公民の事例から 第4回：アブダクションと授業構成。中学地理・中学歴史の事例から 第5回：模擬授業演習のグループ編成と主題の決定 第6回：模擬授業演習の準備。グループ活動。 第7回：模擬授業演習1 中学歴史、高校歴史総合 第8回：模擬授業演習2 中学地理、高校地理総合 第9回：模擬授業演習3 中学公民 第10回：高校地理歴史、「考える日本史」の授業映像を見て検討する 第11回：高校地理歴史、「考える日本史」における歴史学と歴史教育。絵画史料を中心に 第12回：探究型学習の実際と課題。中学歴史の事例から。 第13回：大学入学共通テストの問題分析。求められる知識の質とその測定を考える 第14回：社会科と地理歴史科のICT活用の実際と課題 第15回：最終振り返りレポートの検討とこれからの社会科授業づくりの課題 定期試験は実施しない			
テキスト 中学校学習指導要領解説 社会編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 地理歴史編（平成30年7月 文部科学省） 教科の本質から迫るコンピテンシー・ベースの授業づくり（奈須正裕・江間史明、図書文化）			
参考書・参考資料等 適宜、資料を WebClass にアップロードする。			

学生に対する評価

学習指導案の作成(30%)、資質能力ベースの学習論レポート(20%)、
大学入学共通テストの問題分析レポート(15%)、最終振り返りレポート(25%)、
授業内容へのコメント(10%)

授業科目名： 社会・公民科教育法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：高吉嬉 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
中学社会科と高等学校公民科の当該教科の学習評価の考え方や各科目の特質と相互の関連性を理解し、主権者教育や消費者教育をはじめ、地球市民教育（GCED）とSGDsの視点から、現代社会の諸問題（貧困と市場経済、世界平和と人権、少子・高齢化社会の問題など）を深く考察し、自ら選択・判断する力を身に付けて、自立した主体としての国家・社会の形成に参画する力を育成することができる授業づくりのための基礎的力量と授業実践力や指導力を向上させることを到達目標とする。				
授業の概要				
主権者教育や現代の諸課題を理解し、教材研究、グループ活動、指導案の作成、模擬授業などを組み合わせて授業を行う。				
授業計画				
第 1 回： オリエンテーション／講義のねらい及び進め方についての説明／グループ分け ＊課題：模擬授業に向けた課題設定及び教材開発のための自主学習				
第 2 回： 学習指導要領（公民編）における各科目の特質と関連性、学習評価の考え方				
第 3 回： 自主学習の内容を持ち合わせて課題設定のためのグループ活動				
第 4 回： 教材研究（「公共的な空間をつくる私たち－社会のなかの自己」グループPPT発表）、質疑応答及び意見交換				
第 5 回： 教材研究（「自律した主体として社会に参画する私たち」グループPPT発表）、質疑応答及び意見交換				
第 6 回： 教材研究（「経済社会で生きる私たち」グループPPT発表）、質疑応答及び意見交換				
第 7 回： 教材研究（「私たちの職業生活」グループPPT発表）、質疑応答及び意見交換				
第 8 回： 教材研究（「国際社会のなかで生きる私たち」グループPPT発表） ＊受講生数によってグルバール数やグループ活動のテーマは変更の可能性有り。				
第 9 回： 教材研究の内容を踏まえて、模擬授業のための指導案作成に向けたグループ活動				
第10回： 附属中学校の授業参観 ＊授業参観後ミニレポート提出				
第11回： 模擬授業（ICTの活用を含む）（「公共的な空間をつくる私たち－社会のなかの自己」グループ）、質疑応答及び意見交換				
第12回： 模擬授業（ICTの活用を含む）（「自律した主体として社会に参画する私たち」グループ）、質疑応答及び意見交換				

第13回： 模擬授業（ICTの活用を含む）（「経済社会で生きる私たち」グループ）、質疑応答及び意見交換 第14回： 模擬授業（ICTの活用を含む）（「私たちの職業生活」グループ）、質疑応答及び意見交換 第14回： 模擬授業（ICTの活用を含む）（「国際社会のなかで生きる私たち」または「持続可能な社会づくりに参画するために」グループ）、質疑応答及び意見交換 第15回： 授業のまとめとふり振り返り（当該教科の学習評価の考え方の理解や、模擬授業の反省点などについて意見交換） ＊ 課題： 学習指導案の最終版を提出する。
テキスト 中学校学習指導要領解説 社会編（平成29年7月告示、文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 公民編（平成30年7月告示 文部科学省）
参考書・参考資料等 ・授業の際に適宜指示する。
学生に対する評価 以下の評価の観点に則り、レポート及び発表内容などを中心に、総合的に評価する。 ・積極的に授業に取り組む態度（20%） ・関連資料の収集方法および発表伝達の工夫（20%） ・指導案づくりと模擬授業（60%）

授業科目名： 社会の教材分析B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高吉嬉 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」という社会科の目標を軸に据えて、グローバル化や情報化が進展する国際社会における現代の諸問題（人種・民族問題、戦争と世界平和、国際協力や国際協調、在日外国人との共存・共生など）に注目し、持続可能な社会の形成に主体的に参画することと、地域に根ざして現代の諸問題を考えるグローバルな視点に立って教材研究に取り組み、学習指導案を作成し、模擬授業を行い、社会科教員としての授業実践力や指導力を向上させることを到達目標とする。			
授業の概要			
本授業は、社会科教員として必要な資質・能力を身につけるため、教材研究、グループ活動、学習指導案の作成、模擬授業などを組み合わせて授業を行う。			
授業計画			
第1回： オリエンテーション／授業のねらい及び進め方についての説明／グループ分け ＊課題：模擬授業に向けたグローバルな課題設定及び教材開発のための自主学習			
第2回： 自主学習の内容を持ち合わせて課題設定のためのグループ活動			
第3回： 教材研究（「人種・民族問題」グループPPT発表）、質疑応答及び意見交換			
第4回： 教材研究（「戦争と世界平和」グループPPT発表）、質疑応答及び意見交換			
第5回： 教材研究（「国際協力や国際協調」グループPPT発表）、質疑応答及び意見交換			
第6回： 教材研究（「在日外国人との共存・共生」グループPPT発表）、質疑応答及び意見交換			
第7回： 教材研究（「持続可能な社会づくり」グループPPT発表）、質疑応答及び意見交換 ＊受講生数によってグローバル数やグループ活動のテーマは変更の可能性有り。			
第8回： 教材研究の内容を踏まえて、模擬授業のための指導案作成に向けたグループ活動			
第9回： 附属中学校の授業参観 ＊授業参観後ミニレポート提出			
第10回： 模擬授業（ICTの活用を含む）（「人種・民族問題」グループ）、質疑応答及び意見交換			
第11回： 模擬授業（ICTの活用を含む）（「戦争と世界平和」グループ）、質疑応答及び意見交換			
第12回： 模擬授業（ICTの活用を含む）（「国際協力や国際協調」グループ）、質疑応答及び意見交換			
第13回： 模擬授業（ICTの活用を含む）（「在日外国人との共存・共生」グループ）、質疑応答及び意見交換			
第14回： 模擬授業（ICTの活用を含む）（「持続可能な社会づくり」グループ）、質疑応答及び意見交換			

第15回：授業のまとめとふり回り（模擬授業の反省点などについて意見交換）

＊ 課題：学習指導案の最終版を提出する。

テキスト

中学校学習指導要領解説 社会編（平成29年7月、文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 公民編（平成30年7月、文部科学省）

参考書・参考資料等

授業の際に適宜指示する。

学生に対する評価

以下の評価の観点に則り、レポート及び発表内容などを中心に、総合的に評価する。

- ・積極的に授業に取り組む態度（20%）
- ・関連資料の収集方法および発表伝達の工夫（20%）
- ・指導案づくりと模擬授業（60%）

授業科目名： 代数学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：中西正樹 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標 代数学に関する包括的な内容を学ぶことが本授業のテーマである。到達目標は下記のとおり。 ・ 行列に関する基礎的な知識を身につけることができる。 ・ 線形空間について理解できる。 ・ 群論について基礎的な知識を身につけることができる。 ・ 実社会における代数学の適用例を説明できる。			
授業の概要 代数学に関する包括的な内容を学ぶことを目的とし，線形代数の基礎を修得した後，群論の基礎や実社会での代数学の応用について学ぶ。			
授業計画 第1回：行列 第2回：行列の演算 第3回：逆行列 第4回：行列式 第5回：総合演習（行列） 第6回：ベクトル 第7回：線形空間 第8回：中間試験とまとめ 第9回：基底，線形写像 第10回：総合演習（ベクトルと線形空間） 第11回：群論の基礎と考え方 第12回：実社会における代数学（符号理論） 第13回：実社会における代数学（暗号理論） 第14回：実社会における代数学（コンピュータと論理代数） 第15回：期末試験とまとめ			
テキスト やさしく学べる線形代数（石村園子 著、共立出版）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 理解度および応用力を確認するための中間試験（50%）および期末試験(50%)により評価する。			

授業科目名： 線形代数	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：奥間智弘 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標 ・線型空間および線型写像に関する抽象的な理論を理解し説明できる。 ・線型空間および線型写像に関する具体的な計算ができる。			
授業の概要 線形代数の基礎事項の修得のため、線型空間、線型写像、基底、次元、部分空間、正規直交基底、直和、固有値、固有空間、対称変換、射影、スペクトル分解について解説する。			
授業計画 第1回：集合と写像 第2回：線型空間 第3回：線型写像と行列 第4回：線型結合と線型独立 第5回：基底と次元 第6回：部分空間の定義と例 第7回：部分空間の和空間 第8回：計量線型空間 第9回：基底変換と部分空間の直和 第10回：正規直交基底 第11回：固有値と固有空間 第12回：スペクトル分解 第13回：固有値と対角化 第14回：対称行列の対角化 第15回：固有値・固有ベクトルの応用 定期試験			
テキスト 線形代数入門（斎藤正彦 著、東京大学出版会）			
参考書・参考資料等 線形代数演習（斎藤正彦 著、東京大学出版会）			
学生に対する評価 線形代数の基礎事項を理解し具体的な計算問題が解けることを合格の基準とし、試験（100％）により評価する。			

授業科目名： 代数入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：深澤 知 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標			
代数の基礎概念である整数と多項式について、その基本的な操作方法を修得することが到達目標である。さらに、群・環・体という代数概念に慣れることを目的とする。			
授業の概要			
ユークリッド互除法や合同式などの基本操作、群・環・体という代数概念について、解説する。各回の内容をまとめた資料を事前に公開し、その内容を講義当日に解説する。講義時間には演習の時間を設ける。さらに、授業内容について受講生全員で議論をする時間を数回設ける。			
授業計画			
第1回：イントロダクション			
第2回：数の集合（自然数、整数、有理数、実数）			
第3回：割り算原理			
第4回：ユークリッドの互除法			
第5回：素因数分解			
第6回：合同式			
第7回：多項式環におけるユークリッドの互除法と応用			
第8回：中間まとめと中間試験			
第9回：群・環・体の定義と基本的性質			
第10回： $\mathbb{Z}/n\mathbb{Z}$ （ n で割った余りの集合）			
第11回：フェルマーの小定理			
第12回：中国剰余定理			
第13回：置換群の導入			
第14回：置換群の基本性質			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
なし。			
各回の内容をまとめた資料を授業担当者が作成し、予習にも使えるように事前に公開する。			

参考書・参考資料等

高等学校の数学Aの教科書。教科書に区別はないが、具体例としては次がある：

高等学校数学A（数研出版）、新数学A（東京書籍）

学生に対する評価

ユークリッド互除法や合同式などの基本操作や具体的な代数計算ができるかどうかを、中間試験と期末試験で評価する。

授業科目名： 幾何学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：皆川宏之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 幾何学		
授業のテーマ及び到達目標			
古典幾何学を教材として図形と計量や方程式、複素数と複素平面、曲線の媒介変数表示、図形の合同や相似、集合、写像、数理論理を学習することがテーマである。到達目標は次の3つである。			
・ 古典幾何学における基本的な概念を正しく理解し、それを問題の定式化に用いることができる。 ・ 自分の考えやアイデアを数学的に正しく表現することができる。 ・ 推論を正しく用いて問題を解決することができる。			
授業の概要			
・ 一回の授業は、講義 1 時間、演習および質疑応答 3 0 分で行う。 ・ 講義では、まず定義や基本的な性質を説明し、次にその日の到達目標である定理や公式を紹介する。最後に証明のアイデアや演習問題とその考え方を説明する。 ・ 演習および質疑応答の時間では、その日の到達目標の理解に努め計算および質問を行う。 ・ 第 5 回、第 1 0 回、第 1 5 回は試験とその解説を行う。			
授業計画			
第 1 回：平面ベクトル、空間ベクトル、内積			
第 2 回：写像、関数、写像の合成、逆写像			
第 3 回：xy 平面上の図形と方程式、複素平面上の図形と方程式			
第 4 回：図形の移動と変換、合同、相似			
第 5 回：試験（1 回目）とその解説			
第 6 回：図形の計量、角の大きさ、面積、長さ			
第 7 回：図形の相等と不変量：不変性の確認			
第 8 回：図形の相等と不変量：不変量を用いた図形の分類			
第 9 回：平面上のユークリッド幾何学の定理			
第 1 0 回：試験（2 回目）とその解説			
第 1 1 回：空間上のユークリッド幾何学の定理			
第 1 2 回：球面上の幾何学の定理			
第 1 3 回：双曲平面上の幾何学の定理			
第 1 4 回：人間の活動、実際の現象と古典幾何学との関わり			
第 1 5 回：試験（3 回目）とその解説			

テキスト

使用しない。

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編（日本文教出版）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 数学編 理数編（学校図書）

その他、必要に応じて紙媒体あるいは電子媒体により資料・解説を配布する。

学生に対する評価

3回行う試験の合計得点で評価する。試験の得点は、1回目30点、2回目30点、3回目40点とする。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：西岡 斉治
集合と位相Ⅰ	選択科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	・幾何学		
授業のテーマ及び到達目標			
ユークリッド空間における具体例を用いて集合、写像、距離空間を学ぶことで、集合と位相の基礎的な知識を得ることを目標とする。			
1）集合、写像、距離などの基本的な概念を説明できる。【知識・理解】			
2）抽象化された理論と具体例との関係を調べることができる。【技能】			
授業の概要			
演習を取り入れた講義形式で行う。			
授業計画			
第1回：集合の演算とド・モルガンの法則			
第2回：直積集合、写像			
第3回：集合系の演算			
第4回：全射・単射と濃度			
第5回：可算集合、濃度の大小、二項関係			
第6回：同値類、ユークリッド空間			
第7回：ユークリッド空間：様々な部分集合			
第8回：ユークリッド空間：開集合と閉集合			
第9回：距離空間：距離関数			
第10回：距離空間：様々な部分集合			
第11回：距離空間：開集合と閉集合			
第12回：演習（第1回から第11回までの内容について）			
第13回：連続写像、実数の性質			
第14回：試験と解説			
第15回：その他の話題とまとめ			
テキスト			
集合と位相（内田伏一 著、裳華房）			
参考書・参考資料等			
距離空間と位相構造（矢野公一 著、共立出版）			
集合・位相入門（松坂和夫 著、岩波書店）			
学生に対する評価			
期末テスト85％＋演習15％			

授業科目名： 離散幾何	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：石渡 聡 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		
授業のテーマ及び到達目標 離散的な図形であるグラフの組み合わせ論な事項、確率論的な事項の基礎を理解し、離散ならではの面白さ、難しさを理解する。			
授業の概要 近年、計算機の飛躍的な性能向上と共に離散的なデータを扱うことが多くなり、組み合わせ論的な考え方の重要性は大きくなる一方である。本講義では離散ならではの面白さ、難しさを意識しながら離散的図形であるグラフの組み合わせ論的・確率論的な性質について解説する。			
授業計画			
第1回 授業全体の概要説明			
第2回 グラフとは（ラベル無しグラフ、ラベル付きグラフ）			
第3回 グラフの位数、大きさ、次数、握手補題			
第4回 特別なグラフについて			
第5回 グラフの同型、部分グラフ			
第6回 オイラーグラフ			
第7回 中間試験とまとめ			
第8回 確率論の復習1 確率の定義			
第9回 ランダムウォークの定義			
第10回 ランダムウォークの性質			
第11回 推移確率、演習			
第12回 推移確率の計算1 対称性			
第13回 推移確率の計算2 対角化			
第14回 推移確率の極限			
第15回 演習、まとめ			
定期試験			
テキスト			
特になし			
参考書・参考資料等			
グラフ理論入門（R. J. ウィルソン著 西関隆夫 西関裕子訳、近代科学社）			
確率論（熊谷隆 著、共立出版）			
学生に対する評価 グラフの基本事項の理解および基本量の計算ができているかについて、演習、中間試験および期末試験により総合的に判断する。			
・演習40%、中間試験30%、期末試験30%			

授業科目名： 解析学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高山琢磨 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 解析学		
授業のテーマ及び到達目標			
解析学を概観し、関数の微分と積分について学ぶ。主に1変数関数を題材として、微分と積分の概念について理解を深め、計算技術の修得をする。また、数学教員として地域の教育を担うために必要な以下の専門的知識・技能を修得することを目標とする。 （１）極限の概念を理解し、極限を求めることができる。 （２）1変数関数の導関数および高階導関数を求めることができる。 （３）1変数関数のテイラー展開を求めることができる。 （４）1変数関数の極値や最大・最小を求めることができる。 （５）1変数関数のグラフの概形を描くことができる。 （６）基本的な1変数関数の積分を求めることができる。 （７）図形の面積、曲線の長さを求めることができる。 （８）複素数の基本的な演算とその図形的な意味を理解できる。			
授業の概要			
解析学の以下の内容について広く理解を深める。 微分の定義と基本法則、合成関数の微分法、逆関数の微分法、初等関数の微分の計算方法、微分の応用、積分の定義と基本法則、部分積分と置換積分、積分の計算方法、積分の応用、複素数平面			
授業計画			
第1回：数列と関数の極限、関数の連続性			
第2回：微分係数、導関数			
第3回：合成関数の微分、逆関数の微分、媒介変数による微分			
第4回：初等関数の微分			
第5回：高階導関数、テイラーの定理			
第6回：関数の極値とグラフの概形			
第7回：不定積分と定積分			
第8回：置換積分、部分積分			
第9回：初等関数の積分			
第10回：広義積分			
第11回：図形の面積、曲線の長さ			
第12回：複素数平面、極形式			

第13回：ド・モアブルの定理、複素数と図形

第14回：多変数関数と微分

第15回：多変数関数と積分

定期試験

テキスト

微分積分学（石川他），学術図書出版社，ISBN-4780601118

参考書・参考資料等

その他の資料については、必要に応じて授業時に紹介または配布する。

学生に対する評価

授業内の課題（60％）、定期試験（40％）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：福田 素久
微分積分Ⅰ	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標			
1）多変数関数の微分と関連する諸結果を数学的に理解できる。【知識・理解】			
2）具体的な計算ができ、背後の数学的概念を表現できる。【技能】			
授業の概要			
本授業では、ユークリッド空間の基礎から始め、多変数関数の極限や連続性、偏微分・全微分、Taylorの定理、陰関数定理などを体系的に学び、演習を通じて理解を深める。			
授業計画			
第1回：ユークリッド空間			
第2回：直交射影・線形変換と体積変化			
第3回：直交射影・線形変換と体積変化 補足・演習			
第4回：位相・ベクトル列の収束			
第5回：位相・ベクトル列の収束 補足・演習			
第6回：多変数関数の極限・連続性			
第7回：多変数関数の極限・連続性 補足・演習			
第8回：偏微分と全微分			
第9回：偏微分と全微分 補足・演習			
第10回：連鎖列（前半）・曲面と接平面（後半）			
第11回：連鎖列・曲面と接平面 補足・演習			
第12回：Taylorの定理・Hesse行列			
第13回：Taylorの定理・Hesse行列 補足・演習			
第14回：陰関数定理			
第15回：Bolzano-Weierstrassの定理			
定期試験			
テキスト			
多変数の微積分とベクトル解析（神保秀一・久保英夫 著、数理工学社）			
参考書・参考資料等			
講義中に指示する。			
学生に対する評価			
期末試験（100％）にて評価する。多変数関数の微分とそれに関連する諸結果の数学的な概念及び計算を理解して表現できることを合格の基準とする。			

授業科目名： 微分積分Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木 航介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標			
多変数の微分と積分について、理論をよく理解すると共に、計算方法を習得する。 具体的には重積分、逐次積分、広義積分、変数変換、体積と曲面積の理論を理解し、計算できるようになることが目標である。			
授業の概要			
多変数の微分と積分について、理論と計算方法を解説する。重積分、累次積分、広義積分、変数変換、体積と曲面積について解説し、例題と問題を解く。レポートと試験を通して、習熟度および達成度を評価する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス・実数の性質			
第2回：1変数のリーマン積分			
第3回：重積分の定義と逐次積分			
第4回：一般集合上の重積分			
第5回：重積分の計算と応用			
第6回：重積分の変数変換			
第7回：3次重積分と体積			
第8回：重積分の変数変換、3次重積分の計算と応用			
第9回：広義重積分の定義			
第10回：広義重積分の例：ガウス積分、ガンマ関数			
第11回：広義重積分の計算と応用			
第12回：曲線の長さ・曲面積			
第13回：一様収束と積分と極限の順序交換			
第14回：積分記号下の微積分とその応用			
第15回：まとめと試験			
テキスト			
多変数の微積分とベクトル解析（神保秀一・久保英夫 著、数理工学社）			
参考書・参考資料等			
講義中に適宜資料を配布し、オンラインで共有する。			

学生に対する評価

試験の成績とレポートにより、以下の観点进行评估する。試験(70点)、レポート(30点)。

(1) 多変数の積分について、重積分、累次積分、広義積分、変数変換、体積と曲面積の理論を説明できる。

(2) 多変数の積分について、重積分、累次積分、広義積分、変数変換、体積と曲面積を計算できる。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：坂口隆之
確率・統計学概論	必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	・「確率論、統計学」		
授業のテーマ及び到達目標 確率統計の基本的な理論を学習することがテーマである。授業の到達目標は以下の通りである： ・記述統計学の基本を修得する。 ・確率、確率変数、確率分布の概念を理解できる。 ・確率、期待値、分散を正しく計算することができる。 ・推測統計の考え方を習得し、結果の読み取りができる。			
授業の概要 概念の説明、計算方法の説明、計算練習、総合的な演習を含めて次の内容について講義する。 ・統計データのグラフ表現 ・代表値の計算 ・確率の概念と計算 ・確率変数と確率分布、モーメントの計算 ・推測統計学の基本			
授業計画 第1回：統計データとグラフ（度数分布、ヒストグラム、箱ひげ図、クロス表、散布図） 第2回：代表値、散らばりの尺度（平均、中央値、最頻値、分散、標準偏差、四分位点） 第3回：相関と回帰 第4回：標本空間と事象、場合の数、順列と組み合わせ 第5回：確率、加法定理 第6回：条件付き確率、独立性 第7回：確率変数と確率分布 第8回：確率変数の期待値と分散 第9回：二項分布 第10回：正規分布 第11回：大数の法則、中心極限定理 第12回：母集団と標本 第13回：推定の考え方 第14回：検定の考え方 第15回：期末試験とその解説			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 東京大学教養学部統計学教室（編）（1991）「統計学入門」東京大学出版会			
学生に対する評価 以下の観点で、演習や課題（20％）を取り入れつつ、主に試験（80％）の結果により評価する。 ・データをグラフにより適切に表現し、解釈することができる。 ・データの代表値を計算し、適切に解釈することができる。 ・確率の概念を理解し、確率を適切に求めることができる。 ・確率変数と確率分布の概念を理解している。 ・モーメントを正しく計算することができる。 ・推定と検定の基本的な考え方を理解し、結果の読み取りができる。			

授業科目名： データ分析入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：坂口隆 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業のテーマ及び到達目標 様々な教育課題をエビデンスに基づいて探究することは重要である。本授業では、そのための基礎力を養成することを目指し、データ分析の考え方と実践力を身につけることをテーマとする。具体的な到達目標は以下の通りである： ・教育分野で用いられるデータ分析の基本的な手法を理解し、実践することができる。 ・教育に関する課題について、データ分析を用いて解決策を探究できる。 ・データ分析における適切な倫理的配慮をすることができる。			
授業の概要 本授業では、データ分析の基礎知識・スキルを習得し、教育に関する課題解決に活かすことができようになることを目標とする。実践的な演習を通して様々な分析手法を学び、教育における課題発見、解決策の検討、効果検証を行い、教育の質向上に貢献できる人材育成を目指す。			
授業計画 第1回：ガイダンス、教育におけるデータの活用 第2回：データの種類と尺度、データの収集、データ分析における倫理 第3回：推測統計の基礎 第4回：相関分析と回帰分析 第5回：質的データの分析：クロス集計、カイ二乗検定 第6回：テキストマイニング 第7回：分散分析 第8回：多重比較 第9回：共分散分析 第10回：因子分析 第11回：データの分析事例1：学力調査データの分析 第12回：データの分析事例2：アンケート調査による分析 第13回：グループワーク（1）グループ決め、課題設定、データ収集 第14回：グループワーク（2）データ分析の実施、発表準備 第15回：グループワーク（3）発表会と講評			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 大江耕太郎・大根田頼尚（2023）「現場で役立つ！教育データ活用術 データの収集・分析・活用まで」日本評論社 耳塚寛明（監修）・中西啓喜（編著）（2021）「教育を読み解くデータサイエンス：データ収集と分析の論理」ミネルヴァ書房 奥村太一（2012）「教育実践データの統計分析 ―学校評価とよりよい実践のために―」共立出版			
学生に対する評価 授業への参画状況を踏まえつつ、次の通り評価する： 受講態度（10点）、小テスト3回（60点）、グループワークへの取り組み（30点）			

授業科目名： 数理統計学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：原 一夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業では、データの基本的な統計処理や確率モデルの理解を深めることを目的とする。具体的には、データの代表値や標準化、相関と回帰の違いを学び、統計的手法を用いたデータ解析を習得する。また、確率論の基礎として条件付き確率や確率変数の独立性を理解し、最尤法によるパラメタ推定を実践できるようになることを目指す。			
授業の概要			
本授業では、データの標準化や相関・回帰分析を学び、確率変数の独立性や和の分布の理解を深める。さらに、逆向き推論や最尤推定を通じて、点推定・区間推定の手法を習得する。			
授業計画			
第1回：データセットを要約して比較する。			
第2回：平均値は2乗誤差の和を最小にする値である。			
第3回：データセットを標準化すると個々のデータを比較できる。			
第4回：2つのデータセットに相関があるかどうかを調べる。			
第5回：相関係数は-1以上+1以下の値を取る。			
第6回：入力データから出力データを予測する。			
第7回：まとめと中間テスト			
第8回：検査陽性だったとき、実際に病気である確率を求める。			
第9回：投げたコインが表だったとき、そのコインの表の出やすさの確率分布を求める。			
第10回：離散型確率分布の平均と分散、連続型確率分布の平均と分散			
第11回：複数の確率変数の和の分布の平均と分散			
第12回：コインの表の出やすさを点推定する（最尤推定）。			
第13回：コインの表の出やすさを区間推定する（信頼区間の構成）。			
第14回：観測データを生成した確率モデルのパラメタを「点」または「区間」で当てる。			
第15回：まとめと期末テスト			
テキスト			
テキスト（pdf資料）は、ウェブクラスで配布する予定です。			
参考書・参考資料等			
参考書（久保川・国友著「統計学」等）は授業で提示する予定です。必ずしも購入する必要はありません。			

学生に対する評価

2回のテストを80パーセント、テストの回以外にほぼ毎回提出していただく「確認メモ」を20パーセントとして評価します。

授業科目名：データサイエンス入門		教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2 単位	担当教員名：坂口隆之 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学） 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ ・ コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 データサイエンスについて概観し、基本的な考え方を修得する。また、教育におけるデータサイエンスの活用について考える。具体的な到達目標は次の通りである： ・ コンピュータを用いてデータサイエンスの基本的な手法を実行できる。 ・ 教育におけるデータサイエンスの活用について、自らの考えを述べることができる。 ・ 倫理的な観点からデータの取り扱いについて説明できる。				
授業の概要 データサイエンスに用いられるプログラミング言語を使ってデータサイエンスの基本的な手法を実際に体験することで、データサイエンスを概観する。データサイエンスの基本的な考え方を理解し、教育におけるデータ活用の可能性と限界について考える。				
授業計画 第1回：ガイダンス、教育とデータ 第2回：プログラミング言語（Python、R など）の基本 第3回：データの収集と整理 第4回：データの記述 第5回：統計的な推測 第6回：相関分析 第7回：線形回帰分析 第8回：ロジスティック回帰分析 第9回：クラスタリング 第10回：テキストデータの分析 第11回：データと倫理 第12回：データ分析ミニプロジェクト（1）チーム決め、データ分析の計画立案 第13回：データ分析ミニプロジェクト（2）データ分析の実施、発表準備 第14回：データ分析ミニプロジェクト（3）発表会と講評 第15回：エビデンスに基づく教育、全体のまとめ				
テキスト 特になし。				
参考書・参考資料等 大江耕太郎・大根田頼尚（2023）「現場で役立つ！教育データ活用術 データの収集・分析・活用まで」日本評論社 耳塚寛明（監修）・中西啓喜（編著）（2021）「教育を読み解くデータサイエンス：データ収集と分析の論理」ミネルヴァ書房				
学生に対する評価 授業への参画状況を踏まえつつ、次の通り評価する： 受講態度（10点）、小テスト3回（60点）、データ分析ミニプロジェクト（30点）				

授業科目名： 教員になるためのプログラミング入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：中西正樹 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学、高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ ・ コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 プログラミングをする上で必要となるコンピュータの構造を理解した上で、プログラミングの基礎を学び、さらには子供向けのプログラミング環境に関する知識を身につけることをテーマとする。授業の到達目標は以下のとおりである。 ・ コンピュータの構造についての概要を理解できる。 ・ 簡単な問題を処理するプログラムを作成できる。 ・ 子供向けのプログラミング環境について説明できる。			
授業の概要 最初にプログラミングをする上で必要となるコンピュータの構造について説明したのち、プログラミングの基礎について演習を交えながら解説する。また、子供向けのプログラミング環境としてScratchを紹介し、実際にプログラミングを行いながらその特徴を解説する。			
授業計画 第1回：Pythonのプログラミング環境 第2回：変数と代入文 第3回：データ型、条件分岐 第4回：繰り返し制御構造（for文） 第5回：for文を用いた演習 第6回：繰り返し制御構造（while文） 第7回：while文を用いた演習 第8回：複雑な繰り返し制御構造 第9回：関数 第10回：関数を用いた演習 第11回：総合演習 第12回：プログラミング的思考、アンブラグドプログラミング 第13回：Scratchを用いたプログラミング（移動と描画） 第14回：Scratchを用いたプログラミング（イベント駆動型のプログラミング） 第15回：Scratchを用いた総合演習			

テキスト

必要に応じて授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

独習Python（山田 祥寛 著、翔泳社）

学生に対する評価

毎回のミニ課題（30%）、レポート課題（70%）

授業科目名： データ構造とアルゴリズム	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：中西正樹 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学，高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ ・ コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 基本的なデータ構造とアルゴリズムについての解説を行うことが本授業のテーマである。到達目標は下記の通り。 ・ アルゴリズムの効率を解析することができる。 ・ 基本的なデータ構造を使いこなすことができる。 ・ 基本的なアルゴリズムを理解し、実際の問題に応用できる。			
授業の概要 アルゴリズムの効率を議論するうえで重要な「計算量」の概念を説明し、各種データ構造についての講義及び演習を行う。その後、各種探索アルゴリズム、各種ソートアルゴリズム、組合せ最適化問題を解くアルゴリズムについての講義及び演習を行う。最後に、プログラミング教育についても触れる。			
授業計画 第1回：アルゴリズムと計算量 第2回：配列と連結リスト 第3回：連結リストの操作 第4回：スタックとキュー，グラフを用いたデータ構造 第5回：再帰アルゴリズム 第6回：線形探索，二分探索 第7回：ハッシュ法，順序関係とソート 第8回：選択ソート，挿入ソート 第9回：ヒープソート 第10回：クイックソート 第11回：分割統治法とマージソート 第12回：木の探索と数式の表現 第13回：組合せ最適化問題を解くアルゴリズム 第14回：アルゴリズムとプログラミング教育 第15回：試験とまとめ			

テキスト

情報工学レクチャーシリーズ アルゴリズムとデータ構造 第2版（藤原暁宏 著、森北出版）
上記に加え，授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

毎回のミニ課題（30%），期末試験（70%）

授業科目名： コンピュータアーキ テクチャ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：中西正樹 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学、 高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ ・ コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 コンピュータの構成について解説を行うことが本授業のテーマである。到達目標は下記の通り。 ・ コンピュータの構造を理解する。 ・ 数や文字のデータをコンピュータ上でどのように表現しているかを理解する。 ・ 様々な論理回路についてその仕組みや動作を理解する。 ・ パイプライン制御やキャッシュメモリについて説明できる。			
授業の概要 コンピュータの構造を理解するために必要な基本的な事項（吸う表現、論理回路の基礎等）を講義した後、実際のコンピュータにおける命令実行制御方式やキャッシュメモリの仕組みについて解説する。			
授業計画 第1回：2進数と補数表現 第2回：固定小数点数、浮動小数点数、文字の表現 第3回：ノイマン型コンピュータと命令セット 第4回：論理回路の基礎（組合せ回路と論理代数） 第5回：論理ゲート 第6回：加算回路 第7回：加算回路の高速化 第8回：多項加算回路 第9回：乗算回路 第10回：フリップフロップと順序回路 第11回：順序回路の例 第12回：パイプライン制御 第13回：記憶階層とキャッシュメモリ 第14回：数学・情報教育との関連 第15回：試験とまとめ			

テキスト

必要に応じて授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

コンピュータアーキテクチャの基礎（柴山潔 著、近代科学社）

学生に対する評価

毎回のミニ課題（30%）、期末試験（70%）

授業科目名： 多変量解析		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：坂口隆之 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学、高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ ・ コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 多変量データを統計的に処理するための方法論について、コンピュータを活用しながら学ぶ。 具体的な到達目標は以下の通りである： ・ 適当なグラフを用いて、多変量データの傾向を把握することができる。 ・ 代表的な手法の仕組みを理解することができる。 ・ 代表的な手法を実際のデータに適用し、結果の解釈をすることができる。				
授業の概要 情報処理に不可欠な多変量データの解析法について学ぶ。コンピュータを積極的に活用することで、解析手法の仕組みを体験的に理解し、実データへの応用力を修得することを目標とする。また、データの整理・整形など、前処理についても扱う。				
授業計画 第1回：ガイダンス、プログラミング言語、多変量データ 第2回：プログラミングの基本 第3回：データの前処理 第4回：多変量データの記述 第5回：単回帰分析（1）：相関と因果関係、単回帰モデルと推定および検定 第6回：単回帰分析（2）：モデルのあてはまり具合の診断、残差分析 第7回：重回帰分析（1）：重回帰モデルと推定および検定 第8回：重回帰分析（2）：回帰診断 第9回：重回帰分析（3）：変数選択 第10回：ロジスティック回帰分析 第11回：主成分分析 第12回：判別分析 第13回：クラスター分析 第14回：その他の分析手法 第15回：最終課題とその解説				
テキスト 特になし。				
参考書・参考資料等 神永正博・木下勉（2019）「Rで学ぶ確率統計学 多変量統計編」内田老鶴圃 川端一光・岩間徳兼・鈴木雅之（2018）「Rによる多変量解析入門 データ分析の実践と理論」オーム社				
学生に対する評価 以下の観点で、演習（40点）を取り入れつつ、主に最終課題（60点）により総合的に評価する。 ・ 要約統計量やグラフを用いて多変量データの傾向を把握することができる。 ・ 代表的な多変量データ解析法の考え方を理解できる。 ・ 代表的な多変量データ解析法を実際のデータに適用し、結果の解釈をすることができる。				

授業科目名： プログラミング	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 荒井隆、河井伸介
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学） 教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ ・ コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：コンピュータの仕組み、アルゴリズムと手続き型プログラミングの基本について習得する。到達目標：コンピュータの仕組みを理解できる。問題を解決するアルゴリズムのソースプログラムを作成することができる。インタプリタ型言語Pythonの文法に習熟する。			
授業の概要 計算機実習室でプレゼンテーションによる講義と演習の混ざった形式で授業を行う。実際にコンピュータを使いながら、Python言語の文法とプログラムの作り方を勉強する。さらに、ライブラリを用いてグラフの作成やシミュレーションを行う。			
授業計画 第1回：ガイダンスとコンピュータのアーキテクチャについての紹介 第2回：ソフトウェアの使い方に関する実習 第3回：Python言語によるプログラミングの基礎知識 第4回：プログラムの基本構造とif文による条件分岐 第5回：データ型（リスト、タプル、辞書） 第6回：for文による繰り返し制御構造 第7回：関数 第8回：中間試験とその解説 第9回：Numpyライブラリによる科学計算 第10回：Matplotlibライブラリによるグラフ作成 第11回：線形探索と二分探索 第12回：選択ソート 第13回：ランダムウォーク問題 第14回：モンテカルロ法 第15回：期末試験とその解説			
テキスト 「詳細! Python 3 入門ノート」、大重美幸著、ソーテック社、2017年			
参考書・参考資料等 「入門Python 3 第2版」、Bill Lubanovic著、オライリー・ジャパン、2021年			

学生に対する評価

レポートとテストの実施によってプログラミングに関する基本概念やアルゴリズムの理解度を総合的に評価する。出席などを考慮する平常点 20 %、レポート 20 %、テスト 60 %。

授業科目名： 数学科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高山 琢磨 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 主として中学校及び高等学校における数学教育について、その目的、内容、方法について学ぶ。学習指導要領の内容を理解し、中学校及び高等学校における数学の授業を構想し実践できる。			
授業の概要 中学校数学と高校数学における教材と指導方法等について様々な視点から学び、確かな授業力を備えた教員になることを目指す。講義ばかりでなく、一部演習（模擬授業等）を含む。			
授業計画 第1回：数学教育の目的、目標と学習評価（講義） 第2回：数学教育の目的、目標と学習評価（演習） 第3回：数学教育の指導と学習評価の方法（講義） 第4回：数学教育の指導と学習評価の方法（演習） 第5回：数と式（講義、情報通信技術の活用法を含む） 第6回：数と式（演習） 第7回：図形（講義、情報通信技術の活用法を含む） 第8回：図形（演習） 第9回：関数（講義、情報通信技術の活用法を含む） 第10回：関数（演習） 第11回：データの活用（講義、情報通信技術の活用法を含む） 第12回：データの活用（演習） 第13回：学習指導案（講義・演習） 第14回：模擬授業（演習） 第15回：授業のまとめ			
定期試験			
テキスト 中学校学習指導要領解説 数学編（平成29年7月 文部科学省）， 高等学校学習指導要領解説 数学編 理数編（平成30年7月 文部科学省） その他のテキストについては、必要に応じて授業時に紹介、配布する。			

参考書・参考資料等
教科書を10倍に楽しもう！（大澤弘典 学校図書） その他の資料については，必要に応じて授業時に紹介，配布する。
学生に対する評価
授業内の課題（30％）、定期試験（30％）、指導案作成および模擬授業（40％）

授業科目名： 数学の教材分析A	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 高山 琢磨 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校及び高等学校数学科において扱われる教材の内容とその背景にある数学的内容を理解し、数学科における教材を開発するとともに、その教材を用いた学習指導案を作成できるようになる。中学校及び高等学校の数学教育に係って、教材の内容とその背景にある数学的内容を理解し、適切に指導する方法を身に付けることができる。			
授業の概要 数学教育，教材の数学的背景，数学科の指導法についての深い理解ならびに授業実践力の獲得を目指す。講義のみならず、各回の授業内容に即した課題に対して考察を行うといった演習を含めて展開する。また、中学校あるいは高等学校数学科における教材を題材とした指導案をグループで作成し、指導案の発表会を行い、優れた指導案を作成したグループの代表者に模擬授業を実施してもらう。			
授業計画 第1回：カリキュラム上での本授業の位置付け、授業の進め方、「数学を教えること」について 第2回：よい数学の授業とは何か 第3回：数学教育の目的と数学科の目標 第4回：数の拡張（正負の数，平方根）に関する講義及び教材研究 第5回：数の拡張（複素数，剰余系）に関する講義及び教材研究 第6回：図形教育の目的と論証に関する講義及び教材研究 第7回：証明に基づく発展（三平方の定理）に関する講義及び教材研究 第8回：関数の考えに関する講義及び教材研究 第9回：統計教育の目的，統計と確率が実生活や社会で果たす役割 第10回：統計的問題解決に関する講義及び教材研究，統計的問題解決における情報通信技術の活用法 第11回：数学的活動を視点とした数学科における教材の分析，数学的活動における情報通信技術の活用法 第12回：数学教育の今日的課題と生徒の実態、テーマの設定、グループ編成 第13回：教材の開発と学習指導案作成の演習 第14回：教材と学習指導案の発表会 第15回：模擬授業と事後検討会 定期試験			

テキスト
中学校学習指導要領解説 数学編（平成29年7月 文部科学省）、 高等学校学習指導要領解説 数学編 理数編（平成30年7月 文部科学省） その他のテキストについては，必要に応じて授業時に紹介，配布する。
参考書・参考資料等
必要に応じて授業時に紹介，配布する。
学生に対する評価
授業内の課題（30％）、定期試験（30％）、指導案作成および模擬授業（40％）

授業科目名： 数学の教材分析B	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 平林 真伊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校及び高等学校の数学教育に係って、小中高の連携及び数学的活動の視点から、教材の内容とその背景にある数学的内容を分析し、適切に指導する方法を身に付けることができる。			
授業の概要 本授業では、小中高の連携及び数学的活動の視点から、中学校及び高等学校数学科において扱われる教材の内容とその背景にある数学的内容を分析し、数学科における教材を開発するとともに、その教材を用いた学習指導案を作成し、授業を行うことができるようになることを目的とする。 本授業は講義のみならず、各回の授業内容に即した課題に対して考察を行うといった演習を含めて展開する。他受講者とのコミュニケーションを踏まえ、授業内容について多面的に思考できるよう主体的に取り組んでもらいたい。また、小中高の連携及び数学的活動の視点から、中学校あるいは高等学校数学科における教材を題材とした指導案をグループで作成し、指導案の発表会を行い、優れた指導案を作成したグループの代表者に模擬授業を実施してもらうため、グループワークにも積極的に取り組んでもらいたい。			
授業計画 第1回：カリキュラム上での本授業の位置付け、授業の進め方 第2回：小学校「数と計算」領域に関する講義及び教材研究、中高数学科との連携 第3回：小学校「図形」領域に関する講義及び教材研究、中高数学科との連携 第4回：小学校「測定／変化と関係」領域に関する講義及び教材研究、中高数学科との連携 第5回：小学校「データの活用」領域に関する講義及び教材研究、中高数学科との連携 第6回：発達段階に応じた教材作りの事例及び情報通信技術の活用法（オープンエンドアプローチ） 第7回：発達段階に応じた教材作りの事例及び情報通信技術の活用法（what-if-not方略） 第8回：数学的活動を踏まえた教材の在り方，教材開発における情報通信技術の活用法 第9回：数学的活動を視点とした授業分析と考察，授業における情報通信技術の活用法 第10回：数学的活動の授業への位置付け，数学的活動における情報通信技術の活用法 第11回：学習指導案の意味と作成方法 第12回：数学教育の今日的課題と生徒の実態、テーマの設定、グループ編成 第13回：教材の開発と学習指導案作成の演習 第14回：教材と学習指導案の発表会			

第15回：模擬授業と事後検討会

定期試験は実施しない。

テキスト

中学校学習指導要領解説 数学編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 数学編 理数編（平成30年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

授業での発表（50%）、レポート（50%）

授業科目名： 数学科実践演習	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：皆川宏之，中西 正樹，平林真伊 担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業では、数学科の具体的な単元の内容または教材を開発することを通して、数学科の実践的指導力の基礎を確かにすることをねらいとしている。本授業は、数学科の内容と授業構成を架橋する授業科目である。数学科の今日的な課題としては、例えば、数学的活動の一層の充実や、小中高の系統性や接続を考えた指導などがある。こうした課題から主題を定め、単元の内容または教材を、教科に関する科目の教員と教科教育を担当する教員とがチームを構成して指導に当たる。初等教育を念頭において中等教育に関わる以下の能力を身につけることができる：①適切な指導を行う、②深い知識に基づいた教材開発を行う。			
授業の概要			
本授業は、オリエンテーション、数学科教育からみた数学科の今日的課題、専門科学からみた数学科の今日的課題、単元内容または教材の開発、発表会、振り返りで構成される。オリエンテーションでは、全担当教員・全受講者が参加し、講義のねらいと方法について共通理解を図る。数学科教育からみた数学科の今日的課題では、生徒の全国学力・学習状況調査や先行実践を踏まえて、数学科教育の今日的課題を学ぶ。専門科学からみた数学科の今日的課題では、数学科に関する教育内容を集中的に学習・検討する。以上を踏まえて、数学的モデル化による問題解決の指導や統計的探究などの主題を想定して、単元の内容または教材の開発に取り組む。必要に応じて、教員でチームを構成する。発表会では、開発した単元の内容または教材を発表する。教員全員が参加し、単元の内容または教材開発を検証する。振り返りは、各受講生が到達点と課題を明確にすることに取り組む。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション／講義のねらい及び進め方についての説明（全担当教員）			
第2回：数学科教育からみた数学科の今日的課題：学力調査等に基づく生徒の実態を中心に（平林）			
第3回：数学科教育からみた数学科の今日的課題：数学的活動を中心に（平林）			
第4回：数学科教育からみた数学科の今日的課題：数学的な見方・考え方を中心に（平林）			
第5回：数学的活動を踏まえた教材の在り方，教材開発の方法（平林）			
第6回：幾何学からみた数学科の今日的課題：「図形」領域を中心に（皆川）			
第7回：幾何学分野の教材開発に向けて：学習指導の位置付けと教科書分析（全担当教員）			
第8回：幾何学分野の教材開発に向けて：単元の内容または教材の開発および指導案の作成（情報通信技術の活用を含む）（全担当教員）			

第9回：幾何学分野の成果発表会と事後検討会（全担当教員）

第10回：改善案の検討および振り返り（全担当教員）

第11回：代数学・解析学からみた数学科の今日的課題：「数と式」「関数」領域を中心に（中西）

第12回：代数学・解析学分野の教材開発に向けて：学習指導の位置付けと教科書分析（全担当教員）

第13回：代数学・解析学分野の教材開発に向けて：単元の内容または教材の開発および指導案の作成（情報通信技術の活用を含む）（全担当教員）

第14回：代数学・解析学分野の成果発表会と事後検討会（全担当教員）

第15回：改善案の検討および振り返り（全担当教員）

定期試験は実施しない。

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編（文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 数学編 理数編（文部科学省）

参考書・参考資料等

橋本美保・田中智志監修 藤井斉亮編著『算数・数学科教育』（一藝社）

学生に対する評価

授業での発表（60%）、レポート（40%）

授業科目名： 物理学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：津留 俊英 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 物理学		
授業のテーマ及び到達目標			
力学・熱力学・波動・電気などの物理現象を通して、物理学の基礎を学ぶとともに、物理学的及び科学的な視点や考え方を習得する。			
授業の概要			
物理学を構成する力学・熱力学・波動・電気領域の基礎的な内容を学ぶ。本授業によって論理的な思考力を磨き、学習内容を理科授業に活用・実践できる基礎的な力を養うものである。授業は演示実験を含む講義を中心に行う。課題として演習問題を出し点検する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、速さと速度			
第2回：等速直線運動と等加速度直線運動			
第3回：力の働き			
第4回：運動の法則			
第5回：剛体のつり合い			
第6回：仕事とエネルギー			
第7回：力学的エネルギーの保存			
第8回：物質の状態と熱			
第9回：熱とエネルギー			
第10回：波の性質			
第11回：音の伝播			
第12回：光の伝播			
第13回：電流と磁場			
第14回：量子力学			
第15回：まとめと期末試験			
テキスト			
テキストは特になし。適宜、資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
柴田洋一他著：初歩から学ぶ基礎物理学 力学Ⅰ・Ⅱ、熱・波動、電磁気・原子(大日本図書)			
学生に対する評価			
主として期末試験の結果に基づく(80%)が、授業の際に与える課題の提出状況(20%)など考慮して総合的に評価する。試験の採点は、解答の正誤だけではなく論理的な記述に基づいているかを重視する。			

授業科目名： 物理学演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：津留 俊英 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
授業のテーマ及び到達目標 演習問題を解くことによって、「物理学概論」で学んだ力学・熱力学・波動・電気・量子力学などの物理学の基本的な概念の理解と定着を目指す。			
授業の概要 各回、物理学分野の力学・熱力学・波動・電気・量子力学の基本的な演習課題を解き、履修者がホワイトボードを使用して解説する。演習問題を解きながら物理学と数学の理解を深め、物理学に関する専門性を高める。			
授業計画(各回2時間、計16時間を授業時間とする。) 第1回: ガイダンスと力学(等速直線運動と等加速度直線運動)演習 第2回: 力学(力の働きと運動の法則)演習 第3回: 力学(仕事と力学的エネルギーの保存)演習 第4回: 熱力学(物質の状態と熱)演習 第5回: 波動(音及び光の伝搬)演習 第6回: 電磁気学(電場と磁場)演習 第7回: 量子力学演習 第8回: まとめと期末試験			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 柴田洋一他著: 初歩から学ぶ基礎物理学 力学Ⅰ・Ⅱ、熱・波動、電磁気・原子(大日本図書)			
学生に対する評価 主として期末試験の結果(60%)に基づくが、授業時の発表状況(40%)など考慮して総合的に評価する			

授業科目名： 熱力学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：笠松秀輔 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 熱平衡状態を記述する状態量と状態方程式の関係を説明できる。【知識・理解】 2) 熱力学第一法則や熱力学第二法則などの基本的な法則が説明できる。【知識・理解】 3) 内部エネルギー、エントロピー、ヘルムホルツの自由エネルギーなどの熱力学関数の相互の関係を説明できる。【知識・理解】 4) 測定可能な量と熱力学関数の関係を説明できる。【知識・理解】 5) 熱力学に関する基本的な問題を解くことができる。【知識・理解】 【技能】			
授業の概要			
多数の分子や原子からなる物質のマクロな性質を捉える学問である熱力学を学ぶ。熱力学第一法則（エネルギー保存則） および熱力学第二法則（エントロピー増大の法則）を理解し、これらをもとに、温度、圧力、体積などのマクロな物理量の振る舞いがどのようにして規定されるかを導出する。さらに、実験条件下の状態変化の可能性を表す熱力学ポテンシャルや化学ポテンシャルを導出し、物質の相境界や化学平衡の予測に応用する。また、熱力学が物理的・化学的な考え方の基礎になっていることを理解する。			
授業計画			
第1回：マクロな見方 第2回：マクロな仕事 第3回：熱力学座標 第4回：断熱と透熱 第5回：エントロピー 第6回：エントロピー増大則 第7回：温度と圧力 第8回：中間テストと中間まとめ 第9回：熱力学の基本式 第10回：サイクル過程 第11回：いろいろな物質 第12回：熱力学ポテンシャル 第13回：熱力学ポテンシャルの応用 第14回：物質の相 第15回：期末試験とまとめ			

テキスト

熱力学（岸根順一郎、裳華房）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

- ・ 期末試験の得点率が中間テストより低かった場合は小テスト(20点)、中間テスト（20点）、期末試験（60点）により評価する。
- ・ 期末試験の得点率が中間テスト以上であった場合は小テスト(20点)、期末試験（80点）により評価する。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：後藤みな
化学概論	必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 化学		
授業のテーマ及び到達目標			
授業では、化学の基礎的な内容（原子の構造や物質の三態変化、酸と塩基、化学平衡、酸化と還元、有機化学基礎）および、原子の探究の歴史といった化学史上重要な発見・展開について取り上げる。化学の基礎的な内容について理解するとともに、基本的な計算問題に取り組むことにより、化学的な思考力の強化を図る。			
授業の概要			
原子の構造や物質の三態など、化学の基礎的な内容を解説する。その上で、基本的な計算問題に取り組むことで、化学の基礎的な能力を高める。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、授業のねらい及び内容についての説明			
第2回：原子Ⅰ（原子の構造）			
第3回：原子Ⅱ（周期律、元素）			
第4回：原子Ⅲ（電子配置）			
第5回：物質の三態Ⅰ（気体、液体、固体）			
第6回：物質の三態Ⅱ（気体の法則）			
第7回：物質の三態Ⅲ（液晶、擬結晶、溶液）			
第8回：酸と塩基Ⅰ（酸、塩基、pH）			
第9回：酸と塩基Ⅱ（中和滴定、滴定曲線、指示薬）			
第10回：化学平衡Ⅰ（弱酸、弱塩基）			
第11回：化学平衡Ⅱ（溶解度積）			
第12回：酸化と還元Ⅰ（酸化、還元、イオン化傾向）			
第13回：酸化と還元Ⅱ（標準酸化還元電位、電池、電解）			
第14回：基礎有機化学（有機化合物の構造）			
第15回：授業のまとめ及び定期試験			
テキスト			
特になし			
参考書・参考資料等			
数研出版編集部[編]『視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』数研出版			
学生に対する評価			
定期試験及びレポートを総合して評価する。評価の割合は、定期試験70%・レポート30%。			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：後藤みな
化学演習	必修科目	1 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	・ 化学		
授業のテーマ及び到達目標			
化学概論で取り扱った化学の基礎的な内容を踏まえて、化学の専門領域で活用しうる能力を身につけるとともに、化学及び科学的な思考力を高める。			
授業の概要			
化学の基礎的項目の解説をした上で、各演習問題に取り組む。その中で生じた疑問や新知識について自ら調査・探究する。			
授業計画（各回2時間、計16時間を授業時間とする。）			
第1回：オリエンテーション、授業のねらい及び進め方			
第2回：原子と元素に関する演習			
第3回：物質の三態変化に関する演習			
第4回：酸と塩基に関する演習			
第5回：電池に関する演習			
第6回：コロイド溶液に関する演習			
第7回：物質の構に関する演習			
第8回：授業のまとめ及び定期試験			
テキスト			
特になし			
参考書・参考資料等			
数研出版編集部[編]『視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』数研出版			
学生に対する評価			
定期試験及び作業時の成績を総合して評価する。評価の割合は、定期試験60%・演習課題に対する発表40%。			

授業科目名： 無機化学I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：金井塚 勝彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・化学		
授業のテーマ及び到達目標			
目的： この授業では、無機化学についての基礎的な知識を得ることを目標にしています。特に、無機化合物について総合的に説明できるようになるため、元素の性質、結合、金属錯体の構造と性質について、体系的・理論的に学習します。			
到達目標： (1) 原子・分子の電子構造と化学結合などと関連付けて説明できる。【知識・理解】 (2) 周期表の元素をいくつかのブロックに分け、電子状態や性質、反応性について説明できる。【知識・理解】			
授業の概要			
無機化学の基礎的な内容について学習します。 キーワード：無機化学，s-, p-, d-, f-ブロック元素，HSAB理論，結合，バンド			
授業計画			
指定したテキストに沿って、講義形式で行ないます。到達度試験を2回実施します。			
第1回：ガイダンス			
第2回：元素と周期表			
第3回：分子とそのモデル			
第4回：イオン性固体と金属			
第5回：基礎無機反応			
第6回：主要族金属元素の化学1（主にアルカリ金属）			
第7回：主要族金属元素の化学2（主にアルカリ土類金属）			
第8回：主要族金属元素の化学3（主にアルミニウム）			
第9回：第2回～8回までの授業のまとめ（到達度試験を含む）			
第10回：主要族金属元素の化学4（主に亜鉛）			
第11回：非金属の化学1（主に水素）			
第12回：非金属の化学2（主にホウ素、窒素）			
第13回：非金属の化学3（主に酸素、ハロゲン）			
第14回：遷移金属の化学			
第15回：第10回～14回までの授業のまとめ（到達度試験を含む）			
定期試験			

テキスト
「基本無機化学」第3版（荻野・飛田・岡崎 著：東京化学同人）
参考書・参考資料等
参考書：「シュライバー・アトキンス無機化学（上）（下）」第4版（Atkins・Overton・Rourke・Weller・Armstrong著：東京化学同人）
学生に対する評価
授業の到達目標で示した無機化合物の電子構造と化学結合，性質，反応性について体系的・理論的に説明できることを合格の基準とします。 2回の到達度試験をそれぞれ50点（合計100点）で評価します。

授業科目名： 生物学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：滝澤 匡 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 生物学		
授業のテーマ及び到達目標 生物学の基礎を幅広く学習し、生命現象の機構について正しく理解し、中学・高校で生物を教える上で必要な知識を身につける。			
授業の概要 生物学への入門として物質～細胞～個体～種～群集の様々なレベルでの生命現象とその機構を学習する。復習教材として該当分野の教員採用試験の過去問題を使用し、理解度の確認と中学・高校教員としての活用できる知識の獲得を行う。			
授業計画 第1回：生物の基本情報・細胞 第2回：細胞 第3回：生体の構成要素・酵素 第4回：異化（呼吸） 第5回：異化（呼吸・発酵）・同化（炭酸同化） 第6回：同化（炭酸同化・窒素同化） 第7回：遺伝子（遺伝情報） 第8回：遺伝子（遺伝情報の発現） 第9回：遺伝情報の受け渡し（細胞分裂） 第10回：生殖 第11回：恒常性1（血液・器官） 第12回：恒常性2（ホルモン） 第13回：恒常性3（免疫） 第14回：神経・受容器・効果器 第15回：生態と環境 定期試験：理解度の確認のため、複数回の小テストを実施する。			
テキスト 改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録（数研出版）			
参考書・参考資料等 エッセンシャル・キャンベル生物学（丸善出版）			
学生に対する評価 小テスト（100％）			

授業科目名： 生物学演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：滝澤 匡 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生物学		
授業のテーマ及び到達目標 生命現象を読み解き、データを理解する演習を通じて、中学・高校で生物を教える上で思考力を身につける。			
授業の概要 様々なレベルの生命現象データを理解する学習を行い、科学的思考力の育成を図る。復習教材として該当分野の教員採用試験の過去問題を使用し、理解度の確認と中学・高校教員としての活用できる思考力を育成する。			
授業計画（各回2時間、計16時間を授業時間とする。） 第1回：同化（呼吸商および物質生産量の算出） 第2回：異化（グラフの読み取り・光合成量の算出） 第3回：遺伝子（遺伝子の複製・遺伝暗号の解読） 第4回：遺伝（メンデル遺伝・連鎖・組み換え） 第5回：恒常性（グラフの読み取り・ガス交換量・原尿の算出） 第6回：神経（興奮の伝達・伝導）・効果器（筋収縮のしくみ） 第7回：生態と環境（標識再捕獲法・キーストーン種・地球温暖化と生物の分布） 第8回：進化（分子進化と中立説・系統樹） 定期試験：理解度の確認のため、複数回の小テストを実施する。			
テキスト 改訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録（数研出版） これに加えて、毎回の授業で資料を配布する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 小テスト（100％）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：富松 裕
生態学Ⅰ	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	・生物学		
授業のテーマ及び到達目標			
生態学の基礎的な概念や理論を理解し、説明できることとする。			
授業の概要			
生態学は、生物の分布や多様性と、それに影響を及ぼす環境や相互作用について明らかにすることで、生態系の理解を深めようとする科学である。すなわち生態学は、自然を理解するための見方を与えてくれる。近年、身近な生物を守り、増やす重要性が注目されており、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復へと導くという世界的な目標（ネイチャーポジティブ）が設けられた。生態系とは何か？ なぜ多くの種が共存できるのか？ 本講義では、生態学における基本的な概念や理論、方法論について学ぶことを目的とする。			
授業計画			
第1回：生態学とは			
第2回：生態学と進化（1）適応進化と自然選択			
第3回：生態学と進化（2）様々な自然選択と他の進化プロセス			
第4回：環境と生物の分布			
第5回：デモグラフィーと個体群動態（1）個体群成長			
第6回：デモグラフィーと個体群動態（2）個体群動態の分析			
第7回：デモグラフィーと個体群動態（3）メタ個体群			
第8回：まとめ／中間小テスト			
第9回：種間相互作用（1）種間競争			
第10回：種間相互作用（2）捕食			
第11回：生態系におけるエネルギーと物質の流れ			
第12回：生物群集（1）種多様性			
第13回：生物群集（2）種間相互作用ネットワーク			
第14回：生物群集（3）生態系の機能と生物群集の安定性			
第15回：まとめ／期末試験			
テキスト			
日本生態学会編 「生態学入門 第2版」 東京化学同人、2012年.			
参考書・参考資料等			
池内昌彦他（監訳）エッセンシャル・キャンベル生物学. 丸善出版、2011年.			
Begon, M., Harper, J.L., Townsend, C.R. 生態学：個体から生態系へ. 京都大学学術出版会、2013年.			

学生に対する評価

課題 30%＋中間小テスト 30%＋期末試験 40%で評価を行う。

授業科目名： 地学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 竹林知大 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 地学		
授業のテーマ及び到達目標 地球科学の基礎知識を身につけ、惑星の進化や私たちの暮らしに密接に関わる地震・火山活動についての理解を深める。さらに、地球の自然現象を地球システムの視点から考察できる力を養う。			
授業の概要 地球科学の基本を学ぶ講義であり、宇宙、大気、岩石、鉱物、海洋、極域環境、などを最新のデータに基づきながら講義を行う。銀河系・太陽系、固体地球、大気・海洋の基礎について、テキストの図表や標本を活用しながら講義を行う。また自然現象として地震、火山、気象等の時事的な話題も授業で取りあげる			
授業計画 第1回 地球科学とは、太陽系・地球の誕生と進化 第2回 地球内部構造、マントル物質、メガマリオン 第3回 プレートテクトニクス(1)海嶺とトランスフォーム断層 第4回 プレートテクトニクス(2)沈み込み・衝突帯 第5回 岩石・鉱物の多様性、含水鉱物 第6回 地震 第7回 海洋環境・海洋地質・深海環境 第8回 鉱床・鉱物資源・レアアース 第9回 地球史(絶滅古生物・生物多様性) 第10回 気候変動・気象・スノーボールアース 第11回 野外地質調査の基礎 第12回 銀河系・星雲・太陽系の基本構造 第13回 堆積岩・タービダイト・砂 第14回 アストロバイオロジー 第15回 宇宙・地球科学研究の展望			
テキスト テキストは特になし。適宜、資料を配付する。			
参考書・参考資料等 松原聡 ほか (2021).『図説 鉱物の博物学 第2版』, 秀和システム。 萩谷 宏ほか (2022).『新版 岩石・鉱物・化石 DVD つき (小学館の図鑑 NEO 18)』, 小学館。			
学生に対する評価 主にレポート課題(60%)に基づく。なお授業中の議論や観察実験等の取り組み(40%)など考慮して総合的に評価します。レポートでは先行研究のデータに基づき論理的な記述を求めます。			

授業科目名： 地学演習		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：竹林知大 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・地学		
授業のテーマ及び到達目標 岩石・鉱物・宝石・隕石・化石の成因について学び、宇宙・地球科学の教育への応用について議論する。多様な標本を実際に観察し、論文を読解することで、46億年にわたる地球史とプレートテクトニクスへの理解を深める。				
授業の概要 本授業は、地学概論の応用編にあたる。岩石・鉱物・宝石・隕石・化石の成因について、観察や論文を活用しながら講義を行う。さらに、文献をもとにした課題を提示し、プレゼンテーションを通じて地球史やプレートテクトニクスに関する発表を行う。				
授業計画（各回2時間、計16時間を授業時間とする。） 第1回 鉱物学;物理・化学的特性（形, 色, 劈開, 光沢, 透明度、蛍光） 第2回 包有鉱物・流体包有物の解析手法 第3回 水循環、鉱物と水(含水鉱物と非含水鉱物) 第4回 鉱物資源の基礎(鉱床学、海洋地質探査) 第5回 国際深海科学掘削計画(IODP ³);「ちきゅう」や「しんかい6500」 第6回 地球外物質、小惑星、隕石、衝撃変成作用 第7回 プレートテクトニクスとブルームテクトニクス 第8回 課題発表(プレゼンテーション)および鉱物学研究の最前線				
テキスト 講義中に適宜プリント等を配布します。				
参考書・参考資料等 周藤 賢治, 小山内 康人 (2002). 岩石学概論 上 記載岩石学(CD-ROM付): 岩石学のための情報収集マニュアル, 共立出版 周藤 賢治, 小山内 康人 (2002). 岩石学概論 下 記載岩石学(CD-ROM付): 岩石学のための情報収集マニュアル, 共立出版 月村 勝宏 (2023). 地球 46 億年 物質大循環 地球は巨大な熱機関である (ブルーバックス), 講談社				
学生に対する評価 主として試験の結果(50%)に基づくが、授業の際に与える課題の提出状況(50%)など考慮して総合的に評価します。データや引用文献に基づいた論理的な説明に基づいているかを重視します。				

授業科目名： 地球環境史論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：竹林知大 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 地学		
授業のテーマ及び到達目標 地球46億年の歴史が生み出した動植物や岩石・鉱物の多様性を学び、過去から現在に至る地球と生命の進化を理解する。さらに過去の地球環境を探るために、地球科学の最新研究や多様な標本を活用し、未来の地球環境を予測する力を養う。			
授業の概要 本講義では、地球46億年の歴史を理解するために重要な岩石・鉱物・化石を紹介し、世界各国の地球環境史を紐解く上で鍵となる地域を取り上げる。また、環境問題の解決を目指す地球科学の研究分野や、日本の産業技術との関連性にも触れながら授業を展開する。環境教育を考える上で、「地球システム学」を基盤とした視点を重視する。			
授業計画 第1回 オリエンテーション, 地球環境概説 第2回 地球環境議論1:水循環・物質循環 第3回 地球環境議論2:海洋環境・マイクロプラスチックごみ問題 第4回 地球環境議論3:生物多様性;繁栄と絶滅 第5回 地球環境議論4:気候変動;地球温暖化と寒冷化 第6回 地球環境議論5:エネルギー環境問題 第7回 地球環境議論6:鉱床学, 鉱物資源問題;陸上資源・深海底資源 第8回 地球環境議論7:自然災害(地震・津波・火山・豪雪・台風など) 第9回 地球環境議論8:自然観察法の基本 第10回 地球環境議論9:人口問題 第11回 地球環境議論10:国立公園, ジオパーク, 自然観察指導法 第12回 地球環境議論11:変成岩から読み解く地球環境の変化 第13回 地球環境議論12:身近な地球環境問題 第14回 プレゼンテーションと議論 第15回 持続可能な社会の創造に寄与する環境教育の在り方について			
テキスト 授業中にプリント等を配布します。			
参考書・参考資料等 内田 悦生ほか（2019）『地球・環境・資源：地球と人類の共生をめざして 第二版』（地球環境・資源についての解説書です） 月村 勝宏（2023）.『地球 46 億年 物質大循環 地球は巨大な熱機関である（ブルーバックス）』（地球物質循環や地球史についてまとめられた新書です。） 国立教育政策研究所教育課程研究センター(2016)『環境教育指導資料（中学校編）』			

学生に対する評価

評価基準を基に、授業中に課す小レポートや実地体験報告書及びグループワークの成果報告書等の各種レポート（80%），発表や活動の内容及び授業中の態度（意欲等）（20%）を総合（合計100%）して評価する。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：本山 功
地質・古生物学I	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	・地学		
授業のテーマ及び到達目標			
地球の歴史には、大陸移動や山脈の形成といった固体地球（岩石圏）の変動の歴史と、その上に広がる気圏・水圏・生物圏の歴史とがある。その痕跡は岩石・鉱物・地層・化石・氷などの地質学的記録媒体中に保存される。他の惑星には知られていない地球特有の生命の歴史も同様に地質学的記録として見出される。この授業では、地球の歴史をひも解く上で鍵となる地質学・古生物学の基礎と、地球の構造、山脈や大陸の形成、太陽系誕生以来の地球表層環境と生命の変遷を概観する。			
到達目標(1)地質学・古生物学の基礎を理解し、説明できるようになる。			
到達目標(2)変動する地球についての基礎的理解とイメージを持つことができるようになる。			
授業の概要			
プレートテクトニクス，地殻変動，地震，火山，地質時代，地層，化石，大量絶滅，気候変動，宇宙，太陽系，気象，海洋，温暖化，自然災害の項目について解説する。			
授業計画			
第1回：地球の歴史を学ぶ意味・ガイダンス			
第2回：地球の構造（地殻・マントル・コア）			
第3回：プレートテクトニクス・地震・断層			
第4回：地殻変動			
第5回：火山とマグマ			
第6回：地層と化石			
第7回：地質調査法			
第8回：古生物調査法			
第9回：海洋底調査法			
第10回：宇宙・太陽系・地球の誕生			
第11回：地質時代（古生代・中生代・新生代）			
第12回：生命の歴史・大量絶滅			
第13回：気象と気候			
第14回：温暖化と異常気象			
第15回：地質と災害			
定期試験			
テキスト			
「ニューステージ新地学図表」浜島書店			

参考書・参考資料等

「地球全史スーパー年表」清川昌一・伊藤 孝ほか，岩波書店

「日本列島の誕生」平 朝彦，岩波新書

「生命と地球の歴史」丸山茂徳・磯崎行雄，岩波新書

「やさしい気候学」仁科淳司，古今書院

学生に対する評価

・基準

講義の到達目標で示した地質学・古生物学および地球の歴史に関する基本的な概念や用語を正しく理解していることを合格の基準とする。上記参考書レベルの理解が達成されたかどうかを評価基準とする。

・方法

小テスト，レポート，期末試験の割合を3：3：4程度とする．到達目標(1)と(2)の割合を7：3程度とする。オンライン方式（WebClass）の場合には、各回の課題の得点を総合して評価する。

授業科目名： 物理学実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：津留 俊英 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」		
授業のテーマ及び到達目標 力学・波動・電磁気学・熱力学・原子物理学などの基礎的な実験を行い、機器の使い方・測定方法・データ処理方法について理解する。物理学の基本的な実験技術を習得するとともに、実験を通して講義で学習した内容の理解を深める。			
授業の概要 毎回異なる物理学の基本的な実験を行い、実験機器の取り扱いや物理データの取得方法を習得する。また、レポートを通して実験データの処理方法や物理的な考察法について学ぶ。			
授業計画 第1回: ガイダンス、実験・レポートについて諸注意 第2回: 金属機械加工 第3回: 電気工作実習 第4回: 比熱の測定 第5回: 重力加速度の測定 第6回: 音速の測定 第7回: 光のスペクトル 第8回: 等電位線 第9回: 電気抵抗の温度変化 第10回: 直列共振回路 第11回: 電子の比電荷 第12回: プランク定数の測定 第13回: コンピュータ・プログラミング(講義と実習) 第14回: コンピュータ・プログラミング(単振り子のシミュレーション) 第15回: まとめ			
テキスト 特になし。実験指導書を配布する。			
参考書・参考資料等 数研出版編集部編：視覚でとらえるフォトサイエンス物理図録（数研出版）			
学生に対する評価 主として実験レポートの評価(80%)に基づくが、実験への取り組み方(20%)など考慮して総合的に評価する。レポートは、データを適切に処理しているか、論理的な記述に基づいているか、詳細な考察を行っているか、を中心に評価する。			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：後藤みな
化学実験	必修科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」		
授業のテーマ及び到達目標 化学概論で取り扱った化学の基礎的な内容を踏まえて、化学の基礎的な実験を行い、実験器具及び化学薬品の取り扱い方について理解するとともに、実験データの処理方法を習得する。			
授業の概要 化学の基本的な実験を行い、実験器具及び化学薬品の取り扱い方や実験データの取得方法を解説する。実験結果に基づいてレポート作成することを通して、実験データの基本的な処理方法や化学的な考察方法を習得する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、実験・レポートについて諸注意 第2回：強酸と強塩基の中和滴定 第3回：弱酸と強塩基の中和滴定 第4回：融点の測定 第5回：沸点の測定 第6回：分子量の測定 第7回：物質の熱分解 第8回：物質の電気分解 第9回：物質の加水分解 第10回：電池 第11回：染料の合成 第12回：染色 第13回：未知固体試料の特定 第14回：未知液体試料の特定 第15回：授業のまとめ			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 松浦二郎他『無機半微量分析』東京化学同人			
学生に対する評価 実験レポート及び実験への取り組み方を総合して評価する。評価の割合は、実験レポート80%・実験への取り組み20%。			

授業科目名： 生物学実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：滝澤 匡 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」		
授業のテーマ及び到達目標 中学校理科および高等学校の「生物基礎」・「生物」の教科書に記載されている生物分野の実験を実施および指導することができるようになる。			
授業の概要 事前に配布する方法や留意点を記載した資料を読み込んだうえで、個人が実験結果を得られるよう学習し、技術の獲得・向上をはかる。安全面での注意点は教員が直接指導する。			
授業計画 第1回：顕微鏡の使い方・オオカナダモの原形質流動 第2回：植物細胞の観察（タマネギの表皮細胞） 第3回：植物の葉の構造（双子葉植物） 第4回：植物の葉の構造（単子葉植物） 第5回：維管束の観察（単子葉植物） 第6回：維管束の観察（双子葉植物） 第7回：ユスリカの唾液染色体の観察 第8回：生物の採取・捕獲（脊椎動物） 第9回：生物の採取・捕獲（無脊椎動物） 第10回：ミジンコ・ゾウリムシの観察 第11回：減数分裂の観察（ムラサキツユクサ） 第12回：減数分裂の観察（ブライダルベール） 第13回：無脊椎動物の解剖 第14回：身近な生物を使った食物連鎖の実験（植物—アブラムシーテントウムシの実験） 第15回：身近な生物を使った食物連鎖の観察（カエル）・データ解析 定期試験：実施しません			
テキスト 毎回の授業で資料を配布する。また推薦できる「参考図書」を授業内で紹介します。			
参考書・参考資料等 フローチャート標準生物学実験（実教出版）・生物学実験 増補版（東海大学出版会）			
学生に対する評価 レポート・スケッチ（60%）・指導マニュアル（40%）			

授業科目名： 地学実験		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2 単位		担当教員名：竹林知大 担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験 ・「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」					
授業のテーマ及び到達目標 岩石・鉱物・宝石・隕石・化石を実際に手に取って観察して、化学的・物理学的に考察し、惑星の進化や歴史について理解を深める手法を身に着ける。野外授業では、自然科学における野外調査の基本と安全確認について学習する。							
授業の概要 本授業では、岩石や鉱物の切断・研磨・鏡面加工を行い、厚さ25μmの薄片を作製する。作製した薄片を用いて、造岩鉱物や組織の記載・記述を行う。観察対象の岩石は、中学校理科の地学分野で扱われる火成岩に加え、受講者が興味を持った岩石も含める。また、野外での岩石・鉱物の観察も行う。							
授業計画 第1回 鉱物の物理学実験(劈開、屈折、蛍光、硬度) 第2回 岩石・鉱物の標本製作 第3回 砂の標本づくり 第4回 地質図。衛星画像の使い方、岩石・砂の観察と地質図の比較 第5回 偏光板・偏光顕微鏡の基本 第6回 偏光顕微鏡観察実験(火成岩) 第7回 偏光顕微鏡観察実験(変成岩) 第8回 偏光顕微鏡観察実験(堆積岩) 第9回 岩石・鉱物についてのプレゼンテーション 第10回 野外巡検または博物館見学 第11回 岩石切断と断面研磨 第12回 天体望遠鏡の使い方、ダジックアース、星空教材写真撮影技法 第13回 情報地球科学基礎;Hi-net/K-net地震情報 第14回 山形の自然に関するプレゼンテーション・討論 第15回 地球システム学としての総説							
テキスト 適宜プリント等を配布する。							
参考書・参考資料等 黒田 吉益, 諏訪 兼位 (1983). 『偏光顕微鏡と岩石鉱物 第2版』, 共立出版. *岩石学において学部生から大学院生まで使用できる偏光顕微鏡観察の名著。 松原聰 ほか (2021). 『図説 鉱物の博物学 第2版』, 秀和システム; *岩石と鉱物について細かく記載され, 地球科学の基本的な解説も充実している。 Alessandro Da Mommio (2006~). 『Thin section』, http://www.alexstrekeisen.it/english/ (言語: 英語又はイタリア語) .							

学生に対する評価

レポート報告または発表（90％）に基づく。自分の観察に基づいて論理的に説明できていることが求められる。授業中課題（10％）は、授業中のワークシートまたは実験ノートの記事を評価する。

授業科目名： STEAM教育論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 津留 俊英, 竹林 知大 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、STEAM教育の考え方や実践例について学び、その基本的な構造を理解することを目指す。また、身近な自然現象や科学技術に関する課題や疑問を見つけ出し、それらをデータに基づいて観察・調査・分析した上で、論理的かつ適切に説明し、記述する力を身につけることを目指す。			
授業の概要 本授業では、STEAM教育(STEM教育)の専門的な知識や概念について、国内外の事例を交えながら学ぶ。また、自然科学や工学の分野における実験や観察活動を通じて、得られた数値データを基に考察し、そのまとめ方についても学習する。			
授業計画 第1回: ガイダンス、授業の進め方と諸注意(担当:竹林知大) 第2回: STEMとSTEAM教育の基本概念(担当:竹林知大) 第3回: 惑星・地球科学分野における科学・工学・数学の要(担当:竹林知大) 第4回: サイエンスコミュニケーション(担当:竹林知大) 第5回: 惑星・地球科学分野におけるSTEAM教育(担当:竹林知大) 第6回: 海洋科学分野におけるSTEAM教育(担当:竹林知大) 第7回: 惑星・地球科学分野におけるSTEMとSTEAMに関する課題発表(担当:竹林知大) 第8回: プログラミング教育とSTEAM教育(担当:津留俊英) 第9回: プログラミングの基礎(担当:津留俊英) 第10回: プログラミングの応用(担当:津留俊英) 第11回: プログラミングの理科授業への展開(担当:津留俊英) 第12回: モノづくりとSTEAM教育(担当:津留俊英) 第13回: モノづくりのための設計と製作法(担当:津留俊英) 第14回: プログラミングまたはモノづくりに関する成果発表(担当:津留俊英) 第15回: 総まとめ(担当:竹林知大)			
テキスト 適宜テキスト:プリントや資料等を配布する。			
参考書・参考資料等 Next Generation Science Standards (NGSS): https://www.nextgenscience.org/ ;国立教育政策研究所による和訳: https://www.nier.go.jp/shirouzu/translation/ngss-first.pdf . JAMSTEC海洋STEAM教材ライブラリー: https://www.jamstec.go.jp/steam/			
学生に対する評価 主として実験レポートや発表等での評価(70%)に基づくが、実験への取り組み方(30%)など考慮して総合的に評価する。レポートは、データを適切に処理しているか、論理的な記述に基づいているか、詳細な考察を行っているか、を中心に評価する。			

授業科目名： 中等理科実験		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 津留俊英、後藤みな、滝澤匡、 竹林知大、鈴木宏昭 担当形態：オムニバス
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、中学校及び高等学校の教員に必要とされる理科授業における観察や実験に関する専門的知識と観察や実験の技能等を習得することを目的とする。				
授業の概要 中学校及び高等学校理科の内容構成の柱である「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の領域に対応した「物理」「化学」「生物」「地学」「理科教育」にかかわる専門的な知識と観察・実験などを取り上げ、講義を行う。また、講義中に行う実験においてレポートを作成することにより、科学の研究方法、数値データの取り扱い方やまとめ方を習得する。				
授業計画 第1回: ガイダンス/中学校及び高等学校理科の内容とその指導について全般的な解説(担当:津留俊英) 第2回: 物理学領域の基礎実験①(電気回路の作り方) (担当:津留俊英) 第3回: 物理学領域の基礎実験②(電磁石の取り扱い方) (担当:津留俊英) 第4回: 物理学領域の基礎実験③(光学器具の取り扱い方) (担当:津留俊英) 第5回: 化学領域の基礎実験①(ガラス器具の取り扱い方) (担当:後藤みな) 第6回: 化学領域の基礎実験②(化学薬品の取り扱い方) (担当:後藤みな) 第7回: 化学領域の基礎実験③(加熱器具の取り扱い方) (担当:後藤みな) 第8回: 生物学領域の基礎実験①(身近な環境における食物連鎖の観察)(担当:滝澤匡) 第9回: 生物学領域の基礎実験②(昆虫類を用いた食物連鎖の実験1) (担当:滝澤匡) 第10回: 生物学領域の基礎実験③(昆虫類を用いた食物連鎖の実験2・データのまとめ方)(担当:滝澤匡) 第11回: 地学領域の基礎実験①(望遠鏡や天文学教材の取り扱い方)(担当:竹林知大) 第12回: 地学領域の基礎実験②(鉱物の物性実験)(担当:竹林知大) 第13回: 地学領域の基礎実験③(岩石顕微鏡や機器分析実験)(担当:竹林知大) 第14回: 理科教育領域の基礎実験①(理科授業における実験の意義)(担当:鈴木宏昭) 第15回: 理科教育領域の基礎実験②(理科授業における安全指導)(担当:鈴木宏昭)				
テキスト テキストは特になし。適宜、資料を配付する。				
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説 理科編(平成29年7月 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編(平成 30 年 7 月 文部科学省)				
学生に対する評価 物理学、化学、生物学、地学、理科教育の領域ごとに課すレポートで評価する(5 領域×20%)。				

授業科目名： 理科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：後藤みな 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
中学校及び高等学校理科の現状と課題を捉えるとともに、中学校及び高等学校の学習指導要領（理科）の目標や内容等を理解する。また、中学及び高等学校理科の学習論、評価論を踏まえて理科授業のあり方について理解を深め、学習指導等に関する資質・能力の向上を図る。			
授業の概要			
国内外の学力調査等の結果を踏まえつつ、中学及び高等学校における理科教育の現状と課題、中学校及び高等学校学習指導要領の目標、内容、指導上の留意点等について解説する。その上で、中学校又は高等学校理科の学習指導案を作成して模擬授業を実施する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、中学及び高等学校での理科に関する経験や関心			
第2回：欧米の科学教育と日本の戦後理科教育の史的変遷			
第3回：今日の理科教育の基本的考え方			
第4回：中学校及び高等学校学習指導要領における理科の目標			
第5回：中学校及び高等学校学習指導要領における理科の内容			
第6回：学力調査の結果と中学校及び高等学校理科の課題			
第7回：生徒の自然事象の理解			
第8回：理科の学習論（アクティブ・ラーニング）			
第9回：理科の評価論（オーセンティックアセスメント）			
第10回：理科の内容構成（物理、化学、生物、地学）			
第11回：理科の教材研究と学習指導（ICT教材の活用を含む）			
第12回：模認授業の計画（学習指導案の作成を含む）			
第13回：模認授業の発表			
第14回：模認授業の省察			
第15回：授業のまとめ及び定期試験			
テキスト			
中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月文部科学省）			
高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月文部科学省）			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配布する			

学生に対する評価

定期試験、レポート、模擬授業時の発表を総合して評価する。評価の割合は、定期試験60%、模擬授業・レポート40%とする。

授業科目名： 理科の教材分析A	教員の免許状取得のための 必修科目(中学校) 選択科目(高等学校)	単位数： 2単位	担当教員名：津留 俊英 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 理科の物理学分野の具体的な単元の内容に基づく教材を開発することを通して、理科の指導力の基礎を確かにすることをねらいとする。理科の今日的な課題としては、例えば、科学的な思考力や表現力の向上がある。こうした課題から主題を定め、単元の内容に基づく教材を実践的な教材の提案を目指す。			
授業の概要 本授業は、物理学から見た理科の今日的課題、具体的な単元内容に基づく教材の開発、発表会、振り返り、で構成される。情報通信機器やプログラミング教材を活用した新規教材の提案と、一般的に用いられている物理学分野の教材の改善や開発を行い、実践的な教材開発能力を育成する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション/講義のねらい及び進め方についての説明 第2回：物理学から見た理科の今日的課題(教材開発や実験指導を中心に) 第3回：情報通信機器やプログラミング教材を利用した物理学分野の課題設定 第4回：情報通信機器やプログラミング教材を利用した物理学分野の教材開発構想 第5回：情報通信機器やプログラミング教材を利用した物理学分野の教材開発の内容検討 第6回：情報通信機器やプログラミング教材を利用した物理学分野の模擬授業 第7回：物理学分野の課題設定 第8回：物理学分野の教材開発構想 第9回：物理学分野の教材開発の内容検討 第10回：物理学分野の開発教材を用いた実験結果の発表 第11回：物理学分野の教材改良点の検討 第12回：物理学分野の学習指導案の作成 第13回：物理学分野の学習指導案の発表 第14回：物理学分野の模擬授業 第15回：まとめと振り返り			
テキスト テキストは特になし。適宜、資料を配付する。			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説 理科編(平成29年7月 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編(平成30年7月 文部科学省)			
学生に対する評価 模擬授業時の発表(70%)とレポート(30%)を総合して評価する。データなどを適切に処理し論理的な記述(発表)に努めているか、実用的な教材を提案しているかを中心に評価する。			

授業科目名： 理科の教材分析B	教員の免許状取得のための 必修科目(中学校) 選択科目(高等学校)	単位数： 2単位	担当教員名： 竹林知大、滝澤匡 担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標 理科の地学・生物学分野の具体的な単元の内容に基づく教材開発を通して、理科の指導力の基礎を確かにすることをねらいとする。理科の今日的な課題としては、例えば、科学的な思考力や表現力の向上がある。こうした課題から主題を定め、単元の内容に基づく教材を実践的な教材の提案を目指す。			
授業の概要 本授業は、地学・生物学から見た理科の今日的課題、具体的な単元内容に基づく教材の開発、発表会、振り返りで構成される。一般的に用いられている地学・生物学分野の教材の改善や開発を行い、実践的な教材開発能力を育成する。			
授業計画 第1回：ガイダンス（担当：竹林知大、滝澤匡） 第2回：室内での地学分野における教材活用実践（担当：竹林知大） 第3回：野外での地学分野における教材活用実践・GPS等のICT教材の活用（担当：竹林知大） 第4回：地球史分野における教材開発の内容検討（担当：竹林知大） 第5回：天文・気象等におけるICT教材を活用した教材開発の検討（担当：竹林知大） 第6回：固体地球科学分野における教材開発の内容検討（個人ワーク）（担当：竹林知大） 第7回：地球科学におけるICTを活用した教材開発の検討（グループワーク）（担当：竹林知大） 第8回：地学分野におけるICT教材を活用した模擬授業・振り返り（担当：竹林知大） 第9回：生物学からみた理科の今日的課題（教材開発や実験指導を中心に）（担当：滝澤匡） 第10回：生物学分野の現状分析（担当：滝澤匡） 第11回：生物学分野の課題設定（担当：滝澤匡） 第12回：生物学分野の教材開発構想と具体的な内容の検討（個人ワーク）（ICT教材の活用を含む）（担当：滝澤匡） 第13回：生物学分野の教材開発構想と具体的な内容の検討（グループワーク）（ICT教材の活用を含む）（担当：滝澤匡） 第14回：生物学分野の模擬授業（ICT教材の活用を含む）（担当：滝澤匡） 第15回：生物学分野の模擬授業・振り返り（ICT教材の活用を含む）（担当：滝澤匡） 定期試験は実施しない			
テキスト テキストは特になし。適宜、資料を配付する。			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説 理科編(平成29年7月 文部科学省) 高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編(平成30年7月 文部科学省)			

学生に対する評価

模擬授業の発表(70%)とレポート(30%)を両担当教員が総合的に評価する。教材開発にむけた課題意識の明確化と独自性，専門科学の基礎的理解，発表内容の具体性と論理性を基準とする。

授業科目名： 理科実践演習	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木宏昭 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校及び高等学校の理科を教える教員としての必要とされる授業を構成し、実践する力を身につけることを目標とする。			
授業の概要 現代理科教育の動向を踏まえつつ、理科の内容構成論、教授・学習論、教材論をはじめとした理科教育の理論と実践について解説する。その上で、学習指導要領で規定されている理科の内容構成に基づき具体的な教材の分析と開発を行う。さらに、開発した理科の教材を用いて模擬授業等を実施する。			
授業計画 第1回：ガイダンス、理科授業の実際（実際の理科授業のビデオ視聴） 第2回：中学校と高等学校における理科の授業研究 第3回：理科の内容構成（「エネルギー」及び「粒子」領域）と学習評価 第4回：理科の内容構成（「生命」及び「地球」領域）と学習評価 第5回：理科教授学習論（構成主義学習論、理科におけるアクティブラーニングなど） 第6回：理科における教材（ICT教材を含む）の分析と開発 第7回：理科における「エネルギー」領域教材の分析と開発 第8回：理科における「粒子」領域教材の分析と開発 第9回：理科における「生命」領域教材の分析と開発 第10回：理科における「地球」領域教材の分析と開発 第11回：理科授業の計画・発表（学習指導案の作成を含む） 第12回：学習指導案に基づく模擬授業の実施 第13回：理科授業の検討（学習指導案の修正） 第14回：修正した学習指導案に基づく模擬授業の実施 第15回：模擬授業の振り返り、授業のまとめ及び定期試験			
テキスト 中学校学習指導要領解説 理科編（平成29年6月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編（平成30年7月 文部科学省）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			

学生に対する評価

レポート、模擬授業時の発表を総合して評価する。

評価の割合は模擬授業・レポート40%、定期試験60%

授業科目名： ソルフェージュ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：名倉明子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ ソルフェージュ		
授業のテーマ及び到達目標 楽器を演奏したり、歌ったりする上で必要な音楽の基礎的な能力を高める。 1） 音楽の基礎的理論を理解し正しく楽譜を書くことができる。 2） リズムを叩きながら歌う、ピアノを弾きながら歌うことができる。 3） 演奏にあたって適切な音楽表現ができる。 4） 単旋律、副旋律、四声体の聴音ができる。			
授業の概要 音楽の基礎的な理論知識が備わっているかを確認した上で、楽譜を読むことと音を聞き取ることを中心とした基礎的訓練を行う。それらの訓練を通して、リズム感、音程感、調性感、拍子感を涵養する。			
授業計画 第1回：ガイダンス（授業の概要と進め方） 第2回：正しい楽譜の書き方 第3回：拍子について（単純拍子と複合拍子） 第4回：調性について（長調と短調） 第5回：リズム打ちを伴う課題による新曲視唱①（長調） 第6回：リズム打ちを伴う課題による新曲視唱②（短調） 第7回：リズム打ちを伴う課題による新曲視唱③（転調を含む） 第8回：ピアノ弾き歌い①（単純拍子・長調） 第9回：ピアノ弾き歌い②（単純拍子・短調） 第10回：ピアノ弾き歌い③（複合拍子・長調） 第11回：ピアノ弾き歌い④（複合拍子・短調） 第12回：聴音①（単旋律） 第13回：聴音②（副旋律） 第14回：聴音③（四声体） 第15回：聴音④（総合） 定期試験			
テキスト 授業時に必要なプリントを配布する。			
参考書・参考資料等 久木山直『リズム練習とソルフェージュ2』全音楽譜出版社 菊池有恒『楽典 音楽家を志す人のための』音楽之友社			
学生に対する評価 定期試験（80％）、授業内の取り組み（20％）			

授業科目名： 声楽A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：深瀬廉 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ① 声楽実技の基礎について発声法と呼吸法を理解し、実践できる。 ② イタリア古典歌曲程度の歌曲を演奏できる。			
授業の概要 発声法・呼吸法を実践的に学修することで、基礎的な声楽技術を身につける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：教材の説明及びイタリア語の読み方 第2回：呼吸法の基礎：腹式呼吸と胸式呼吸 第3回：呼吸法の基礎：力みと重心の移動 第4回：発声法の基礎：呼吸と発声練習 第5回：発声法の基礎：頭声と胸声 第6回：発声法の実践：母音唱法 第7回：コンコーネ50番の演奏法 第8回：リズムを伴う効果的なイタリア語の読み方 第9回：イタリア古典歌曲の演奏実践：レガート唱法 第10回：イタリア古典歌曲の演奏実践：適切な母音の形 第11回：イタリア古典歌曲の演奏実践：口腔内の空間 第12回：イタリア古典歌曲の演奏実践：高音への跳躍 第13回：イタリア古典歌曲の演奏実践：強弱を中心とした音楽表現 第14回：イタリア古典歌曲の演奏実践：歌詞の内容に基づく歌唱表現 第15回：定期試験と省察			
テキスト コンコーネ50番（畑中良輔編、全音楽譜出版社） イタリア古典歌曲集（出版社は指定しない）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 定期試験（50％）及び授業の内容理解に関するレポート（50％）を基に総合的に判定する。			

授業科目名： 声楽B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：深瀬廉 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ① 発声法の原理を理解し、実践できる。 ② 作品の時代に応じた様式感を理解して音楽を表現できる。 ③ イタリア語・ドイツ語・英語・日本語の発音法を理解し、歌唱において応用できる。 -			
授業の概要 発声法と呼吸法を実践的に学習し、イタリア古典歌曲、ドイツ歌曲、英米歌曲、日本歌曲を演奏できる能力を身につける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：発声法の基礎 第2回：イタリア古典歌曲の演奏実践：呼吸法と発声法の関連性 第3回：イタリア古典歌曲の演奏実践：オペラアリアとしての理解 第4回：イタリア古典歌曲の演奏実践：感情表現と発声法の均衡 第5回：ドイツ語の発音法 第6回：ドイツ歌曲の演奏実践：ドイツ語とレガート唱法 第7回：ドイツ歌曲の演奏実践：子音と母音 第8回：英語の発音法 第9回：英米歌曲の演奏実践：英語とレガート唱法 第10回：英米歌曲の演奏実践：子音と母音 第11回：日本語の発音法 第12回：日本歌曲の演奏実践：日本語とレガート唱法 第13回：日本歌曲の演奏実践：母音の充実 第14回：日本歌曲の演奏実践：詩の解釈と音楽表現 第15回：定期試験と省察			
テキスト イタリア古典歌曲集（出版社は指定しない）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。			
学生に対する評価 定期試験（50％）及び授業の内容理解に関するレポート（50％）を基に総合的に判定する。			

授業科目名： 合唱基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡辺修身、深瀬廉 担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
① 発声法と呼吸法の基礎を身につけ、よく響きあう音作りを行うことができる。			
② 各パートの役割を理解し、集団による音楽表現に寄与することができる。			
授業の概要			
基礎的な声楽技術を学修しながら、合唱作品を教材として声の重なりによる豊かな音楽表現を目指す。パート練習の運営方法や各パートの役割を理解し、一つの作品としてまとめ上げる過程で個々のアンサンブル能力の向上を目指す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：音楽科教育における合唱（担当：渡辺、深瀬）			
第2回：ラテン語テキストの意味と読み方（担当：渡辺）			
第3回：ルネサンス・バロック期の作品におけるパート練習のあり方・パートの役割について（担当：渡辺、深瀬）			
第4回：ルネサンス・バロック期の作品を題材とした発声法・呼吸法の基礎（担当：深瀬）			
第5回：ルネサンス・バロック期の作品における音程に着目したハーモニー構築（担当：渡辺）			
第6回：ルネサンス・バロック期の作品特有のリズムを重視した音楽表現（担当：深瀬）			
第7回：ルネサンス・バロック期の音楽表現の総合的視点からの追求（担当：渡辺、深瀬）			
第8回：日本語の合唱作品におけるパート練習のあり方・パートの役割について（担当：渡辺、深瀬）			
第9回：日本語の詩の内容と歌唱時の読み方（担当：深瀬）			
第10回：日本語の合唱作品を題材とした日本語における発声法の基礎（担当：深瀬）			
第11回：日本語の合唱作品における旋律と他声部の関わり（担当：渡辺）			
第12回：日本語の合唱作品の音楽記号から考察する音楽表現（担当：渡辺）			
第13回：日本語の合唱作品の音楽表現の総合的視点からの追求（担当：渡辺、深瀬）			
第14回：日本語作品と外国語作品の類似点と相違点（担当：渡辺、深瀬）			
第15回：まとめ（演奏に対する省察を含む）（担当：渡辺、深瀬）			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
合唱曲の楽譜			
参考書・参考資料等			
ミサ曲・ラテン語・教会音楽 ハンドブック（三ヶ尻正著、株式会社ハンナ）			
学生に対する評価			
① 全体授業での方向性を理解し努力したか。			
② 内容に対する理解や授業過程での工夫が見られたか。			
③ 授業に積極的であったか。			
上記の評価基準に則り、期末レポート（60%）と平常点（40%）を加味して総合的に判定する。			

授業科目名： 合唱応用	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡辺修身、深瀬廉 担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
① パート毎の音楽を充実させ、全体の豊かな音作りに寄与することができる。			
② 言語・様式感の異なる邦人作品と外国語ロマン派作品を歌い分けることができる。			
授業の概要			
少人数のアンサンブルのための合唱作品を教材として、基礎的な発声法を活用しながら各声部の充実した音楽表現を目指す。言語や様式の違いを理解した上で、質の高いハーモニーに基づく合唱表現を目指す。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：アンサンブルへの理解と合唱教材の選定（担当：渡辺、深瀬）			
第2回：ドイツ語テキストの意味と読み方（担当：渡辺）			
第3回：ロマン派のドイツ語作品を題材とした発声法・呼吸法の基礎（担当：深瀬）			
第4回：ロマン派の作品におけるパート練習のあり方・パートの役割について（担当：渡辺）			
第5回：ロマン派のドイツ語作品における旋律に主眼を置いたハーモニー構築（担当：深瀬）			
第6回：ロマン派のドイツ語作品の和声を理解した音楽表現（担当：渡辺、深瀬）			
第7回：ロマン派のドイツ語音楽表現の総合的視点からの追求（担当：渡辺、深瀬）			
第8回：日本語の合唱作品におけるパート練習の充実（担当：深瀬）			
第9回：日本語の詩の内容と楽譜から読み取れる作曲家による解釈（担当：渡辺）			
第10回：日本語の合唱作品を題材とした旋律の歌唱法（担当：深瀬）			
第11回：日本語の合唱作品における和声の移り変わり（担当：渡辺）			
第12回：日本語の合唱作品の強弱記号と詩の関連性から考察する音楽表現（担当：渡辺、深瀬）			
第13回：日本語の合唱作品の音楽表現の総合的視点からの追求（担当：渡辺、深瀬）			
第14回：日本語作品と外国語作品の類似点と相違点（担当：渡辺、深瀬）			
第15回：まとめ（演奏に対する省察を含む）（担当：渡辺、深瀬）			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
合唱曲の楽譜			
参考書・参考資料等			
歌うドイツ語ハンドブック（三ヶ尻正著、株式会社ハンナ）			
学生に対する評価			
① 全体授業での方向性を理解し努力したか。			
② 内容に対する理解や授業過程での工夫が見られたか。			
③ 授業に積極的であったか。			
上記の評価基準に則り、期末レポート（60%）と平常点（40%）を加味して総合的に判定する。			

授業科目名： 日本音楽演習（歌唱）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：齋藤瑞香能 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1．日本の伝統音楽の声に係る種目、理念、歴史などの基礎的知識を理解し活用できる。 2．日本の伝統音楽における声の音楽の実技を通して歌唱法、表現法を習得する。			
授業の概要			
この授業では日本の伝統音楽を、声の実技を通して学ぶ。また箏を使って弾き歌いを行い、日本の伝統音楽における声の音楽の特長を理解し、魅力を味わう。			
授業計画（各回2時間、計16時間を授業時間とする。）			
第1回：弾き歌いの基礎（「さくら」「うさぎ」（日本古謡）を弾き歌いする）			
第2回：平調子の楽曲を弾き歌いする（「越天楽今様」（日本古謡）「通りゃんせ」）			
第3回：雲井調子の楽曲を弾き歌いする（「荒城の月」「ひなまつり」）			
第4回：乃木調子・楽調子の楽曲を弾き歌いする（「春の小川」「ふるさと」（文部省唱歌））			
第5回：伝統音楽における歌唱法と唱歌について／（日本音楽の分類と歴史）			
第6回：「手習い」（文部省音楽取調掛 作家作曲）の紹介・説明・実技			
第7回：「手習い」を伝統的における歌唱法で弾き歌いする			
第8回：実技試験と授業のまとめ			
テキスト			
1．『箏の教則本』社団法人日本三曲協会 2．授業中配布のプリント			
参考書・参考資料等			
中学校学習指導要領解説 音楽編（平成29年7月 文部科学省）			
学生に対する評価			
1）日本の伝統音楽の基礎的な事項について説明できることを合格の基準とする。 2）基本的な箏奏法と邦楽の唱法の習熟度を評価の基準とする。 ・ 方法			
基本的な箏奏法とレポートに加えて、三分の二以上の回数を出席していることを前提とする。 実技試験50%＋レポート35%＋授業内試験15%			

授業科目名： 器楽A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 三輪郁、渡辺修身
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1．ピアノ及び各選択の管弦打楽器について楽器の構造や機能、音楽表現上の特性を理解する。 2．ピアノ及び各選択の管弦打楽器の基礎的な奏法を身につける。 3．ピアノ及び各選択の管弦打楽器の簡単な独奏曲を適切な奏法で音楽表現を工夫しながら演奏できる。 本授業では、ピアノ及び各選択の管弦打楽器の構造や特性を理解し、基礎的な奏法を身につけた上で初級のエチュードや簡易な楽曲を独奏できるようにすることを目指す。			
授業の概要 履修楽器の歴史、構造、機能、演奏上の特性等を学習する。初学者に適切な楽曲の表現内容を様々な要素に分析して実践し、採取的に包括的演奏表現としてまとめる。授業は複数の教員による個人レッスンで進める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション／授業の進め方、概要に関するガイダンス、教材等について 第2回：楽器の歴史と特性／楽器の歴史についての概観と楽器ごとの特性 第3回：楽器と構造／大きさ、重さ、形状、構造等 第4回：楽器の機能と用法／音を発するまでのプロセス及び用法 第5回：呼吸法／各楽器と呼吸法の関わり 第6回：フレージング／フレージングにおける解釈上の選択肢 第7回：アンザツ／発音のイメージとニュアンス 第8回：アーティキュレーション／音の分離とレガートの解釈 第9回：拍節法／律動感と周期性の観点からの作品の吟味 第10回：アゴーギク／速度の微細な変化と音楽表現の効果 第11回：作品内容と構造／モチーフ、楽節、形式等の分析及び作品を形として捉えることの必要性 第12回：作品内容と構築／作品の構築性と強弱法、速度法、和声法に伴う終止形等の関わり 第13回：旋律と音程／旋律により誌的情感、色彩感を備えるための微細な音程の工夫 第14回：和声と音程／純正律についての物理的な解析と美しい響きの原点 第15回：包括的表現（試験）／授業で展開した様々な要素を包括的に捉えて音楽表現としてまとめる			
テキスト 各指導教員が必要に応じてテキストおよび資料を配布する。			
参考書 バロックから初期古典派までの音楽の奏法 橋本英二 著 音楽之友社			

学生に対する評価

1. 個々の作品解釈が表現されているか。
2. 演奏の技術的習熟が達成されているか。

以上の基準に基づき、

授業に対する取り組み等の平常点（30%）

実技試験における技術的及び芸術的評価（70%）の合算で評価する。

授業科目名： 器楽B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 三輪郁、渡辺修身 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1．ピアノ及び各選択の管弦打楽器について音楽表現上の特性を理解する。 2．ピアノ及び各選択の管弦打楽器の応用的・発展的な奏法を身につけ、中級から上級のエチュードの演奏ができる。 3．ピアノ及び各選択の管弦打楽器の独奏曲を適切な奏法で音楽表現を工夫しながら演奏できる。 本授業は、器楽Aで身につけた各選択のピアノ及び管弦打楽器の基礎的な奏法を踏まえ、より発展的・応用的な奏法の習得と中～上級のエチュードや独奏曲を演奏できるようにすることを目指す。授業は複数の教員により個人レッスンで進める。			
授業の概要 ピアノ及び各選択の管弦打楽器について音楽表現上の特性等を学習する。また、器楽Aで身につけた知識と技術の向上を図る。その上で個々の技能の程度に合わせた楽曲を選択し、その表現内容を様々な要素に分析して実践し、最終的に包括的な音楽表現にまとめる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション／授業の進め方、概要に関するガイダンス、教材等について 第2回：楽器の特性と音楽表現／楽器の様々な奏法の概観と音楽表現の特性 第3回：楽器と構造／関連する同種の楽器についての大きさ、重さ、形状、構造など 第4回：楽器の機能と用法／各楽器の機能を踏まえた発音原理と効果的な奏法 第5回：呼吸法／各楽器と呼吸法の関わり 第6回：フレージング／フレージングとボーイング、フィンガリング、タンギングなどの技術との関連 第7回：アンザツ／楽曲の様式や音楽の流れにおける音型の適切な選択 第8回：アーティキュレーション／楽曲の様式や音楽の流れにおけるアーティキュレーションの適切な選択 第9回：拍節法／楽曲の様式や音楽の流れにおける律動感と周期性の重要性 第10回：アゴーギク／音楽表現における速度の微細な変化 第11回：作品内容と構造／モチーフ、楽節、形式等の視点からの分析による楽曲構造の理解 第12回：作品内容と構築／音楽表現における強弱法、速度法、和声法に伴う終止形等の関わり の理解			

第13回：旋律と音程／詩的情感、色彩感を表すための微細な音程の工夫 第14回：和声と音程／純正律についての物理的な理解と美しい響きの作り方 第15回：包括的表現（試験）／授業で展開した様々な要素を包括的に捉えて音楽表現としてまとめる
テキスト 各指導教員が必要に応じてテキストおよび資料を配布する。
参考書 バロックから初期古典派までの音楽の奏法 橋本英二 著 音楽之友社
学生に対する評価 1. 個々の作品解釈が表現されているか。 2. 演奏の技術的習熟が達成されているか。 以上の基準に基づき、 授業に対する取り組み等の平常点（30%） 実技試験における技術的及び芸術的評価（70%）の合算で評価する。

授業科目名： アンサンブル基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 三輪郁、渡辺修身、深瀬廉
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1． 個々の技能段階に合わせた声や楽器のアンサンブル作品の演奏を通して、音楽の形状的把握及び演奏上の諸課題の解決について学び豊かな音楽性を身につける。 2． 独奏・独唱と伴奏の役割を理解して適切な音楽表現ができるようになる。 本授業では、主として声と楽器、もしくは二重奏のアンサンブルについて基礎的な表現法と伴奏法を習得することを目指す。そのために演奏内容を構成する様々な要素について吟味しながら表現し、実践的にアンサンブル研究を行う。			
授業の概要 「独奏と伴奏」「二重奏」「独唱と伴奏」「アンサンブルと伴奏」「ピアノ連弾」「二台ピアノ」の編成で複数のアンサンブルグループを作って活動する。その際、個々の技能段階に配慮してグループ編成及び教材選択をする。また、ピアノ伴奏は受講者全員が 1 回以上体験する。			
授業計画 第 1 回：オリエンテーション／授業の概要と展開、グループの確定、選曲等 第 2 回：アンサンブルの意義／アンサンブルの実践と音楽を学ぶ上での価値 第 3 回：呼吸法／アンサンブルにおける呼吸の役割 第 4 回：拍節法／拍子感の捉え方、表し方 第 5 回：和声と音程／音の協和についての物理的根拠に基づく検証 第 6 回：旋律と音程／旋律の特長と微細な音程調整の有効性 第 7 回：対比と調和／アンサンブルにおける対比と調和の関係 第 8 回：バランス／相対する二者の均衡について美学的見地からの検討 第 9 回：強弱法／演奏史の変遷と強弱法の表現方法 第 1 0 回：速度法／速度標語についての再検討と速度のニュアンスについての解釈 第 1 1 回：作品の構造／モチーフ、フレージング等の分析を通した音楽の構造の捉え方 第 1 2 回：作品の構築／音楽の提示、展開、完結等を明快に表現するための手法 第 1 3 回：工夫と打開／技術的難点、解釈の不一致、楽器の特性による限界に対する対処法 第 1 4 回：創意と解釈／演奏表現における最も重要なものへの表現方法 第 1 5 回：包括的表現（試験）と省察／授業を包括する形での演奏表現と第三者的視点からの省察			
テキスト ドビュッシー：小組曲、バッハ：カンタータなど専攻に応じたアンサンブル楽譜			
参考資料等 中学校・高校音楽教科書（教育芸術社）他			

学生に対する評価

1. 個々の作品解釈が表現されているか。
2. アンサンブルとして演奏の技術的習熟が達成されているか。

上記の観点をもとに、実技試験（70%）及び出席カード・小レポート提出による平常点（30%）を加味して総合的に判定する。

授業科目名： アンサンブル応用	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 三輪郁、渡辺修身、深瀬廉 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 個々の技能段階に合わせた管弦打楽器、声楽及び鍵盤楽器アンサンブルの演奏を通して、音楽の形状的把握及び演奏上の諸問題について学び豊かな音楽性を身につける。 2. バロックから近代・現代までのアンサンブル作品の時代的な様式、作曲者の様式を把握して適切な音楽表現ができるようになる。 本授業では、アンサンブルの応用的な演奏能力を身につけることを目指す。主として三人以上のアンサンブルを構成し、演奏内容を構成する様々な要素について吟味しながら表現し、実践的にアンサンブル研究を行う。			
授業の概要			
「同じ楽器の編成による三重奏以上」、「同種楽器による三重奏以上」、「混合による三重奏以上」、「声楽アンサンブル」の編成で複数のアンサンブルグループを作って活動する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション／授業の概要と展開、グループの確定、選曲等 第2回：アンサンブルの意義／アンサンブルの実践と音楽を学ぶ上での価値 第3回：呼吸法／アンサンブルにおける演奏と呼吸の関係 第4回：拍節法／時代や作曲者による拍子感の違い 第5回：和声と音程／純正調から得られる重音美と音楽表現 第6回：旋律と音程／旋律表現における微細な音程調整の有効性 第7回：対比と調和／音楽表現における対比と調和の理念 第8回：バランス／相対する表現要素に均衡をもたらすことの重要性の美学的見地からの検討 第9回：強弱法／演奏史の変遷における特徴と音楽表現における工夫 第10回：速度法／速度標語についての再検討、作品の統一的テンポ感覚と速度のニュアンス 第11回：作品の構造／モチーフ、フレージング、楽節、形式等の分析を踏まえた音楽構造の把握 第12回：作品の構築／音楽の提示、展開、完結等を明快に表現するための手法 第13回：工夫と打開／技術的難点、解釈の不一致、楽器の特性によるバランスの限界等の対処法 第14回：創意と解釈／演奏表現の独自性及び個性を打ち出すための方策 第15回：包括的表現（試験）と省察／授業を包括する形での演奏表現と第三者的視点からの省察			
テキスト			
ヘンデル：メサイア、モーツァルト：ソナタなど、専攻に応じたアンサンブル楽譜			
参考書			
バロックから初期古典派までの音楽の奏法 橋本英二 著 音楽之友社			

学生に対する評価

1. 個々の作品解釈が様式観を伴って表現されているか。
2. アンサンブルとして演奏の技術的習熟が達成されているか。

上記の観点をもとに、実技試験（70%）及び出席カード・小レポート提出による平常点（30%）を加味して総合的に判定する。

授業科目名： 日本音楽演習（器楽）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：斎藤瑞香能 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1．日本の伝統音楽の種目、音階、理念、歴史、楽器の種類などの基礎的知識を理解する。 2．箏・三味線の基礎的な奏法を理解し、活用する。 3．日本の伝統音楽における器楽の実技を通して表現法を習得する。			
授業の概要 この授業では日本の伝統音楽を、和楽器の中で最も身近で扱いやすいと思われる箏と三味線の実技を通して学び、日本の伝統音楽における器楽の特長を理解し、魅力を味わう。			
授業計画（各回2時間、計16時間を授業時間とする。） 第1回：箏と琴、箏の扱い方と演奏の準備、基本の調絃・平調子を理解する 第2回：平調子の確認、親指・人差し指・中指の奏法、様々な手法を学ぶ 第3回：様々な調絃（乃木調子・楽調子・雲井調子）を学ぶ／（伝統音楽の音階） 第4回：三味線の種類、扱い方と演奏の準備 基本の調絃（本調子）を理解する 第5回：指の押さえ方、ウチ・スリ等の手法を学ぶ／（洋楽邦楽対照音名表） 第6回：「六段調」紹介、説明、実技について 第7回：「六段調」初段演奏について 第8回：実技試験と授業のまとめ			
テキスト 1．『箏の教則本』 社団法人日本三曲協会 2．授業中配布のプリント			
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校音楽指導資料－指導計画の作成と学習指導の工夫』教育芸術社			
学生に対する評価 1）日本の伝統音楽の基礎的な事項について説明できることを合格の基準とする。 2）箏及び三味線の基礎的な奏法と習熟度を評価の基準とする。 ・ 方法 基礎的な演奏の技能（40%）、課題レポート（35%）、実技試験（25%） 上記の評価の観点及び評価割合に基づくとともに、授業時の課題の遂行状況等も加味し、総合的に評価する。			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：渡辺 修身
指揮法	必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 指揮法		
授業のテーマ及び到達目標			
教職の現場や、生涯教育の課外活動において、合唱や合奏の活動は欠かせない。アンサンブルが多人数になればなるほど必要になってくるのが指揮者である。指揮者にとって必要な能力は、例えば楽器の知識、声の知識、楽曲分析の知識等があるが、その指揮者に必要な能力の一つである「バトンテクニック」を身につけることが、本授業の目標である。			
授業の概要			
① 指揮の基本的動作「バトンテクニック」を身につける。その際、ピアノ奏者と共同で練習を行い研鑽を積んでいく。			
② 楽曲分析を基本とし、演奏につなげていく。			
③ 小アンサンブルや合唱を編成し、お互いに指揮、演奏を行う。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーションおよび指揮の基本的技術の習得			
第 2 回：楽曲の指揮について			
第 3 回：エチュード 1 予備運動、3 拍子の練習			
第 4 回：エチュード 1 柔らかいしゃくいおよび平均運動の練習			
第 5 回：エチュード 1 中間予備運動の練習			
第 6 回：エチュード 2 4 拍子の練習			
第 7 回：エチュード 2 しゃくいの練習			
第 8 回：エチュード 2 リタルダンドと分割（A 分割と B 分割）			
第 9 回：エチュード 3 先入の練習			
第 1 0 回：エチュード 3 Grazioso の動き			
第 1 1 回：エチュード 4 打法の練習、拍頭開始と裏拍開始			
第 1 2 回：エチュード 4 瞬間運動の練習			
第 1 3 回：コンコーネ 50 番から数曲、および「花」「夏の思い出」の練習			
第 1 4 回：小アンサンブルおよび合唱作品の練習			
第 1 5 回：試験および解説、まとめ			
テキスト			
「指揮法教程」斎藤秀雄著 音楽之友社			
参考書・参考資料等			
「指揮法入門」高階正光著 音楽之友社			
「はじめての指揮法 初心者のためのバトンテクニック入門」斉田好男著 音楽之友社			
学生に対する評価			
・ 演習や課題に関して、主体的に積極的に参加し、意欲的に取り組んだか。10%			
・ 演習や口頭発表の内容等が設定された目標に到達しているか。10%			
・ 内容に関する理解や工夫が見られたか。10%			
実技試験（70%）及び上記の基準に基づく採点（30%）の合算で評価する。			

授業科目名： 音楽理論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：名倉明子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音 楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 「表現」や「鑑賞」の基盤となる基礎的な和声を学ぶ。 1）和声のバス課題を実施できる。 2）コード進行による和声づけと旋律の創作ができる。 3）楽曲の和声分析ができる。			
授業の概要 西洋古典音楽の演奏、作曲、編曲に必要な事柄を、主に和声を通して学修し、楽曲に対する理 解を深める。バス課題の実施と楽曲の和声分析を核とするが、音楽科の授業展開に応用できる ようコードネームや伴奏付けについても学修する。			
授業計画 第1回：ガイダンス（授業の概要と進め方） 第2回：和音の基礎知識 第3回：3 和音基本形の配置（密集配分） 第4回：3 和音基本形の配置（開離配分） 第5回：3 和音基本形の連結（禁則と標準連結） 第6回：3 和音基本形の連結（標準外連結） 第7回：カデンツと終止形について 第8回：3 和音第 1 転回形の配置 第9回：3 和音第 1 転回形の連結（バス課題） 第10回：3 和音第 2 転回形の配置 第11回：3 和音第 2 転回形の連結（バス課題） 第12回：和音の種類とコードネーム 第13回：メロディの創作 第14回：創作したメロディへの伴奏付け 第15回：創作した作品の発表（相互評価） 定期試験（バス課題）			
テキスト 『和声 理論と実習 I』島岡譲著 音楽之友社出版			
参考書・参考資料等 『楽典 音楽家を志す人のための』菊池有恒著 音楽之友社出版			

学生に対する評価

定期試験（70％）、授業内に創作した作品（30％）

授業科目名： 作曲法A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：名倉明子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 「作曲・編曲」を視野に入れた和声の学修。 1） 借用和音等を用い工夫を凝らしバス課題を実施できる。 2） ソプラノ課題を音楽的に実施できる。 3） 借用和音を用いた楽曲の和声分析ができる。			
授業の概要 音階固有の和音だけではなく借用和音についても学び、より豊かな発想により和声課題を実施する。また、それらの和音が既存の楽曲の中でどのように用いられているかを分析、鑑賞を通して学修する。			
授業計画 第1回：3和音の総括 第2回：V7の和音の配置 第3回：V7の和音の連結 第4回：V7の和音を含むバス課題の実施 第5回：V9の和音の配置 第6回：V9の和音の連結 第7回：V9の和音を含むバス課題の実施 第8回：II7の和音の配置と連結 第9回：準固有和音の配置と連結 第10回：副Vの和音の種類と用法 第11回：IV7・ドリアIV度・ナポリの六の用法 第12回：借用和音を用いた楽曲の分析と鑑賞 第13回：ソプラノ課題① 配置と連結 第14回：ソプラノ課題② ドミナント諸和音のソプラノ定型と終止定式 第15回：ソプラノ課題③ 課題の実施 定期試験			
テキスト 島岡譲ほか『和声 理論と実習 I』音楽之友社 島岡譲ほか『和声 理論と実習 II』音楽之友社			
参考書・参考資料等 島岡譲ほか『総合和声 実技・分析・原理』音楽之友社 島岡譲ほか『総合和声 実技・分析・原理 別巻 課題の実施』音楽之友社			
学生に対する評価 定期試験（80％）、授業内の取り組み・提出物（20％）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：名倉明子
作曲法B	選択科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 基礎楽式と対位法について学修し、これまでに修得した理論の知識を活かして編曲作品の創作に取り組む。 1） 基礎楽式について理解し楽曲の形式的分析ができる。 2） 対位法的楽曲（フーガを含む）の分析ができる。 3） 表現意図をもって編曲をすることができる。			
授業の概要 基礎理論や和声の知識を応用し、基礎楽式、応用楽式を学び、楽曲分析を通して理解の深化を図る。また、編曲の技法について学び、作品を創作、発表する。			
授業計画 第1回：動機と楽節 第2回：楽式① 1部・2部・3部形式の解説 第3回：楽式② 複合3部形式の解説と楽曲分析 第4回：楽式③ ロンド形式の解説と楽曲分析 第5回：楽式④ ソナタ形式の解説と楽曲分析 第6回：対位法の歴史 バロック期の器楽的対位法とフーガの形式と種類 第7回：J.S.バッハ《インヴェンション》の分析 第8回：J.S.バッハ《シンフォニア》の分析 第9回：J.S.バッハ《平均律クラヴィーア曲集》の分析 第10回：W.A.モーツァルト《レクイエム》より〈キリエ〉の分析 第11回：L.v.ベートーヴェン《弦楽四重奏のための大フーガ》の分析 第12回：編曲の技法と例示 第13回：編曲作品の創作① 楽曲の選択と分析 第14回：編曲作品の創作② 技法やアイディアの定着 第15回：編曲作品の発表（相互評価）			
テキスト 授業時に必要なプリントを配布する。			
参考書・参考資料等 石桁真礼生『新版 楽式論』音楽之友社 島岡譲『音楽の理論と実習III』音楽之友社 市田儀一郎『バッハ インヴェンションとシンフォニア』音楽之友社 市田儀一郎『バッハ 平均律クラヴィーアI』音楽之友社 市田儀一郎『バッハ 平均律クラヴィーアII』音楽之友社			
学生に対する評価 編曲作品（70％）、授業内の取り組み・提出物（30％）			

授業科目名： 音楽史概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小塩さとみ 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 音楽)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 【授業のテーマ】 西洋芸術音楽、日本の伝統音楽、および世界のさまざまな地域の音楽について紹介しながら、人類がこれまで作り出してきたさまざまな音楽様式を視野に入れて音楽の歴史を概説する。 【授業の到達目標】 西洋芸術音楽の歴史と、日本音楽のさまざまな種目について学び、西洋芸術音楽と日本音楽それぞれの文化的な土壌の違いと歴史的な発展過程の違いを理解する。また、世界の諸地域の音楽についての基本的な知識を獲得する。その上で、人間と音楽の関係、社会における音楽の役割について自分なりに考察を行えるようになることを授業の最終的な到達目標とする。			
授業の概要 基本的な民族音楽学の考え方を学んだ上で、西洋の芸術音楽および日本の伝統音楽の歴史について概観し、世界のいくつかの地域の音楽について学ぶ。			
授業計画 第1回：音楽とは何か―民族音楽学の基本的な考え方 第2回：音楽のコンテクストを考える 第3回：音楽の仕組み―響きと身体 第4回：社会の中の音楽 第5回：西洋の芸術音楽の歴史(1)―概説 第6回：西洋の芸術音楽の歴史（2）―中世・ルネサンス 第7回：西洋の芸術音楽の歴史(3)―バロック・古典派 第8回：西洋の芸術音楽の歴史(4)―ロマン派・近現代 第9回：日本の音楽の歴史(1)―概説 第10回：日本の音楽の歴史(2)―古代（雅楽） 第11回：日本の音楽の歴史(3)―中世（平家琵琶・能） 第12回：日本の音楽の歴史(4)―近世・近代（三味線音楽・箏曲・尺八楽） 第13回：世界の音楽(1)―アジアの音楽 第14回：世界の音楽(2)―ヨーロッパ・アフリカ・アメリカ大陸の音楽 第15回：総括―音楽の歴史を学ぶ意味を考える 定期試験			

テキスト

1. 『民族音楽学12の視座』徳丸吉彦(監修)、増野亜子(編) 音楽之友社出版
2. 『西洋音楽史(中公新書)』岡田暁生著 中央公論新社出版
3. 『日本の音・日本の音楽』小塩さとみ著 アリス館出版

参考書・参考資料等

1. 『ものがたり西洋音楽史』近藤譲著 岩波書店出版
2. 『ものがたり日本音楽史』徳丸吉彦著 岩波書店出版
3. 『現代日本社会における音楽』月溪恒子著、北川純子著、小塩さとみ著 放送大学教育振興会出版

その他の参考書については、授業中に指示する。

学生に対する評価

授業中の参加態度（課題への取り組み）20%、学期末試験80%の割合で総合的に評価を行う。

授業科目名：		教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：佐川 馨
音楽科教育法		必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
1. 中学校音楽科、高等学校芸術科(音楽)の指導に関する基礎的事項(学習指導要領の目標および内容、指導案の書き方等)について、講義および演習を通して理解する。				
2. 教科書教材等の演奏を体験したり分析したりすることを通して、その効果的な指導法を考察し、音楽科教員としての実践的指導力を身につける。				
本授業では、音楽科の教科書及び学習指導要領を主たる教材として、指導計画、評価、それらに関連する諸資料、そして音楽教師としての指導理念の在り方等々について学んでいく。				
授業の概要				
○日本の学校音楽教育の歴史的変遷について、明治期の唱歌教育からの流れと戦後の学習指導要領の改訂を視点に考察（講義・演習）				
○中学校、高等学校の音楽科の学習指導要領の目標、内容、共通事項について（講義・演習）				
○音楽科の指導計画と指導案の作成の手順と方法（講義・演習・発表・討議）				
○模擬授業の計画と実施、実施後の省察（演習・討議）				
授業計画				
第1回：オリエンテーション[授業計画、評価、音楽経験アンケート]（講義・演習） 学校教育と音楽科に係る主な法規（講義・演習）				
第2回：日本の学校音楽教育の歴史的変遷(1)[明治期から戦前までの唱歌教育]（講義）				
第3回：日本の学校音楽教育の歴史的変遷(2)[戦後の学習指導要領の改訂]（講義）				
第4回：中学校学習指導要領音楽について(1)[改善の要点、基本方針、目標]（講義）				
第5回：中学校学習指導要領音楽について(2)[内容の構成、各領域、[共通事項]]（講義）				
第6回：高等学校芸術（音楽）の学習指導要領[音楽Ⅰの目標、内容、内容]（講義）				
第7回：年間指導計画の作成について[10の視点、用語]（講義）				
第8回：年間指導計画作成の手順と方法（講義・演習）				
第9回：作成した年間指導計画の検討（発表・討議）				
第10回：音楽科の評価について[評価の目的、種類と方法、観点別評価]（講義）				
第11回：音楽科の評価の実際－評価規準設定の手順と方法（講義・演習）				
第12回：学習指導案の作成について（講義・演習）				
第13回：学習指導案の検討と模擬授業の計画（討議・演習）				
第14回：表現領域を中心とした模擬授業の実施（演習・討議）				
第15回：鑑賞領域を中心とした模擬授業の実施（演習・討議） 授業成果のまとめと今後の課題の確認（演習） ※模擬授業の計画と実施にあたっては、生徒のICT活用を前提とすること（デジタル教科書及び指導書の活用、ウェブコンテンツの活用、プレゼンテーションソフトによるスライド制作など）。				
定期試験を実施する				
テキスト				
中学校学習指導要領解説 音楽編（平成 29 年 7 月 文部科学省）				
高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編（平成 30 年 7 月 文部科学省）				
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）				
参考書・参考資料等				
学校音楽指導資料－指導計画の作成と学習指導の工夫（文部省 教育芸術社）				
中学校・高等学校教職課程音楽科教育法（石澤眞紀夫ほか 教育芸術社）				
学生に対する評価				
①定期試験において中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領の目標、内容を理解し、指定された課題を解くことができる。（50%）				
②学習指導案作成の手順を理解し、作成することができる。（授業時課題、25%）				
③音楽科の題材開発と授業実践について教材の分析から評価、省察までの授業づくりの一連の流れを理解している。（授業時課題、25%）				

授業科目名： 音楽の教材分析A	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：佐川 馨 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 音楽科の題材開発と授業実践について「教材の分析，学習目標の設定，指導案の作成から副教材作成，実践，評価，省察」という授業づくりの一連の流れを，講義及び演習を通して身につける。 本授業では，音楽科の教材分析力と題材開発力，また授業実践力を身につけるために表現及び鑑賞の各領域についての指導案づくりから実践までを総合的に学ぶ。			
授業の概要 本授業では，音楽科教育法の学習を通して身につけたものを実践力及び活用力へとつなげることを目指す。中学校音楽科および高等学校芸術科（音楽）における授業実践力を身につけるために，教材分析，学習指導案及び授業で用いる副教材の作成，そして模擬授業から評価，省察までの流れを学ぶ。			
授業計画 第1回：オリエンテーション[授業計画，進め方，評価]（講義・演習） 音楽科の教材分析と題材開発について（講義・演習） 第2回：表現領域：歌唱を中心とした教材分析と題材開発（講義・演習） 第3回：表現領域：歌唱を中心とした題材の学習指導案と教材作成（講義・演習） 第4回：表現領域：歌唱を中心とした題材の模擬授業（演習・討議） 第5回：表現領域：器楽及び合奏を中心とした教材分析と題材開発（講義・演習） 第6回：表現領域：器楽及び合奏を中心とした題材の学習指導案と教材作成（講義・演習） 第7回：表現領域：器楽及び合奏を中心とした題材の模擬授業（演習・討議） 第8回：表現領域：創作を中心とした教材分析と題材開発（講義・演習） 第9回：表現領域：創作を中心とした題材の学習指導案と教材作成（講義・演習） 第10回：表現領域：創作を中心とした題材の模擬授業（講義・演習） 第11回：鑑賞領域：鑑賞の教材分析と題材開発（講義・演習） 第12回：鑑賞領域：鑑賞題材の学習指導案と教材作成（講義・演習） 第13回：鑑賞領域：西洋音楽的鑑賞教材の模擬授業（演習・討議） 第14回：鑑賞領域：日本音楽及び諸民族の音楽の鑑賞教材の模擬授業（演習・討議） 第15回：授業成果のまとめと今後の課題の確認（講義・演習） ※第3回，6回，9回，12回の教材作成は，生徒のICT活用を前提にしたものを作成する（デジタル教科書及び指導書の活用，ウェブコンテンツの活用，プレゼンテーションソフトによるスライド制作など）。 定期試験は実施しない。			

テキスト 中学校学習指導要領解説 音楽編（平成 29 年 7 月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編（平成 30 年 3 月 文部科学省） 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 ①音楽科の教材分析と題材開発について理解している。（授業時課題，25%） ②学習指導要領各領域の学習指導案と教材作成について理解している。（授業時課題，25%） ③音楽科の「教材の分析，学習目標の設定，指導案の作成から副教材作成，実践，評価，省察」という授業づくりの一連の流れを身に付けている。（授業時課題，50%）

授業科目名： 音楽の教材分析B	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 渡辺 修身、深瀬 廉 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 器楽曲および合唱曲を主たる教材とし、楽曲の構成、特徴づけている要素の働き、様々なイメージ、描写、暗示、作品の背景等から音楽教材（ウェブコンテンツを含む）を分析的に捉える力を身につける。 2. 上記1. に基づいて学校教育の場において授業実践や合奏指導、合唱指導の実践をするための手法を身につける。 本授業では、中学校及び高等学校における実践的活動に関する現状と課題を明らかにした上で、実際に合奏活動及び合唱活動を体験する中から教材分析や指導法について学習する。特に楽曲における各パートの音楽表現の在り方やパート間相互のかかわりから、音楽表現の工夫や指導法を身につける。			
授業の概要			
音楽科教育の現状と課題意識に基づき、器楽教材及び合唱教材の実践的活動を通して教材分析力と指導法について学習する。音楽内容を、楽曲の構成、特徴づけている要素の働き、様々なイメージ、描写、暗示、作品の背景等から分析的に把握する力を培い、それを教育の場で実践できるようにするための教材研究とする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション／講義のねらい及び進め方についての説明 第2回：楽曲における指導の要点の把握と楽曲指導のあり方 第3回：教科書教材（ウェブコンテンツを含む）から捉える音楽科の今日的課題1（声楽領域、合唱を中心に） 第4回：教科書教材（ウェブコンテンツを含む）から捉える音楽科の今日的課題2（器楽領域、合奏を中心に） 第5回：パート練習による役割及び表現の特性の把握（合唱曲を中心に） 第6回：ハーモニーの充実と音楽表現の豊かさを目指した指導の実践（合唱を中心に） 第7回：パート練習による役割及び表現の特性の把握（器楽曲を中心に） 第8回：アンサンブルの充実と音楽表現の豊かさを目指した指導の実践（合奏を中心に） 第9回：指導体験による合唱指導の手法の実践 第10回：指導体験による合奏指導の手法の実践 第11回：内容又は教材開発と学習指導1（指導案の作成） 第12回：内容又は教材開発と学習指導2（模擬授業の実践） 第13回：内容又は教材開発と学習指導3（成果発表会の準備） 第14回：成果発表会／グループごとに発表を行い協議 第15回：振り返り／到達点と課題の明確化			
テキスト			
中学校、高等学校音楽教科書、管弦楽教材曲のパート譜及びスコア、合唱曲楽譜			
参考書・参考資料等			
管弦楽曲及び合唱曲の楽譜、中学校学習指導要領解説音楽編（文部科学省） 高等学校学習指導要領解説芸術編音楽編美術編（文部科学省）			

学生に対する評価

以下の評価の観点に則り，授業時の課題の遂行状況等も加味し，総合的に判断し評価する。
平常点：演習や課題設定に関して，主体的に，積極的に参加し，意欲的に取り組んでいるか。

（20％）・学校教育の場においての授業実践や合奏,合唱指導の実践をするための手法を身につけているか。（20％）

レポート：教材の音楽的特徴（楽曲の構成，特徴づけている要素の働き，様々なイメージ，描写，暗示，作品の背景等）を分析的に捉えることができるか。（60％）

授業科目名： 音楽科実践演習		教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：佐川馨、名倉明 子、深瀬廉、渡辺修身 担当形態：複数・オムニバス
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 音楽）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
音楽科の具体的な題材及び教材を開発することを通して、実践的指導力の涵養を図ることをねらいとする。本授業は、音楽科の今日的な課題を踏まえた上で、学習指導要領の内容と関連させながら授業構成を検討実践するものである。今日的な課題としては、授業実践力の向上に加えて音楽系部活動の地域移行、地域の音楽文化振興に関わるコーディネート力がある。こうした課題から主題を定め、題材の内容又は教材を開発、実践する。				
授業の概要				
音楽科教育からみた今日的課題、学習指導要領の内容との関わりから捉えた音楽科の題材又は教材の開発、発表会、振り返りで構成される。 ・生徒の学力学習状況調査や先行実践を踏まえ、音楽科教育の今日的課題を見出だす。 ・学習指導要領の内容との関わりから捉えた今日的課題では、音楽科に関する教育内容を小中高の全校種にわたり学習、検討する。 ・上記を踏まえ、演奏力や授業実践力などの主題を設定し、題材の内容又は教材の開発に取り組む。 ・発表会では、開発した題材の内容又は教材を発表する。 ・振り返りでは、各受講生が到達点と課題を明確にする。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション／講義のねらい及び進め方についての説明（佐川、名倉、深瀬、渡辺）				
第2回：音楽科教育の視点から捉える音楽科の今日的課題 1（授業実践力を中心に）（佐川）				
第3回：音楽科教育の視点から捉える音楽科の今日的課題 2（音楽系部活動の地域移行を中心に）（佐川）				
第4回：教科書教材から捉える音楽科の今日的課題 1（声楽領域、合唱を中心に）（深瀬）				
第5回：教科書教材から捉える音楽科の今日的課題 2（器楽領域、合奏を中心に）（渡辺）				
第6回：教科書教材から捉える音楽科の今日的課題 3（創作領域を中心に）（名倉）				
第7回：内容又は教材開発のための主題の設定及びグループ編成（佐川、名倉、深瀬、渡辺）				
第8回：内容又は教材開発と学習指導：学習指導要領と中学校教科書の内容検討（深瀬）				
第9回：内容又は教材開発と学習指導：学習指導要領と高校教科書の内容検討（渡辺）				
第10回：内容又は教材開発と学習指導：小学校の教科書教材を手掛かりに（名倉）				
第11回：情報機器を活用した教材開発と模擬授業【歌唱・器楽】（佐川、名倉、深瀬、渡辺）				

第12回：情報機器を活用した教材開発と模擬授業【創作】（佐川、名倉、深瀬、渡辺）

第13回：情報機器を活用した教材開発と模擬授業【鑑賞】（佐川、名倉、深瀬、渡辺）

第14回：成果発表会：グループごとに発表を行い協議（佐川、名倉、深瀬、渡辺）

第15回：振り返り：到達点と課題の明確化（佐川、名倉、深瀬、渡辺）

テキスト

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説音楽編（文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説音楽編（文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年告示）芸術編音楽編美術編（文部科学省）

学生に対する評価

模擬授業の発表内容（80%）、毎回の授業の際に提出するミニレポート（20%）により評価する。

成績評価基準

1. 音楽科の題材又は教材開発の経験をもとに、授業づくりのポイントと課題を、具体例を挙げて説明することができる。
2. 音楽系部活動の指導理念、学校教育における意義、地域移行に係る諸課題を踏まえた上で具体的な解決策等について説明できる。

授業科目名： 造形基礎演習B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小林俊介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
絵画の実技を通して「見て表現する」 ことに関して必要な基本的事項（遠近法、明暗法、質感表現）を理解するとともに、鉛筆等の描画材や映像メディアにより三次元の形態や空間を表現できる。			
授業の概要			
素描および映像メディアの実技を通して、形態、明暗、空間・質感表現の基礎を学習する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション。素描の材料と技法について。			
第2回：幾何形体を描く：比例（プロポーション）を意識して構図を探る。			
第3回：幾何形体を描く：明暗法による肉付け（モデリング）。			
第4回：幾何形体を描く：地透層の後、明部をチョークで描き起こし完成させる。			
第5回：中間講評会（1）			
第6回：木製モデルを描く：比例を意識して構図を探る。			
第7回：木製モデルを描く：明暗法による肉付け（モデリング）。			
第8回：木製モデルを描く：質感を意識しながら描き進め完成させる。			
第9回：中間講評会（2）			
第10回：映像メディア（写真・ビデオ・CG）の基礎的な技法について			
第11回：映像メディアによる表現・中間講評会（3）			
第12回：手・足を描く：比例と動勢（ムーブマン）を意識して構図を探る。			
第13回：手・足を描く：量（マス）と動勢（ムーブマン）を意識して 描き進める 。			
第14回：手・足を描く：全体と細部のバランスを取りながら完成させる。			
第15回：最終講評会。			
定期試験は行わない。			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 『絵画制作入門』佐藤一郎、東京藝術大学油画技法材料研究室編、2014年。 ほか、適宜紹介する。			
学生に対する評価 作品制作における理論と技法の理解（30％）、制作過程における課題の明確化と工夫（70％）			

授業科目名： 絵画基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小林俊介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 絵画（映像メディア表現を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 絵画の実技を通して「見て表現する」 ことに関して必要な基本的事項（遠近法、明暗法、質感表現）を理解するとともに、鉛筆等の描画材や映像メディアにより三次元の複雑な形態や空間を表現できる。			
授業の概要 素描および映像メディアの実技を通して、形態、明暗、空間・質感表現の仕組みを学習する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション。素描の材料と技法について。 第2回：静物を描く：比例（プロポーション）を意識して構図を探る。 第3回：静物を描く：明暗法による肉付け（モデリング）。 第4回：静物を描く：量（マス）と動勢（ムーブマン）を意識して描き進める。 第5回：静物を描く：質感を意識しながら描き進める。 第6回：静物を描く：地透層の後、明部をチョークで描き起こす。 第7回：静物を描く：全体と細部のバランスを取りながら完成させる。 第8回：中間講評会（1） 第9回：映像メディア（写真・ビデオ・CG）の技法について 第10回：映像メディアによる表現・中間講評会（2） 第11回：人体を描く：比例とコントラストを意識して構図を探る。 第12回：人体を描く：量（マス）と動勢（ムーブマン）を意識して描き進める。 第13回：人体を描く：全体と細部のバランスを取りながら描き進める。 第14回：人体を描く：地透層の後、明部をチョークで描き起こし完成させる。 第15回：最終講評会。 定期試験は行わない。			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 『絵画制作入門』（佐藤一郎、東京藝術大学油画技法材料研究室編 東京藝術大学出版会出版、2014年）。ほか、適宜紹介する。			
学生に対する評価 作品制作における理論と技法の理解（30%）、制作過程における課題の明確化と工夫（70%）			

授業科目名： 絵画表現演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小林俊介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 絵画（映像メディア表現を含む）		
授業のテーマ及び到達目標			
彩画の実技を通して「見て表現する」ことに関して必要な基本的事項（遠近法、明暗法、質感表現、色彩表現）を理解するとともに、三次元の形態や空間を表現することができる。			
授業の概要			
彩画の実技を通して、形態、明暗、空間・質感・色彩表現の仕組みを学習する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション。彩画の材料と技法について。			
第2回：支持体・基底材の準備：板／布			
第3回：下地の準備：水性／半油性下地の制作)			
第4回：下絵の制作			
第5回：映像メディアによる構図の検討			
第6回：下絵のトレース、基底材への転写・墨入れ			
第7回：インプリマトゥーラ（地透層）の塗布			
第8回：中間講評会			
第9回： グリザイユ（単色画）による粗描；明暗法による肉付け（モデリング）			
第10回： グリザイユによる粗描；量と動勢を意識して描き進める。			
第11回： グリザイユによる粗描；グリザイユ画を完成させる。			
第12回：透明色を中心に下層を活かしながら色彩を配置する。			
第13回：明部は厚塗り、暗部は薄塗りを意識して色彩を強める。			
第14回：全体と細部のバランスを取りながら完成させる。			
第15回：最終講評会			
定期試験は行わない。			
テキスト			
特になし。			
参考書・参考資料等			
『絵画制作入門』（佐藤一郎、東京藝術大学油画技法材料研究室編 東京藝術大学出版会出版、2014年）。ほか、適宜紹介する。			
学生に対する評価			
作品制作における理論と技法の理解（30％）、制作過程における課題の明確化と工夫（70％）			

授業科目名： 絵画応用演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小林俊介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 絵画（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
彩画の実技を通して絵画表現に必要な事項（遠近法、明暗法、質感表現、色彩表現）を理解するとともに、表現意図に応じて形態や空間を適切に描写することができる。			
授業の概要			
彩画の実技を通して、形態、明暗、空間・質感・色彩表現の仕組みを学習する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション。			
第2回：作品の構想について；主題、構成、技法・材料			
第3回：作品の構想とアイデアスケッチ			
第4回：支持体・基底材の準備：板／布／紙			
第5回：下絵の制作			
第6回：映像メディアによる構図の検討			
第7回：下絵のトレース、基底材への転写			
第8回：中間講評会			
第9回：映像メディアによる色彩配置の検討			
第10回：構想をもとにおおまかに色彩を配置する。			
第11回：下層を活かしながら色彩を強める。			
第12回：量と動勢を意識して描き進める。			
第13回：質感を意識しながら描き進める。			
第14回：全体と細部のバランスを取りながら完成させる。			
第15回：最終講評会			
定期試験は行わない。			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 『絵画制作入門』（佐藤一郎編、東京藝術大学出版会2014年） ほか、適宜紹介する。			
学生に対する評価 作品制作における理論と技法の理解（30％）、制作過程における課題の明確化と工夫（70％）			

授業科目名： 彫刻基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：土井敬真 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 彫刻		
授業のテーマ及び到達目標 塑造（粘土）による「頭像」制作の実習を通して、彫刻（塑造）の制作技術の基礎を身につけることをテーマとする。 粘土による「頭像」制作を通して、面・量感といった彫刻の造形要素の基本を理解し、塑造の基礎的な技術を学び、作品として表現できる。			
授業の概要 粘土を用いて塑造(モデリング) による「頭像」制作を行なう。石膏像をデッサンし、芯棒を組み、粘土で「頭像」としての摸刻作品を制作する。			
授業計画 第1回：「頭像」制作の手順の説明・芯棒組み 第2回：粘土練り 第3回：石膏像のデッサン 第4回：粘土を用いての塑造実習 1 粘土の荒付け 第5回：粘土を用いての塑造実習 2 量の把握 第6回：粘土を用いての塑造実習 3 塊の把握 第7回：粘土を用いての塑造実習 4 面の把握 第8回：粘土を用いての塑造実習 5 面の設定 第9回：粘土を用いての塑造実習 6 量塊と面の構成 第10回：粘土を用いての塑造実習 7 量塊と面を決定する 第11回：粘土を用いての塑造実習 8 細部表現 第12回：粘土を用いての塑造実習 9 細部と全体の表現 第13回：粘土を用いての塑造実習10 比例・均衡 第14回：粘土を用いての塑造実習11 仕上げ 第15回：作品講評・自己評価 定期試験は実施しない。			
テキスト なし。この授業では、担当教員が作成するスライド、プリントなどを授業で資料として配布し、都度、参考書などを紹介する。			
参考書・参考資料等 『彫刻をつくる』（美術出版社, 1965年）、『彫塑 制作と技法の実際』（岩野勇三, 日貿出版社, 1982年）、『彫刻制作メモ』（土井敬真, 2023年）			
学生に対する評価 課題作品（80％）／自己評価レポート（20％） 塑造による彫刻作品の制作手順や彫刻の造形要素の基本を理解し、頭像作品として表現できているかを総合的に判断する。 授業の到達目標で示した彫刻の造形要素の基本を理解し、粘土による「頭像」制作を行い、作品を完成させることを合格の基準とする。			

授業科目名： 彫刻表現演習	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：土井敬真 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 彫刻		
授業のテーマ及び到達目標 木彫による原寸大の写実彫刻の制作を通して、カービングの制作技術の基礎を身につけることをテーマとする。 粘土によるモデリングではなく、木の塊から作品を彫り出すカービングの基礎的な技術について作品制作を通して理解し、制作に必要な木彫道具の基本的な使用法を学び、木彫作品を表現する力を身につけることを目標とする。 (1) 木彫による原寸大の「写実彫刻」の制作をおこなうことができる。 (2) 自身が身近に感じるモチーフを選択し、木材に木取りし、ノミや鋸といった道具を使用して彫刻作品として表現できる。 (3) 作品制作を通して、塊から彫り出していくカービングの技法を習得できる。			
授業の概要 自身が選択したモチーフをデッサンし、原寸大で出来るだけ克明に木彫作品として写実する。			
授業計画 第1回：木彫による写実彫刻の制作手順の説明 第2回：木材の特性について 第3回：木彫制作の道具の概説 第4回：モチーフの選定・形態把握のためのデッサン 第5回：モチーフの測定と木取り 第6回：鋸を用いての木取り 第7回：ノミを用いての荒取り 第8回：ノミを用いての荒彫り 第9回：全体の塊の決定 第10回：ノミを用いての小造り 第11回：面の決定 第12回：ノミや彫刻等を用いての細部表現 第13回：着色 第14回：仕上げ 第15回：作品講評・自己評価 定期試験は実施しない。			
テキスト なし。この授業では、担当教員が作成するスライド、プリントなどを授業で資料として配布し、都度、参考書などを紹介する。			
参考書・参考資料等 『彫刻をつくる』（美術出版社, 1965年）、『彫刻制作メモ』（土井敬真, 2023年）			
学生に対する評価 課題作品（80％）／自己評価レポート（20％） 木彫制作の手順、道具の使用法の基本を理解し、木彫作品として写実表現できているかを総合的に判断する。 授業の到達目標で示した写実彫刻の制作について、自身が身近に感じるモチーフを選択し、木材に木取りし、ノミや鋸といった道具を使用して木彫による原寸大の作品を完成させることを合格の基準とする。			

授業科目名： 彫刻応用演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：土井敬真 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 彫刻		
授業のテーマ及び到達目標 彫刻基礎で学んだ基礎的な知識・技術を基に、塑造で作成した原型を元に石膏寄せ型を作成する。作成した石膏寄せ型を用いて塑造作品を複製し、焼成してテラコッタ作品として完成させる。塑造の基礎的な知識・技術だけでなく、石膏型取りとテラコッタの技法を理解して作品を制作できることを目標とする。 (1) 塑造で原型を造り、石膏寄せ型を作成できる。 (2) 作成した石膏寄せ型を利用してテラコッタ作品を作成できる。 (3) 塑造及び石膏型取り、テラコッタの技法を理解し、作品として完成することができる。			
授業の概要 石膏寄せ型を用いたテラコッタ作品の制作をおこなう。油土による原型制作から石膏型取りの作業を経て複数のテラコッタ作品を制作する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション・課題の説明 第2回：石膏型取りとテラコッタの技法について 第3回：作品構想 第4回：作品の本制作その1 芯棒組み／粘土などの材料の調達 第5回：作品の本制作その2 粘土練り・粗付け 第6回：作品の本制作その3 塑造による原型制作 第7回：作品の本制作その4 塑造による原型の完成 第8回：作品の本制作その5 石膏寄せ型作り 第9回：作品の本制作その6 石膏寄せ型完成 第10回：作品の本制作その7 テラコッタ粘土の準備 第11回：作品の本制作その8 石膏寄せ型を用いたテラコッタ作品の制作 第12回：作品の本制作その9 テラコッタ作品の修正 第13回：作品の本制作その10 テラコッタ作品の乾燥・焼成 第14回：作品の本制作その11 着色・仕上げ 第15回：作品講評・自己評価			
テキスト なし。この授業では、担当教員が作成するスライド、プリントなどを授業で資料として配布し、都度、参考書などを紹介する。			
参考書・参考資料等 『彫刻をつくる』（美術出版社, 1965年）、『彫塑 制作と技法の実際』（岩野勇三, 日貿出版社, 1982年）、『新技法シリーズ テラコッタの技法』（橋本裕臣, 美術出版社, 1978年）、『新技法シリーズ 石膏技法 正しい石膏の使い方』（柳原明彦, 美術出版社, 1986年）、『彫刻制作メモ』（土井敬真, 2023年）			
学生に対する評価 ・ 課題作品（塑造原型20%、石膏寄型30%、テラコッタ作品30%）／作品・制作に対する自己評価レポート（20%） 塑造で原型を造り、石膏寄型を作成し、最終的にテラコッタ作品として完成できることを合格の基準とする。			

授業科目名： デザイン基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：具志堅裕介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・デザインの基本的な用語や原理を理解し、コンピュータの基本的な操作ができる。 ・形態や色彩、テクスチャー等のプリミティブな造形要素から、設定されたビジュアルイメージの要件やメディア条件に即した造形秩序を構成できる。			
授業の概要 デザインのための基礎的なデジタルツールやソフトウェアの基本的な操作方法を学ぶとともに、それらを使用してコンテンツをデザインし、制作を行う。形態、色彩、コンポジション、デザイン思考など様々な演習課題を通して、造形活動の基礎となるデザインの知識と技能を習得する。			
授業計画 第1回 授業の目的と内容、演習の進め方について説明 第2回 描画ツールソフトウェアの基本操作［ラスター画素とベクター画像］（演習） 第3回 構成の基礎1［形態の描画］（演習） 第4回 構成の基礎2［配置・比率］（演習） 第5回 構成の基礎3［規則性と無秩序］（演習） 第6回 構成の基礎4［図と地とレイヤー］（演習） 第7回 構成の基礎4［文字の造形］（演習） 第8回 色彩の基本［色の体系・三原色］（演習） 第9回 色彩の演習1［トーン］（演習） 第10回 色彩の演習2［配色とインデックスカラー］（演習） 第11回 色彩の演習3［色価とグラデーション］（演習） 第12回 課題作品の確認：リサーチワーク（演習） 第13回 課題作品制作：設定と要件の確認（演習） 第14回 課題作品制作：データの出力（演習） 第15回 発表・講評（演習・討議） 定期試験は実施しない。			
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 『なるほどデザイン』（筒井美希著、エムディエヌコーポレーション出版 2015）			
学生に対する評価 授業内の制作物、提出作品、レポートから総合評価を行う。 授業内の制作物【30％】、課題作品【40％】、レポート【30％】			

授業科目名： デザイン表現演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：具志堅裕介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・デザインワークの制作過程を理解し、デジタル技術の特性を活かしたコンテンツをデザインし、創造できる。 ・デジタル技術を用いたデザインの基礎的な理論や表現の特性を説明できる。			
授業の概要 デザインのための画像処理ソフトウェアの基本的な操作方法を学ぶとともに、それらを使用してコンテンツをデザインし制作する。これらの一連のプロセスの体験を通して、グラフィックデザインにおける表現とメディア、コンテンツ、技法の関連についての知識と技能を習得することを目的とする。			
授業計画 第1回 授業内容の説明 演習の進め方の確認（講義） 第2回 デザインのためのコンピュータリテラシー（講義・演習） 第3回 画像編集ソフトウェアの基本操作：画像補正（演習） 第4回 画像編集ソフトウェアの基本操作：レイヤー、フィルター（演習） 第5回 画像作成演習①構図・撮影（演習） 第6回 画像作成演習①トリミング・補正（演習） 第7回 画像作成演習②コラージュ素材の収集・作成（演習） 第8回 画像作成演習②コラージュ素材の構成（演習） 第9回 画像作成演習③画像を合成するための素材作成（演習） 第10回 画像作成演習③画像を合成する（演習） 第11回 課題制作：メディアとテーマの設定確認（講義・演習） 第12回 課題制作：画像データの制作（演習） 第13回 課題制作：画像処理・編集（演習） 第14回 課題制作：デザインデータの出力（演習） 第15回 制作課題の発表（発表・討議） 定期試験は実施しない			
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 『なるほどデザイン』（筒井美希著、エムディエヌコーポレーション出版 2015）			
学生に対する評価 授業内の制作物、提出作品、レポートから総合評価を行う。 授業内の制作物【30%】、課題作品【40%】、レポート【30%】			

授業科目名： デザイン応用演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：具志堅裕介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・デザイン（映像メディア表現を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・近年のデザインの方法論に基づいて、コンピュータやデジタルデバイスを用いたデジタルコンテンツを創造できる。 ・デザインの思想や技法と映像メディアの特性を理解し、説明できる。			
授業の概要 デジタルメディアやデザインツールの活用技術を基礎として、その思想や技法を基に、応用としてメディウムスペシフィックな視点から表現・創作することを目的とする。 サウンド、映像等のツールを表現に用いる実践としてのコンテンツの制作を行い、一連の制作プロセスを体験することを通して、各メディアの表現ツールとしての知識・技能を深め、その見方・考え方についての理解を深める。			
授業計画 第1回 授業内容の説明 演習の進め方 映像メディアについて（講義・演習） 第2回 映像デザイン：映像・カメラの設定について（講義・演習） 第3回 映像デザイン：撮影（演習） 第4回 映像デザイン：データの整理・編集（演習） 第5回 映像デザイン：編集・出力（演習） 第6回 映像デザイン：中間発表（発表） 第7回 モーショングラフィック：映像の設定について（講義・演習） 第8回 モーショングラフィック：キーフレームによる移動①（演習） 第9回 モーショングラフィック：キーフレームによる変形②（演習） 第10回 モーショングラフィック：シーケンスの編集・出力（演習） 第11回 課題制作：メディアとテーマの設定確認（講義・演習） 第12回 課題制作：プランニング（講義・演習） 第13回 課題制作：コンテンツの制作・編集（演習） 第14回 課題制作：編集・出力（演習） 第15回 最終課題の発表（発表・討議） 定期試験は行わない。			
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 『なるほどデザイン』（筒井美希著、エムディエヌコーポレーション出版 2015）			
学生に対する評価 授業内の制作物、提出作品、レポートから総合評価を行う。 授業内の制作物【30%】、課題作品【40%】、レポート【30%】			

授業科目名： 造形基礎演習 A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 具志堅裕介、土井敬真
			担当形態： 複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 美術）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 工芸		
授業のテーマ及び到達目標			
①表現に用いる基本的な材料と道具の特性を生かして，設定された視覚的条件や構造的条件に即したデザインの基礎的表現ができる。			
②設定された視覚的条件や構造的条件に即した素材の材料特性を生かした立体構成の基礎的表現ができる。			
授業の概要			
①立体を構成する材料特性について概説し，その特性を生かした加工技術について，精度や強度を考察しながら計画的な制作方法（手順）を探究する。用途と目的を持つ立体のデザイン・制作に向けた基礎的な知識と加工技術を学ぶ。			
②日常製品の材料として身近に触れている材料を用いて立体作品を制作する。素材の加工特性に着目し、基礎的な加工知識と技術（フォルムとモデリングの関係）を学ぶ。			
第 1 回：オリエンテーション及びものづくり・立体造形の今日的状況の解説（具志堅・土井）			
第 2 回：「工作材料」を用いた作品制作〔作品構想・試作〕（土井）			
第 3 回：「工作材料」を用いた作品制作〔粘土原型の制作〕（土井）			
第 4 回：「工作材料」を用いた作品制作〔粘土原型の完成〕（土井）			
第 5 回：「工作材料」を用いた作品制作〔石膏型取り（雌型作成）〕（土井）			
第 6 回：「工作材料」を用いた作品制作〔石膏型取り（雄型作成）〕（土井）			
第 7 回：「工作材料」を用いた作品制作〔研磨・仕上げ〕（土井）			
第 8 回：「工作材料」を用いた作品制作〔発表・講評・考察〕（土井）			
第 9 回：「工作材料」を用いた作品制作〔作品構想・材料の特性〕（具志堅）			
第 10 回：「工作材料」を用いた作品制作〔サイズ出し〕（具志堅）			
第 11 回：「工作材料」を用いた作品制作〔加工（切断・粗研磨）〕（具志堅）			
第 12 回：「工作材料」を用いた作品制作〔加工（接着・調整）〕（具志堅）			
第 13 回：「工作材料」を用いた作品制作〔仕上げ処理（研磨）〕（具志堅）			
第 14 回：「工作材料」を用いた作品制作〔仕上げ処理（塗装）〕（具志堅）			
第 15 回：「工作材料」を用いた作品制作〔発表・講評・考察〕（具志堅）			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
『木工手道具の基礎と実践』大工道具研究会（誠文堂新光社）2017			
『新技法シリーズ 石膏技法 正しい石膏の使い方』柳原明彦（美術出版社）1986			
学生に対する評価			
各提出作品と課題の制作過程から①総合的な表現力（造形的発想力、制作の工夫ができてい る）【50%】、②技術的評価（材料、技法、道具に関する理解ができている）【50%】			

授業科目名： 工芸演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：具志堅裕介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 工芸		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 材料と工具（技法）の関係を理解し、設定された視覚的条件や構造的条件に即したかたちをイメージし造形できる。 ・ 材料特性と使用場面を想定した形状を構想できる。			
授業の概要 美術の授業で用いられる身近な素材を用いて日常的に使用する工芸品やプロダクトの制作を通して、ものづくりの基礎としての「材料」と「工具」の関係について正しく理解し、加工のための基礎技法を習得する。また、製品の観察或使用感の評価を通して、社会的な視点に立った材料特性の活用方法や、使うことを前提とした形状を構想する能力についても修得していく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、今日のライフスタイルとものづくりの社会事情（講義） 第2回：木材を用いた生活用品の制作：材料の観察、作品の構想（演習） 第3回：木材を用いた生活用品の制作：デザイン・サイズ出し（演習） 第4回：木材を用いた生活用品の制作：素材の切り出し（演習） 第5回：木材を用いた生活用品の制作：全体の加工（演習） 第6回：木材を用いた生活用品の制作：細部の加工（演習） 第7回：木材を用いた生活用品の制作：仕上げ加工（演習） 第8回：木材を用いた生活用品の制作：使用感の評価と考察（演習・討議） 第9回：非木材を用いた生活用品の制作：材料の観察、作品の構想（演習） 第10回：非木材を用いた生活用品の制作：デザイン・サイズ出し（演習） 第11回：非木材を用いた生活用品の制作：素材の切り出し（演習） 第12回：非木材を用いた生活用品の制作：全体の加工（演習） 第13回：非木材を用いた生活用品の制作：細部の加工（演習） 第14回：非木材を用いた生活用品の制作：仕上げ加工（演習） 第15回：使用感及び形状の評価と講評（演習・討議） 定期試験は実施しない			
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 『木工手道具の基礎と実践』（大工道具研究会編、誠文堂新光社出版 2017） ほか適宜紹介する。			
学生に対する評価 作品：80%、レポート：20%を総合的に評価する。			

授業科目名： 造形史概説	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小林俊介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 西洋美術ならびに日本の伝統美術やアジアの美術における代表的作品について、美術史的な背景を踏まえながら理解を深めるとともに、作品の特質について説明することができる。			
授業の概要 西洋美術ならびに日本の伝統美術やアジアの美術における代表的作品の鑑賞を通じて、造形芸術の基礎的な知識を概説する。作品の記述（ディスクリプション）等の課題を課す。			
授業計画 第1回：オリエンテーション。美術史の基礎的な用語について。 第2回：古代オリエントの美術 第3回：古代ギリシャ・ローマの美術 第4回：西洋中世の美術 第5回：イタリア・ルネサンスの美術 第6回：北方ルネサンスの美術 第7回：バロック・ロココ美術 第8回：学習の中間まとめとしてのプレゼンテーションと討議 第9回：アジアの美術 第10回：日本の伝統美術 第11回：19世紀前半の美術 第12回：19世紀後半の美術 第13回：20世紀前半の美術 第14回：20世紀後半以降の美術 第15回：学習のまとめとしてのプレゼンテーションならびに討議 定期試験は行わない。			
テキスト 特になし。適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 『西洋美術館』青柳正規監修、小学館出版、1999年。ほか適宜紹介する。			
学生に対する評価 作品の特質に対する理解度をコメントペーパー（70%）およびレポート（30%）で評価する。			

授業科目名： 日本美術史概説	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐藤琴 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 古代から近世までの日本の美術（絵画・彫刻など）に関する基礎知識を身に付けることが目的である。 1）古代から近世までの日本の歴史と美術との関係を説明できる【知識・理解】 2）美術作品の素材や制作技法など造形としての基礎知識を身に付ける【理解・技能】 3）美術作品の鑑賞のポイントを見つけ出せるようになる【理解・習慣】			
授業の概要 日本美術史を代表する作品を取り上げ、作品画像を見せながら作品理解のための基礎知識について解説する。			
授業計画 第1回：飛鳥時代 法隆寺金堂釈迦三尊像を中心として 第2回：奈良時代 興福寺阿修羅像と東大寺四天王像 第3回：平安時代の仏像 密教と一木造 第4回：平安時代の仏画 青不動から普賢菩薩像 第5回：平安時代の絵巻 第6回：中世の仏像 運慶・快慶 第7回：中世の肖像画 似絵と頂相 第8回：中世の水墨画 第9回：中世のやまと絵 第10回：近世の絵画 琳派 第11回：近世の絵画 18世紀の京都画壇 第12回：近世の絵画 南蘋派と南画 第13回：近世の絵画 浮世絵 第14回：近世の絵画 西洋のインパクト 第15回：まとめ 定期試験は行わない。			
テキスト 教員が作成した資料を配付する。			
参考書・参考資料等 『日本美術全集』20巻 小学館 2013～2016年 『日本美術館』 小学館 1997年 『伝統文化（日本の伝統文化）』（五味文彦著 山川出版社出版 2019年）			
学生に対する評価 美術作品は社会的背景と当時の受容者のさまざまな求めに応じて制作されたことを理解できたか。時代によってどのような技法が使われていたのかを理解できたか。作品を鑑賞するポイントを理解できたかを授業レスポンス（30%）と期末レポート（70%）で評価する。			

授業科目名： 造形史特論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小林俊介 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 近代および現代の美術、とくにその制作の論理について、美術史的な背景を踏まえながら理解を深めるとともに、作品の特質について説明することができる。				
授業の概要 近代および現代の美術における代表的作品の鑑賞を通じて、造形芸術の基礎的な知識を概説する。随時美術館見学や作品の記述（ディスクリプション）等の課題を課す。				
授業計画 第1回：オリエンテーション：アヴァンギャルドとモダニズムの概念について 第2回：19世紀の美術（1）写実主義から印象派へ 第3回：19世紀の美術（2）象徴主義 第4回：19世紀の美術（3）後期印象主義と表現主義 第5回：20世紀前半の美術（1）キュビズムと抽象美術 第6回：20世紀後半の美術（2）ダダとシュルレアリスム 第7回：学習の中間まとめとしてのプレゼンテーションと討議 第8回：20世紀後半の美術（1）アンフォルメルと抽象表現主義 第9回：20世紀後半の美術（2）ネオ・ダダとポップアート 第10回：20世紀後半の美術（3）ヌーボー・レアリスム 第11回：20世紀後半の美術（4）ミニマルアートとコンセプチュアルアート 第12回：戦後の日本とアジアの動向（1）：前衛的傾向を中心に 第13回：戦後の日本とアジアの動向（2）：日本概念派と「もの派」 第14回：1980年代以降の状況：ポストモダンの美術 第15回：学習のまとめとしてのプレゼンテーションと討議 定期試験は行わない。				
テキスト 特になし。適宜資料を配付する。				
参考書・参考資料等 『西洋美術館』（青柳正規監修、小学館出版、1999年）。ほか適宜紹介する。				
学生に対する評価 作品の特質に対する理解度をコメントペーパー（70%）およびレポート（30%）で評価する				

授業科目名： 彫刻論		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 2単位		担当教員名：土井敬真 担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞及び日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）					
授業のテーマ及び到達目標 彫刻という立体芸術について、面・量感といった造形要素や芸術的特質を理解しながら学習することをテーマとする。特に日本において明治時代以降どのように西洋の彫刻という概念が導入され、根付いてきたのかを考察する。 (1) 日本における近代以降とそれ以前の立体芸術について考察し、現代の彫刻という概念がどのように形成されてきたのかについて述べることができる。 (2) 彫刻という立体芸術について、面・量感といった造形要素や芸術的特質を述べることができる。 (3) 今後の日本の彫刻芸術がどのようなものであるべきかを考察することができる。							
授業の概要 日本及び西洋の近・現代彫刻作品の鑑賞を中心に講義する。日本における彫刻の歴史を学び、今後の彫刻作品のあり方を考察する。							
授業計画 第1回：彫刻とは何か 第2回：彫刻の特質について 第3回：彫刻の造形要素について 第4回：彫刻の素材・技法について 第5回：日本の近代彫刻その1・彫刻の導入～明治時代 第6回：日本の近代彫刻その2・工部美術学校と東京美術学校 第7回：日本の近代彫刻その3・ロダンがもたらした影響 第8回：日本の近代彫刻その4・東洋的なものと西洋的なもの 第9回：彫刻の表現について 第10回：抽象彫刻の始まり 第11回：西洋の近・現代彫刻その1・フランス 第12回：西洋の近・現代彫刻その2・ドイツ・イタリア 第13回：西洋の近・現代彫刻その3・イギリス・アメリカ 第14回：日本の現代彫刻 第15回：これからの日本における彫刻とは 定期試験は行わない。							
テキスト なし。この授業では、担当教員が作成するスライド、プリントなどを授業で資料として配布し、都度、参考書などを紹介する。							
参考書・参考資料等 『中原佑介美術批評 選集 第6巻 現代彫刻論－物質文明との対峙』（現代企画室＋BankART出版, 2012年）、『日本彫刻の近代』（淡交社, 2007年）、『近代日本彫刻史』（田中修二, 国書刊行会, 2018年）、『近代日本彫刻集成 第一巻 幕末・明治編』（田中修二編, 国書刊行会, 2010年）、『近代日本彫刻集成 第二巻 明治後期・大正編』（田中修二編, 国書刊行会, 2012年）、『近代日本彫刻集成 第三巻 昭和前期編』（田中修二編, 国書刊行会, 2013年）、『彫刻をつくる』（美術出版社, 1965年）、『彫塑 制作と技法の実際』（岩野勇三, 日貿出版社, 1982年）、『彫刻制作メモ』（土井敬真, 2023年）							
学生に対する評価 毎回の授業におけるコメントカード60%、レポート40% 授業の到達目標で示した彫刻の造形要素や特質について理解し、彫刻という立体芸術について論述できることを合格の基準とする。							

授業科目名： 生涯学習と造形		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：廖曦彤 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
生涯学習の歴史と理論を概説するとともに、生涯学習社会における造形芸術の位置づけや役割について、アートマネジメントや博物館学、文化政策学の成果を援用しながら、実践的な生涯学習プログラムの具体例を作成・検討することを通じて理解することを目的とします。 (1)地域社会における課題発見、コミュニティ形成やまちづくりにおける芸術の役割について具体的に理解できるようになる。 (2)多様な文脈で造形を通した様々な学びの可能性、多様な主体の連携、芸術活動を通したコミュニケーションやネットワーク形成とそれが人々にもたらす効果を理解できるようになる。 (3)造形を通した学習活動を企画・演習することで、コーディネーターとしての芸術（家）の役割について具体的に理解できるようになる。				
授業の概要				
講義では、アートプロジェクト、美術のワークショップ、ホスピタルアートなど造形美術活動を通して地域との関わりや幅広い学びを作り出す「場」について基本的な理解を獲得した上で、各自の関心に従った事例調査と共有を行う。演習では、造形活動による生涯学習のプログラムを企画し小規模の演習を通して、企画する側の実践知を深める。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション／生涯学習と芸術の関わり概説				
第2回：アートプロジェクトの歴史と代表的な事例、美術館とアート活動について				
第3回：ホスピタルアート・アートセラピー・Art as Therapyについて				
第4回：ワークショップ／体験型学習について、NPOによる芸術活動の企画・運営				
第5回：造形による生涯学習活動の事例調査：事例概要を広くリサーチ				
第6回：造形による生涯学習活動の事例調査：一つの事例をより詳細的に				
第7回：造形による生涯学習活動の事例調査の発表				
第8回：造形による生涯学習活動の事例調査のグループ討議				
第9回：造形による生涯学習活動の企画構想				
第10回：造形による生涯学習活動の企画案の共有と議論				
第11回：各自が考案した造形による生涯学習活動の演習 作る活動に関連したプログラム				
第12回：各自が考案した造形による生涯学習活動の演習 対話する活動に関連したプログラム				
第13回：演習に対する振り返り、プログラムの改善案の検討：個々の振り返り				
第14回：演習に対する振り返り、プログラムの改善案の検討：グループ討議				
第15回：授業まとめ、全体振り返り（個人＋グループ）				
定期試験は実施しない。				
テキスト				
授業中に適宜資料を配布する。				
参考書・参考資料等				
『アートプロジェクト（芸術と共創する社会）』（熊倉純子監修、菊地拓児編、長津結一郎編 水曜社出版、2014）				
『芸術文化と地域づくり——アートで人とまちをしあわせに』（古賀弥生著、九州大学出版会出版、2020）				

学生に対する評価

事例調査と発表への取り組み（35％）、プログラム考案と実施への取り組み状況（35％）、企画案および振り返りレポート（30％）

授業科目名： 造形表現総合演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小林俊介、具志堅 裕介、土井敬真、廖曦彤 担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた 内容に係る科目		
授業のテーマ及び到達目標 中学校・高等学校美術科の内容における複数の領域にまたがる表現の演習と具体的な単元の 内容又は教材を開発することを通して、美術科の実践的指導力の基礎を養う。 (1)造形表現の各領域の今日的な課題を明確にし、美術科における学びのあり方について述べる ことができる。 (2)複数領域にまたがる作品の制作・表現と展示の研究を行なうことができる。 (3)美術における総合的な造形能力と美的判断力を培い、教材化することができる。			
授業の概要 本授業は、美術の専門的内容における複数の領域を総合的に捉え活用する。現代の美術にお いては、複数の材料やメディアを組み合わせ、表現ジャンルの垣根を越えた総合的な表現が行 われている。こうした課題から主題を定め、単元の内容又は教材を、教科に関する科目の複数 教員がチームを構成して指導にあたる。			
授業計画 第1回： オリエンテーション／授業課題の明確化（小林、具志堅、土井、廖） 第2回：現代の造形美術における今日的課題の抽出と討議（小林、具志堅、土井、廖） 第3回：制作課題の設定と制作計画の策定（小林、具志堅、土井、廖） 第4回：平面造形における素材の研究（小林、廖） 第5回：平面造形における複合的表現の研究（小林、廖） 第6回：立体造形における素材の研究（具志堅、土井） 第7回：立体造形における複合的表現の研究（具志堅、土井） 第8回：素材・表現研究の中間発表と相互評価・討議（小林、具志堅、土井、廖） 第9回：複合的素材と媒体による版表現研究（小林、廖） 第10回：複合的素材と媒体による環境的展示の研究（具志堅、土井） 第11回：複合的素材と媒体によるデザイン研究（具志堅、土井） 第12回：複合的素材と媒体による色彩表現の研究（小林、廖） 第13回：制作・表現・展示研究の振り返りと教材化の研究（小林、具志堅、土井、廖） 第14回：作品の教材化と指導法の研究（小林、具志堅、土井、廖） 第15回：プレゼンテーションと学習のまとめ（小林、具志堅、土井、廖） 定期試験は実施しない			
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（平成29年）、文部科学省『高等学校学習指導 要領解説 芸術編』（平成30年）			
学生に対する評価 制作研究及び教材開発にあたっての課題意識の明確化/独自性（35％）、美術科の複数領域に関 わる実技と理論の基礎的理解と総合的な制作に関する理解（35％）、制作研究の質と開発した 教材の具体性（30％）			

授業科目名： 美術科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小林俊介・土井 敬真・廖曦彤
			担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
美術科教育の目標や内容、指導法、教科の意義について理解すると同時に、題材研究や研究授業およびその省察を通して、学校教育現場における美術教育のあり方及び授業づくりの重要なポイントについて実践的に考察する。			
(1)美術科教育の目標や内容、指導する上で重要なことを実践的に理解し考察できる。			
(2)題材研究、模擬授業を通して、授業づくりの注意点や改善点を踏まえて授業改善を行うことができる。			
(3)教育実習に向けて重要なポイントや心構えなど理解し、学習指導案を書くことができる。			
授業の概要			
演習形式の授業形態で題材研究や実際の授業例などを活用し実践的に行う。学校現場の教師を招いて実際の学校教育現場と教育の実際を理解する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション／美術教育の意義と目的／学習指導要領について（小林・廖）			
第2回：教科書からみた美術科教育（小林・廖）			
第3回：鑑賞学習の展開-対話型鑑賞&名画カードの活用（小林・土井・廖）			
第4回：鑑賞学習の展開-なりきって演じてみる（小林・土井・廖）			
第5回：鑑賞学習の展開-美的判断ジレンマ（廖）			
第6回：美術科学習の評価（小林・廖）			
第7回：模擬授業に向けて-電子黒板を活用した題材構想-（小林・廖）			
第8回：模擬授業に向けて-電子黒板を活用した題材研究と授業流れの具体化（小林・廖）			
第9回：学習指導案の書き方と電子黒板を活用した題材の指導案の作成（小林・廖）			
第10回：電子黒板を活用した題材の指導案に関する議論と意見交換（小林・廖）			
第11回：模擬授業と授業研究（1）演習と記録（小林・廖）			
第12回：模擬授業と授業研究（2）場面と発話の分析（小林・廖）			
第13回：模擬授業と授業研究（3）改善点の検討（小林・廖）			
第14回：実地指導講師の先生による授業—中学校美術科教育の現場を踏まえて—（小林・廖）			
第15回：授業まとめ、振り返り、相互評価（小林・廖）			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
美術科教育の基礎知識（2010 福田 隆真ほか 建帛社）、中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)、中学校学習指導要領解説 美術編（平成29年7月 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説 芸術編（平成30年7月 文部科学省）			
学生に対する評価			
毎回授業の意見交換（20％）、題材研究と模擬授業への取り組み（45％）、学習指導案と振り返りレポート（35％）			

授業科目名： 美術の教材分析A	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：小林俊介・土井 敬真・廖曦彤 担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業は、芸術教育者の自己省察と探求方法「A/r/tography」の考え方に基づいて、造形美術を通して物事を探求すること関係性を作り出す役割について理解し、題材や教材として開発し効果を考察する。自身の造形美術の体験を踏まえ構想・開発した教材・題材を他者との演習を通して、生徒／教師／題材の観点から成果と改善点を検討する。			
(1)自身の体験を踏まえて、他者にどのような体験をもたらしたいのかといった題材研究から教材作成までの一連の過程を経験し、作成した教材の目的と流れを説明することができる。			
(2)題材研究を協同的に行い、記録・演習を通して自身のプログラムを評価することができる。			
(3)演習などで得られた成果の展示を通して、作品展示の基本的な考え方や方法を身につける。			
授業の概要			
本授業は、一人ひとりの関心を踏まえて教材・題材研究の主題を決め、題材研究を行い、開発した題材を他者の協力のもとに演習する。他者からのフィードバックを踏まえて題材の効果と可能性を考察すると同時に、他者の題材演習に積極的に参与し、意見交換を行う。			
授業計画			
第1回：ものごとの探求方法論としてのアート～造形活動をと大して自分・他者・世界を知る（廖）			
第2回：Walking with A/r/tographyの題材研究の提案～皆でアートブックを作る（1）収集（廖）			
第3回：Walking with A/r/tographyの題材研究の提案～皆でアートブックを作る（2）表現（廖）			
第4回：Walking with A/r/tographyの題材研究の提案～皆でアートブックを作る（3）共有（廖）			
第5回：表現・題材研究テーマの模索と関心の省察（廖・小林）			
第6回：各自の関心に従った題材の構想と教材研究（廖・小林）			
第7回：各自の構想した教材を基づいた小プログラムの流れの検討（廖・小林）			
第8回：各自が構想した小プログラムの演習（1）平面表現に関連した題材（廖・小林）			
第9回：各自が構想した小プログラムの演習（2）立体表現に関連した題材（廖・土井）			
第10回：各自が構想した小プログラムの演習（3）総合的な表現に関連した題材（廖・土井・小林）			
第11回：各自の小プログラム演習の振り返りと成果物（作品）の整理と分析（廖・小林）			
第12回：展示に向けた展示案の検討と議論（廖・小林）			
第13回：展示の設営とレイアウト（廖・小林）			
第14回：展示者によるギャラリー・トーク（廖・小林）			
第15回：展示撤収、授業の振り返り・まとめ（廖・小林）			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
アートベース・リサーチがひらく教育の実践と理論（笠原広一・小松佳代子・生井亮司、学術研究出版、2022）アートグラフィー 芸術家/研究者/教育者として生きる探求の技法（笠原広一 学術研究出版、2022）			
学生に対する評価			

題材研究の提案と演習（60%）、協同的な探求への取り組み（40%）

授業科目名： 美術の教材分析 B	教員の免許状取得のための 中学校：必修科目 高等学校：選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：小林俊介・具志堅裕介
			担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①デザイン・工芸・メディア表現の特性を踏まえた指導計画や、題材・教材の工夫ができる。			
②授業要件に基づく表現及び鑑賞の指導案と、バランスのとれた年間指導計画を作成できる。			
授業の概要			
美術科への理解を深めるため、「伝える・使う」などの目的や機能に関する学習の成り立ちと、表現及び鑑賞それぞれの教材設定の手法及び指導法について理解し、指導計画や、題材・教材の開発方法についての理解を深めることを目的とする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 授業内容の確認と授業計画について説明（講義）（小林・具志堅）			
第2回：デザインの教材研究：デザインの目的と表現、情報リテラシー（講義と演習）（具志堅）			
第3回：デザインの教材研究：情報機器を用いた情報収集（演習）（具志堅）			
第4回：デザインの教材研究：情報機器を用いた情報整理（演習）（具志堅）			
第5回：工芸の教材研究：目的と用途を考える（講義と演習）（具志堅）			
第6回：工芸の教材研究：素材と道具（演習）（具志堅）			
第7回：工芸の教材研究：使い心地（講義と演習）（具志堅）			
第8回：メディア表現の教材研究：ツールとしての情報機器（講義と演習）（具志堅）			
第9回：メディア表現の教材研究：映像表現（演習）（具志堅）			
第10回：メディア表現の教材研究：デジタル作品の扱い（講義と演習）（具志堅）			
第11回：指導案の作成 単元の目標と題材の設定理由について（講義・演習）（小林・具志堅）			
第12回：指導案の作成 単元の授業計画と留意点の予測について（講義・演習）（小林・具志堅）			
第13回：模擬授業によるモデル授業分析 題材設定について（演習・討議）（小林・具志堅）			
第14回：年間指導計画の作成（講義・演習）（小林・具志堅）			
第15回：年間指導計画の発表（演習・討議）（小林・具志堅）			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
中学校学習指導要領解説美術編（文部科学省、平成 29 年 7 月）			
高等学校学習指導要領解説芸術編（文部科学省、平成 30 年 7 月）			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価			
授業分析レポート（50%）、指導案の作成（30%）、年間指導計画の作成（20%）			

授業科目名： 美術科実践演習	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：廖曦彤、具志堅 裕介、小林俊介、土井敬真 担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 美術)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校美術科の具体的な単元の内容又は教材を開発し、模擬授業の演習を通して、美術科の実践的指導力の基礎を養う。 (1) 美術科の今日的課題を理解し述べることができる。 (2) 美術科に適した教材の作成に関する基礎的な事項について実践的に理解できる。 (3) 課題意識の明確な授業づくりおよび指導法について理解し、学習指導案を作成できる。			
授業の概要 本授業は美術の専門的内容と授業構成を架橋する授業科目である。そのため、教科に関する科目の教員と教科教育の教員がチームを構成して指導に当たる。美術科の今日的な課題を把握し理解した上で授業主題を定め、単元の内容又は教材を開発し、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。自身の模擬授業の振り返りを通して開発した題材・教材の改善を検討する。			
授業計画 第1回：総論／造形美術教育の今日的課題を踏まえた教材研究について（廖、具志堅、小林、土井） 第2回：教育実践実習の振り返りと課題の抽出（廖、具志堅、小林、土井） 第3回：表現（絵画領域）の教材について（小林） 第4回：表現（絵画領域）の指導法と指導上の留意点について（小林） 第5回：鑑賞の教材について（小林・廖） 第6回：鑑賞の指導法と指導上の留意点について（小林・廖） 第7回：表現（彫刻領域）の教材について（土井） 第8回：表現（彫刻領域）の指導法と指導上の留意点について（土井） 第9回：表現（デザイン・工芸領域）の教材について（具志堅） 第10回：表現（デザイン・工芸領域）の指導法と指導上の留意点について（具志堅） 第11回：情報機器を活用した教材開発（廖、具志堅、小林、土井） 第12回：情報機器を活用した教材開発と意見交換（廖、具志堅、小林、土井） 第13回：開発した教材を用いた模擬授業（1）記録と演習（廖、具志堅、小林、土井） 第14回：開発した教材を用いた模擬授業（2）場面と発話の分析（廖、具志堅、小林、土井） 第15回：授業まとめ、グループによる相互評価、学習指導案の改善（廖、具志堅、小林、土井） 定期試験は実施しない。			
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説 美術編（文部科学省 平成29年7月）、高等学校学習指導要領解説 芸術編（文部科学省 平成30年7月）			

学生に対する評価

教材研究と教材開発の取り組み（35%）、模擬授業（35%）、学習指導案と振り返りレポート（30%）

授業科目名： 保健体育入門A		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：渡邊信晃、井上 功一郎、張育綺、三枝巧、清 水香、小松恒誠
		担当形態：オムニバス・複数		
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 本授業の到達目標は、保健体育科の内容である体づくり運動や保健体育教師として求められる体力・身体測定、インクルーシブ体育などの実践方法に関する基礎的な知識や技術を習得し、実際に説明や実演ができるようになることをねらいとする。				
授業の概要 本授業は、スポーツ科学を専門とする複数の教員が各専門分野の立場から体づくり運動とそれに関連が深い体力・身体測定の実践方法に関する基礎的な知識や技術について、実技を通した指導を行う。				
授業計画（各回2時間、計30時間を授業時間とする。） 第1回： オリエンテーション（授業の進め方、受講のあり方について）（小松・清水） 体づくり運動① 体ほぐしの運動遊び（小松・清水） 第2回： 体づくり運動② 体ほぐしの運動 コミュニケーションゲーム（小松・清水） 第3回： 体づくり運動③ 体ほぐしの運動 伝承遊び（小松・清水） 第4回： 体づくり運動④ 体ほぐしの運動 レクリエーションスポーツ（小松・清水） 第5回： 体づくり運動⑤ 体ほぐしの運動 エスニックスポーツ（小松・清水） 第6回： 体力・身体測定の方法と実践① 体力・身体測定の基礎と意義（井上・渡邊） 第7回： 体力・身体測定の方法と実践② 形態計測と評価（井上・渡邊） 第8回： 体力・身体測定の方法と実践③ 身体組成と評価（井上・渡邊） 第9回： 体力・身体測定の方法と実践④ 新体力テスト（井上・渡邊） 第10回： 体力・身体測定の方法と実践⑤ アスリートの体力測定（井上・渡邊） 第11回： アダプテッドスポーツの基礎と意義（三枝・張） 第12回： アダプテッドスポーツの実践① シッティングバレー（三枝・張） 第13回： アダプテッドスポーツの実践② ボッチャ（三枝・張） 第14回： アダプテッドスポーツの実践③ ブラインドスポーツ（三枝・張） 第15回： アダプテッドスポーツの実践④ アダプテッドスポーツ、授業のまとめ（三枝・張）				
テキスト 適宜、授業内で示す。				
参考書・参考資料等 文部科学省「体づくり運動 学校体育実技指導資料」、文部科学省「障害のある子どもがいる体育授業のためのガイドブック」				
学生に対する評価 ・ 体づくり運動や体力・身体測定、アダプテッドスポーツの実践方法に関する基礎的知識の理解（40%） ・ 体づくり運動や体力・身体測定、アダプテッドスポーツの実践力（40%） ・ 授業への参加意欲と態度（20%）				

授業科目名： 保健体育入門B		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：渡邊信晃、井上 功一郎、張育綺、三枝巧、清 水香、小松恒誠
		担当形態：オムニバス・複数		
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 本授業の到達目標は、保健体育科の内容である体づくり運動、トレーニングや応急処置の実践方法 に関する基礎的な知識や技術を習得し、実際に説明や実演ができるようになることをねらいとする。				
授業の概要 本授業は、スポーツ科学を専門とする複数の教員が各専門分野の立場から保健体育科の内容 である体づくり運動や保健体育教師として求められる目的に応じたトレーニングや「する・みる・さ さえる」スポーツを保障する体育経営、傷害時の応急処置などの実践方法に関する基礎的な知識や技 術について実技を通じた指導を行う。				
授業計画（各回2時間、計30時間を授業時間とする。） 第1回：オリエンテーション（授業の進め方、受講のあり方について） トレーニングの基礎（渡邊・井上） 第2回：トレーニング計画の立て方（渡邊・井上） 第3回：体づくり運動① 体の動きを高める運動 ウェイトトレーニング（渡邊・井上） 第4回：体づくり運動② 体の動きを高める運動 サーキットトレーニング（渡邊・井上） 第5回：体づくり運動③ 体の動きを高める運動 プライオメトリックトレーニング（渡邊・井上） 第6回：体づくり運動④ 体の動きを高める運動 ストレッチング（張・三枝） 第7回：体づくり運動⑤ 体の動きを高める運動 ピラティス（張・三枝） 第8回：体育・スポーツ経営とマネジメントの基礎（張・三枝） 第9回：「する・みる・支える」スポーツの体育経営 「みる」スポーツ（張・三枝） 第10回：「する・みる・支える」スポーツの体育経営 「する・支える」スポーツ（張・三枝） 第11回：スポーツ傷害時における応急処置の方法と実践（清水・小松） 第12回：健康づくりのための運動（清水・小松） 第13回：体づくり運動⑥ 体の動きを高める運動 持久走（清水・小松） 第14回：体づくり運動⑦ 体の動きを高める運動 縄跳びを使った運動（清水・小松） 第15回：体づくり運動⑧ 運動計画の立案と実践、授業のまとめ（清水・小松）				
テキスト 適宜、授業内で示す。				
参考書・参考資料等 文部科学省「体づくり運動 学校体育実技指導資料」				
学生に対する評価 ・体づくり運動やトレーニング・応急処置・体育経営の実践方法に関する基礎的知識の理解（40%） ・体づくり運動やトレーニング・応急処置・体育経営の実践力（40%） ・授業への参加意欲と態度（20%）				

授業科目名： 体育スポーツ実技（球技A）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 井上功一郎、天野和彦
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業の到達目標及びテーマ ・ 球技（ゴール型：サッカー、ネット型：バドミントン）の実技に取り組みながら、専門用語およびルール、競技特性について理解し、説明できる。 ・ 球技（ゴール型：サッカー、ネット型：バドミントン）の技能を習得し、指導するための基礎的実践能力を身につける。			
授業の概要 ・ 基本的な個人技術の習得からゲームにおける戦術の実践へと授業を展開する。 ・ ルールの説明方法や各種練習・ゲームの運営方法について学習する。 ・ 授業における実践記録ノートを作成し、知識や所感をまとめることで理解を深める。			
授業計画（各回2時間、計30時間を授業時間とする。） 第1回：球技の種類と分類、基礎知識（井上） 【ゴール型（サッカー）】 第2回：ボールフィーリング（井上） 第3回：ドリブルの練習方法の実践（井上） 第4回：パスの練習方法の実践（井上） 第5回：シュートの練習方法の実践（井上） 第6回：対人プレーの練習方法の実践（攻撃および守備の原則）（井上） 第7回：複数人での対人プレーの練習方法の実践（グループ戦術）（井上） 第8回：ゲームの運営方法、実技テスト（井上） 【ネット型（バドミントン）】 第9回：ラケットとシャトルの扱い、スイングの基本（天野） 第10回：ドライブ、ハイ・クリアの練習方法の実践（天野） 第11回：スマッシュ、ドロップの練習方法の実践（天野） 第12回：サービスの練習方法の実践（シングルス・ダブルスの進め方）（天野） 第13回：レシーブの練習方法の実践（基礎打ち）（天野） 第14回：コンビネーションの練習方法の実践（ダブルスの陣形）（天野） 第15回：ゲームの運営方法、実技テスト（天野）			
テキスト ・ 必要な資料やプリントを配布する。			
参考書・参考資料等 ・ 中学校体育 サッカー指導の教科書（日本サッカー協会著、東洋館出版社出版） ・ バドミントンのルール審判の基本（日本バドミントン協会著、実業之日本社出版）			
学生に対する評価 ・ 専門用語およびルール、競技特性の理解度（30%） ・ 実技テストの結果を含む技能習熟度（40%） ・ 授業への参加意欲と態度（30%）			

授業科目名： 体育スポーツ実技（球技B）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 小松恒誠、沼田尚 担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 球技（ゴール型とベースボール型）の実技に取り組みながら、専門用語およびルール、競技特性について理解し、説明できる。 ・ 球技（ゴール型とベースボール型）の技能を習得し、それぞれの種目を指導するための実践能力を身につける。			
授業の概要 ・ 基本的な個人技術の習得からゲームにおけるグループ戦術の実践へと授業を展開する。 ・ ルールの説明方法や各種練習・ゲームの運営方法について学習する。 ・ 授業における実践記録ノートを作成し、知識や所感をまとめることで理解を深める。			
授業計画（各回2時間、計30時間を授業時間とする。） 【ベースボール型ゲーム】 第1回：オリエンテーション 授業の進め方（小松・沼田） ベースボール型ゲームの特性と運営方法について 第2回：フットベースボールのルールの理解、技術の習得とゲームの実践（沼田） 第3回：ハンドベースボールのルールの理解、技術の習得とゲームの実践（沼田） 第4回：ティーボールのルールの理解、技術の習得とゲームの実践（沼田） 第5回：クリケット型ゲームのルールの理解、技術の習得とゲームの実践（沼田） 第6回：ソフトボールのルールの理解、個人技術の習得とゲームの実践（沼田） 第7回：ソフトボールのチームプレイ・チーム技術の習得とゲームの実践（沼田） 【ゴール型ゲーム（タグラグビー）】 第8回：個人技術・グループ戦術に関する実技テスト（沼田） 第9回：タグラグビーの特性とゲームの運営方法について（小松） 第10回：個人技術（ランスキル、パススキル）の学習 基本的なルールの理解とゲームの実践（小松） 第11回：グループ戦術（ラインアタック、クロスプレイ）の学習 基本的なルールでのゲーム実践（小松） 第12回：グループ戦術（ラインアタック、ループプレイ）の学習 基本的なルールでのゲーム実践（小松） 第13回：グループ戦術（ラインディフェンス）の学習、発展的なルールでのゲーム実践（小松） 第14回：個人技術・グループ戦術の練習、発展的なルールでのゲーム実践（小松） 第15回：個人技術・グループ戦術に関する知識・実技テスト（小松）			
テキスト 必要な資料やプリントを授業ごとに配布したり、授業進度・学生の理解に合わせて、テキスト・参考書などを紹介したりする			
参考書・参考資料等 日本ラグビーフットボール協会監修『だれでもできるタグラグビー』小学館			
学生に対する評価 ・ 専門用語およびルール、競技特性の理解度（30%） ・ 実技テストの結果を含む技能習熟度（40%） ・ 授業への参加意欲と態度（30%）			

授業科目名： 体育スポーツ実技（武 道・ダンス）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 竹田隆一、花輪千秋 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 ・武道及びダンスの実技に取り組みながら、専門用語およびルール、運動特性について理解し、説明できる。 ・武道及びダンスの技能を習得し、それぞれの種目を指導するための実践能力を身につける。			
授業の概要 この授業は、武道・ダンスを指導する上で基礎的な必要な知識や技術について、実技を通して理解し、各種目の実践能力を養う科目である。			
授業計画（各回2時間、計30時間を授業時間とする。） 【武道】 第1回：オリエンテーション、武道（柔道、剣道、弓道など）の歴史、運動特性（竹田） 第2回：木刀を使つての基本形（竹田） 第3回：防具をつけての基本形（木刀の基本形を防具をつけておこなう）（竹田） 防具をつけての技の練習（仕掛け技・応じ技） 第4回：技の練習（打ち込み稽古を中心におこなう）（竹田） 第5回：対人技能の練習（互角稽古を中心におこなう。）（竹田） 第6回：試合法・審判法（審判の所作・宣告の仕方を中心におこなう。）（竹田） 第7回：総合練習（トーナメント試合をおこない、総合的に学習する。）（竹田） 【ダンス】 第8回：ダンスとは何か、ダンスの教育分野への応用（花輪） 第9回：指導要領上のダンスの位置づけ、3つのダンス領域について（花輪） 第10回：学習対象者に合わせたダンスの教材化と指導法（花輪） 第11回：ストレッチ及びダンスの基本運動（花輪） 第12回：フォークダンス（花輪） 第13回：リズムダンス（花輪） 第14回：創作ダンス（花輪） 第15回：授業のまとめ、実技試験（花輪）			
テキスト ・必要な資料やプリントを授業ごとに配布したり、授業進度・学生の理解に合わせて、テキスト・参考書などを紹介したりする			
参考書・参考資料等 ・「舞踊講義」舞踊教育研究会編、大修館書店出版。			
学生に対する評価 ・専門用語およびルール、競技特性の理解度（30%） ・実技テスト（試合や作品の創作及び発表）の結果を含む技能習熟度（40%） ・授業への参加意欲と態度（30%）			

授業科目名： 体育スポーツ実技（器械運動・陸上競技）		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 1単位		担当教員名： 沼田 尚、渡邊 信晃 担当形態：オムニバス	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 体育実技					
授業のテーマ及び到達目標							
- 器械運動及び陸上競技の実技に取り組みながら、専門用語およびルール、競技特性について理解し、説明できる。 - 器械運動及び陸上競技の技能を習得し、それぞれの種目を指導するための実践能力を身につける。							
授業の概要							
- 器械運動及び陸上競技の各種目における基本的な技術の習得から実践へと授業を展開する。 - 審判法や試合の運営、演技構成について学習する。 - 授業における実践記録ノートを作成し、各種目に対する理解を深める。							
授業計画（各回2時間、計30時間を授業時間とする。）							
【器械運動】							
第1回：「学習位相理論」 器械運動への導入的運動と安全・安心への意識付け（講義&実技）（沼田）							
第2回：マット運動;導入的運動 支持感覚を基本として練習（実技）（沼田）							
第3回：マット運動;導入的運動 回転感覚を中心として練習（実技）（沼田）							
第4回：マット運動;応用的運動 後方回転系の発展技の練習（実技）（沼田）							
第5回：マット運動から跳び箱運動（開脚跳び）への導入（実技）（沼田）							
第6回：マット運動から跳び箱運動（転回跳び）への導入（実技）（沼田）							
第7回：マット運動から鉄棒運動（逆上がり）への導入（実技）（沼田）							
第8回：全体の総括と演技（実技）（沼田）							
【陸上競技】							
第9回：短距離走・リレーの基礎（動きづくり、スタートダッシュ、バトンパスの技術）（実技）（渡邊）							
第10回：ハードル走の基礎（動きづくりとアプローチ走）（実技）（渡邊）							
第11回：走り幅跳びの基礎（踏み切り動作、空中動作、着地動作）（実技）（渡邊）							
第12回：走り高跳びの基礎（はさみ跳びから背面跳びへの展開）（実技）（渡邊）							
第13回：投てき種目の基礎（砲丸やメディシンボール、ジャベリックボール、ターボジャブ等を使った投てきの動きづくり）（渡邊）							
第14回：長距離走の基礎（ペース走やインターバル走の実際）（実技）（渡邊）							
第15回：記録会（走・跳・投種目の記録会とその運営、まとめ）（実技）（渡邊）							
テキスト							
必要な資料は適宜配布する。							
参考書・参考資料等							
必要に応じて授業内で適宜紹介する。							
学生に対する評価							
- 専門用語およびルール、競技特性の理解度（30%） - 実技テストの結果を含む技能習熟度（40%） - 授業への参加意欲と態度（30%）							

授業科目名： 体育スポーツ実技（水泳）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：清水 香 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 4泳法及び安全管理など、水泳活動全般に関わる基本基術について説明できる。 ・ 実技指導に必要な英力を身につける。 ・ 対象に応じた指導上の配慮ができる。			
授業の概要 講義と実技によって保健体育教員として必要な水泳（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ）の基本的技術を習得するとともに、水泳競技のルールについても学習する。また、学習を通じて、水泳活動の意義について学習し、活動を実施する際の安全管理体制についても理解を求めることで、水中環境に対する視野を広げる。			
授業計画（各回2時間、計30時間を授業時間とする。） 第1回： 水泳の基礎理論（講義） 第2回： 水泳と健康（講義） 第3回： 水泳の安全指導（講義） 第4回： 水泳事故における救助法と心肺蘇生（講義） 第5回： 水泳の科学：生理学的要因（講義） 第6回： 水泳の科学：心理的要因（講義） 第7回： 安全な水泳能力の習得：立ち泳ぎ、横泳ぎ、救助法（実技） 第8回： 水泳のレクリエーション（実技） 第9回： 泳法技術、指導法の習得：クロール（実技） 第10回： 水泳技術、指導法の習得：平泳ぎ（実技） 第11回： 水泳技術、指導法の習得：背泳ぎ（実技） 第12回： 水泳技術、指導法の習得：バタフライ（実技） 第13回： 時間泳：クロール、平泳ぎ（実技） 第14回： 総合練習：4泳法（実技） 第15回： 4泳法のまとめと実技試験			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

公益財団法人日本水泳連盟編『水泳指導教本三訂版』大修館書店出版

公益財団法人日本水泳連盟編『水泳教師教本三改版』大修館書店出版

学生に対する評価

授業への参加態度・意欲（50%）および、基準への到達度を実技試験（50%）にて評価する。

授業科目名： 体育スポーツ実技（冬季スポーツ）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 渡邊信晃、三枝巧、沼田尚
			担当形態：クラス分け
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 主にアルペンスキーの技能向上を目指すことを通じて、技術の習熟過程を理解し、個人の習熟段階に応じた実践・指導ができる。自然環境でのスポーツ活動に対する意義と安全への配慮について理解し、実践できる。			
授業の概要 技能班別の学習によりアルペンスキー技術の向上を通して、スポーツ技術の獲得や習熟プロセスを解説する。また、自然環境におけるスポーツ実践と安全管理について説明する。			
授業計画（各回2時間、計30時間を授業時間とする。） 第1回：ガイダンス、受講の心構えについて 第2回：技術・能力別班編成 第3回：基本技術（歩行技術） 第4回：基本技術（登行技術：階段登行、ハの字登行） 第5回：基本技術（直滑降、プルーク制動滑降） 第6回：基本技術（プルークターン） 第7回：基本技術（シュテムターン） 第8回：パラレル系技術（スキッディングによる大回り系技術） 第9回：パラレル系技術（スキッディングによる小回り系技術） 第10回：パラレル系技術（カービングによる大回り系技術） 第11回：パラレル系技術（カービングによる小回り系技術） 第12回：実践滑降技術（新雪滑降技術） 第13回：実践滑降技術（コブ斜面滑降技術） 第14回：集団滑降技術（フォーメーションによる集団演技） 第15回：総合滑降とまとめ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 公益財団法人全日本スキー連盟『日本スキー教程』山と溪谷社出版			

学生に対する評価

主にアルペンスキーの技能向上を通じて、技術の習熟過程を理解し、個人の習熟段階に応じた実践・指導、及び自然環境でのスポーツ活動に対する意義と安全への配慮を理解し、実践できることを基準とし、以下のとおり評価する。技能到達・習熟度・理解度の実技点（40%） 授業に対する参加態度・意欲（60%）

授業科目名： スポーツ社会学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：張 育綺 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分		教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」及び運動学（運動方法学を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ スポーツ社会学の対象と方法およびその諸領域の基礎について学ぶ。この講義では、スポーツと社会の関わりを社会的な視点と方法でアプローチすることの重要性とそこから得られた知見や問題について学習する。そして現代社会の生起するスポーツ現象を、スポーツ社会学視点から把握し、知識と理論的理解を基底に自ら問題解決できる力を身につける。				
授業の概要 スポーツ社会学の対象と方法およびその諸領域について講義する。スポーツ社会学の対象と方法論、スポーツ社会学の諸領域と問題群、スポーツ文化、集団組織論、マスメディア、ナショナリズム、イデオロギーと政治、スポーツビジネス、商業主義と経済、スポーツの社会問題、ボーダーレス化、グローバル化、余暇・自由時間などの重要なトピックスを論じる。必要に応じて資料、映像などを使用する。				
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：スポーツの起源と「近代スポーツ」の成立と展開、その諸特徴 第3回：スポーツの高度化・専門化と大衆化・多様化 第4回：地域社会とスポーツーコミュニティスポーツ、総合型地域スポーツクラブ 第5回：スポーツと組織・集団ーチーム、クラブ、アソシエーション、IFとIOC・FIFA 第6回：マスメディア・ITの発達とスペクテータースポーツ 第7回：スポーツと商業主義（コマーシャリズム、ビジネス） 第8回：スポーツと政治、国家ナショナリズム、民族、宗教、イデオロギー 第9回：スポーツのグローバル化、スポーツのローカル化（ 第10回：対象に応じたスポーツ社会学（子ども、高齢者、障害者） 第11回：スポーツと自然環境・ツーリズムースキー、観光開発と保全 第12回：スポーツの社会問題ードーピング、逸脱行為、体罰、遭難事故 第13回：ケーススタディとディスカッション（前半グループ） 第14回：ケーススタディとディスカッション（後半グループ） 第15回：スポーツは社会の鏡ースポーツの社会的機能・まとめ				
テキスト 特になし				
参考書・参考資料等 「よくわかるスポーツ文化論」井上俊（編著）、菊幸一（編著）。ミネルヴァ書房（2020/3/1） 「スポーツ地域マネジメント：持続可能なまちづくりに向けた課題と戦略」原田宗彦（著），学芸出版社（2020/7/23）				
学生に対する評価 出席と授業への参加意欲、プレゼン、課題により、スポーツ社会学の基礎知識理論の習得、思考力、応用力を評価する。 授業参加態度（40％）、プレゼン（20％）、課題（40％）等による。				

授業科目名： スポーツ心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：三枝 巧 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1) スポーツ心理学の基礎理論や科学的知見について理解し、適切に説明できる			
2) スポーツ心理学の実践的方法論や対処法の基礎について理解し、適切に説明できる			
授業の概要			
本授業では、心理学的立場からスポーツ・運動の諸現象に関する基礎理論や最新の科学的知見、および多様なスポーツ現場において活用できる実践的方法論や対処法について概説する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、スポーツと動機づけ			
第2回：覚醒水準とパフォーマンス			
第3回：運動の制御、情報処理			
第4回：注意・集中と運動制御			
第5回：運動技能の学習法、学習曲線と転移・保持			
第6回：運動技能の学習指導、効果的なフィードバック			
第7回：スポーツとパーソナリティ			
第8回：運動とメンタルヘルス			
第9回：スポーツメンタルトレーニングの理論			
第10回：スポーツメンタルトレーニングの技法			
第11回：心理的競技能力の理解とアセスメント			
第12回：スポーツ・運動習慣の獲得・継続に関する理論と実際：運動プログラムのデザイン			
第13回：スポーツ・運動習慣の獲得・継続に関する理論と実際：運動行動の変容			
第14回：集団とリーダーシップ			
第15回：総括・授業時試験			
テキスト			
特になし			
参考書・参考資料等 参考書			
國部雅大ほか編『これからの体育・スポーツ心理学』講談社			
※適宜紹介、資料配布			

学生に対する評価

スポーツ心理学の基礎理論や科学的知見、また、実践的方法論や対処法の基礎について理解し、適切に説明できることを基準として、以下のとおり評価する。

筆記試験：70% 三分の二以上の回数を出席していることを前提とする、レポート、リアクションペーパー）：30%

授業科目名： スポーツ文化論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：村井 友樹
				担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 「近代スポーツ」への理解を深め、現代社会のスポーツを考える。 到達目標は以下の三点である。 1) 近代スポーツの誕生とその普及や発展について理解し、説明することができる。 2) スポーツと政治、経済、社会等との関係性を理解し、それらを具体的な事例を挙げて説明することができる。 3) 現代社会におけるスポーツの課題に対する自らの意見を述べるができる。				
授業の概要 「近代スポーツ」がなぜ誕生し、どのように世界各地へと普及していったのかを概説し、スポーツが文化現象としてその時々時代の政治、経済、社会等に影響され、歴史的に大きく変容し続けていることを提示する。				
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：スポーツとは何か？ 第3回：近代スポーツの成立 第4回：近代スポーツの伝播 第5回：近代オリンピックの誕生と発展 第6回：日本における近代スポーツの受容 第7回：近代スポーツにおけるアマチュアリズム 第8回：スポーツと政治 第9回：スポーツと経済 第10回：スポーツとメディア 第11回：スポーツとジェンダー 第12回：スポーツと教育、暴力・ハラスメントの根絶 第13回：スポーツと健康 第14回：スポーツとテクノロジー 第15回：まとめ 定期試験				
テキスト 適宜資料を配布する。				
参考書・参考資料等 よくわかるスポーツ文化論[改訂版]（井上俊・菊幸一編 ミネルヴァ書房出版（2020）） 図説スポーツ史（寒川恒夫編 朝倉書房出版（1991））				
学生に対する評価 授業内課題70%、期末試験30%				

授業科目名： スポーツバイオメカニクス	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：井上功一郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ ・バイオメカニクスの視点から身体運動を理解するために必要な力学の基礎知識を身につける。 ・スポーツ動作を含む身体運動が生じる力学的なメカニズムについて理解する。 ・スポーツ動作の分析手法とその実用について理解する。 ・バイオメカニクスの観点からスポーツ中のヒトやモノの動きについて考察することの有用性を理解し、スポーツの指導に役立てることができる。 ・ビデオ映像を使った簡単な動作分析ができる。			
授業の概要 ・力学の基礎知識をスポーツや身近な現象と結び付けながら説明する。 ・各種スポーツの動作を例に挙げながら身体運動が生じる力学的な仕組みについて講義する。 ・実際に撮影したビデオ映像を用いて動作分析を行いながら体験的に学習する機会を設ける。 ・スポーツバイオメカニクスの応用事例について解説する。			
授業計画 第1回：スポーツバイオメカニクスの概要 第2回：運動器のしくみと働き－身体の基本運動と機能解剖－ 第3回：スポーツの姿勢・フォーム 第4回：スポーツの動き－速度、加速度－ 第5回：スポーツに関わる力－力と運動の法則－ 第6回：スポーツにおける回転運動－角速度、トルク－ 第7回：スポーツにおける打撃・衝突－運動量、力積－ 第8回：スポーツにおける運動効率－仕事、エネルギー、パワー－ 第9回：スポーツと身体重心 第10回：スポーツと流体 第11回：カメラの仕組みと運動の計測方法 第13回：画像を用いた動作分析の基本①－定性的な分析－ 第13回：画像を用いた動作分析の基本②－定量的な分析－ 第14回：スポーツの実践の現場へのバイオメカニクス活用 第15回：テストの実施およびその解説			
テキスト 授業で使用するスライドをpdf形式で配布する。			
参考書・参考資料等 はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ スポーツバイオメカニクス（岡田英孝、藤井範久、宮西智久著 化学同人出版）			
学生に対する評価 ・テストから判断される理解度（70%） ・レポートにおける論述の内容の完成度（20%） ・授業への参加意欲と態度（10%）			

授業科目名： コーチング論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡邊信晃、三枝巧
			担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
1) コーチングの概念や定義、それにまつわる用語や専門的知識を理解し、適切に説明できる			
2) ピリオダイゼーションやトレーニング体系を理解し、それらに関する科学的知見を適切に説明できる			
3) 自らのコーチ像について考察し、特定のスポーツにおける合理的なコーチング計画を考案できる			
授業の概要			
コーチングの概念やその定義、コーチングに要する専門的知識について解説する。最新のコーチング理論やその実際及び研究に触れ、自らのコーチ像・コーチングに関して科学的根拠をもって考察する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス：コーチ、コーチングとは（三枝）			
第2回：コーチの倫理、コーチング・フィロソフィー（三枝）			
第3回：コーチに求められる心構え、役割、コミュニケーション・スキル（三枝）			
第4回：アスリートとの望ましい関係づくり、コミュニケーション演習【演習】（三枝）			
第5回：コーチングにおけるファシリテーション【演習】（三枝）			
第6回：コーチングにおける資格制度とその現状、トップアスリートの発掘・育成制度（三枝）			
第7回 コーチングに求められる基礎知識1：技術指導の方法（三枝）			
第8回：コーチングに求められる基礎知識2：トレーニング・練習の方法（渡邊）			
第9回：コーチングに求められる基礎知識3：コンディショニング・安全管理（渡邊）			
第10回：指導・トレーニング計画とその実際：Periodizationと目標設定理論（渡邊）			
第11回：指導・トレーニング計画の立案についてのプレゼン：個人種目の競技特性と年間計画について（渡邊・三枝）			
第12回：指導・トレーニング計画の立案についてのプレゼン：集団種目の競技特性と年間計画について（渡邊・三枝）			
第13回：競技力向上のためのコーチング：トップアスリートの育成・強化の実際（三枝）			
第14回：コーチングに関する最新の研究及び科学技術の進歩とその活用（三枝）			
第15回：総括・授業時試験			

テキスト

特になし

参考書・参考資料等 参考書

JSPO 日本スポーツ協会テキスト『リファレンスブック』JSPO

適宜紹介、資料配布

学生に対する評価

コーチングの概念や定義、専門的知識、及びトレーニング体系を理解し、自らのコーチ像について考察し、特定のスポーツにおける合理的なコーチング計画を考案できることを基準とし、以下のとおり評価する。

筆記試験：40% プレゼンテーション：40% 三分の二以上の回数を出席していることを前提とする、レポート、リアクションペーパー：20%

授業科目名： スポーツ生理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：清水 香 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校および高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学（運動生理学を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 ・運動・スポーツによって身体に生じる現象とその仕組みを理解する。 ・運動・スポーツによって生じる身体の変化を実際の場面に当てはることができるようになる。			
授業の概要 講義によって生理学の基礎や運動・スポーツによって身体に生じる現象とその仕組みを学ぶことを通して、運動・スポーツ指導の場面において生理学的な背景を活用するための知識を習得する。			
授業計画 第1回： スポーツ生理学概論 第2回： 筋収縮とエネルギー供給系 第3回： 筋線維の種類と特徴 第4回： 神経系の役割 第5回： 筋の収取様式と筋力 第6回： 呼吸と運動・スポーツ 第7回： 循環と運動・スポーツ 第8回： 内分泌系と運動・スポーツ 第9回： 身体組成と健康・スポーツ 第10回： 運動と生活習慣病、運動処方 第11回： 環境と運動・スポーツ 第12回： 筋疲労の要因 第13回： 発育発達と身体機能の変化 第14回： 加齢と身体機能の変化 第15回： 授業の総括、定期試験			
テキスト 『入門運動生理学第4版』（勝田茂編著、杏林書院出版）			
参考書・参考資料等 『スポーツ生理学（はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ）』（富樫健二編著、化学同人出版）			

学生に対する評価

スポーツ生理学を理解する上で必要な基礎的な用語を理解し、運動・スポーツによって身体に生じる現象とその仕組みを説明できることを基準とし、基準への到達度を毎回の課題（30%）、4回の小テスト（20%）、学期末のテスト（50%）で評価する。

授業科目名： スポーツ栄養学		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：矢口 友理 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・生理学（運動生理学を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツ選手の身体的特徴をふまえた上で、食事として摂取した栄養素がどのように体内で代謝され、身体組成やコンディション、パフォーマンスに影響するのかについて理解し、習得する。対象者に応じた食品や料理選択、摂食タイミングを理解し具体的な食事提案ができるようになる。				
授業の概要 選手が日々行っているトレーニング効果を高め、良好な身体組成やコンディションを獲得してベストパフォーマンスを発揮できるようにするために、アスリートの身体的特徴を踏まえた上で、食事や食事に含まれる栄養素はどのように関わっているのか、どのような食生活を送るのがよいのかについて講義する。				
授業計画 第1回：スポーツ栄養学とは 第2回：エネルギー消費量と身体組成 第3回：糖質 第4回：たんぱく質 第5回：脂質 第6回：骨の健康と栄養 第7回：貧血予防と栄養 第8回： ビタミン摂取とコンディショニング 第9回：水分補給 第10回： トレーニング期の食事 第11回：試合期の食事 第12回： サプリメント 第13回： ウェイトコントロールと食事 第14回： ジュニア選手の食事と栄養ケア 第15回：まとめ 定期試験				
テキスト イラストスポーツ栄養学（大嶋里美ら 東京教学社出版）				
参考書・参考資料等 スポーツ栄養学 理論と実践（田口素子編著 市村出版） その他、適宜プリントを配布する。				
学生に対する評価 定期試験（90％）、小レポート（10％）				

授業科目名： 衛生・公衆衛生学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：新井猛浩 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 衛生学及び公衆衛生学		
授業のテーマ及び到達目標 環境衛生の改善、感染症の予防、疾病の早期判断と治療のための医療と看護サービス、健康教育、健康を維持するうえで必要な社会制度などについて説明できるようにする。 その上で中学校・高等学校における健康教育の重要性について理解し、その指導的な役割を担うのに必要な考え方を修得することを目標とする。			
授業の概要 地域社会の組織的な努力によって疾病を予防し、寿命の延長を図り、身体的ならびに精神的能力を増進するための技術と科学について解説する。また、学校における健康教育の分野別教育内容の要点についても適宜紹介し、学校のヘルスプロモーションについて理解を深める。			
授業計画 第1回：公衆衛生の意義、歴史 第2回：人口と公衆衛生、保健統計 第3回：疫学 第4回：保健行政 第5回：母子保健 第6回：感染症対策 第7回：思春期における健康問題、性感染症の対策 第8回：精神保健 第9回：生活習慣と健康 第10回：主要疾患の疫学と対策 第11回：歯および口腔保健 第12回：健康行動科学 第13回：学校健康教育 第14回：環境と健康 第15回：社会保障・社会福祉、医療制度 定期試験			
テキスト 「社会・環境と健康 公衆衛生学」（柳川洋、尾島俊之、大木いずみ編著、医歯薬出版株式会社出版）			

参考書・参考資料等

「国民衛生の動向」厚生労働統計協会

学生に対する評価

授業への積極的関与度・提出物（20％）と定期試験（80％）で評価します。

授業科目名： 学校保健	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：新井猛浩 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 学校保健（小児保健，精神保健，学校安全及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 子どもの健やかな発育発達を保障するために必要な保健に関わる基本的な知識と技術の修得を目標とする。また、学校保健活動における教職員の役割や関連機関との連携についても考え学校保健の実践意欲を高める。			
授業の概要 学校関係者の立場から子どもの健康を守るために必要な事柄について扱うとともに学校生活における健康上の配慮と健康実践能力を育てる働きかけが学校組織の中でどのように展開されているかを解説する。また、学校保健活動の中核的役割を担う養護教諭の職務と特質、保健室の機能、保健室経営および養護教諭との連携についても解説する。			
授業計画 第1回：学校保健とは 第2回：子どもの発育発達 第3回：健康診断 第4回：子どもに多い病気と健康障害 第5回：感染症とその予防 第6回：応急手当（救急処置） 第7回：応急手当の実技練習 第8回：心の健康問題とその対応 第9回：性についての指導 第10回：保健室の役割 第11回：養護教諭の職務 第12回：学校安全・危機管理 第13回：学校の環境衛生 第14回：保健教育 第15回：学校保健計画と学校保健組織活動 定期試験			
テキスト 「学校保健概論」（渡邊正樹編著、光生館出版）			
参考書・参考資料等 「学校保健の動向」日本学校保健会			

学生に対する評価

授業への積極的関与度・提出物（30％）と定期試験（70％）で評価します。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：小松恒誠
保健体育科教育法	必修科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
中学校および高等学校において、保健体育の専門家として教育を実践していく上で必要となる基礎的な知識を習得しながら、自分自身で実践のあり方がある程度考えることができるようになることを目的とする。			
授業の概要			
この科目は中学校、高等学校保健体育科の指導に関する基礎的内容を理解し、学習指導に関する高度な知識を身に付けるものである。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（授業の進め方、受講のあり方等）			
第2回：日本における保健体育科の歴史的変遷（明治期から昭和・高度経済成長期にかけて）			
第3回：現代日本における保健体育科の役割			
第4回：保健体育科の目標・内容（学習指導要領の趣旨・内容の構造）			
第5回：保健体育科の目標・内容（運動の特性・保健）			
第6回：保健体育科の学習指導法（年間計画の立案、単元の配列）			
第7回：保健体育科の学習指導法（単元計画の立案、学習過程）			
第8回：保健体育科の学習指導法（本時計画の立案、心理学的基礎及び教師行動・学習活動）			
第9回：保健体育科の学習指導法（学習形態、学習資料・ICTの活用、学習評価、安全への配慮）			
第10回：体づくり運動及びダンスの内容構成・学習指導について			
第11回：陸上競技及び器械運動の内容構成・学習指導について			
第12回：球技の内容構成・学習指導について			
第13回：武道及び水泳の内容構成・学習指導について			
第14回：体育理論及び保健の内容構成・学習指導について			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト			
中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）、			
高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（平成30年7月 文部科学省）、			
中学校・高校の体育授業づくり入門（鈴木秀人・山本理人・佐藤善人・越川茂樹・小出高義編著 第二版 学文社）			

参考書・参考資料等

体育科教育学入門（岡出美則ほか編著 大修館書店）

学生に対する評価

定期試験60%、毎回の授業における小テスト（40%）

授業科目名： 保健体育の教材分析A		教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 小松恒誠 佐藤孝夫
				担当形態：オムニバス
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
保健体育の授業づくりにおいて、教材研究の持つ意味や機能を理解するとともに、教材研究を通じた授業づくりの実践を学ぶことをねらいとする。種目の基本を捉えつつ、その本質や特性、生徒の認識を見据えた教材を構想することができるようになる。				
授業の概要				
中学校・高等学校の保健体育科で扱う領域（体づくり運動，球技，器械運動，ダンス，保健）の教材研究を行う意味を理解し、模擬授業等の実践を通してよりよい授業づくりを検討する。その過程から中学校・高等学校の保健体育科教員として授業を豊かに構想する力を養う。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション/講義のねらい及び進め方、受講の在り方についての説明，模擬授業で行う分野の内容と担当分担（担当：小松）				
第2回：教材研究の方法と学習指導計画の立案（体づくり運動，球技，ダンス）（担当：小松）				
第3回：教材研究の方法と学習指導計画の立案（器械運動，保健）（担当：小松）				
第4回：「体づくり運動（体ほぐしの運動，体の動きを高める運動）」の模擬授業（担当：小松）				
第5回：「体づくり運動（実生活に生かす運動の計画）」の模擬授業（担当：小松）				
第6回：「球技（ゴール型）」の模擬授業（担当：小松）				
第7回：「球技（ネット型）」の模擬授業（担当：小松）				
第8回：「球技（ベースボール型）」の模擬授業（担当：小松）				
第9回：「ダンス（創作ダンス）」の模擬授業（担当：佐藤）				
第10回：「ダンス（現代的なリズムのダンス）」の模擬授業（担当：佐藤）				
第11回：「器械運動（マット運動）」の模擬授業（担当：佐藤）				
第12回：「器械運動（跳び箱運動）」の模擬授業（担当：佐藤）				
第13回：「保健（健康な生活と疾病の予防）」の模擬授業（担当：佐藤）				
第14回：「保健（心身の機能の発達と心の健康）」の模擬授業（担当：佐藤）				
第15回：本授業全体を通じた振り返り：到達点と課題を受講生各自が明確にする。（担当：佐藤）				
テキスト				
必要に応じて資料を配布する.				

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）、
高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（平成30年7月 文部科学省）

学生に対する評価

模擬授業の指導案・実践内容（60%）、事後研究協議・評価表の記録・提出等（30%）、
模擬授業の評価場面でのコメントや記述（10%）

授業科目名： 保健体育の教材分析B	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 小松恒誠，佐藤孝夫，竹田隆一 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校・高等学校における体育実技の教材を研究し、授業実践力を身に付ける。 主な教材である各種スポーツの最新の指導法を習得するとともに、模擬授業等を通して実践的な指導力を身に付ける。			
授業の概要 中学校・高等学校の保健体育科で扱う領域（陸上競技，武道，体育理論）の教材研究を行う意味を理解し、模擬授業等の実践を通してよりよい授業づくりを検討する。その過程から中学校・高等学校の保健体育科教員として授業を豊かに構想する力を養う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション/講義のねらい及び進め方、受講の在り方についての説明，模擬授業で行う分野の内容と担当分担（担当：小松） 第2回：教材研究の方法と学習指導計画の立案（陸上競技，武道，体育理論）（担当：小松） 第3回：中学校における「体育理論」の模擬授業（運動やスポーツの多様性など）（担当：小松） 第4回：中学校における「体育理論」の模擬授業（文化としてのスポーツの意義など）（担当：小松） 第5回：高等学校における「体育理論」の模擬授業（スポーツの歴史，文化的特性や現代スポーツの特徴など）（担当：小松） 第6回：「武道（剣道）」の模擬授業（基本動作，防具の付け方，基本打突）（担当：竹田） 第7回：「武道（剣道）」の模擬授業（仕掛け技・応じ技）（担当：竹田） 第8回：「武道（剣道）」の模擬授業（互角稽古、試合の運営）（担当：竹田） 第9回：「武道（柔道）」の模擬授業（安全配慮，個人の受け身と対人による受け身）（担当：竹田） 第10回：「武道（柔道）」の模擬授業（寝技からの試合の実際）（担当：竹田） 第11回：「陸上競技（短距離走・リレー）」の模擬授業（担当：佐藤） 第12回：「陸上競技（ハードル走）」の模擬授業（担当：佐藤） 第13回：「陸上競技（長距離走）」の模擬授業（担当：佐藤） 第14回：「陸上競技（走り高跳び）」の模擬授業（担当：佐藤） 第15回：本授業全体を通した振り返り：到達点と課題を受講生各自が明確にする。（担当：佐藤）			
テキスト 必要に応じて資料を配布する。			

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）、
高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（平成30年7月 文部科学省）

学生に対する評価

模擬授業の指導案・実践内容（60%），事後研究協議・評価表の記録・提出等（30%），模擬授業の評価場面でのコメントや記述（10%）

授業科目名： 保健体育科実践演習	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 小松恒誠、佐藤孝夫 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、中学校及び高等学校の体育分野と科目体育における単元を吟味し、さらに実際に教材を開発することを通して、保健体育科の実践的指導力の基礎を確立することを目標としている。また、学校教育における保健体育科の特性や位置づけを踏まえ、体育的諸活動に対する指導力の向上を図る。			
授業の概要 本授業では、学生が自ら保健体育科の領域を選択し、教材開発を行う。また、その実践と教材としての有効性の検証に取り組む。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業の進め方、受講のあり方等）（担当：佐藤） 第2回：教材開発とその有効性の検証の方法について（担当：佐藤） 第3回：領域の選択と教材研究（担当：佐藤） 第4回：選択した領域の教材開発（体づくり運動）とその実践（運動計画の作成）（担当：佐藤） 第5回：選択した領域の教材開発（体づくり運動）とその実践（情報機器の利活用）（担当：佐藤） 第6回：選択した領域の教材開発（集団種目）とその実践①（学習形態の工夫）（担当：佐藤） 第7回：選択した領域の教材開発（集団種目）とその実践②（教具の工夫）（担当：佐藤） 第8回：選択した領域の教材開発（集団種目）とその実践③（ルール学習の指導）（担当：佐藤） 第9回：選択した領域の教材開発（ダンス）とその実践①（即興表現の指導）（担当：小松） 第10回：選択した領域の教材開発（ダンス）とその実践②（作品作りの指導）（担当：小松） 第11回：選択した領域の教材開発（個人種目）とその実践①（視覚教材の利活用）（担当：小松） 第12回：選択した領域の教材開発（個人種目）とその実践②（場づくりの工夫）（担当：小松） 第13回：選択した領域（保健）の教材開発とその実践①（探究型学習の指導）（担当：小松） 第14回：選択した領域（保健）の教材開発とその実践②（体育領域との関連）（担当：小松） 第15回：本授業全体を通した振り返り：到達点と課題を受講生各自が明確にする。（担当：小松）			
テキスト 必要に応じて資料を配布する。			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月 文部科学省）、 高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（平成30年7月 文部科学省）			

学生に対する評価

保健体育科の教材開発に関わる基礎知識の理解（20％）、
教材開発の実際、進め方／必要とする教育内容の吟味や先行実践の検討（40％）、
教材の有効性の検証方法の理解度、実際の教材評価場面でのコメントや記述（40％）

授業科目名： 英語学概論		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2 単位		担当教員名：大高 茜 担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 英語学					
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、英語学（生成文法）の目的・進め方や、各領域（音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、言語獲得、教育との交差領域、英語史）においてこれまでに得られた基礎的な知見について学ぶ。それを通して、英語の音声の仕組み、語や文の構造（文法）、歴史的変遷や、国際共通語としての英語と個別言語の相対性等について理解を深めることを目標とする。							
授業の概要 各回の授業では、その回で取り上げる英語学の領域について講義と演習を行う。講義では、担当教員が当該領域においてこれまでに得られた基礎的な知見について説明する。演習では、担当教員が英語の語や文（データ）を提示し、受講生は、講義部分で学習した言語学的観点からデータを分析した上で、分析結果について議論を行う。							
授業計画 第1回：言語研究の目的と進め方について 第2回：音声学1：発音器官、英語の子音（IPA、調音法、調音点、声）について 第3回：音声学2：英語の母音（舌の高さ・前後位置、唇の形状）について 第4回：音韻論1：自然類、英語の複数形の派生に関わる音韻規則について 第5回：音韻論2：音韻規則の形式と解釈、同化、曖昧母音挿入、帯気、音節構造について 第6回：形態論1：音節と形態素、派生、屈折、語根、範疇について 第7回：形態論2：語の構造、樹形図、曖昧性について 第8回：統語論1：曖昧性、句構造規則の形式と解釈、樹形図について 第9回：統語論2：文法、仮説の検証、下位範疇化、構成素、構成素テストについて 第10回：意味論：固有名詞・述語・文の意味、構成性の原理について 第11回：語用論：推論、言外の意味、協調の原則について 第12回：言語獲得：句構造の概念、構造依存の原理、普遍文法について 第13回：ことばと教育の関連：国際共通語としての英語と個別言語の相対性について 第14回：英語史：外面史、グリムの法則（閉鎖音の推移）、大母音推移について 第15回：まとめ、試験							
テキスト 特になし。適宜資料を配付する。							
参考書・参考資料等 「はじめて学ぶ言語学」（大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房出版、2009） 「言語研究入門」（大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編著、研究社出版、2002）							
学生に対する評価 以下の項目について、ディスカッションへの取り組み（20％）、課題への取り組み（30％）、期末試験（50％）をもとに評価する。 ・ 英語学の各領域において仮定されている規則のうち、代表的なものを列挙することができるか ・ 与えられた英語の語や文（データ）について、そこに関わる言語学的な規則の種類を指摘することができるか							

授業科目名： 英語学演習 A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：大高 茜 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語学		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、生成文法の基本的な理論的メカニズムについて学ぶ。そして、それを道具立てとして、標準英語や英語の方言における種々の言語現象の統語分析（文構造の分析）を行う。言語分析の基礎的能力を身に付けるとともに、現象そのものや、現象同士の有機的関連について理解を深めることを目標とする。より高度に専門的な文法の知識の修得が見込まれる。			
授業の概要 各回の授業では、まずその回で取り上げる言語現象について概略を述べた後、当該現象を分析するにあたり必要となる理論的メカニズムについて説明する。受講生は、それを用いて現象の分析を試みる。折に触れ、テキストでは取り上げられていない、英語の方言に見られる関連現象を取り上げ、その分析方法等について受講生同士が議論する機会を設ける。			
授業計画 第1回：英語学の目的と進め方、統語論について 第2回：統語演算のメカニズム1：統語演算、句構造、変形、主語・助動詞倒置について 第3回：統語演算のメカニズム2：Hiberno Englishの間接疑問文、補文標識について 第4回：統語演算のメカニズム3：否定辞の位置、主要部移動、助動詞の分類、do supportについて 第5回：統語演算のメカニズム4：Southern American Englishの多重助動詞構文について 第6回：統語演算のメカニズム5：法助動詞の分類、認識モダリティの特性について 第7回：句構造の一般理論1：do soやoneによる置き換え、動詞句・名詞句の句構造、項、付加節について 第8回：句構造の一般理論2：範疇の別を超えた共通性、中間的なまとまり、X ⁰ バー理論について 第9回：句構造の一般理論3：否定極性表現の種類、Belfast Englishの否定極性表現の分布について 第10回：句構造の一般理論4：否定極性表現の認可とc-commandについて 第11回：構造と意味1：再帰代名詞、束縛条件について 第12回：構造と意味2：Iron Range Englishの再帰代名詞の分布について 第13回：移動規則とそれに課される制約1：連続循環移動、West Ulster Englishの遊離数量詞について 第14回：移動規則とそれに課される制約2：島の条件（複合名詞句制約、whの島制約等）について 第15回：移動規則とそれに課される制約3：Appalachian Englishの関係節について			
テキスト 「生成文法」（渡辺明著、東京大学出版会、2009）			
参考書・参考資料等 特になし。適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 以下の項目について、ディスカッションへの取り組み（40％）、課題への取り組み（60％）をもとに評価する。 ・ 学習した理論的メカニズムを用いて、言語現象に一定の説明を与えることができるか ・ 英語の方言に見られる関連現象が提示された際に、可能な分析を指摘することができるか			

授業科目名： 英語学演習 B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：大高 茜 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語学		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、英語学（生成文法）研究においてこれまでに解明されてきた種々の構文の特徴や相互関係、変異形や歴史的変遷等について学び、それを通して基本的文法知識を拡充することを目指すとする。			
授業の概要 各回の授業では、その回で取り上げる文法事項について、まず基礎的事実を提示し、それに関する受講生の理解を確認する。その上で、基本的文法知識の拡充に必要となる英語学研究の知見を導入する。受講生は、英文解釈や英作文等を通して、学習内容の定着を図る。			
授業計画 第 1 回：文、節（主部、述部）、句、主語になることができる語句について 第 2 回：名詞表現、名詞化について 第 3 回：動名詞について（動詞的動名詞、名詞的動名詞、動名詞と to 不定詞） 第 4 回：分詞について（現在分詞、過去分詞、分詞構文） 第 5 回：不定詞について 1（to 不定詞の名詞的用法・形容詞的用法） 第 6 回：不定詞について 2（to 不定詞の副詞的用法、イディオムの表現、歴史的変化） 第 7 回：原形不定詞について（原形不定詞の用法、使役動詞と知覚動詞） 第 8 回：関係詞について 1（制限的用法、非制限的用法、関係代名詞 what） 第 9 回：関係詞について 2（関係代名詞の省略、関係代名詞の先行詞） 第 1 0 回：比較について 1（原級の用法、原級を用いたイディオム） 第 1 1 回：比較について 2（比較級の用法、比較級を用いたイディオム） 第 1 2 回：完了形について（現在完了、現在完了と過去、過去完了、過去完了と過去） 第 1 3 回：仮定法について 1（仮定法過去、仮定法過去完了、未来の出来事を仮定するとき） 第 1 4 回：仮定法について 2（仮定法現在、時制の一致、従属節が否定文の場合） 第 1 5 回：まとめ、受講生の関心のある構文について（レポートの発表）			
テキスト 特になし。適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等 「学習英文法拡充ファイル」（千葉修司著、開拓社出版、2 0 2 1） 「英語の仮定法」（千葉修司著、開拓社出版、2 0 1 3） 「英語の時制の一致」（千葉修司著、開拓社出版、2 0 1 8）			
学生に対する評価 以下の項目について、課題への取り組み（2 0 %）、ディスカッションへの取り組み（3 0 %）、期末レポート（5 0 %）をもとに評価する。 ・ 学習した英語の事実や文法事項を踏まえて、与えられた英語の文章を正しく理解することができるか ・ 学習した英語の事実や文法事項を踏まえて、自ら英語を正確に表現することができるか			

授業科目名： 英語学演習C	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大高 茜 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、英語の音の特性や記述・産出方法、音が連結したときの構造やその際に生じる現象、発音の歴史的変遷についての理解を深めることを目標とする。			
授業の概要 第2回から第11回の授業では、まずその回で取り上げる「音」（音素）について、その特性や記述方法、歴史的変遷等を学び、音声資料や動画資料を用いて当該の音を含む語や文の発音練習を行う。第12回から第14回の授業では、まず音が連結したときに生じる音声現象やその分析方法について学び、それを踏まえ、関連現象の分析を行う。			
授業計画 第1回：言語の研究と音声の研究、発音器官について 第2回：音声産出の仕組み1：母音体系、母音の記述様式、母音に生じた音声変化について 第3回：音声産出の仕組み2：子音体系、子音の記述様式について 第4回：閉鎖音1：産出方法、帯気音化について 第5回：閉鎖音2：一般アメリカ英語における/t/（弾音化、鼻音化）、不完全解放について 第6回：摩擦音：産出方法、英語の歴史と摩擦音の数（グリムの法則）について 第7回：破擦音：産出方法、口蓋化、フランス語の影響について 第8回：鼻音・側音1：産出方法、鼻腔解放について 第9回：鼻音・側音2：側面解放、イギリス標準発音における/ɹ/（明るい/ɹ/、暗い/ɹ/）について 第10回：半母音：産出方法、イギリス標準発音における/ɜ/について 第11回：母音の産出方法について 第12回：音素と音素体系：音素の抽出方法について 第13回：音節とモーラ：音節の構造、成節子音、モーラについて 第14回：語アクセント：英語の歴史とアクセント付与規則について 第15回：まとめ、期末試験			
テキスト 「音声学・音韻論」（窪菌晴夫著、くろしお出版、1998） “Better English Pronunciation”（J.D.O’Connor, Cambridge University Press, 1980）			
参考書・参考資料等 ファンダメンタル音声学（今井邦彦著、ひつじ書房出版、2007） その他、適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 以下の項目について、演習（発音練習）への取り組み（20％）、課題への取り組み（20％）、期末試験（60％）をもとに評価する。 ・英語の子音または母音について、各音の特性を正しく述べることができ、発音することができる ・音素の抽出方法について説明することができる ・与えられた英語の語について、正しい音節構造を示すことができる			

授業科目名： 第二言語習得論概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：佐藤 博晴 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門事項 ・ 英語学		
授業のテーマ及び到達目標			
第二言語習得研究に関する基礎知識の習得を目指す。第二言語習得研究に関する入門書を原著で読み進めながら、英語科教育法や英語学関係で学習した第二言語習得に関する知識を再確認するとともに、我が国の英語教育への応用についても考察していく。			
授業の概要			
学生は毎回、事前に授業で取り扱う部分について読み進めておくことが求められる。各章を数名の学生で担当し、担当者が用意したレジメとそれに基づく解説をもとに、第二言語習得研究に関する専門用語や基礎知識の定着を図る。数章終了ごとにそれまでの章で扱われた第二言語習得研究の成果が、我が国の英語教育にどのように応用可能かについても議論する場面を設ける。半期 15 回の授業のため全ての章は扱わず、授業で取り扱わなかった部分に関しては、こちらで用意した質問に答える形のレポートを添削する形で学習する。			
授業計画			
第 1 回：Introduction: describing and explaining L2 acquisition(1); 第二言語習得研究の目標			
第 2 回：Introduction: describing and explaining L2 acquisition(2); 2 つの事例研究が示すもの			
第 3 回：The nature of learner language; 誤りと誤りの分析			
第 4 回：The nature of learner language; 第二言語習得の発達パターン			
第 5 回：Interlanguage; 中間言語とは			
第 6 回：第 1 回から第 5 回までのまとめと我が国の英語教育への示唆			
第 7 回：Discourse aspects of interlanguage; 談話規則の習得			
第 8 回：Psycholinguistic aspects of interlanguage(1); 第一言語の転移			
第 9 回：Psycholinguistic aspects of interlanguage(2); 第二言語における意識の役割			
第 10 回：Linguistic aspects of interlanguage(1); 普遍文法			
第 11 回：Linguistic aspects of interlanguage(2); 学習臨界期仮説			
第 12 回：Individual differences of L2 acquisition(1); 言語適性			
第 13 回：Individual differences of L2 acquisition(2); 学習方略			
第 14 回：第 7 回から第 13 回までのまとめと我が国の英語教育への示唆			
第 15 回：まとめ、テスト、テスト解説			
テキスト			
Rod Ellis (1997) <i>Second Language Acquisition</i> . Oxford Univ. Press			

参考書・参考資料等

プリントは随時作成し、配布する。

英語教師のための第二言語習得論入門（白井恭弘著 大修館書店）

学生に対する評価

以下の観点で、授業中の口頭発表、作成したレジメ、テストなどを中心に総合的に評価する。

- ・授業に対して主体的・積極的に参加し、発表・議論等に意欲的に取り組んだか。30%
- ・テストや口頭による発表、提出されたレジメが設定された目標に達しているか。50%
- ・授業内容に対する理解や作成されたレジメなどに工夫が見られたか。20%

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：佐藤 博晴
第二言語習得論演習	選択科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める	教科に関する専門事項		
科目区分又は事項等	・ 英語学		
授業のテーマ及び到達目標			
英語教員を対象に書かれた第二言語習得研究の原著を読み進めながら、当該分野・領域の研究 成果を踏まえた上で英語教員としてどのように授業に応用できるかを討論することにより、中 学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。			
授業の概要			
授業は、テキスト各章の構成に従って以下のように行う。まず、世間で知られている言説 (myth) について扱う“In the real world”と当該分野における研究動向を扱った“What the research says”のセクションを読み理解する。次に“What we ca do”のセクションでは、当該の 研究成果を踏まえ教師はどのように指導したらよいのかについて述べられているので、その内 容を理解した上で自分たちがお互いに意見を述べ合う討論を行う。テキストの章立てに沿って 様々な分野・領域での知見を深めた上で、学期末には各自がテーマを設定し、それについてレ ポートをまとめる。			
授業計画			
第1回：授業のガイダンス			
第2回：Language learning and age:“In the real world” & “What the research says”			
第3回：Language learning and age:“What we can do” & ガイダンス			
第4回：Bilingualism:“In the real world” & “What the research says”			
第5回：Bilingualism:“What we can do” & ガイダンス			
第6回：Input, output, and Interaction:“In the real world” & “What the research says”			
第7回：Input, output, and Interaction:“What we can do” & ガイダンス			
第8回：Attention and noticing:“In the real world” & “What the research says”			
第9回：Attention and noticing:“What we can do” & ガイダンス			
第10回：Correction and recast:“In the real world” & “What the research says”			
第11回：Correction and recast:“What we can do” & ガイダンス			
第12回：Individual differences:“In the real world” & “What the research says”			
第13回：Individual differences:“What we can do” & ガイダンス			
第14回：これまでの内容を踏まえて各自がテーマを設定し、レポートにまとめるための準備と指導			
第15回：レポートの発表			

テキスト

Brown, S. & Larson-Hall, J. (2012) *Second Language Acquisition Myths; Applying Second Language Research to Classroom Teaching*. Univ. of Michigan Press.

参考書・参考資料等

プリントは随時作成し、配布する。

学生に対する評価

以下の観点で、授業中の口頭発表や討論、提出されたレポートなどを中心に総合的に評価する。

- ・授業に対して主体的・積極的に参加し、発表・討論等に意欲的に取り組んだか。30%
- ・授業での発表内容、またレポートの内容が設定された目標に達しているか。30%
- ・授業内容に対する理解や作成したレポートなどに工夫が見られたか。40%

授業科目名： 英語文学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：三枝和彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業では、英語文学の主要と言える小説の初期から20世紀中葉までの代表的な作家とその作品について学ぶことによって、英語による表現力への理解を深めるとともに、作品の背景となる国や地域、時代の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業を実践するための力を涵養することを目標とする。具体的な到達目標は次の通り。 （１）作品で使用されている様々な英語表現について理解する。 （２）作品の背景となる国や地域、時代の文化について理解を深める。 （３）英語文学の代表的な作品について理解を深める。			
授業の概要			
英語で書かれた小説の初期から20世紀中葉までの代表的な作家とその作品を取り上げ、作品の抜粋や資料を講読する。受講者は抜粋を読むことで原文の雰囲気と特徴を味わい、作品に対する理解を深める。授業中に質疑応答の時間を設けるだけでなく、授業ごとに書くコメントペーパーに対して、次回授業でフィードバックすることによって、双方向的な授業を構築し、受講者の理解を助ける。このようにして、上記の到達目標の達成を目指す。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（授業の概要、目標、計画、評価の説明）			
第2回：Daniel Defoe, <i>Robinson Crusoe</i> (1719) ノンフィクションからフィクションへ			
第3回：Jonathan Swift, <i>Gulliver's Travels</i> (1726) ユートピアへの冒険と社会諷刺小説			
第4回：Samuel Richardson, <i>Pamela, or Virtue Rewarded</i> (1740-41) 書簡体小説と心理描写			
第5回：Henry Fielding, <i>Tom Jones</i> (1749) イギリスのピカレスク小説			
第6回：Laurence Sterne, <i>Tristram Shandy</i> (1760-67) 小説形式への挑戦			
第7回：Horace Walpole, <i>The Castle of Otranto</i> (1764) ゴシック小説のさきがけ			
第8回：Jane Austen, <i>Pride and Prejudice</i> (1813) 日常生活に対する観察と小説の成熟			
第9回：Charles Dickens, <i>David Copperfield</i> (1849-50) 教養小説と自伝性			
第10回：Thomas Hardy, <i>Tess of the D'Urbervilles</i> (1891) 社会規範との衝突			
第11回：James Joyce, <i>A Portrait of the Artist as a Young Man</i> (1916) 芸術家小説と語りの 焦点			
第12回：Virginia Woolf, <i>Mrs Dalloway</i> (1925) 心理主義小説と意識の流れ			
第13回：George Orwell, <i>Animal Farm</i> (1945) 政治諷刺小説と動物寓話			
第14回：William Golding, <i>Lord of the Flies</i> (1954) ディストピア小説と現代の寓話			
第15回：まとめと期末試験			

テキスト

配付資料を使用する。

参考書・参考資料等

イギリス小説入門（川口喬一著 研究社）

学生に対する評価

到達目標を達成しているかどうか、以下の項目を基準に判定する。

- （１）作品で使用されている様々な英語表現の意味を答えることができる。
- （２）作品の背景となる国や地域、時代の文化について説明することができる。
- （３）英語文学の代表的な作品について説明することができる。

上記を、次の方法によって100点満点で評価する。

コメントペーパー（30%）、試験（70%）

授業科目名： 英語文学演習A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：三枝和彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 この授業では、英詩の鑑賞を通して、多様な英語の語彙や表現、及び詩という表現形式に親しみ、作品から読み取れる人間の社会や文化、思想などに対する理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を獲得することを目標とする。具体的な到達目標は下記の通り。 （１）英詩に使われている多様な英語の語彙や表現の知識を獲得する。 （２）英詩を分析的に読み、その表現形式やテーマについて理解を深める。 （３）英詩から読み取れる社会や文化、思想などについて理解を深める。			
授業の概要 まず、英詩とはどんな表現形式であるのか、どのように読んでいくのか、ということについて、参考資料を読みながら説明する。続いて、17世紀～20世紀までの代表的な詩人の作品を精読していく。授業ごとに詩人ひとりとその作品ひとつを取り上げる。まず担当者が作品ついて報告し、それを基にペアやグループ、クラス全体で議論を行い、理解を深めていく。授業者は適宜、関連事項を説明したり、受講者の発言を全体で共有したりすることによって、作品の理解と議論の活性化を促す。授業の終わりには授業で学んだことをコメントペーパーに書いて提出する。			
授業計画 第1回：ガイダンス（授業の概要、目標、計画、評価） 第2回：英詩を読むということ（Philip Larkin “At Grass”）①作品の概要 第3回：英詩を読むということ（Philip Larkin “At Grass”）②作品の精読 第4回：Robert Herrick, “To the Virgins, to Make Much of Time” 第5回：Christopher Marlowe, “The Passionate Shepherd to his Love” 第6回：William Shakespeare, “Shall I Compare Thee to a Summer’s Day?” 第7回：John Donne, “A Valediction: Forbidding Mourning” 第8回：Andrew Marvell, “To His Coy Mistress” 第9回：Thomas Gray, “Ode on the Death of a Favorite Cat, Drowned in a Tub of Gold Fishes” 第10回：William Blake, “The Chimney Sweeper” 第11回：William Wordsworth, “The Tables Turned” 第12回：Percy Bysshe Shelley, “Ode to the West Wind”			

第13回：Alfred Lord Tennyson, “Prologue to In Memoriam”

第14回：Thomas Hardy, “The Darkling Thrush”

第15回 Robert Frost, “The Road Not Taken”

テキスト

資料を配付する。

参考書・参考資料等

イギリス名詩選（平井正穂編著 岩波書店）

英詩のわかり方（阿部公彦著 研究社）

学生に対する評価

到達目標を達成しているかどうか、以下の項目を基準に判定する。

- （1）英詩に使われている多様な英語の語彙や表現の意味を答えることができる。
- （2）英詩を分析的に読み、その表現形式やテーマについて説明することができる。
- （3）英詩から読み取れる社会や文化、思想などについて説明することができる。

上記を、次の方法によって100点満点で評価する。

コメントペーパー（30%）、授業中への参加と報告担当（30%）、レポート（40%）

授業科目名： 英語文学演習B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：三枝和彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業ではイギリスの重要な文化的建築物であるカントリー・ハウスが重要な役割を果たしている文学作品を鑑賞、分析、考察することを通して、多様な英語の語彙や表現に親しむとともに、カントリー・ハウスを取り巻く社会や文化について理解を深めることによって、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を獲得することを目標とする。 具体的な到達目標は以下の通り。 （１）作品で使われている、多様な英語の語彙や表現の知識を獲得する。 （２）カントリー・ハウスを取り巻く社会・文化について理解を深める。 （３）カントリー・ハウスを重要モチーフとする代表的な作品について理解を深める。			
授業の概要			
はじめにカントリー・ハウスの歴史や象徴性について講義を行う。続いて、カントリー・ハウスが重要モチーフとなっている小説作品を読み、その機能や意味について分析し、考察していく。作品を読む授業回では、まず担当者が報告を行い、それに基づき議論することによって受講者の能動的な学習を促す。作品の映画版も鑑賞することによって、視覚的にも理解を深める。受講者は、少なくとも一度は報告を担当し、毎回の授業でコメントペーパーを書いて提出する。また、学期末にはカントリー・ハウスが重要モチーフとなる小説からひとつを選び、それについてレポートを執筆する。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（授業の概要、目標、日程、評価）			
第2回：カントリー・ハウスとは何かーカントリー・ハウスの歴史的起源と変遷			
第3回：Jane Austen, <i>Pride and Prejudice</i> を読む① 作品のあらすじと主要テーマ			
第4回：Jane Austen, <i>Pride and Prejudice</i> を読む② （映画版を鑑賞する）			
第5回：Jane Austen, <i>Pride and Prejudice</i> を読む③ 所有者の人格を体現する			
第6回：Jane Austen, <i>Pride and Prejudice</i> を読む④ 物語の重要局面を演出する			
第7回：E. M. Forster, <i>Howards End</i> を読む① 作品のあらすじと主要テーマ			
第8回：E. M. Forster, <i>Howards End</i> を読む② （映画版を鑑賞する）			
第9回：E. M. Forster, <i>Howards End</i> を読む③ 階級社会の混交と揺らぎ			
第10回：E. M. Forster, <i>Howards End</i> を読む④ 新しい社会秩序を示唆する			
第11回：Evelyn Waugh, <i>Brideshead Revisited</i> を読む① 作品のあらすじと主要テーマ			
第12回：Evelyn Waugh, <i>Brideshead Revisited</i> を読む② （映画版を鑑賞する）			

第13回：Evelyn Waugh, *Brideshead Revisited*を読む③ 困難な時代とノスタルジア
 第14回：Evelyn Waugh, *Brideshead Revisited*を読む④ 新しい時代における継承者
 第15回：まとめとレポート作成法

テキスト

配付資料を使用する。

参考書・参考資料等

たのしく読めるイギリス文学：作品ガイド150（中村邦生他編著 ミネルヴァ書房）

学生に対する評価

到達目標を達成しているかどうか、以下の項目を基準に判定する。

- （1）作品で使われている、多様な英語の語彙や表現の意味を答えることができる。
- （2）カントリー・ハウスを取り巻く社会・文化について説明することができる。
- （3）カントリー・ハウスが重要モチーフである主要な作品について説明することができる。

上記を、次の方法によって100点満点で評価する。

コメントペーパー（20%）、授業中の報告（30%）、レポート（50%）

授業科目名： 児童英語文学論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：三枝和彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標			
英語で書かれた代表的な児童文学作品を読むことによって、様々な英語の語彙や表現に親しみ、作品の背景となっている国や地域の社会や文化と児童文学について理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を獲得することを目標とする。具体的な到達目標は下記の通り。 （１） 作品で使用されている様々な英語の語彙や表現の知識を獲得する。 （２） 作品の背景となっている国や地域の社会や文化について理解を深める。 （３） 英語で書かれた代表的な児童文学作品について理解を深める。			
授業の概要			
英語で書かれた代表的な児童文学作品について講義と精読を通して学んでいく。適宜、関連資料や映像作品を参照し、作品やその背景の理解に役立てる。受講者は作品についてペアやグループ、クラス全体で議論し、授業ごとにコメントペーパーを書く。また、学期末には、授業で取り上げた作品を通読し、その作品についてレポートを作成する。			
授業計画			
第１回：ガイダンス（授業の概要、目標、日程、評価）			
第２回：英語で書かれた児童文学の概観			
第３回：Lewis Carroll, <i>Alice’s Adventures in Wonderland</i> (1865) 概要解説			
第４回：Lewis Carroll, <i>Alice’s Adventures in Wonderland</i> (1865) 精読と議論			
第５回：Oscar Wilde, <i>The Happy Prince</i> (1888) 概要解説			
第６回：Oscar Wilde, <i>The Happy Prince</i> (1888) 精読と議論			
第７回：Kenneth Greham, <i>The Wind in the Willows</i> (1908) 概要解説			
第８回：Kenneth Greham, <i>The Wind in the Willows</i> (1908) 精読と議論			
第９回：James Matthew Barrie, <i>Peter Pan</i> (1911) 概要解説			
第１０回：James Matthew Barrie, <i>Peter Pan</i> (1911) 精読と議論			
第１１回：Alan Alexander Milne, <i>Winnie-the Pooh</i> (1926) 概要解説			
第１２回：Alan Alexander Milne, <i>Winnie-the Pooh</i> (1926) 精読と議論			
第１３回：C. S. Lewis, <i>The Chronicles of Narnia</i> (1950-56) 概要解説			
第１４回：C. S. Lewis, <i>The Chronicles of Narnia</i> (1950-56) 精読と議論			
第１５回：振り返りとレポートの作成法			
テキスト			
資料を配付する。			

参考書・参考資料等

たのしく読める英米児童文学：作品ガイド120（本田英明他編著 ミネルヴァ書房）

学生に対する評価

到達目標を達成しているかどうか、以下の項目を基準に判定する。

- （１）作品で使用されている様々な英語の語彙や表現の知識を獲得する。
- （２）作品の背景となっている国や地域の社会や文化について理解を深める。
- （３）英語で書かれた代表的な児童文学作品について理解を深める。

上記を、次の方法によって100点満点で評価する。

コメントペーパー（30%）、授業への参加（20%）、レポート（50%）

授業科目名： 現代英語文学論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：三枝和彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業では、現代英語文学の講読を通して多様な英語の語彙や表現に親しみ、作品の背景となる国や地域の文化や作品の内容及び文学的技法について理解を深める。そのようにして、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を獲得することを目標とする。具体的な到達目標は下記の通り。 （１）多様な英語の語彙や表現に関する知識を獲得する。 （２）作品の背景となる国や地域の文化について理解を深める。 （３）作品の内容及び文学的技法について理解を深める。			
授業の概要			
短編小説の名手として名高いサマセット・モーム（W. Somerset Maugham, 1874-1965）の作品を講読していく。受講者は予習として当該作品を読み、内容に関するクイズに答える。授業においては、まず担当者が当該作品について報告を行い、それを基にしてクラス全体で議論する。授業終了時には当該授業で学んだ内容についてコメントペーパーを書く。担当教員は適宜、解説や講義を行い、次回授業でコメントペーパーに対するフィードバックを行う。こうした活動を通して、上記到達目標の達成を目指す。			
授業計画			
第1回：ガイダンス（授業の概要、目標、計画、評価の説明）			
第2回：作家の肖像 サマセット・モームの伝記的紹介及び作品の特徴			
第3回：“The Luncheon” 因果応報の残酷さ			
第4回：“The Ant and Grasshopper” 寓話は正しいとは限らない			
第5回：“Home” 一途な恋の結末			
第6回：“The Escape” 徹底的な回避法			
第7回：“The Happy Man” 幸せは人それぞれ			
第8回：“The Poet” きまりが悪い間違い			
第9回：“The Promise” 人は豹変する			
第10回：“A String of Beads” 事実は小説よりも奇妙であるか			
第11回：“The Bum” 落ちぶれても捨てないプライド			
第12回：“The Dream” 夢は現実となったのか			
第13回：“A Friend in Need” まさに適切な救済措置			
第14回：“The Social Sense” 社交意識の束縛			
第15回：振り返り			

テキスト

配付資料を使用する。

参考書・参考資料等

サマセット・モームを読む（行方昭夫著 岩波書店）

学生に対する評価

到達目標を達成しているかどうか、以下の項目を基準に判定する。

- （１）作品で使用されている多様な英語の語彙や表現の意味を答えることができる。
- （２）作品の背景となる国や地域の文化について説明することができる。
- （３）作品の内容や文学的技法について説明することができる。

上記を、次の方法によって100点満点で評価する。

クイズへの取組み（20%）、授業への参加と報告の担当（50%）、コメントペーパー（30%）

授業科目名： 英語表現（英会話） 基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： ミラー ジェリー
		担当形態：単独	
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業では、 学生が実践的な英会話を身に付けることを目標にしています。特に流暢に話せるようになることを目指しています。毎週新しい会話対策によりその対策についての語彙や表現を勉強します。または4人のグループで会話練習をしますが、パートナーはしばしば入れ替えて行います。			
授業の概要			
この授業では、学生が実践的英会話スキルを伸ばすことができる。特にコミュニケーションが続くように会話対策を学ぶ。それから、身近なテーマについていろいろな語彙や表現を習得する。ほとんどの授業はペアワークとグループワークで行う。最終的に学生たちはペアで、10分間の英会話ができるように目指す。			
授業計画			
第1回： オリエンテーション			
第2回： 相槌			
第3回： 追加質問			
第4回： 解明 ショートテスト			
第5回： 会話を続ける方法			
第6回： 丁寧に遮る			
第7回： スピーキングテスト1			
第8回： シャドーイング			
第9回： パラフレーズ			
第10回： 会話の閉め方 ショートテスト			
第11回： 電話の英会話			
第12回： 意見を表す1 （同意する）			
第13回： 意見を表す2 （反対する）			
第14回： これまでの授業内容についてのまとめ			
第15回： スピーキングテスト2			
テキスト			
Kehe, David & Kehe, Peggy Dustin: <i>Conversation Strategies</i> , (Pro Lingua Associates) 2011.			

参考書・参考資料等

プリントを随時作成し、配布する。

学生に対する評価

ショートテスト(20%)、スピーキングテスト× 2 (50%)、課題/ 参加度 (30%)

授業科目名： 英語表現（英会話） 発展	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： ミラー ジェリー
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業では、英語表現(英会話) 基礎で学んだ英会話のスキルをさらに伸ばしていく。主に、プレゼンテーションの知識をアップさせる。専門に関する個人プレゼンテーションと質疑応答を英語で行う英語力を身につけることを到達目標とする。			
授業の概要			
この授業では、学生がプレゼンテーションスキルを磨くことが出来る。特に構成、話し方、スライドの作り方を学ぶ。プレゼンテーションがスムーズなるため、何回もペアまたはグループに練習する。学期末までに、身近なテーマについて学生が1人で10分間のプレゼンテーション(質疑応答を含む) を出来るようにする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：アイコンタクト			
第3回：ボディーランゲージ			
第4回：プレゼンテーション1（インフォメーション スピーチ）			
第5回：声の出し方			
第6回：メディアを入れる（ショートテスト）			
第7回：説明のやり方			
第8回：プレゼンテーション2 （レイアウト スピーチ）			
第9回：構成の紹介			
第10回：構成のボディー1（証拠を使う）			
第11回：構成のボディー2（トランジション言語を使う）			
第12回：プレゼンテーション3（デモンストレーション スピーチ）			
第13回：構成の結末			
第14回：これまでの授業内容についてのまとめ(ショートテスト)			
第15回：プレゼンテーション4 （国比較 スピーチ）			
テキスト			
Harrington, David & LeBeau, Charles, <i>Speaking of Speech</i> (New Edition) Macmillan, 2009			

参考書・参考資料等

プリントを随時作成し、配布する。

学生に対する評価

ショートテスト(20%) プレゼンテーション× 4 (60%) 課題/ 参加度 (20%)

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：佐藤 博晴
英語表現（英作文）	必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	・ 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
英文のパラグラフとエッセイの構成に関する理解を図る。従来までの文法事項を軸に据えた和文英訳的英作文練習ではなく、ある程度まとまりのある英文を英語特有の理論的展開を踏まえて書けるようにすることが目標となる。また授業では、学生が教壇に立った際にグローバル化に対応した英語の授業が行えるよう、英語でのエッセイライティングの練習以外に、そのエッセイの英語での発表・討論・関連する英文記事の講読等、4 技能 5 領域の総合的な英語力の育成も目指す。			
授業の概要			
授業時数の前半部を使い、英文のパラグラフやエッセイの構成に関する知識の習得を図る。後半以降では毎回一つのテーマを決め、それについてのモデル・エッセイの講読で英文構成やテーマに関する専門用語を学習した後、英文を作成する訓練を行う。完成した英文は、学生間で評価し、英文構成上優れている点を相互学習する機会も設ける。さらには毎回、数名の学生にエッセイを発表してもらい、それについて英語で議論する場面も設定する。			
授業計画			
第1回：パラグラフとは。列挙、例示、原因・結果の書き方について			
第2回：比較、対象、分類の書き方について			
第3回：分析、定義、過程、問題解決策の書き方について			
第4回：時間的順序、空間的配列の書き方について			
第5回：意見・類推の書き方について、パラグラフの書き方のまとめ			
第6回：エッセイとは何か；パラグラフからエッセイへ			
第7回：効果的なエッセイの書き方			
第8回：エッセイライティングの練習（1）「徴兵制度」			
第9回：エッセイライティングの練習（2）「人工中絶」			
第10回：エッセイライティングの練習（3）「原子力問題」			
第11回：エッセイライティングの練習（4）「死刑制度」			
第12回：エッセイライティングの練習（5）「体罰」			
第13回：エッセイライティングの練習（6）「尊厳死」			
第14回：エッセイライティングの練習（7）「離婚問題」			
第15回：まとめ、テスト、テスト解説			

テキスト

Writing Techniques for College Students 山村三郎著 金星堂出版 (2007)

参考書・参考資料等

プリントは随時作成し、配布する。

学生に対する評価

以下の観点で、レポートやテスト、授業中の口頭による発表などを中心に、総合的に評価する。

- ・授業に対して主体的・積極的に参加したか。30%
- ・レポートやテスト、授業中の口頭による発表内容が設定された目標に達しているか。70%

授業科目名：異文化 コミュニケーション 概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： ミラー ジェリー
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標			
この授業では、特に日本と英語圏の文化を比較対照しながら、自信をもって異文化について語れるようになることを目標とする。具体的な到達目標は次の通り。			
1) 文化について語ることでできる英語の語彙や表現を習得する。			
2) 英会話の流暢さとけ、パラフレーズするスキルを身につける。			
3) 食、習慣、大学生活などの日本文化について英語で受け答えできるようになる。			
授業の概要			
この授業では学生がペアやグループで会話、討論、プレゼンテーションなどを行いながら、毎週新しいテーマについて深く学ぶ。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：テキストの内容「自己紹介」について解説及び討論			
第3回：テキストの内容「ホームタウン」について解説及び討論			
第4回：テキストの内容「和食及び洋食」について解説及び討論			
第5回：テキストの内容「マナー」について解説及び討論			
第6回：テキストの内容「日本のもの」について解説及び討論			
第7回：テキストの内容「日本語及び英語」について解説及び討論			
第8回：プレゼンテーション・1（第1回から第7回までのテーマに関連した内容でプレゼンを行う）			
第9回：テキストの内容「寺社及び世界宗教」について解説及び討論			
第10回：テキストの内容「日本・外国の家」について解説及び討論			
第11回：テキストの内容「日本・外国の祝日」について解説及び討論			
第12回：テキストの内容「教育制度」について解説及び討論			
第13回：プレゼンテーション・2（第9回から第12回までのテーマに関連した内容でプレゼンを行う）			
第14回：これまでの授業内容についてのまとめ			
第15回：期末テストおよび解説			
テキスト			
Capper, Simon, <i>This is Japan</i> , National Geographic Learning, 2021.			

参考書・参考資料等

プリントを随時作成し、配布する。

学生に対する評価

以下の観点から、授業での討論やプレゼンテーション、課題、期末テストなどで総合的に評価する。

- ・授業に対して主体的・積極的に参加し、討論・プレゼンテーションに意欲的に取り組んだか。
- ・授業中の討論やプレゼンテーションの内容が設定された目標に達しているか。
- ・授業中の討論やプレゼンテーションの内容などに工夫は見られたか。

上記を、以下の方法によって100点満点で評価する。

プレゼンテーション×2（40％）、討論への参加（30％）、期末テスト（30％）

授業科目名：異文化 コミュニケーション 特論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： ミラー ジェリー 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 アメリカの社会や文化、歴史、伝統を学び、日本文化と比較対照することを通して、中学校・高等学校において英語を指導する際に必須となるアメリカ文化に関する基礎的な知識を獲得することを目指す。具体的な到達目標は下記の通り。 （１）テキストを読んで内容を理解することができる。 （２）読んだ内容について考察したり、英語で議論したりすることができる。 （３）関連する資料を自分で調べて英語で発表することができる。			
授業の概要 まずオリエンテーションで授業の概要を説明する。その後、アメリカの地理を勉強しながら、文化についてわかりやすく解説したテキストを読み、文化の違いや教育の違い、宗教に対する受け止め方の違い、時間に対する感覚の違い、アメリカ社会に見られる多様性などについて考察する。さらに日本との違いについて比較対照しながら討論し、内容についての理解を深める。そして、テキストの内容に関連する資料を自分で調べ、調べた内容について発表する。最後に、これらの活動を通じて学んだアメリカ文化に関する様々な知識についてまとめ、期末テストによって理解の度合いを確認する。			
授業計画 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：テキストの内容（New England）について解説する 第 3 回：前回の内容（New England）について討論を行う 第 4 回：テキストの内容（Major Cities）について解説する 第 5 回：前回の内容（Major Cities）について討論を行う 第 6 回：テキストの内容（Small Towns）について解説する 第 7 回：前回の内容（Small Towns）について討論を行う 第 8 回：プレゼンテーション 1（第 1 回から第 7 回までのテーマ内容でプレゼンを行う） 第 9 回：テキストの内容（The South）について解説する 第 1 0 回：前回の内容（The South）について討論を行う 第 1 1 回：テキストの内容（West Coast）について解説する 第 1 2 回：前回の内容（West Coast）について討論を行う 第 1 3 回：プレゼンテーション 2（第 9 回から第 13 回までのテーマ内容でプレゼンを行う）			

第14回：これまでの授業内容についてのまとめ

第15回：期末テスト及び解説

テキスト

American Vibes (映像で学ぶアメリカの素顔:都市・人々) Todd Rucynski/Yoko Nakagawa, Kinseido. 2020.

参考書・参考資料等

プリントを随時作成し、配布する。

学生に対する評価

到達目標を達成しているかどうか、次の項目について判定する。

- (1) テキストを読んで内容を理解できている。
- (2) 読んだ内容について考察し、英語で議論することができている。
- (3) 関連する資料を自分で調べて英語で発表することができている。

上記を、以下の方法によって100点満点で評価する。

プレゼンテーション (30%) 、レポート (25%) 、クイズ (25%) 、期末テスト (20%)

授業科目名：異文化 コミュニケーション 演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： ミラー ジェリー 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 この授業は映画を通じて、人種、競争、自由、罪と罰、格差社会などをテーマにしてアメリカ文化を学び、それについて議論したり発表したりできるようになることを目標とする。到達目標は次の通り。 （１）様々な観点からアメリカ文化を分析し、英語で議論する力を身につける。 （２）文化について分析したり考察したりしたことを英語で発表する力を身につける。 （３）アメリカ文化と日本文化について理解を深める。			
授業の概要 授業の中で上記のテーマに関連した映画を見る。トピックの概要や用語について事前に予習をしておく。映画を見ながら、内容を理解できているかどうかの質問に答える。映画を見た後で、いくつかの小さなグループに分かれてディスカッションをする。最後に自分たちが議論した内容についてグループでプレゼンテーションをする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：人種間関係（歴史的な問題） 第3回：人種間関係（現代的な問題） 第4回：プレゼンテーション1（人種間関係について） 第5回：競争（スポーツ） 第6回：競争（学校） 第7回：プレゼンテーション2（競争について） 第8回：自由（憲法上の権利） 第9回：自由（日常生活） 第10回：プレゼンテーション3（自由について） 第11回：罪と罰（重犯罪・軽犯罪） 第12回：罪と罰（陪審制） 第13回：プレゼンテーション4（罪と罰について） 第14回：豊の格差（社会段階） 第15回：豊の格差（最低賃金） 定期試験に代えて プレゼンテーション5（豊の格差について）			

テキスト

適宜、資料を配付する

参考書・参考資料等

IMDB (Internet Movie Database) <http://www.imdb.com>

学生に対する評価

到達目標を達成しているかどうか、次の項目を基準に判定する。

- (1) 様々な観点からアメリカ文化を分析し、英語で議論する力を身につけている。
- (2) 文化について分析したり考察したりしたことを英語で発表する力を身につけている。
- (3) アメリカ文化と日本文化について理解を深めている。

上記を、以下の方法によって100点満点で評価する。

授業参加 (20%)、課題 (30%)、プレゼンテーション×5 (50%)

授業科目名： 英語科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐藤 博晴 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 英語科の教員として備えておくべき英語教育に関する基礎的な知識の習得と、実際の教壇で役に立つ指導技術や教材作成法などの実践的授業力の養成がテーマである。具体的には、教育実習で必要とされる専門用語や理論に対する理解を深めるだけでなく、それを実際の教育現場で活かせるだけの実践力・指導力を身につけることを到達目標とする。			
授業の概要 授業計画の前半から中盤部にかけては映像による師範授業の授業と使用教材の分析を行い、ディスカッションなどを通して授業分析力や授業の構想力を養う。またあわせて、テキストを精読しながら英語教育に関する基礎的な知識の習得も行う。授業計画の後半部では、学生同士の模擬授業やその後の授業検討などで、これまで学習してきた知識や理論を実践面で活用・確認する。			
授業計画 第1回：「国際英語と日本の英語教育」・ビデオによる授業分析（1）「読むこと」 第2回：「英語教授法概説」・ビデオによる授業分析（2）「読むこと」 第3回：「教材及びICT（e-learningを含む）の活用と4技能（5領域）の指導」・ビデオによる授業分析（3）「話すこと（やりとり）」 第4回：「発音指導の基本と留意点」・ビデオによる授業分析（4）「話すこと（発表）」 第5回：「リスニングとその指導」・ビデオによる授業分析（5）「聞くこと」 第6回：「教師のための学習英文法」・ビデオによる授業分析（6）「聞くこと」 第7回：「授業実践」・ビデオによる授業分析（7）「書くこと」 第8回：「測定・評価から評定・通知まで」・ビデオによる授業分析（8）「書くこと」 第9回：「早期英語教育の現状と課題」・ビデオによる授業分析（9）4技能統合型の授業 第10回：自作教材による模擬授業・授業検討（1）・「読むこと」 第11回：自作教材による模擬授業・授業検討（2）・「話すこと」 第12回：自作教材による模擬授業・授業検討（3）・「聞くこと」 第13回：自作教材による模擬授業・授業検討（4）・「書くこと」 第14回：自作教材による模擬授業・授業検討（5）・4技能統合型の授業 第15回：授業のまとめ、テスト・テスト解説			
テキスト 英語教育の基礎知識 ―教科教育法の理論と実践―（小寺茂明・吉田晴世 編著、大修館書店）			

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編（平成29年7月 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編（平成30年7月 文部科学省）

学生に対する評価

以下の観点で、授業中の口頭による発表や作成した指導案・教材、テストなどを中心に総合的に評価する。

- ・授業に対して主体的・積極的に参加し、模擬授業・発表・議論等に意欲的に取り組んだか。

30%

- ・テストや口頭による発表、提出された指導案・教材等が設定された目標に達しているか。

40%

- ・授業内容に対する理解や作成された指導案・教材等に工夫が見られたか。30%

授業科目名： 英語の教材分析A	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤博晴、大高 茜
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
学習指導要領の指導事項と実際の授業との間には少なからずギャップが存在する。それは使用する教材やその中で扱う題材、そして何より生徒の実態に応じて授業の内容が変わりうるからである。本授業では、このような教師による授業づくりの工夫に着目し、英語授業の在り方について考察する。指導案を作成して自分たちが行う模擬授業の振り返りやお互いの意見を述べ合う討論、実際の授業を収録したビデオを用いての授業分析を通して教師の授業づくりの工夫を考察し、自立した英語授業が展開できるようになることを目指す。			
授業の概要			
授業では、まず担当者（グループ）を決め、自分たちで指導案を作成して模擬授業を行い、それについて振り返るプレゼンテーションを行う。また、今日的課題についてお互いに意見を述べ合う討論も実施する。これらの内容を踏まえ、教師による授業づくりの工夫を観察することで、生徒主体の授業の在り方について理解を深める。これらの活動について、授業中にミニ・レポートを書くことに加え、学期末には活動全体を踏まえて各自がテーマを設定し、レポートをまとめる。			
授業計画			
第1回：教師による授業づくりの工夫と英語授業の在り方について：学習指導要領の指導事項と実際の授業との間のギャップから、授業づくりの工夫について解説を行う。			
第2回：プレゼンテーション（1）：担当者（第1グループ）の模擬授業の実践と振り返り①			
第3回：グループ・ディスカッション（1）：聞くことの指導について意見を述べ合う討論			
第4回：プレゼンテーション（2）：担当者（第2グループ）の模擬授業の実践と振り返り②			
第5回：グループ・ディスカッション（2）：読むことの指導について意見を述べ合う討論			
第6回：実際の英語の授業を収録したビデオを用いての授業分析（1）：英語でのインタラクション			
第7回：グループ・ディスカッション（3）：話すこと（やり取り・発表）の指導について意見を述べ合う討論			
第8回：プレゼンテーション（3）：担当者（第3グループ）の模擬授業の実践と振り返り③			
第9回：グループ・ディスカッション（4）：書くことの指導について意見を述べ合う討論			
第10回：プレゼンテーション（4）：担当者（第4グループ）の模擬授業の実践と振り返り④			
第11回：グループ・ディスカッション（5）：教材及びICT活用について意見を述べ合う討論			
第12回：実際の英語の授業を収録したビデオを用いての授業分析（2）：ALT等とのティーム・テ			

イーチャング

第13回：グループ・ディスカッション（6）：生徒の特性・習熟度への対応について意見を述べ合う討論

第14回：これまでの内容を踏まえて各自がテーマを設定し、レポートにまとめるための準備と指導

第15回：レポートの発表

テキスト

テキストは使用せず適宜プリントを作成し、配布する。

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編（平成29年7月 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編（平成30年7月 文部科学省）

学生に対する評価

到達目標を達成しているかどうか、以下の観点から判断する。

- ・授業に対して主体的・積極的に参加し、模擬授業・発表・議論等に意欲的に取り組んだか。
- ・口頭による発表内容、またレポートの内容が設定された目標に達しているか。
- ・授業内容に対する理解や、模擬授業・発表・レポートの内容などに工夫が見られたか。

上記を、以下の方法によって100点満点で評価する。

模擬授業（30%）、授業中のミニ・レポート（30%）、学期末のレポート（40%）

授業科目名： 英語の教材分析B	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：佐藤博晴、三枝和彦 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 本授業は、第二言語習得研究の成果を教材分析や英語教育へ応用できるようになることを目標とする。具体的な到達目標は下記の通り。 （１）第二言語習得研究の基礎的な知識を身に付けている。 （２）第二言語習得研究の知識を踏まえて、教材や指導案、実際の授業などを分析できる。 （３）第二言語習得研究の知識を踏まえて、教材や指導案などを作成することができる。			
授業の概要 予習として、授業で取り扱う部分を事前に読んでおく。授業では、担当者がまとめたレジュメに沿って、テーマ・章ごとに第二言語習得研究の成果について確認していく。さらに、解説や議論を通して、確認された第二言語習得研究の成果を、日本の英語教育でどのように活用していけるのか考察していく。			
授業計画 第1回：第1章「第二言語習得と言語教授」 日本人英語教師が第二言語習得研究に期待できること 第2回：第2章「様々なタイプの文法の学習」 日本人にとって難しい文法項目とその理由 第3回：第3章「言語の他の構成要素の学習」 発音指導で気をつけること 第4回：第3章「言語の他の構成要素の学習」 語彙指導で気をつけること 第5回：第4章「第二言語を用いる際のプロセス」 非効率的な学習者がとる学習プロセス 第6回：第4章「第二言語を用いる際のプロセス」 効果的なリスニングやリーディング指導 第7回：第5章「個人としての学習者」 どのような動機づけが日本人の英語学習にとって効果的か 第8回：第5章「個人としての学習者」 効率的な学習者がとる学習ストラテジー 第9回：第5章「個人としての学習者」 外国語学習と性格特性の関係 第10回：第6章「第二言語教室内の言語と入力」 英語だけで進められる授業の効果 第11回：第7章「多重言語社会と言語教授の目的」 日本の英語教育の目的 第12回：第8章「第二言語学習の一般的なモデル」 それぞれのモデルで外国語学習がどこまで説明できるか 第13回：第9章「第二言語学習と教授スタイル」 文法訳読式の教授法は本当に非効率的なのか 第14回：学習指導案の作成と模擬授業—英語を教わるとしたらどの教授スタイルが効果的か— 第15回：授業全体の振り返り			

テキスト

第2言語の学習と教授（ビビアン・クック著、米山朝二訳、研究社出版）

参考書・参考資料等

外国語学習の科学—第二言語習得理論とは何か（白井恭弘著、岩波書店）

小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編（平成29年7月 文部科学省）

中学校学習指導要領解説解説 外国語編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編（平成30年7月 文部科学省）

学生に対する評価

到達目標に達しているかどうか、模擬授業、発表や討論、レポートを材料にして、下記の観点から総合的に評価する。

・授業に対して主体的・積極的に参加し、模擬授業・発表・議論等に意欲的に取り組んだか。

30%

・口頭による発表内容、またレポートの内容が設定された目標に達しているか。40%

・授業内容に対する理解や、模擬授業・発表・レポートの内容などに工夫が見られたか。30%

授業科目名： 英語科実践演習		教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：大高茜、三枝和彦、佐藤博晴、ミラー ジェリー 担当形態：複数・オムニバス
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
この科目は、英語科に関する専門的な内容と授業構成を架橋するための科目であり、英語科の具体的な単元の内容や教材を開発することを通して、指導を実践するための基盤力を養成することが目標である。具体的な到達目標は次の通り。 （１）各専門領域（英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解、英語科教育）の観点から、英語科の今日的な課題について説明することができるようになる。 （２）英語科の今日的な課題を踏まえたうえで、単元や教材を開発したり、指導法を考えたりすることができるようになる。 （３）英語科教員としての自らの状態を認識することができる。				
授業の概要				
本授業は、まずオリエンテーションですべての担当教員が、担当する授業内容のねらいと方法、評価方法などについて説明する。英語科教育から見た英語科の今日的課題では、生徒の学力学習状況調査や先行実践を踏まえて、英語科教育の今日的課題を学ぶ。他の専門領域から見た英語科の今日的課題では、英語科に関する教育内容を集中的に学習・検討する。以上を踏まえて小学校外国語活動・外国語科との接続や英語教育で目指すべきコミュニケーション能力などの主題を設定して、単元の内容や教材の開発に取り組む。担当教員は必要に応じてチームを構成してこれにあたる。発表会では、開発した単元の内容や教材を発表し、全体で検討する。振り返りでは、各受講生が自分の活動全体を振り返り、到達点と今後の課題を明確にする。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション（授業概要、目標、評価、日程）（担当：全教員）				
第2回：英語科教育から見た英語科の今日的課題1（小学校外国語活動・外国語科との接続を中心に）（担当：佐藤博晴）				
第3回：英語科教育から見た英語科の今日的課題2（コミュニケーション能力の育成を中心に）（担当：佐藤博晴、ミラー Jr ジェラルド ジョゼフ）				
第4回：英語学から見た英語科の今日的課題（第二言語習得論を中心に）（担当：佐藤博晴）				
第5回：英語文学から見た英語科の今日的課題（担当：三枝和彦）				
第6回：異文化理解から見た英語科の今日的課題（担当：ミラー Jr ジェラルド ジョゼフ）				
第7回：単元や教材開発のための主題の設定及びチーム編成（担当：全教員）				

第8回：単元や教材の開発と学習指導：学習指導要領と教科書内容の検討（担当：佐藤博晴）
第9回：単元や教材の開発と学習指導：英語学・英語教育学から見た内容検討（担当：佐藤博晴、大高茜）
第10回：単元や教材の開発と学習指導：英語文学から見た内容検討（担当：三枝和彦）
第11回：単元や教材の開発と学習指導：異文化理解から見た内容検討（担当：ミラー Jr ジェラルド ジョゼフ）
第12回：単元や教材の開発と学習指導：英語コミュニケーションから見た内容検討（担当：ミラー Jr ジェラルド ジョゼフ）
第13回：単元や教材の開発と学習指導：発表会の準備（担当：全教員）
第14回：発表会（各グループの発表を行い、検討する。）（担当：全教員）
第15回：振り返り：到達点と課題を受講生各自が明確にする。（担当：全教員）
テキスト 特定のテキストは使用しない。
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編（平成29年7月 文部科学省） 中学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年7月 文部科学省） 高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編（平成30年7月 文部科学省）
学生に対する評価 到達目標を達成しているかどうか、以下の観点から総合的に評価する。 ・単元や教材の開発における課題の明確化及び独自性（15%） ・単元や教材の開発における計画性と実施状況及び必要とされる教育内容の吟味や先行実践の検討（15%） ・英語科の各専門領域に関する基礎的な理解（30%） ・発表会における発表内容の具体性（30%） ・発表会への参加態度（10%）

授業科目名： 古文書学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大喜直彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標			
・歴史を研究するにあたって、拠り所となる素材が必要となるが、この素材が史料である。史料のうち、文献の一部が古文書であり、古文書のもつ複雑な性質を理解し、古文書に関する知識を整理し体系立てたものが古文書学である。 ・日本史研究に不可欠な古文書学について「古文書に親しみ慣れる」ことが第一の目標である。 ・第二の目標は、時代背景を含む古文書学の基礎的な知識の習得である。 ・第三の目標は、古文書の読解力の獲得である。 ・第四の目標は、古文書の扱い方を学ぶである。古文書の広げ方・しまい方、卷子や軸物の開き方・巻き方などの基本的方法を身につけることである。			
授業の概要			
古文書を古代～近代までを対象として講義をする。授業は、天皇の文書などのテーマごとに形態論・様式論・機能論及び時代背景を講義し、その後、配布する古文書コピーを用いながら、受講生が1人ずつ担当して、発表形式で行う。なお、できるかぎり本物の古文書を実見する。			
授業計画			
第1回：授業の進め方とガイダンス			
第2回：古文書学とはどういう学問か～古文書学の論文を読む～			
第3回：天皇の文書(1) 綸旨、院宣			
第4回：天皇の文書(2) 口宣案、女房奉書			
第5回：公家の文書(1) 太政官の文書			
第6回：公家の文書(2) 下文			
第7回：武家の文書(1) 鎌倉将軍の文書			
第8回：武家の文書(2) 戦国大名の文書			
第9回：武家の文書(3) 徳川将軍の文書			
第10回：庶民の文書(1) 売券、譲状			
第11回：庶民の文書(2) 書状			
第12回：庶民の文書(3) 離縁状			
第13回：近代の文書(1) 幕末維新を駆け抜けた人々の文書			
第14回：近代の文書(2) 明治政府関係文書			
第15回：まとめと課題レポート提出			
定期試験は実施しない。			

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

新版 古文書学入門 （佐藤進一 著、法政大学出版局）

史料を読み解く 1 中世文書の流れ（久留島典子・五味文彦編、山川出版社）

概説 古文書学 古代・中世編（日本歴史学会 編、吉川弘文館）

概説 古文書学 近世編（日本歴史学会 編、吉川弘文館）

日本古文書学講座 （第1巻～11巻）（赤松俊秀 ほか編、雄山閣）

書の日本史（第1巻～9巻）（坂本太郎 ほか監修、平凡社）

演習古文書選 近代編（日本歴史学会 編、吉川弘文館）

その他の参考文献は授業中に適宜指示する。

学生に対する評価

課以下の総合で判断する。

- ・課題レポート提出結果(60%)
- ・講義時の発表の有無やその内容(40%)

授業科目名： 日本古代史概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤 真海
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 [授業のテーマ] 倭王権の成立から摂関政治の展開に至るまでの日本列島の歴史について、国家や社会、文化などの観点から概観する。具体的な歴史資料（史料）も取り上げながら解説をすすめることで、史料にもとづいて歴史像が構築されることへの認識・理解を深める。 [授業の到達目標] この講義を履修した学生は、 （１）日本古代史に関する基礎的な知識を習得し、適切な文章にて説明できる。 [知識] （２）講義をもとに自らの関心のある論点を見出し、それについて調査及び考察することができる。 [技能] （３）史料にもとづいて歴史像が構築されることを理解し、歴史について論理的に考えることができる。 [態度・習慣]			
授業の概要 本講義においては、倭王権の成立から摂関政治の展開に至るまでの日本列島の歴史について、各時期における大局的な動向を把握することに留意しつつ、国家や社会、文化などの観点から概観する。またその後、受講生にとって身近な東北地方の古代の動向についても取り上げる。それらの過程にあつては、具体的な歴史資料（史料）も取り上げながら、解説をすすめてゆく。上記を通じて、日本古代史に関する基礎的な知識を習得するとともに、史料にもとづいて歴史像が構築されることへの認識・理解を深めることを本講義の目的とする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：倭王権の成立 第3回：倭王権とアジア 第4回：飛鳥の王都と文化 第5回：律令体制の形成過程 第6回：律令体制の展開過程 第7回：律令制支配と地方 第8回：律令体制の転換 第9回：摂関政治の成立と展開			

第10回：平安時代の政務と天皇

第11回：摂関期の貴族社会と文化

第12回：摂関期の貴族と地方社会

第13回：古代東北とエミシ

第14回：古代国家と陸奥・出羽

第15回：講義のまとめ

テキスト

WebClassを通じてレジュメを配布する。

参考書・参考資料等

大学の日本史 教養から考える歴史へ 1. 古代（佐藤信 編、山川出版社）

シリーズ 日本古代史（全6巻）（石川日出志他著、岩波書店）

日本の歴史 古代・中世編（西山良平・勝山清次 編著、ミネルヴァ書房）

テーマで学ぶ日本古代史 政治・外交編（新古代史の会 編、吉川弘文館）

テーマで学ぶ日本古代史 社会・史料編（新古代史の会 編、吉川弘文館）

その他の参考書については、適宜講義内にて紹介する。

学生に対する評価

WebClassを通じた毎回のコメント提出：30点

学期末レポート：70点

の合計をもって評点とする。

授業科目名： 日本近代史概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小幡 圭祐 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 日本史		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ：日本近代史 到達目標： この講義を履修した学生は、 1）日本近代史に関する基礎的な知識、当時の日本が置かれていた国内・国外の状況について説明することができる【知識・理解】 2）中央集権国家や国際化（西洋化）といった特定の観点から歴史を捉えることができる【態度・習慣】 3）得られた知識・態度を基礎に、具体的な用語・人物・出来事を事例として挙げつつ、自身の考えを述べ、論理的な文章に表現できる【技能】			
授業の概要 日本の歴史において近代は、それまでの国家・社会のあり方を大きく変容させた時代であると同時に、私たちが生きる現代と密接な関わりをもつ時代です。ゆえに、日本の近代の特徴を知することは、現代のさまざまな問題を考えるうえでも、極めて重要な意味を持っています。本授業では、日本の近代の歩みを、その時代的特質である中央集権国家と国際化（西洋化）の二つの観点を軸に考察することを通じて、日本近代史に関する基礎的な知識・時代背景の理解を得るとともに、近代から現代のさまざまな問題を歴史的な視点から考えるための思考力を身につけることを目的とします。			
授業計画 第1回：はじめに—日本の近代を考える意義 第2回：地球規模の国際環境への参入—開国 第3回：中央集権国家の成立—廃藩置県 第4回：国家建設期の内政—1870年代 第5回：国家建設期の外交—1870年代 第6回：近代国家確立期の内政—1880年代 第7回：近代国家確立期の外交—1880年代 第8回：日清戦争期の内政と外交—1890年代 第9回：日露戦争期の内政と外交—1900年代 第10回：第一次世界大戦期の内政と外交—1910年代 第11回：戦間期の内政と外交—1920年代			

第12回：日中戦争期の内政と外交—1930年代

第13回：アジア・太平洋戦争期の内政と外交—1940年代

第14回：戦前と戦後の連続と非連続—1950年代

第15回：おわりに—現代への展望

期末レポート

テキスト

各回の授業でレジュメを配付します。

参考書・参考資料等

大学の日本史 教養から考える歴史へ 4. 近代（小風秀雅 編、山川出版社）

学生に対する評価

期末レポート（70%）、毎回の授業の最後に提出するコメント（30%）

授業科目名： 心理学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：藤岡久美子、 佐藤宏平
			担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 ・心理学の成り立ち（心理学史、諸科学との関連）について説明することができる。 ・人の心の基本的な仕組みおよび働きについて説明することができる。 ・心理学の基本的な概念について説明することができる。 ・心理学の研究法についての概要を説明することができる。			
授業の概要 まず、現代心理学の成立以降、心に関する学問である心理学がどのように展開してきたのか、 その中で生み出された心を理解するための枠組みについて総論的に論じる。さらに、感覚・知 覚をはじめとするさまざまな心理学においてなされた研究や知見について幅広く紹介する。			
授業計画 第1回：心理学とはー心理学史と心を理解するための枠組みー（佐藤） 第2回：科学的心理学の成立と諸科学（佐藤） 第3回：感覚・知覚の心理学（佐藤） 第4回：脳の仕組みと心（佐藤） 第5回：パーソナリティの心理学（佐藤） 第6回：臨床心理学（佐藤） 第7回：対人関係の心理学・中間試験（佐藤） 第8回：学習の心理学（1）条件づけの理論（藤岡） 第9回：学習の心理学（2）教育場面の諸問題（藤岡） 第10回：記憶と認知の心理学（藤岡） 第11回：思考と言語の心理学（藤岡） 第12回：情動・動機づけの心理学（藤岡） 第13回：発達の心理学（藤岡） 第14回：文化・社会と心理学（藤岡） 第15回：現代心理学の諸課題（藤岡） 定期試験			
テキスト 指定しない			

参考書・参考資料等

心理学〔第5版〕（鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃 編、東京大学出版会）

心理学への招待—こころの科学を知る—（梅本 堯夫・大山 正 編著、サイエンス社）

心理学 新版（無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 著、有斐閣）

学生に対する評価

中間試験（50％）と期末試験（50％）により、授業内容の理解度について評価する。

授業科目名： 情報社会論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 芝田 浩、逸見 健太
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会（職業に関する内容を含む） ・ 情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標			
情報社会における情報システムの活用とICT技術者の役割と適用を学習する。			
情報技術の基礎的な知識や技術を理解できる。			
情報化が社会や個人の生活にどのような影響を与えているかを理解できる。			
情報技術を活用した社会の課題解決の手法や情報産業の現状を理解できる。			
情報産業におけるICT技術者の役割について理解できる。			
授業の概要			
現代の情報社会は、ICT（情報通信技術）の急速な進歩により、産業構造、ライフスタイル、価値観など、あらゆる側面が大きく変化している。本講義では、情報技術・システムの発展と社会との関わりの変遷を軸に、情報社会の進化、そこで活躍する職業や技術を解説する。これにより、社会における情報システムの役割を理解し、学校教育における情報に関する職業選択や就職指導に役立つ知識と視点を身につける。			
授業計画（各回2時間、計16時間を授業時間とする。）			
第1回：コンピューターの歴史と構成要素			
第2回：情報社会とインターネット			
第3回：情報システムと職業			
第4回：クラウドサービス			
第5回：IoTとビッグデータ			
第6回：社会と人工知能（AI）			
第7回：情報セキュリティの基礎			
第8回：情報システムを利用した課題解決とプロジェクト			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
ITワールド（インフォテックサーブ教育研究会）			
IT戦略とマネジメント（インフォテックサーブ教育研究会）			
学生に対する評価			
課題に対するレポート（100%）			

授業科目名： 情報倫理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：佐藤豊 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報社会（職業に関する内容を含む。）・ 情報倫理		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ： 情報倫理の視点から、情報社会における法的課題を学び、情報の適切な取扱いを考察する。 到達目標： ・ 情報倫理の基本概念を理解し、情報と法との関係を説明できる。 ・ 名誉毀損やプライバシー侵害など、情報を扱う上での法的責任を理解する。 ・ 個人情報保護や著作権に関する基礎知識を習得し、適切な情報活用ができる。			
授業の概要 情報倫理の観点から、情報社会における法的責任や権利保護を取り扱う。デジタル化・ネットワーク化による影響、名誉毀損・プライバシーをめぐる規範、個人情報保護に関する制度、知的財産権／著作権制度などを解説する。			
授業計画（各回2時間、計16時間を授業時間とする。） 第1回：情報とは何か／法学概論 第2回：情報と法との関わり／情報のデジタル化・ネットワーク化による影響 第3回：情報を直接取り扱う者の責任～名誉毀損、プライバシーを中心に 第4回：情報を媒介する者の責任～プロバイダ責任制限法を中心に 第5回：個人情報保護 第6回：知的財産法概論 第7回：著作権法（1）：著作権法概論、著作者の権利（著作者人格権、著作権） 第8回：著作権法（2）：著作権の制限～教育現場における著作物利用に着目して 定期試験			
テキスト 授業において投影する資料のPDFファイルを配布する。			
参考書・参考資料等 18歳からはじめる知的財産法（大石玄・佐藤豊 編、法律文化社）、情報法入門（小向太郎 著、NTT出版）			
学生に対する評価 定期試験（100％）			

授業科目名： 応用プログラミング A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：ディエズ ドノ ソ サンティアゴ
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・ 情報処理		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 表、タプルなど、プログラミングにおいて非常によく使用されるデータ構造をよく理解している。 2. 基本的なデータサイエンスに関わる問題を、分割統治法などのアルゴリズムに基づく方法により解くことができる。			
授業の概要			
今日重要なスキル、大量のデータを効率よく処理できることが挙げられます。現代社会ではプログラミング技術の習得が、この目的を達成するキーになります。講義では「プログラミング」の基礎と、データ構造・効率的プログラミングの概念を取り上げます。 プログラミング言語としては主にパイソンを使用します。この講義の受講者は、前期にプログラミングの講義を取っていることが望ましいです。 各講義は、第一部を理論的な内容とし、主な概念を紹介します。パワーポイントによるスライドと、インターネット上にあるドキュメントをへのリンクを提示するので参考にしてください。第二部では演習問題を用いて、第一部で扱った概念を実践に移します。演習問題の一部はレポート課題としますので、次回の講義までに提出してください。			
第1回 ガイダンス & イントロダクション 第2回 Python の簡単な例題、リスト 第3回 Python の簡単な例題、 タプル 第4回 演習 第5回 データ構造を用いた解法 1（ 実際の問題の提示 ） 第6回 データ構造を用いた解法 2（ 問題の解決策 ） 第7回 演習 第8回 中間試験とまとめ 第9回 ソートのアルゴリズム 1（基本的なソートアルゴリズム） 第10回 再帰的プログラミング 第11回 ソートのアルゴリズム 2（分割統治法, Mergesort） 第12回 ソートのアルゴリズム 3（分割統治法, Quicksort） 第13回 演習 第14回 データサイエンスの様々な事例 第15回 期末試験とまとめ			

テキスト

参考書としては、インターネット上で利用できる資料を用いる。一例として以下を挙げる：

<https://colab.research.google.com/drive/1wYIcjC74RnB3HcpqCWWoXLUjV1D8N1YU?usp=sharing>

<https://docs.python.jp/3/tutorial/>

参考書・参考資料等

<https://colab.research.google.com/drive/1wYIcjC74RnB3HcpqCWWoXLUjV1D8N1YU?usp=sharing>

学生に対する評価

1. 講義で提示された概念を理解し、それを用いたアルゴリズム設計ができること。
2. アルゴリズムが与えられたとき、それを実装できること。

中間試験(25%)、期末試験(25%)、授業や宿題演習(50%)により評価する。

授業科目名： データ解析	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：原 一夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ コンピュータ・情報処理		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業では、統計的機械学習の分類アルゴリズムを理解し、UNIX環境で実装・応用する力を養う。具体的には、ブースティングやパーセプトロンを中心に、Python3を用いた疑似コードの実装を行い、それぞれの特徴や違いを説明できることを目指す。			
授業の概要			
本授業では、統計的機械学習の分類アルゴリズムとして、ブースティングやパーセプトロンを学び、UNIX環境での実装を通じてその理解を深める。			
授業計画			
第1回：ガイダンス，UNIXを使ってみよう。			
第2回：UNIXコマンドに慣れよう（パイプ接続，リダイレクト）。			
第3回：UNIXコマンドに慣れよう（シェルスクリプト）。			
第4回：UNIXコマンドに慣れよう（実践演習：不正アクセス履歴ファイルの解析）。			
第5回：プログラミング（Python3，シェルスクリプト）に慣れよう（変数の型）。			
第6回：プログラミング（Python3，シェルスクリプト）に慣れよう（リスト内包表現）。			
第7回：プログラミング（Python3，シェルスクリプト）に慣れよう（ライブラリを使う）。			
第8回：Visual Studio Code，Google Colaboratory を使ってみよう。			
第9回：1つのキーワードを用いてテキストデータを分類するプログラムを書いてみよう。			
第10回：分類結果を評価するプログラムを書いてみよう。			
第11回：複数のキーワードを用いてテキストデータを分類するプログラムを書いてみよう。			
第12回：ブースティングを用いてテキストデータを分類するプログラムを書いてみよう。			
第13回：ブースティングの分類精度を測ろう。			
第14回：パーセプトロンを用いてテキストデータを分類するプログラムを書いてみよう。			
第15回：パーセプトロンの分類精度を測ろう。			
テキスト			
ウェブクラスで配布する予定です。			
参考書・参考資料等			
参考書（パターン認識と学習の統計学—新しい概念と手法（統計科学のフロンティア 6）等）は、授業のなかで提示する予定ですが、必ずしも購入する必要はありません。			
学生に対する評価			
毎回提出していただくレポート課題を100%として評価します。			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：佐久間 大
情報システムと教育	必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報システム		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業では、情報システムの基礎的な仕組みや教育分野での活用方法を理解し、情報社会における倫理的視点を学びつつ、教育現場における情報システムの設計・開発・評価のスキルを習得することを目指します。			
授業の到達目標			
1. 情報システムの仕組みや基本概念を理解し、教育現場での具体的な活用方法を説明できる。			
2. 情報社会における倫理やセキュリティに配慮し、教育現場での適切な情報管理の方法を提案できる。			
3. 教育現場で使用する情報システムを設計・開発し、その評価を行う基礎的な能力を身につける。			
授業の概要			
本授業では、教育分野における情報システムの役割と可能性について学びます。情報社会の進展とともに、教育現場ではデジタル技術の活用が不可欠となっており、授業支援システムや教育データの分析が重要な要素となっています。本講義では、情報システムの基礎概念やデータ分析手法を学びながら、それらを教育現場でどのように活用できるかを検討します。また、教育情報システムの設計・開発プロセスについても学習し、要件定義や概念設計、システム評価の手法を実践的に学びます。さらに、情報モラルやセキュリティといった倫理的な側面にも焦点を当て、教育現場での適切な情報管理のあり方について考察します。授業では講義に加え、演習やディスカッション、グループワークを通じて、理論と実践の両面から学びを深めます。最終的には、教育現場で活用可能な情報システムの設計や応用について、自らの考えを具体的な形で提案できる力を養います。			
授業計画			
第1回：情報社会			
情報社会の進展と現代的課題（Society5.0、個人情報保護）を理解し、社会への対応策を考える。			
第2回：情報システムの仕組み			
データベース、サーバー、インターネットなど、情報システムの基礎構造を学び、教育現場での活用方法を理解する。			
第3回：情報システムと人間			
情報モラル、セキュリティ、著作権に関する課題を学び、教育現場での情報管理やリスク対策を提案できるようにする。			

第4回：教育とデータ分析

教育データの分析手法を学び、その結果をもとに指導の改善や学習支援に活用する方法を習得する。

第5回：教育情報工学

ISM教材構造化法、テスト測定・評価、項目応答理論、S-P表の活用方法を学び、教育評価の質を向上させるスキルを身に付ける。

第6回：教育分野のDX

校務管理や学習支援システムなどの導入事例を学び、教育現場でのデジタルトランスフォーメーションの可能性を理解する。

第7回：中間課題

前半で学んだ内容を整理し、教育現場での応用方法について考察する。

第8回：情報システムの設計・開発の全体像

情報システム設計・開発の全体プロセスを学び、社会の様々な場所で活用できる基礎を築く。

第9回：情報システムの要件定義

インタビュー分析を通じて社会のニーズを抽出し、それをシステム要件に反映する方法を学ぶ。

第10回：情報システムの概念設計

コンセプトマップを用いて情報システムの構造を設計し、様々な現場での具体的な応用を計画する。

第11回：情報システムの評価方法

思考発話法を用いて情報システムのユーザビリティを検証し、改善点を導き出す。

第12回：情報システムの概念設計演習（1）

学習評価を支援する情報システムの設計演習を通じて、実践的な設計スキルを磨く。

第13回：情報システムの概念設計演習（2）

学習評価を支援する情報システムの設計演習をさらに進め、完成度を高める。

第14回：教育分野における情報システムの事例研究

実際の教育現場で使用されている情報システムの事例を分析し、新たな応用の可能性を探る。

第15回：最終課題

全体の学びをまとめ、教育現場での情報システム設計や応用の計画を具体的に提案する。

定期試験

テキスト

- ・授業内で配布する資料

参考書・参考資料等

- ・教育情報工学入門（佐藤隆博 著、コロナ社）・よくわかる心理統計（山田剛史・村井潤一郎 著、ミネルヴァ書房）・統計学の図鑑（涌井良幸・涌井貞美 著、ナツメ社）

学生に対する評価

レポート・実践課題（2回）：各50点（計100点）

（ワークショップ、模擬授業、製作物の成果発表等を含む）

授業科目名： 機械学習入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：原 一夫 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報システム		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業のテーマは、機械学習を体験的に理解することである。線形モデルから始め、カーネル回帰やニューラルネットワークなどの非線形モデルへと発展させながら、入力データから出力データを予測するモデルの構築方法を学習する。これにより、機械学習の目的を説明し、基本的なアルゴリズムやコードを理解できるようになることを目指す。			
授業の概要			
本授業では、回帰・分類を中心に、目的関数の最小値探索や勾配法を用いた機械学習を学ぶ。線形・非線形モデルとしてカーネル法やニューラルネットワークを扱い、過学習や対数尤度といった概念を紹介する。			
授業計画			
第1回：線形回帰（1変数の場合）、線形回帰（2変数の場合）			
第2回：多項式回帰			
第3回：多項式回帰+L2正則化			
第4回：カーネル回帰			
第5回：カーネルリッジ回帰			
第6回：iterative solution による最小値の探索			
第7回：iterative solution による線形回帰（1変数の場合）			
第8回：iterative solution による線形回帰（2変数の場合）			
第9回：線形回帰による電力需要の予測			
第10回：ニューラルネットワークによる回帰			
第11回：ニューラルネットワークによる回帰 by PyTorch			
第12回：ロジスティック回帰による2値分類			
第13回：多クラスロジスティック回帰による3値分類			
第14回：ニューラルネットワークによる2値分類			
第15回：まとめとテスト			
テキスト			
本授業の教材は、Google Colaboratory からアクセスします。			
参考書・参考資料等			
参考書（Bishop著「Pattern Recognition and Machine Learning」等）は、授業のなかで提示する予定ですが、必ずしも購入する必要はありません。			

学生に対する評価

1 回のテストを 8 0 パーセント、テストの回以外にほぼ毎回提出していただく「確認メモ」を 2 0 パーセントとして評価します。

授業科目名： 情報システム技術	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 芝田 浩、逸見 健太
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報システム		
授業のテーマ及び到達目標			
情報システムの基礎、開発、ビジネスへの適用を学習する。			
情報システムの構成要素、動作原理、情報処理の手順などを理解できる。			
システム開発の各工程（企画、設計、開発、テスト、導入、保守）の概要を理解できる。			
情報システムが企業の経営戦略やビジネス戦略にどのように貢献できるのかを理解できる。			
社会や企業が抱える問題に対して、情報システムの活用による解決について理解できる。			
授業の概要			
情報社会の基盤を支える情報システムについて、その基礎から社会への適用技術を網羅的に学ぶ。情報システムを構成する要素、動作原理、開発プロセス、そしてビジネスへの応用までの技術を体系的に学習する。これにより情報システムを職業とするときに必要となる基礎的な技術を学習し、学校教育における情報に関する職業選択や就職に対する指導力を身につける。			
授業計画			
第1回：情報システムとデジタルデータ			
第2回：文字情報と数値情報			
第3回：音情報と画像情報			
第4回：コンピュータの仕組みと内部構造			
第5回：システムとソフトウェア			
第6回：データベース			
第7回：情報処理の手順とプログラミング			
第8回：情報システムの処理形態と評価			
第9回：情報システムの開発			
第10回：情報システムの標準化とシステム要件定義			
第11回：情報システムの設計とインターフェース			
第12回：情報システムのソフトウェア開発とテスト			
第13回：情報システム導入・保守・廃棄			
第14回：情報システムと企業における経営戦略・ビジネス戦略			
第15回：情報システム監査とITガバナンス			
定期試験は実施しない。			

テキスト なし
参考書・参考資料等 ITワールド（インフォテックサーブ教育研究会） IT戦略とマネジメント（インフォテックサーブ教育研究会）
学生に対する評価 課題に対するレポート（100%）

授業科目名： コンピュータネットワーク ワーク	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 逸見 健太、芝田 浩 担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報通信ネットワーク		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 通信技術の基礎的な概要を理解する。 ・ ネットワーク通信の基本的な技術要素を理解する。 ・ 通信プロトコルの階層化モデルを理解する。 ・ TCP/IPについて理解する。 ・ インターネット技術の基礎を理解する。 ・ インターネット活用に必要な基礎的なセキュリティ事項を理解する。			
授業の概要 現代社会の重要なインフラであるインターネットを構成するネットワーク技術について、その技術を階層的に解説することでネットワーク通信の理解を図る。また、インターネット活用で利用される主なサービスをネットワーク技術の面から理解することで、インターネットアプリケーションや考慮すべきセキュリティ要素についても学ぶ。			
授業計画 第1回：通信技術とシリアル通信の基礎 第2回：ネットワーク技術の概要と標準 第3回：イーサネットとワイヤレスLAN 第4回：OSI基本参照モデル 第5回：トポロジと運用形態 第6回：TCP/IPの基礎（プロトコルスタックと階層間連携） 第7回：物理層とデータリンク層 第8回：インターネット層（ARP、IP、ICMP） 第9回：インターネット層（IPアドレスとアドレス設計） 第10回：インターネット層（ルーティング） 第11回：トランスポート層（TCP、UDP） 第12回：セッション層とプレゼンテーション層 第13回：アプリケーション層（HTTP、SMTP） 第14回：インターネット技術（WorldWideWeb、DNS、電子メールシステム） 第15回：インターネットセキュリティのリテラシ 定期試験は実施しない。			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

マスタリングTCP/IP 入門編（井上 直也・村山 公保・竹下 隆史・荒井 透・荻田 幸雄
著、オーム社）

学生に対する評価

課題に対するレポート（100%）

授業科目名： 情報ネットワーク技術	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 逸見 健太、芝田 浩
			担当形態：複数
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 情報通信ネットワーク		
授業のテーマ及び到達目標			
・ インターネットを構成する技術であるインターネットワーキングと中継システムについて理解する。 ・ インターネットにアクセスするための公衆アクセス網とその中継技術を理解する。 ・ 公衆アクセス網を用いたインターネットへのアクセスに必要な通信技術を理解する。 ・ 公衆アクセス網を用いたインターネットへのアクセスに必要なセキュリティ技術を理解する。 ・ インターネットで稼働する情報ネットワークサービスの概要と事例を理解する。 ・ 情報ネットワークの構成要素を理解する。 ・ 情報ネットワークのサービス動作とその特徴を理解する。			
授業の概要			
インターネットを形作るネットワーク間の接続技術であるインターネットワーキングとインターネットワーキングに必須となるネットワーク通信技術を理解する。また、インターネットワーキングによって形成される情報ネットワーク事例の構成要素とそのサービス動作を解説し、情報ネットワークの理解と活用につなげる。			
授業計画			
第1回：インターネットワーキングと中継システム			
第2回：公衆アクセス網と中継技術			
第3回：モバイル通信技術			
第4回：アドレス変換とトンネリング			
第5回：経路制御アルゴリズムとプロトコル			
第6回：ネットワークセキュリティと暗号化技術			
第7回：セキュリティのためのプロトコル			
第8回：情報ネットワークと構成サービス			
第9回：POSシステムの構成要素とサービス動作			
第10回：電子決済システムの構成要素とサービス動作			
第11回：SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）の構成要素とサービス動作			
第12回：高度道路交通システムの構成要素とサービス動作			
第13回：緊急地震速報システムの構成要素とサービス動作			

第14回：eラーニングシステムの構成要素とサービス動作

第15回：住民基本台帳システムの構成要素とサービス動作

定期試験は実施しない

テキスト

なし

参考書・参考資料等

マスタリングTCP/IP 入門編（井上 直也・村山 公保・竹下 隆史・荒井 透・荻田 幸雄
著、オーム社）

学生に対する評価

課題に対するレポート（100%）

授業科目名： マルチメディア入門		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：具志堅裕介 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標				
・ 情報端末を用いた作品制作を通して、デジタルメディアにおける基礎的な表現ができる				
・ 各メディアの特性を理解し、目的と用途に応じて適切に活用することができる。				
授業の概要				
コンピュータやタブレットを用いた多様なメディアの表現活動を通して、教材や学習コンテンツを制作するための基礎的な知識、表現力の基礎、デジタルツールの活用能力を身につける。				
授業計画				
第 1 回: オリエンテーションと授業の進め方について				
第 2 回: デザイン・造形の基礎（イントロダクション）				
第 3 回: デザイン・造形の基礎（配色とレイアウト）				
第 4 回: デザイン・造形の基礎（文字の造形）				
第 5 回: デザイン・造形の基礎（出力・作品発表）				
第 6 回: 映像表現・技術の基礎（イントロダクション）				
第 7 回: 映像表現・技術の基礎（映像素材の編集）				
第 8 回: 映像表現・技術の基礎（音響素材の編集）				
第 9 回: 映像表現・技術の基礎（文字素材の編集）				
第 1 0 回: 映像表現・技術の基礎（出力・作品発表）				
第 1 1 回:アプリケーションを用いた創作活動（イントロダクション）				
第 1 2 回:アプリケーションを用いた創作活動（ツールの確認）				
第 1 3 回:アプリケーションを用いた創作活動（制作）				
第 1 4 回:アプリケーションを用いた創作活動（出力・作品発表）				
第 1 5 回:作品発表・授業のまとめ				
テキスト				
なし				
参考書・参考資料等				
高等学校学習指導要領情報編(平成 30 年告示)解説				
「情報デザイン」中川憲造著 西野和典著 実教出版				
学生に対する評価				
以下の提出物から総合評価を行う。				
課題作品【60％】、レポート【40％】				

授業科目名： 活用プログラミング	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：ディエズ ドノ ソ サンティアゴ
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標			
1）仕事や研究においてプログラミングがどのように役立つかを認識できる。			
2）AI の基礎を理解できる。			
3）基礎的なプログラミングスキルを身に付け、授業で提供されるコードを理解し、応用できる。			
授業の概要			
理学や社会の問題解決に資するプログラミングの実践力を育成するための科目である。学生はまた、深層学習の仕組みとその使用方法についての一般的な理解を得ることができます。			
コース全体は、オンラインで入手可能な書面およびビデオの説明とコードを使用してオンラインで受講できます。コードは、Web ブラウザを備えた任意のコンピュータで実行できます。			
自主的な対面クラスが毎週開催されます。これらのクラスは、学生のコード割り当てを支援し、学生の質問に答えるために開催されます。プログラミングの知識がない学生は、対面授業への参加が推奨されます。			
この主題は、コース中に開発される 3 つのコード プロジェクトの観点から評価されます。プログラミング プロジェクトでは、学生がプログラミングの基礎を学び（またはプログラミングの知識を向上させ）、毎週コーディング演習を行う必要があります。各研究プロジェクトを提出後、教授による検証テストが行われます。このテストは、可能な場合は個人的な対面で行われます。遠隔地の学生には、個人 TCON が考慮される場合があります。			
理論的な拡張のためのビデオの説明とスライドが事前に提供されます。レッスンの前にそれを確認してください。			
授業計画			
第1回：ガイダンスと紹介			
第2回：基礎プログラミング1: プログラム構造*			
第3回：基本プログラミング 2: 命令とループ*。			
第4回：データ構造*			
第5回：プログラミングプロジェクト1。基本的なデータ処理			
第6回：UAV 飛行計画および関連ソフトウェア。			
第7回：フィールド UAV、実地的な考慮事項。画像収集に関する考慮事項。			
第8回：基本的な画像処理、ピクセルカウント。			
第9回：データの後処理、オルソモザイク。			

第10回：データアノテーション（画像上のオブジェクトのラベル付け）。蔵王山の低木種。

第11回：アノテーションの練習。

第12回：プログラミングプロジェクト 2. コンピュータービジョン。

第13回：DLの紹介。

第14回：トレーニングとテスト、データの問題。

第15回：最終プロジェクト、深層学習。

* プログラミングの知識がある学生向けに、より高度なプログラミング教材もこれらのクラスで利用できます。

テキスト

参考書としては、インターネット上で利用できる資料を用いる。一例として以下を挙げる：

<https://colab.research.google.com/drive/1wYIcJc74RnB3HcpqCWWoXLUjV1D8N1YU?usp=sharing>

<https://docs.python.jp/3/tutorial/>

参考書・参考資料等

参考書としては、インターネット上で利用できる資料を用いる。一例として以下を挙げる：

<https://colab.research.google.com/drive/1wYIcJc74RnB3HcpqCWWoXLUjV1D8N1YU?usp=sharing>

学生に対する評価

作成されたプログラミングプロジェクトを使用して主題が評価されます。

プログラミングプロジェクト1、30点

プログラミングプロジェクト2、30点

プログラミングプロジェクト3、40点

補足タスクを完了することでも追加ポイントを獲得できます。

授業科目名： 応用プログラミング B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：ディエズ ドノ ソ サンティアゴ
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・マルチメディア表現・マルチメディア技術		
授業のテーマ及び到達目標			
1. Class や Method などの Object-oriented プログラミングの概念を理解できる。 2. 基本的なコンピュータビジョンアプリケーションで開発されたプログラムを使用する。 3. 意味のある結論を引き出すための実験を設定します。			
各レッスンは2つのパートで構成されます。最初に理論的な説明、次に実践的な演習。 理論的な拡張のためのビデオの説明とスライドが事前に提供されます。レッスンの前にそれを確認してください。 講義の各テーマを幅広く理解することを目指していますが、要点は講義の冒頭で明記します。 プログラミング演習を解くことにより、講義の内容を詳細に理解することができます。			
授業の概要			
データサイエンティストに求められる技能に、大量のデータを効率よく処理できることが挙げられます。現代社会ではプログラミング技術の習得が、この目的を達成するキーになります。 高度なプログラミングの概念について説明します。たとえば、Object-oriented プログラミング、実験的アルゴリズム、コンピュータビジョンの基本的なアルゴリズムなどです。プログラミング言語としては主に Python を使用します。この講義の受講者は、前期にプログラミングと情報数学Cの講義を取っていることが望ましいです。			
第1回 ガイダンス & イントロダクション 第2回 Object-oriented プログラミング 1 (Class, Object, クラス、オブジェクト)第3回 Object-oriented プログラミング 2 (Inheritance, 継承) 第4回 Object-oriented プログラミング 3 (Multiple Inheritance, 多重継承) 第5回 演習 第6回 実験的アルゴリズム 1 (パイプライン) 第7回 実験的アルゴリズム 2 (例) 第8回 中間試験とまとめ 第9回 コンピュータビジョンの基本 1 (行列としての画像) 第10回 コンピュータビジョンの基本 2 (画像を使ったアルゴリズム) 第11回 演習 第12回 応用コンピュータビジョン 第13回 演習 第14回 DEEP LEARNING の概念 第15回 期末試験とまとめ			

テキスト

参考書としては、インターネット上で利用できる資料を用いる。一例として以下を挙げる：

<https://colab.research.google.com/drive/1wYIcJc74RnB3HcpqCWWoXLUjV1D8N1YU?usp=sharing>

<https://docs.python.jp/3/tutorial/>

参考書・参考資料等

<https://colab.research.google.com/drive/1wYIcJc74RnB3HcpqCWWoXLUjV1D8N1YU?usp=sharing>

学生に対する評価

1. 講義で提示された概念を理解し、それを用いたアルゴリズム設計ができること。
2. アルゴリズムが与えられたとき、それを実装できること。

中間試験(25%)、期末試験(25%)、授業や宿題演習(50%)により評価する。

授業科目名： 情報科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐久間 大、徳 竹圭太郎
			担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業では、高等学校情報科の教育内容と指導法について、実践的な知識と技能を習得することを目的とします。そこで、情報科における理論と方法を学び、生徒に必要な情報活用能力を育むための指導力を養成します。本講義の到達目標は次の通りです。 1）高等学校情報科の目標及び教育課程の全体の枠組みを理解する。 2）情報教育に必要な基礎的な知識と技能及び指導方法を習得する。 3）情報モラル教育と情報セキュリティの指導方法・留意点について理解する。 4）ICTを活用した授業設計と教材開発の能力を身につける。			
授業の概要			
本授業では、高等学校情報科の指導法を中心に、必修化に至る経緯や社会の変化を踏まえた教育課程の理解、教材研究及び授業設計に求められる実践的なスキルを身につけることを目指します。まず、学習指導要領の変遷を理解し、情報科の目標や内容を整理するとともに、ICTを活用した授業デザインや評価方法を学びます。つぎに、小・中・高等学校における情報教育の実践事例を分析し、各校種に適した指導方法を検討します。さらに、教材開発やデジタル教材の設計を実践的に学び、授業で活用できる教育資源の作成方法を習得します。模擬授業やワークショップを通じて、実際の授業運営の経験を積みながら、教育現場で求められる指導力を養成します。最終的には、情報科教育のカリキュラム設計や授業実践を通じて、効果的な情報教育の方法を提案できる力を身につけます。			
授業計画			
第1回：学習指導要領の理解と教科「情報」の教育目標（担当：佐久間大・徳竹圭太郎） 現行学習指導要領の教科「情報」の教育目標とその構造を理解することに加え、共通教科「情報」（情報Ⅰ・情報Ⅱ）と専門教科「情報」の位置づけを区別して確認する。 第2回：高等学校情報科必修化の経緯と社会の変化・学びの変化（担当：佐久間大・徳竹圭太郎） 学習指導要領を参照し、情報科において育成する資質・能力（教育目標）と内容を踏まえながら、必要となる学習理論と情報通信技術との関連及び全体像を理解する。さらに、普通科（共通教科）と専門学科（専門教科）のカリキュラム上の役割の違いを整理する。 第3回：教科「情報」の全体構造（1）（担当：佐久間大・徳竹圭太郎） 「情報Ⅰ」の内容（プログラミング、シミュレーション、ネットワーク・情報セキュリティ、			

データベースの基礎)の教材研究と学習評価の考え方について理解する。あわせて、専門教科「情報」の情報システム分野との接続を概観する。

第4回：教科「情報」の全体構造(2) (担当：佐久間大)

「情報Ⅱ」の内容(情報システム、ビッグデータ等)の教材研究と学習評価の考え方について理解する。さらに、専門教科「情報」のコンテンツ分野や共通的分野との関連を整理し、発展学習の位置づけを理解する。

第5回：各校種／教科における情報教育(1) (担当：佐久間大)

小学校における「情報教育」の事例を理解し、その特徴を理解する。

第6回：各校種／教科における情報教育(2) (担当：佐久間大)

中学校における「情報教育」の事例を理解し、その特徴を理解する。

第7回：各校種／教科における情報教育(3) (担当：佐久間大)

高等学校における「情報教育」の事例を概観し、特に普通科(共通教科)と専門学科(専門教科)の事例を対比し、それらの特徴を理解する。

第8回：中間課題(担当：佐久間大)

学習内容についての理解を診断的・形成的に自己評価し、内容の定着度を確認する。

第9回：コンピュータと教育・学習(担当：佐久間大)

コンピュータを学習に利用する際の考え方を理解し、CAIやCSCLの基礎を学ぶ。

第10回：インターネットと教育・学習(担当：佐久間大)

インターネットを活用した学習の考え方を理解すると共に、e-learningやセキュリティ・モラルの重要性について把握する。

第11回：情報教育のカリキュラム設計(担当：佐久間大・徳竹圭太郎)

年間計画や単元計画の設計を体験し、個々の授業の位置づけを具体的に考察する。

第12回：情報教育における教材作成(担当：佐久間大・徳竹圭太郎)

認知心理学に基づいた学習のメカニズムを踏まえ、教材構造分析の方法を体験的に習得する。

第13回：情報活用能力を育成するデジタル教材の作成(1) (担当：佐久間大・徳竹圭太郎)

ISM法を用いた学習構造図の作成を通じて、適切な教育目標の設定と下位目標分析を体験的に習得する。

第14回：情報活用能力を育成するデジタル教材の作成(2) (担当：佐久間大・徳竹圭太郎)

思考発話法を用いて、自身が作成したデジタル教材の有効性を検証する。

第15回：総合テスト(担当：佐久間大・徳竹圭太郎)

情報科教育の理論と実際について総括し、自身の学び全体を確認する。

定期試験

テキスト

- ・授業内で配布する資料
- ・中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
- ・中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（平成29年7月 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説 情報編（平成30年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

- ・やさしい教育心理学（有斐閣アルマ 5版）
- ・よくわかる教育評価（ミネルヴァ書房 やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）
- ・よくわかる授業論（ミネルヴァ書房 やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）
- ・高校教員のための探究学習入門—問いからはじめる7つのステップ（ナカニシヤ出版）
- ・教育情報工学入門 佐藤 隆博(著)
- ・よくわかる心理統計 山田剛史， 村井潤一郎(著)
- ・統計学の図鑑 涌井 良幸， 涌井 貞美（著）

学生に対する評価

- ・レポート・実践課題（2回）：各50点（計100点）
（ワークショップ、模擬授業、製作物の成果発表等を含む）

授業科目名： 情報科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐久間 大、徳 竹圭太郎
			担当形態：複数・オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 情報）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業では、高等学校情報科の教育課程を理解することを基盤とし、共通教科「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」の目標と役割を整理し、専門教科情報科との体系的関係を把握します。これにより、カリキュラムマネジメントの視点から情報教育全体を設計する力を養います。また、プロジェクト型学習（PBL）、STEM教育、データサイエンス、プログラミング教育の発展的指導法を習得し、生徒の主体的な学びを促進する教育方法を探求します。到達目標は次の通りです。 1）情報科教育における発展的な内容（データサイエンス、AI、IoTなど）を理解する。 2）プロジェクト型学習（PBL）の設計と実践方法を習得する。 3）ICTを活用した教育の応用スキルを高め、実践的な授業設計を行う能力を養う。 4）生徒の主体的・対話的で深い学びを促進する教育手法を学ぶ。			
授業の概要			
本授業では、高等学校情報科の発展的な指導法を中心に学びます。まず、情報科教育のカリキュラムマネジメントを理解するために、共通教科情報科および専門教科情報科との接続について学習します。また、学習指導要領に示された「科学的な見方・考え方」「問題解決」「主体的参画」といった目標キーワードを踏まえ、教育課程全体における情報科の位置付けや、データサイエンスやAI、IoT等の最新技術と教育の関係を理解します。つぎに、情報科教育のカリキュラムマネジメントや教育目標の設計について学び、STEM教育やプロジェクト型学習（PBL）の具体的な指導法を考察します。また、教育測定・評価の方法を学び、情報科教育の授業改善につなげるスキルを養います。さらに、ハードウェア・ソフトウェアを活用した教材開発の実践的スキルを身につけ、模擬授業を通じて実際の授業運営を経験します。グループワークやワークショップを取り入れ、理論と実践を融合させながら学習を進めていきます。最終的には、学んだ知識をもとに、情報科の授業設計と実施に関する提案を行うことを目標とします。			
授業計画			
第1回：高等学校情報科教育の目標と内容（担当：佐久間大・徳竹圭太郎） 学習指導要領に基づき、共通教科「情報Ⅰ（必修）」と「情報Ⅱ（選択）」の関係を整理する。さらに、専門教科「情報」の科目・分野構成の体系的位置づけを把握し、普通科と専門学科の教育目標の違いを明確化する。 第2回：高等学校情報科の教育課程（担当：佐久間大・徳竹圭太郎）			

学習指導要領を参照し、我が国が育成するデジタル人材の到達目標の全体像を把握し、それを実現する情報科教育とカリキュラムマネジメントの全体像について理解する。また、共通教科から専門教科への接続をカリキュラム設計の観点から整理する。

第3回：情報活用能力と著作権（担当：佐久間大）

情報リテラシーや情報モラルを学び、情報の権利関係を含めた適切な利用方法を理解する。

第4回：STEM教育の推進と課題（担当：佐久間大）

学校内における学習環境の設計とその課題について考察する。

第5回：AIとIoTの教育的活用（担当：佐久間大）

データサイエンス、AI、IoTの効果的な活用方法を学び、教育への応用例を探る。

第6回：教育測定・評価の実際（担当：佐久間大）

テスト測定・評価とパフォーマンス評価の方法を学び、教育現場での評価スキルを高める。

第7回：授業デザインの方法（担当：佐久間大）

ISM教材構造化法を用いて効果的な授業設計を行うスキルを習得する。

第8回：授業デザインワークショップ（1）（担当：佐久間大）

グループによる授業の構想を行い、デザイン案を具体化する。

第9回：授業デザインワークショップ（2）（担当：佐久間大）

構想した授業を発表し、フィードバックを受けて改善を行う。

第10回：情報科教育における教材設計（1）（担当：佐久間大・徳竹圭太郎）

ハードウェアを用いた教材事例を分析し、実際に応用可能な教材設計を学ぶ。

第11回：情報科教育における教材設計（2）（担当：佐久間大・徳竹圭太郎）

ソフトウェアを用いた教材事例を分析し、実際に応用可能な教材設計を学ぶ。

第12回：模擬授業の準備（担当：佐久間大・徳竹圭太郎）

学習指導案の作成を行い、模擬授業の準備を進める。

第13回：模擬授業の実施（1）（担当：佐久間大・徳竹圭太郎）

教師－生徒間の対話的な授業を実施し、フィードバックを受ける。

第14回：模擬授業の実施（2）（担当：佐久間大・徳竹圭太郎）

生徒－生徒間の対話的な授業を実施し、授業の質を高めるための改善を行う。

第15回：学習のまとめ（担当：佐久間大・徳竹圭太郎）

情報科教育の理論と実際について総括し、全体の学びを確認する。

定期試験

テキスト

- ・授業内で配布する資料
- ・中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）
- ・中学校学習指導要領解説 技術・家庭編（平成29年7月 文部科学省）、高等学校学習指導

要領解説 情報編（平成30年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・やさしい教育心理学（有斐閣アルマ 5版） ・よくわかる教育評価（ミネルヴァ書房 やわらかアカデミズム・わかるシリーズ） ・よくわかる授業論（ミネルヴァ書房 やわらかアカデミズム・わかるシリーズ） ・高校教員のための探究学習入門—問いからはじめる7つのステップ（ナカニシヤ出版） ・教育情報工学入門 佐藤 隆博(著) ・よくわかる心理統計 山田剛史， 村井潤一郎(著) ・統計学の図鑑 涌井 良幸 ， 涌井 貞美（著） |
|---|

学生に対する評価

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・レポート・実践課題（2回）：各50点（計100点） <p>（ワークショップ、模擬授業、製作物の成果発表等を含む）</p> |
|---|

授業科目名： 教員になるための 学校防災	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 熊谷誠、村山良之、齋藤英敏 担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 学校安全の対象は、生活安全、交通安全、災害安全（防災）の3領域からなる。本科目は、とくに防災に焦点を当て、学校における防災管理と防災教育に関わる資質能力を育成し、あわせて地域防災における学校や教員が果たすべき役割についても基礎的な知識を得ることを目的とする。1. 学校安全の3領域について説明できる。2. 災害発生において誘因（ハザード）だけでなく素因（地域の条件）が重要であることを説明できる。3. 学校の防災管理と防災教育の課題と手法について、具体的に説明できる。の3点を到達目標とする。			
授業の概要 上記の目標達成のため、東日本大震災等の経験を踏まえた学校の防災管理および防災教育に関する内容と、その前提となる地球科学的内容について、それぞれの専門家による講義を行う。その内容に応じて、受講生の活動を織り込む。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 学校防災の課題、本授業の目的、教員紹介 担当：熊谷 第2回：自然災害と地理的条件の理解－山形から考える自然災害 担当：熊谷 第3回：低地の成り立ちと特徴・災害のリスク1（沖積低地の発達と洪水） 担当：熊谷 第4回：低地の成り立ちと特徴・災害のリスク2（低地の特性と地震災害） 担当：熊谷 第5回：土砂災害の様態と災害事例 担当：熊谷 第6回：気象の基礎 担当：山形地方気象台 第7回：気象災害と防災気象情報 担当：山形地方気象台 第8回：地震・津波の基礎 担当：山形地方気象台 第9回：火山のしくみと火山災害 担当：山形地方気象台 第10回：ハザードマップから学区の災害リスクを読み取る 担当：熊谷 第11回：学校の防災管理と東日本大震災 担当：熊谷 第12回：山形県の学校防災と防災教育の現在 担当：村山 第13回：防災教育の具体的手法・防災ゲームの実践 担当：熊谷 第14回：学校の防災管理の実践 元教員による学校の危機管理 担当：齋藤 第15回：学校の防災管理の実践 元教員による学校・地域連携の実践 担当：齋藤			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 『夢みる防災教育』矢守克也著・船木伸江著・諏訪清二著（晃洋書房） 『人が死なない防災』片田敏孝著（集英社新書）			
学生に対する評価 以下の評価の観点に則り、レポートを中心に総合的に評価する。 ・各回の授業内容を理解したか。 ・授業の学習内容を理解したうえで、自分の課題意識をしっかりとって自主的に資料を調べ、学習に励んだか。 ・授業内容の理解に関するリフレクションペーパー（授業後小レポート）（60%） ・授業内容とその応用に関するレポート（小レポート）（40%）			

授業科目名： 読書と豊かな人間性	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：菊田 尚人 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
・「豊かな人間性」を育むための現代における読書の意義と方法、読書活動推進施策について説明することができる。 ・読書活動推進のための取組について考察し、司書教諭に必要な知識を活用しながら活動を行うことができる。			
授業の概要			
・読書の意義や政策、学校における読書活動について講義を行う。 ・大学図書館において読書活動推進のためのイベントの企画・運営を行う。			
授業計画			
第1回：現代における読書の概念と意義			
第2回：司書教諭としての立場を想定した図書館の見学①（山形大学中央図書館）			
第3回：読者（児童・生徒）の発達と心の教育／読書活動の推進に関する法律や政策について			
第4回：学校における読書活動の取り組みについて			
第5回：司書教諭としての立場を想定した図書館の見学②（公立図書館）			
第6回：図書館での読書活動推進に向けたイベントの企画① 山形大学生の読書の現状の調査			
第7回：図書館での読書活動推進に向けたイベントの企画② アイディア出し			
第8回：図書館での読書活動推進に向けたイベントの企画③ イベントの企画書の作成			
第9回：図書館での読書活動推進に向けたイベントの企画④ 企画書の発表			
第10回：図書館での読書活動推進に向けたイベントの準備① 選書			
第11回：図書館での読書活動推進に向けたイベントの準備② 解説パネル等の作成			
第12回：図書館での読書活動推進に向けたイベントの準備③ 広報ポスター等の作成			
第13回：図書館での読書活動推進に向けたイベントの運営① 図書館への展示の設置			
第14回：図書館での読書活動推進に向けたイベントの運営② ギャラリートークの実施			
第15回：読書活動推進に向けた取組のまとめ			
テキスト			
特になし。授業で適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
第五次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」			
第4次山形県子どもの読書活動推進計画			

学生に対する評価

授業中の課題(50%)とイベント実施に向けた取り組み(50%)を総合して評価する。

授業科目名： 生涯学習論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：安藤 耕己 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 (1) 欧米における生涯学習論の成立の背景から展開、それらの特徴に関して理解できる。 (2) 欧米における成人学習論の展開とその特徴及び課題について理解できる。 (3) 日本における生涯学習施策の展開とその特徴および課題について理解できる。 (4) 日本における生涯学習の諸相についてその実態と課題について具体的に考察し、それぞれの見解を明示できる。			
授業の概要 本授業では、欧米における生涯学習の理念の成立の過程、その日本への導入の過程を理解した上で、主に日本における生涯学習に関わる施策・制度を再考する。さらにその成果をふまえて、学校教育・社会教育・家庭教育の連携を軸とした生涯学習社会を実現していくための現実的課題を理解し、その今後のあり方を具体的に展望していくものとする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（授業の進め方・前提としての「生涯学習」） 第2回：生涯学習とは何か 第3回：生涯学習の理念と方法(1) 欧米の動向を中心に 第4回：生涯学習の理念と方法(2) 日本での展開 第5回：日本における生涯学習施策の展開 第6回：生涯学習の内容と方法(1) 学習法をめぐって 第7回：生涯学習の内容と方法(2) ノンフォーマルな形態を中心に 第8回：学校教育と生涯学習(1) 生涯学習社会における学校の位置づけ 第9回：学校教育と生涯学習(2) 学校と地域の連携・協働 第10回：社会教育施設と生涯学習(1) 社会教育施設の歴史と現状 第11回：社会教育施設と生涯学習(2) 社会教育施設と指定管理者制度 第12回：学習成果の評価と資格化社会 第13回：生涯学習とNPO 第14回：生涯学習とまちづくり(1) 地域経営と地域生涯学習の実現 第15回：生涯学習とまちづくり(2) 若者支援と居場所づくり			
テキスト 『テキスト生涯学習 学びがつむぐ新しい社会 [新訂2版]』田中雅文著、坂口緑著、柴田彩千子著、宮地孝宜著 学文社出版、2020			
参考書・参考資料等 『生涯学習社会の構図』小池源吾・手打明敏編著、福村出版、2009			
学生に対する評価 講義で説明した基礎概念や用語について、適切に理解できているかを合格の基準とする。方法としては、講義中に通算2回実施する小テスト（30％）および最終レポート（70％）による。			

授業科目名： 地域社会とウェルビー イング	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 水谷智彦・吉田誠・安藤耕 己・関口雄一・具志堅裕介・ 小林俊介・廖曦彤・佐藤慎也
			担当形態： 複数・オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 (1) ウェルビーイング増進の必要性とその社会的背景、ウェルビーイングに関連する諸科学、 ウェルビーイング増進に向けた取り組みの実態とその成果・課題を理解できる。 (2) ウェルビーイング増進につながる地域活動との関わりを活かした教育の視点を持ち、地域 学校協働活動の中でも重要な役割を担う教員をはじめとし、地域における文化振興・創生 を担うファシリテーターの役割を理解できる。 (3) ウェルビーイング増進により持続可能な地域社会・文化の担い手となり、学校や住民・文 化・スポーツ団体等でネットワークを構築し、住民の主体的なウェルビーイング増進の取 組みをコーディネート・ファシリテートするための技量の内実を理解し説明できる。			
授業の概要 学校を中心とする地域社会におけるウェルビーイング増進に寄与する教員をはじめとする専 門家の役割とその際に有効なコーディネート・ファシリテーションに係る技量の理解、それら の専門家をめざす意欲の涵養を目的とする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（水谷） 第2回：ウェルビーイング増進の必要性と社会的背景（吉田） 第3回：教育学からみたウェルビーイング（吉田） 第4回：社会学からみたウェルビーイング（水谷） 第5回：心理学からみたウェルビーイング（関口） 第6回：民俗学・地域文化研究からみたウェルビーイング（安藤） 第7回：芸術学からみたウェルビーイング（廖） 第8回：地域におけるファシリテーションと効果的なワークショップの基礎（安藤・ゲストティーチ ャー） 第9回：地域における若者支援とウェルビーイング（安藤・ゲストティーチャー） 第10回：総合型地域スポーツクラブと地域づくり（小林・ゲストティーチャー） 第11回：地域ワークショップの開発（安藤・ゲストティーチャー） 第12回：地域住民の自治・自立とウェルビーイング（安藤・ゲストティーチャー） 第13回：「子ども環境」とウェルビーイング（佐藤） 第14回：地域社会とウェルビーイングをめぐる可能性と課題：小グループでの討議（廖・小林・具 志堅） 第15回：ふりかえり：前回の討議内容を共有し、可能性と課題を各自が明確にする（水谷・安藤）			
テキスト テキストは使用しない。毎回、資料（レジュメあるいはスライドのハンドアウト）を配付す る。			

参考書・参考資料等

参考書は適宜、講義にあたる教員から、学習の進度や学生の関心に応じて紹介する。

学生に対する評価

講義において説明した内容について、文章および口頭にて適切に説明できるか否かで評価する。小レポートは授業内容の習得状況と考察力、応用力を評価する。最終レポートは到達目標の達成度をその記述の具体性から評価する。毎回の講義の感想およびワークショップ・討議の成果と感想を報告する小レポート（70%）および最終レポート（30%）による。

授業科目名： 地域社会の教育計画	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：澁江学美、 吉田尚史 担当形態：複数・オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
1. 第7次山形県教育振興計画等で各県の教育施策を知りそこで重点的な取組や具体的な特徴を学ぶ。教師として実践したい取組を考え学級経営案（仮）やレポートとしてまとめることができる。【習慣態度】			
2. 市町村の特色ある教育計画の実施に携わっている講師の講義を基に、その特色を新聞等にまとめ紹介することができる。【知識・理解】			
3. 国の教育基本計画や先駆的な事例、今日的な教育施策を知り、学び、次代の教育のあり方を考察しレポートに記述できる。【知識・理解】			
授業の概要			
国、県、市町村の教育計画や教育施策、また目指す人間像、教師像について知る。また地域づくり、いのちの教育等の実践者の講話をとおして地域社会と学校等との関連・連携、具体的な取組を学び自らの学級や学年でどう具現化していくのか考えていく。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 地方の教育計画と考察(担当 澁江・吉田)			
第2回：山形県の教育計画の全体理解と考察 (担当：澁江)			
第3回：方針Ⅰ～Ⅲ ①一人一人が自分らしく可能性にチャレンジできる学び (担当：澁江)			
第4回：方針Ⅱ ②誰一人取り残されず誰もが続けられる学びの機会 (担当：澁江)			
③社会の変化に対応した学びの環境を整える (担当：澁江)			
第5回：地域をつくる人の育成①（地域をつくる活動とその事例） (担当：澁江)			
第6回：地域をつくる人の育成②（実践者講話） (担当：澁江)			
第7回：いのちをつなぐ人の育成①（いのちをいただく 絵本をとおして授業を作る） (担当：澁江)			
第8回：いのちをつなぐ人の育成②（自尊感情を育む） (担当：澁江)			
第9回：いのちをつなぐ人の育成③（実践者講話） (担当：澁江)			
第10回：地域における特色ある教育計画①（義務教育学校） (担当：吉田)			
第11回：地域における特色ある教育計画②（中高一貫校） (担当：吉田)			
第12回：地域における特色ある教育計画③（コミュニティ・スクール） (担当：吉田)			
第13回：日本の教育計画と国の施策について（第4期教育振興計画） (担当：吉田)			
第14回：全国の特色ある教育事例①（学習指導要領の変遷・特色ある教育） (担当：吉田)			
第15回：全国の特色ある教育事例②（学習指導要領の変遷・特色ある教育） (担当：吉田)			

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

『第4期教育振興基本計画』（文部科学省2023.6）

『山形県第7次教育振興計画』（山形県教育委員会2025）等

学生に対する評価

第9回、第11回、第15回後に学級経営案等作成、新聞作成、レポート等、講師の方々の講義を聞き、その後の振り返りレポート等について評価する。成果物（経営案、新聞）60%、レポート等30%、振り返りシート10%とする。国、県等各自治体の教育施策への理解、具体的実践を行っている方々のお話をまとめ「自分の地域なら」という視点で考えを交流したりまとめることができる。

授業科目名： 学校・地域における 食育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大森桂、石垣和 恵、矢口友理
			担当形態：オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
学校と地域が連携して効果的な食育を実践するために必要な基礎的知識・技術を習得する			
授業の概要			
学校と地域が連携した効果的な食育の在り方を多面的に学ぶ			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（大森）			
第2回：食生活の課題、食育の変遷（大森）			
第3回：学校における食育の全体像（大森）			
第4回：学校給食を活用した食育（矢口）			
第5回：食物アレルギーに対応した食育（矢口）			
第6回：スポーツと食育（矢口）			
第7回：教科等の学習と食育（石垣）			
第8回：調理活動を組み入れた食育（石垣）			
第9回：地域の文化・資源を活用した食育（石垣）			
第10回：海外における食育（大森）			
第11回：食育の演習（大森）			
第12回：食育の全体計画の立案（大森）			
第13回：食育の指導案および教材の立案（大森）			
第14回：発表および相互評価（大森）			
第15回：これからの食育、総括（大森）			
テキスト			
食に関する指導の手引き第二次改訂版（平成31年3月 文部科学省）			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配布する			
学生に対する評価			
前半の教員3人各3回の講義部分の配点は、教員1人15点で計45点。後半は、発表25点とレポート30点。			

授業科目名： 教育・学校心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：関口雄一 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
教育にかかわる心理学の基礎的な知識を習得し、教育現場において生じる問題の解決を促進し、児童生徒の発達を促進する心理教育的援助に必要な方法論の理解を深めることを目的とする。具体的な到達目標は以下の3点である。 ①教育現場において生じる問題の現状及び学校コミュニティの特徴について理解している。 ②学校における支援に求められる心理学の知見（教授・学習、発達、評価・測定、パーソナリティと適応）について理解している。 ③学校心理学に基づく心理教育的援助サービスの方法について理解している。			
授業の概要			
本授業は、学校コミュニティで生じる問題に対処するために、教育制度や学校組織に関する知識や心理学の基礎的な理論、心理教育的援助サービスの方法とその意義について、講義やグループディスカッションを通して理解を深める。また、心理教育的援助サービスの具体的な技法である心理教育的アセスメントや学校カウンセリング、コンサルテーションについては、グループワークを通じた体験的な学習を行う。これら基本的な事項の知識の習得が十分になされているか、筆記試験によって評価を行い、到達点と課題について振り返りを行う。			
授業計画			
第1回：学校コミュニティの理解（教育制度、学校組織、教育課程、チーム学校） 第2回：教育現場において生じる問題（学力不振、逸脱行動、不登校、いじめ、友人トラブル） 第3回：学習の基礎としての発達（身体運動発達、感覚発達、認知発達） 第4回：学習のメカニズム（連合説と認知説、及びそれらの応用） 第5回：記憶のメカニズム（二重貯蔵モデル、ワーキングメモリー、忘却） 第6回：モチベーションの心理学（欲求、自己決定理論、目標達成理論、原因帰属） 第7回：教授方法（行動主義心理学を応用した教授法、認知説を応用した教授法、適性処遇交互作用）			
中間試験			
第8回：心理教育的アセスメント①（児童生徒の知能・学力の評価・測定） 第9回：心理教育的アセスメント②（児童生徒のパーソナリティの評価・測定） 第10回：心理教育的アセスメント③（児童生徒の周囲の環境の評価・測定） 第11回：3段階の心理教育的援助サービス（一次的援助サービス、二次的援助サービス、三次的援助サービス、学校危機への予防と対処）			

第12回：学校カウンセリング①（力動論の心理療法，認知行動論の心理療法）

第13回：学校カウンセリング②（カウンセリング）

第14回：コンサルテーション（教師・保護者・学校組織へのコンサルテーション）

第15回：チーム学校（専門性の異なる人材による援助サービス，学校組織マネジメント）

定期試験

テキスト

吉田 武男（監修）濱口 佳和（編）（2018）. MINERVAはじめて学ぶ教職 5 教育心理学 ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

日本学校心理学会（編）（2016）. 学校心理学ハンドブック第2版―「チーム」学校の充実をめざして― 教育出版

学生に対する評価

中間試験（50％）と期末試験（50％）によって総合的に評価する。試験は，到達目標に対応した授業内容の理解度を測るものとする。

授業科目名： 言語文化基礎論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：菊田尚人、坂喜 美佳、山崎義光、三上英司 担当形態：複数・オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 中学校・高等学校国語科の教育内容の土台となる言語文化の基礎的な知識を身に付けることができる。			
授業の概要 ・教育内容に関わる各専門分野の視点から言語文化の基礎的な知識について講義を行う。 ・各専門分野での学びを総合的に生かして言語文化について多角的に考える活動を行う。			
授業計画 第1回：言語文化を学ぶことの意義及び学び方についての説明（全担当教員） 第2回：「言語文化」とは何かを考える（全担当教員） 第3回：日本語の音声（坂喜） 第4回：日本語の文法（坂喜） 第5回：日本語の歴史（坂喜） 第6回：古典の基礎知識（山崎） 第7回：近代文学の基礎知識（山崎） 第8回：「物語」の読解（山崎） 第9回：漢字の基礎 日本語の文字表記（三上） 第10回：漢語の基礎 漢語の構造（三上） 第11回：訓読の基礎 漢文訓読体の価値と役割（三上） 第12回：国語単元学習の基礎的理解（菊田） 第13回：生活綴方教育の基礎的理解（菊田） 第14回：国語科における言語活動の基礎的理解（菊田） 第15回：各回の授業を振り返って、改めて「言語文化」とは何かを考える（全担当教員）			
テキスト 特になし。適宜、資料を配付する			
参考書・参考資料等： 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編』			
学生に対する評価 授業中の態度や課題への取り組み(85%)および学期末レポート(15%)を総合して評価する。			

授業科目名： 道徳教育の理論と実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉田 誠 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業の到達目標及びテーマ			
1. 道徳教育の必要性、歴史、現状と課題について説明できる。 2. 道徳科のさまざまな指導法の特徴と課題について説明できる。 3. 適切な指導法を選択し、道徳科の学習指導案を作成することができる。			
授業の概要			
本授業では、小中学校の道徳科の授業を行うために必要な心構えと基本的な知識を習得した上で、適切な指導法を選択して道徳科の学習指導案を作成できるようになることを目的とする。 本授業は基本的に講義形式で行うが、毎回の授業の初めに考察課題を与え、授業内容を踏まえて自分の考えをコミュニケーションカードに記入してもらうことにする。記入内容から優れたものや課題の残るものについて次回の授業の最初に紹介するので自分とは異なる他者の考え方も参考にしながら多面的・多角的に思考できるよう主体的に取り組んでもらいたい。また、授業の最後の5回で与えられた教材についてグループで教材分析、発問検討、指導案作りを行った上で、指導案の発表会を行い、優れた指導案を作成したグループの代表者に模擬授業を行ってもらうので、グループワークに積極的に取り組んでもらいたい。			
授業計画			
第1回：道徳教育における信念対立と正しさを決める四つのアプローチ（道徳とは何か） 第2回：道徳教育の歴史に通底する信念対立（道徳教育の歴史） 第3回：よい道徳教育とは何か（道徳とは何かを含む） 第4回：20世紀の道徳と21世紀の道徳（進化心理学と認知神経科学に基づく道徳観：心の成長と道徳性の発達を含む） 第5回：道徳授業のねらいに基づく8類型（多様な指導方法の特徴） 第6回：道徳授業の発問の構成法（道徳科の目標・内容とねらいに基づく発問構成） 第7回：道徳科の学習指導案の作成法（ねらいに沿った学習指導案の作成） 第8回：道徳科の評価（道徳科の特性を踏まえた評価のあり方） 第9回：各授業類型のねらいと発問の特徴（教材の特性を踏まえた教材分析の例示） 第10回：学校現場における道徳教育の取り組みの現状と課題（年間指導計画と教科等横断的な指導を含む） 第11回：教材分析の視点に基づく教材分析演習（いじめ及び情報モラルに関する教材を扱う） 第12回：発問構成演習（いじめ又は情報モラルに関する教材から選択して授業設計） 第13回：学習指導案作成演習（いじめ又は情報モラルに関する教材から選択して学習指導案づくり） 第14回：学習指導案発表会（作成した学習指導案の評価） 第15回：模擬授業と事後検討（授業改善の検討を含む）			

テキスト

『道徳科 初めての授業づくり』（吉田誠・木原一彰編著、大学教育出版 平成30年）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成29年7月 文部科学省）、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成29年7月 文部科学省）

学生に対する評価

以下の評価の観点により考察課題（50％）と学習指導案（50％）を基に評価する。

1. 道徳教育の必要性、歴史、現状について理解しているか
2. 道徳の授業の指導法に応じたねらいと発問を構成できるか
3. 児童生徒の実態を想定して評価可能なねらいを設定し、適切な発問と予想される反応を構成することができるか

授業科目名：日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 今野 健一
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標 この授業を履修した学生は、 1）憲法を理解するうえで不可欠な基礎的概念や、憲法に関連する重要な法令について理解し、説明することができる。【知識・理解】 2）憲法の基礎にある「立憲主義」原理の意義を踏まえ、憲法規範と現実に生起している憲法現象（憲法事件・憲法裁判）とを比較対照し、問題点を指摘できる。【知識・理解】			
授業の概要 この授業は、日本国憲法について歴史的・政治的・社会的な視点も交えた重層的な考察を行うことで、健全な批判精神に裏打ちされた幅広い知識を習得し、良識を備えた市民として生きる力を身につけるものである。			
授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 近代憲法の歴史 第3回 日本国憲法の制定過程 第4回 平和主義 第5回 外国人の人権 第6回 子どもの人権 第7回 法の下での平等 第8回 思想・良心の自由 第9回 信教の自由と政教分離原則 第10回 表現の自由 第11回 生存権 第12回 民主主義の憲法原理 第13回 統治機構の諸問題 第14回 憲法改正 第15回 まとめ＋期末試験定期試験			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

参考書は授業の際に紹介する。

学生に対する評価

この授業の到達目標との関連で、1) 憲法を理解するうえで不可欠な基礎的概念や、憲法に関連する重要な法令について、それらの意義や問題点を正しく説明できること、2) 「立憲主義」原理の意義を踏まえ、憲法の解釈・適用が問題となった具体的な憲法事件や憲法判例の特徴と問題点を適切に指摘できること、を合格の基準とする。

期末試験（50％）、レポート（30％）、平常点（20％）

＊レポートは期末に課題を出す。

授業科目名：日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 曾我 洋介
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
1. 各国家機関の組織と権限について理解する。【知識・理解】			
2. 基本的権利の内容とその実現方法について理解する。【知識・理解】			
3. 憲法の基礎にあってこれを支える考え方について理解する。【知識・理解】			
4. 国の活動に対する日本国憲法による特定の規律のあり方について、理由を示しながら論理的に記述できる。【知識・理解】			
授業の概要			
この科目は、日本国憲法の各規定の意味、その実践のありよう、これらの基礎にある考え方、そして、憲法解釈の仕方を分かち考え方の相違を学ぶことにより、健全な批判精神に裏打ちされた幅広い知識を修得するものである。			
授業計画			
第1回 導入と権利義務について（オンデマンド式オンライン授業）			
第2回 憲法とは何かについて（権利保障と権限配分など）			
第3回 法律と命令について（国会による立法と行政機関による立法）			
第4回 法律事項について（権利を制限するための法など）			
第5回 非法律事項（行政機関も定められる事項）と内閣が作成し国会が承認する予算について			
第6回 内閣が締結する条約について			
第7回 司法権と裁判を受ける権利について（法律上の争訟）			
第8回 法律に基づく裁判権について			
第9回 裁判所の裁判をする権限の限界について（裁量権、部分社会の法理、基本的人権の機能の仕方など）			
第10回 違憲審査権の行使の仕方について			
第11回 基本的人権1:公共の福祉の基本的性質について			
第12回 基本的人権2:諸権利の基本的性質について			
第13回 基本的人権3:権利制限の合憲性審査について			
第14回 自衛権と戦争等について			
第15回 日本国憲法9条の解釈について			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

参考書は下記の通りとする。

大石眞・大沢秀介編著『判例憲法（第3版）』（有斐閣2016年）978-4-6412-2703-3

長谷部恭男他編『憲法判例百選Ⅰ第7版』（有斐閣2019年）978-4-641-11545-3

長谷部恭男他編『憲法判例百選Ⅱ第7版』（有斐閣2019年）978-4-641-11546-0

学生に対する評価

「授業の到達目標」をすべて充たすことが及第要件である。問われたことについて、論理的な文章をもって丁寧に説明できることを要する。

課題への取り組み100%

①課題の種類

ノートの提出 → ②

確認問題 → ③

※課題共通の注意点

- ・課題は、毎回出題するわけではないが、複数回出題する。
- ・各課題は、10点満点で評価し、その合計点を100点満点に換算する。
- ・課題の出題と回収は、ウェブクラスを使用して行う。
- ・全ての課題を提出しなければならない。
- ・提出期限を厳守しなければならない。正当な理由のない限り、締切後の提出を認めない。
- ・手書きの場合は丁寧に記述すること。殴り書き、薄い文字、小さい文字は減点対象となる。

②「ノートの提出」の注意事項

この課題は、履修者が適切に受講しているかを点検することを目的としている。

履修者は、配付印刷物の空白部分に授業内容を記述し、担当教員に指示された部分を提出する。ノートの作成と提出の方法については授業で説明する。

※評価の目安

- ・授業で説明したことを最低限記述している場合に6点以上の点を付与する。
- ・授業で説明したことを概ね記述している場合に8点以上の点を付与する。
- ・説明に用いた図や黒板に記述していない事項もチェック対象となる。
- ・適切な場所に関連付けて記述しているもののみを評価する。
- ・記述場所が足りず欄外部分を使用する場合には、適切な場所から誘導すること。
- ・6点未満の場合は再提出の機会を付与することがある。

③「確認問題」の注意事項

この課題は、履修者が授業内容を理解した上で、その理解を応用できるかを点検することを目的としている。

課題の解説は、講義等において行う。

※評価の目安

- ・問われていることに誠実に応答し、説明している答案には原則として5点を付与する。
- ・授業内容に適合する答案にはその度合いに応じて加点する。
- ・説明不十分な答案はその度合いに応じて減点する。

授業科目名：日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中島 宏
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
①日本社会に共に生きる市民の教養として、日本国憲法に関する基礎的知識を得ることができる。【知識・理解】			
②憲法問題に関する論点や様々な見解を理解することで、自分とは異なる考え方を柔軟に取り入れる力を養うことができる。【態度・習慣】			
③現代の社会問題・政治問題に対する初歩的な法的視点を習得することができる。【技能】			
授業の概要			
この授業は、日本国憲法について多様な視点から理論的に考察することで、健全な批判精神に裏打ちされた幅広い知識を習得するものである。			
授業計画			
第1回 ガイダンス			
第2回 法的思考			
第3回 経済的自由権			
第4回 信教の自由と政教分離			
第5回 表現の自由（1：報道・取材の自由、事前抑制禁止の原則）			
第6回 表現の自由（2：ヘイトスピーチ規制、放送の自由と放送制度）			
第7回 表現の自由（3：わいせつ表現規制、有害図書規制）			
第8回 生存権			
第9回 幸福追求権			
第10回 平等原則			
第11回 国民主権と代表民主制			
第12回 衆議院の解散と二院制			
第13回 議院内閣制と政党			
第14回 平和主義			
第15回 全体のまとめ			
テキスト			
なし			

参考書・参考資料等

必要な資料を授業ごとに配布し、授業進度、学生の理解に合わせて、適宜、紹介します。

学生に対する評価

① レポートでは、授業内容を正確に踏まえた上で自分の考えを論じることができているかを確認します。②期末試験では、憲法に関する基礎的用語・概念・基本的問題を正確に理解していること、③また、具体的問題に関する多様な見解を踏まえて、適切な選択肢を選ぶことができることが合格の基準です。

レポート：40点、期末試験：60点の配点とし、この二つの合計点で成績を評価します。

授業科目名：健康・スポーツ科学（クラス名：スポーツと健康）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 清水 香 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツと健康の関係性を理解し、説明できる。【知識・理解】 学んだ知識を、自分や周囲の人の状況に当てはめて考え、活かすことができる。【態度・習慣】			
授業の概要 この授業は、スポーツと健康の関係について様々な視点から理論等を学ことで、健康に対する理解を深め、心身の健康の維持・増進に必要な知識を習得するものである。			
授業計画 第1回 講義の進め方とガイダンス（健康とは？） 第2回 こころの健康 第3回 スポーツと健康寿命 第4回 スポーツと生活習慣病（運動・スポーツの効果） 第5回 スポーツと生活習慣病（生活習慣病予防に必要な身体活動量と運動量について） 第6回 加齢に伴う体の変化（高齢者に対するレジスタンス運動の指導） 第7回 加齢に伴う体の変化（子どもから高齢者に対する運動指導） 第8回 健康づくりに必要な身体活動・スポーツ（ウォームアップとクールダウン） 第9回 健康づくりに必要な身体活動・スポーツ（ストレッチング） 第10回 健康づくりに必要な身体活動・スポーツ（ウォーキングとジョギング） 第11回 健康づくりに必要な身体活動・スポーツ（レジスタンス運動） 第12回 健康づくりに必要な身体活動・スポーツ（自転車運動・自体重エクササイズ） 第13回 健康づくりに必要な身体活動・スポーツ（水泳・水中運動） 第14回 第1回～第13回までの授業のまとめ 第15回 学期末テスト及び解説			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 授業時に配布する資料や、Web Classに提示する資料を用いて授業を実施するため、指定のテキストはありません。提示する資料に引用しているテキストの情報を記載して紹介します。			

学生に対する評価

スポーツと健康の関係について，授業を通して得られた知識に基づいて主体的に考察し，自分や周囲の人に当てはめて考えることができることを合格の基準とする．

授業毎の小テスト60%および期末テスト40%の合計100%で成績評価をする．

授業科目名：健康・スポーツ科学（クラス名：人体の仕組みと病気）		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 濱本 洋、二口 充、永嶋美華子、岡野 聡、水野大、武田 裕司
				担当形態： オムニバス
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		体育		
授業のテーマ及び到達目標				
1）がんにより命が失われるのはなぜか？ がんにより命が失われる原因について記述できる【知識・理解】 がん転移のメカニズムを調べることができる【技能】 がん細胞が治療抵抗性を獲得する機構について推論できる【知識・理解】				
2）性・生殖と薬 性と生殖に関する身体の構造や仕組みを列挙できる【知識・理解】 SRHRに関連する薬剤について記述できる【知識・理解】				
3）体内時計と健康 体内の時計である概日時計の仕組みを推論することができる【知識・理解】 概日（サーカディアン）リズムと概日時計の仕組みを関係づけることができる【知識・理解】 概日（サーカディアン）リズムの生物にとっての意義を調べることができる【技能】				
4）中毒と病気 毒と中毒の定義について述べる【知識・理解】 化学物質中毒の仕組みを分類できる【知識・理解】 酒に強い人と弱い人が陥りやすい中毒とそれによって引き起こされうる病気について関係づけることができる【知識・理解】				
5）私という概念を形成する免疫学 免疫系はどのようにして「私（自己）と異物を区別しているか？」記述できる【知識・理解】 「私とは何か？」について推論できる【知識・理解】				
6）人類史に刻まれた微生物たち 人類史における重要な感染症を理解できる【知識・理解】				
授業の概要				
この授業は高等学校で学んだ知識を基に、人体の構造や機能の異常に基づく傷病についての基礎理論を学ぶ。基礎理論は複雑な傷病を理解する上で不可欠であることを知ることが本授業の狙いである。				

授業計画

がん、性・生殖と薬、体内時計と健康、中毒と病気、自己と異物を区別する免疫学、および微生物と感染症、という私達にとって身近なテーマを取り上げ、1つのテーマを2回ないし3回にわけて講義します。講義はパワーポイントなどを用いたプレゼンテーションで行います。

1) 「がんにより命が失われるのはなぜか？」 (担当 二口 充)

がんとは何か、その遺伝子変化、がん転移のメカニズムおよび治療抵抗性を獲得する機構について、最新の研究成果を踏まえて解説する。

2) 「性・生殖と薬」 (担当 永嶋 美華子)

性と生殖に関する身体の構造や仕組み、SRHRに関連する薬剤について、医学的観点から解説する。

3) 「体内時計と健康」 (担当 岡野 聡)

「概日 (サーカディアン) リズム」の生物にとっての意義と、それを生み出す体内の時計である「概日時計」の仕組みを、ヒトの健康との関わりに力点をおいて概説する。

4) 「中毒と病気」 (担当 水野 大)

「毒」と中毒の定義について概説し、私たちの周りに存在する様々な化学物質中毒の仕組みを紹介する。さらに、酒に「強い人」と「弱い人」が陥りやすい中毒とそれによって引き起こされうる病気についても解説を行う。

5) 「私という概念を形成する免疫学」 (担当 武田 裕司)

免疫系はどのようにして「私 (自己) と異物を区別しているか？」その「私とは何か？」について、免疫学的立場から解説する。

6) 「人類史に刻まれた微生物たち」 (担当 濱本 洋)

微生物による感染症の歴史や発見などをひもときながら、ヒトの健康と微生物の関係、また、その微生物の性質を解説する。さらに、人類が微生物による感染症をいかに克服していったか、その栄光の歴史と決して明るくはない近未来を示す。

1回の授業時間は90分であり、6つのテーマを全15回に分けて講義するため、本授業は2単位の授業時間を満たすものとなっております。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

武田裕司 好きになる免疫学(講談社サイエンティフィック)、休み時間の免疫学(講談社サイエンティフィック)、免疫ペディア(羊土社)

学生に対する評価

各講義内容の基礎的な事項について、主体的に考察し、論述できることが合格の基準とします。講義範囲内のレポート提出などにより講師毎に評価します。

各講師20点満点で評価し、その合計点により最終評価を行います。合計100点満点に換算し、60点以上を合格とします。

授業科目名：健康・スポーツ科学（クラス名：英語で学ぶスポーツ文化論）		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 張 育綺
				担当形態： 単独
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		体育		
授業のテーマ及び到達目標 この授業を履修した学生は、 1. スポーツの文化的側面を理解し、世界各国の特色ある伝統的スポーツと現代的スポーツの基本を理解している。【知識・理解】 2. 英語を使って知的探求をすることに興味を持たせる。【技能】 3. 日常生活でスポーツ文化を意識する習慣を身につける。【態度・習慣】				
授業の概要 本授業では、伝統的なものから近代的なものまで、世界各国のスポーツ文化に触れ、スポーツ文化の視点から現代スポーツの問題を論理的に分析し、解決策を提案できる能力を身につけることを目的としています。				
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 伝統スポーツと近代スポーツ 第3回 世界のスポーツ文化：アジア：東、北東、東南アジア 第4回 世界のスポーツ文化：アジア：中央・西・南アジア 第5回 世界のスポーツ文化：ヨーロッパ：西・南・北欧 第6回 世界のスポーツ文化：ヨーロッパ：東・中欧 第7回 世界のスポーツ文化：オセアニア：ニュージーランド・オーストラリア 第8回 世界のスポーツ文化：オセアニア：太平洋諸島 第9回 世界のスポーツ文化：アメリカ大陸：北・中米 第10回 世界のスポーツ文化：アメリカ大陸：南米 第11回 世界のスポーツ文化：アフリカ：西・南・北アフリカ 第12回 世界のスポーツ文化：アフリカ：中・東アフリカ 第13回 グループ発表とディスカッション（グループ1からグループ5） 第14回 グループ発表とディスカッション（グループ6からグループ9） 第15回 授業のまとめ				
テキスト なし				

参考書・参考資料等

Trotier, F. and Bairner, A. (2019) Sport and Body Cultures in East and Southeast Asia, Routledge.

「よくわかるスポーツ文化論」井上俊・菊幸一 編著，ミネルヴァ書房；改訂版（2020/3/2）

「スポーツの歴史と文化」新井 博 編著，道和書院；新版（2019/4/1）

「よくわかるスポーツ人類学」寒川 恒夫 編著，ミネルヴァ書房（2017/3/31）

学生に対する評価

授業への参加意欲（40%）

個人発表（30%）

グループ発表（30%）

個人発表（時事ニュース）1回、グループ発表1回、毎回の授業でディスカッションの時間を設ける、総合的に判断し評価する。

授業科目名：健康・スポーツ科学（クラス名：コンディショニング論）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 池田 めぐみ
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1. コンディショニングの基本概念を説明できる。			
2. スポーツの歴史やオリンピック・パラリンピックのレガシーを理解し、説明できる。			
3. トータルコンディショニングの視点から、アスリートと一般の人々におけるコンディショニングの意義を説明できる。			
4. スポーツ倫理やアスリートの権利について理解し、説明できる。			
5. ハイパフォーマンスとライフパフォーマンスの関係を理解し、説明できる。			
6. スポーツが社会や個人に与える影響を多角的に捉えることができる。			
授業の概要			
スポーツの歴史や倫理、オリンピック・パラリンピックのレガシーを通じて、スポーツが社会に与える影響や、コンディショニングがどのように発展・継承されてきたかを考察し、スポーツの持続可能性について理解を深めます。また、トータルコンディショニングの概念を軸に、アスリートだけでなく一般の人々にも適用可能なコンディショニングの意義を学び、健康維持やパフォーマンス向上における役割を考えます。			
授業計画			
第1回 ガイダンス：コンディショニングとは何か？			
第2回 スポーツの語源と歴史			
第3回 スポーツ医科学の発展			
第4回 日本のスポーツと世界のスポーツ			
第5回 オリンピック・パラリンピックのレガシーとしてのコンディショニング			
第6回 アスリートのコンディショニング			
第7回 地域スポーツとスポーツを通じた街づくり			
第8回 アンチ・ドーピングの視点からコンディショニングを考える			
第9回 スポーツのインテグリティ			
第10回 ハイパフォーマンスからライフパフォーマンスへ			
第11回 トータルコンディショニングと生涯スポーツ			
第12回 スポーツ環境の整備と持続可能なスポーツ文化			
第13回 スポーツとメディア：情報発信とコンディショニングの普及			

第14回 コンディショニングの未来：技術革新と新たな可能性

第15回 総括：学びの振り返りとコンディショニングの応用

テキスト

なし

参考書・参考資料等

①参考書：アスリートのためのトータルコンディショニングガイドライン

（著者）日本スポーツ振興センター久木留毅、清水和弘他

（発行）独立行政法人日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター

（編集協力）株式会社さんライフ企画

初版第一刷発行 2023年9月10日

②参考書：スポーツの現在地を考える

（監修者）遠藤利明

（編集者）日本スポーツ政策推進機構

発行所：株式会社ベースボール・マガジン社

第1版第1刷発行 2024年12月25日

学生に対する評価

本授業の成績は、以下の3つの評価項目に基づいて総合的に判断します。

1. 授業への参加（60%）

講義への積極的な参加態度（発言、ディスカッションへの貢献を含む）

授業内での課題や問いかけへの取り組み

2. 感想（20%）

各回の授業内容に対する考察や気づきを記述できているか

具体的な事例や自身の視点を交えて論理的にまとめられているか

3. 最終課題提出（20%）

指定されたテーマに沿ったレポートを作成し、授業での学びを適切に反映できているか、内容の一貫性、論理的な構成、資料の活用を評価

・各授業での発言や課題への取り組みを評価し、累積して参加点を算出します。

・感想は、講義の理解度や考察の深さを基準に採点します。

・最終課題は、論理性・独自性・適切な資料の活用などの観点から評価します。

・提出期限の厳守を求め、他者の文章や研究成果を適切な引用なく使用する行為（不適切な転載・コピー）が認められた場合は評価対象外とします。

・受講態度や課題提出状況によっては、単位取得が困難となる場合があります。

授業科目名：健康・スポーツ科学（クラス名：スポーツと社会）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 笹瀬 雅史
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
スポーツを歴史、社会学的視点から理解すること。スポーツと社会に関する諸側面、歴史と現状、課題について理解し、スポーツと社会の概要を説明できる力を身につける。			
(1) スポーツと社会の基本構造が説明でき、それらを各領域で応用して考えることができる。			
【知識・理解】			
(2) スポーツと社会学的な視点でスポーツを捉えることができ、そのことについて考察・討議することができる。【知識・理解】 【態度・習慣】			
授業の概要			
この授業は、スポーツと社会について様々な視点から理論的に考察することで、健全な批判精神に裏打ちされた幅広い知識を習得するものである。			
この授業は、体育・スポーツ現象について、スポーツと社会的な観点から論理的に分析し、改善案を提案する力を身につけるために編成される科目である。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
第2回 オリンピックの歴史・社会1、オリンピックとは			
第3回 オリンピックの歴史・社会2、古代オリンピック			
第4回 オリンピックの歴史・社会3、開閉会式の演出			
第5回 オリンピックの歴史・社会4、女性、人種、技術と記録			
第6回 オリンピックの歴史・社会5、諸問題と五輪憲章			
第7回 オリンピックの歴史・社会6、政治、経済、ドーピング			
第8回 近代スポーツの成立と展開、イギリスから世界へ			
第9回 スポーツの大衆化とプロスポーツ			
第10回 日本の近代化と体育・スポーツ			
第11回 日本社会変化とスポーツ			
第12回 地域社会とスポーツ			
第13回 ニュースポーツの創造			
第14回 生涯スポーツの時代と総合型地域スポーツクラブ			
第15回 ライフステージと生涯スポーツ、まとめ			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

授業時に指示することがある。図書館にあるスポーツ関係図書、インターネット上にある映像などが参考になる。

学生に対する評価

授業参加態度およびスポーツと社会に関する基礎知識を習得し・内容を論述できることが合格の基準です。

1) まずは、授業の到達目標で示したスポーツと社会の基本構造が適切に説明できることを合格の基準とします。

2) 次に、授業の到達目標で示した、スポーツと社会学的な視点でスポーツを捉えることができ、各領域でのそのことについて深く考察（論述）し、また討議にも積極的・能動的に参画できていることが合格の基準です。

授業参加度および意欲態度：30%、レポート(試験)課題の提出：70%によって評価します。

授業科目名：健康・スポーツ科学（クラス名：心と体の健康づくり）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 牧野 直彦
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
◆ 健康を保持・増進するために大学生のうちから何に注意すべきか理解し、末永い健康に役立てる。【態度・習慣】			
◆ 多感な青年期における悩みやその対処法の理解を深める。【知識・理解】			
◆ 学校感染症、性感染症その他重大な感染症について理解する。【知識・理解】			
◆ たばこ、酒などによる健康障害を科学的に理解する。【知識・理解】			
◆ 心肺蘇生法の意義・原理について学び、実践できる。【技能】			
授業の概要			
この授業は、学生時代から末永い健康の維持を意識し、病気の予防、対処、人命救助についての知識を習得するものである。			
授業計画			
第1回 講義の進め方とガイダンス			
第2回 救命救急講義(呼吸と循環)			
第3回 救命救急講義(心肺蘇生法)			
第4回 救命救急実習			
第5回 メンタルヘルスについて			
第6回 アサーション			
第7回 発達障がいについて			
第8回 大学における障がい学生への支援			
第9回 大学生に発症しやすい精神疾患			
第10回 身近な感染症と新興感染症			
第11回 子宮頸がんを予防しよう			
第12回 膵臓と胆道の病気について			
第13回 学生生活において注意すべき身近な胃腸の病気			
第14回 喫煙による健康障害			
第15回 授業のまとめ（試験を含む）			
テキスト			
なし			

参考書・参考資料等

必要な資料やプリントを授業ごとに配布し、授業進度、学生の理解に合わせて、適宜紹介します。

学生に対する評価

- ◆ 100点満点とし、60点以上を合格とします。
- ◆ 講義への出席が、最も重要であると考えております（2/3以上の出席が必要）。また、試験問題は、講義で配布した資料の範囲内より講師が作成いたします。授業で講義した内容を理解し、それを説明できる知識を身につけることができれば、合格基準を満たしていると判定いたします。

筆記試験（約70%）及び授業参加度（出席カードの記載を含む約30%）で成績を評価します。

授業科目名：健康・スポーツ科学（クラス名：人体の構造と機能）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小林 裕人、藤原 浩樹、後藤 薫、田中 敦、北中 千史
			担当形態： オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 この人体の構造と機能を履修した学生は、 1）脳と行動（ニューロン、シナプス、神経伝達、運動制御、記憶と学習）を説明できる。 2）ヒトの進化論（脳の進化、統合失調症、脂質の役割）を説明できる。 3）生殖器と性周期（男性生殖器と女性生殖器の構造、性周期）を説明できる。 4）細胞小器官（ミトコンドリア）の機能と生老病死を説明できる。 5）発がんメカニズム、がん遺伝子、がん抑制遺伝子、がん予防を説明できる。			
授業の概要 この授業は、人体構造、人体発生、細胞構造、人体機能、人体腫瘍の基礎的な知識を習得するものである			
授業計画 第1回 講義の進め方とガイダンス：小林裕人 第2回 脳と行動（ニューロン、シナプス）：藤原浩樹 第3回 脳と行動（神経伝達、運動制御）：藤原浩樹 第4回 脳と行動（記憶と学習）：藤原浩樹 第5回 ヒトの進化論（脳の進化）：後藤薫 第6回 ヒトの進化論（統合失調症）：後藤薫 第7回 ヒトの進化論（脂質の役割）：後藤薫 第8回 生殖器と性周期（男性生殖器と女性生殖器の肉眼解剖学）：小林裕人 第9回 生殖器と性周期（女性生殖器の組織解剖学と性周期）：小林裕人 第10回 細胞小器官（ミトコンドリア）の機能と生老病死（機能）：田中敦 第11回 細胞小器官（ミトコンドリア）の機能と生老病死（老化・疾患）：田中敦 第12回 細胞小器官（ミトコンドリア）の機能と生老病死（疾患克服）：田中敦 第13回 がんはどうやってできるのか？（がん発生の仕組みを中心に）：北中千史 第14回 がんはどうやってできるのか？（がん予防をがん発生の仕組みから考えてみる）：北中千史 第15回 がんはどうやってできるのか？（がん発生の仕組みに基づく新たながん治療開発について）			

：北中千史
テキスト なし
参考書・参考資料等 必要な資料やプリントを授業ごとに配布し，授業進度，学生の理解に合わせて，適宜紹介する場合があります。
学生に対する評価 「授業の到達目標」に記載された各項目について，基本的な概念や用語を正しく理解していること，授業を通して得られた知識や経験に基づいて主体的に考察し，論述できることが合格の基準です。 各教員が担当する項目ごとにレポートを課し，総合点を100点満点としたときに60点以上を合格とする。課題の詳細については適宜通知する。

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：バスケットボール)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：井上 大樹 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 1) バスケットボールの特性や基本的なルールを理解する。【知識・理解】 2) バスケットボールの基本的な技能を身につけゲームに取り組む。【技能】 3) 自己の課題を見つけ解決に向けて取り組むことができる。【態度・習慣】 4) 試合を通して仲間とコミュニケーションをとることができる。【態度・習慣】			
授業の概要 この授業は、バスケットボールに取り組むことを通して、体を動かす楽しさを味わい、生涯を通してスポーツに親しむ能力を養うものである。			
授業計画 第1回： ガイダンス 第2回： ルールの学習，ゲーム 第3回： 基本技術の練習（シュート），ゲーム 第4回： 基本技術の練習（ドリブル），ゲーム 第5回： 基本技術の練習（パス），ゲーム 第6回： スキルテストの説明，ゲーム 第7回： 個人戦術（1対1），ゲーム 第8回： 集団戦術（2対2），ゲーム 第9回： 集団戦術（3対3），ゲーム 第10回： 集団戦術（2対1），ルールを工夫したゲーム 第11回： 集団戦術（3対2），ルールを工夫したゲーム 第12回： 集団戦術（ハーフコート），リーグ戦形式でのゲームの実施1 第13回： リーグ戦形式でのゲームの実施2（個人技術の確認） 第14回： リーグ戦形式でのゲームの実施3（集団戦術の確認） 第15回： スキルテストとまとめのゲーム			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介します。			

学生に対する評価

- 1) 授業への参加意欲，授業内での活動への積極的な参加および周りの人とのコミュニケーションがとれていることを合格の基準とします.
- 2) バスケットボールの基本技術に関するスキルテストにおいて，基本技術を正しく理解し発揮できることを合格の基準とします.
- 3) 自身の課題や，気づいたことおよび学んだことについて，授業記録で説明できていることを合格の基準とします.

- 1) 意欲・関心・態度（60%）
- 2) スキルテスト（20%）
- 3) 授業記録（20%）

これらの合計点をもって評点とします.

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：バドミ ントン)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：柳川 郁生 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 課題となる運動を観察することで運動構造を把握し、意図的・意識的な練習によって自己 観察の方法、位相理論などを理解することができるようになる。【知識・理解】			
2) この理解を個人の運動への取り組みに応用することにより、各スポーツ種目に必要な基礎 技術が習得できる。【技能】			
3) さらに生涯に渡ってスポーツを楽しむ為に必要な知識と能力を身につけることができる ようになる。【態度・習慣】			
授業の概要			
1) 健康問題も含めて多様なスポーツ現象に対する考え方を学びながら、生涯にわたってスポ ーツに親しみ、実践していくための「身体」について理解を深めるものである。			
授業計画			
第1回：ガイダンス：授業のなかで学ぶ運動学の課題			
第2回：実技：グリップやスウィングの基本動作の習得 ・基礎図式の成立について解説&動感志向体験			
第3回：基礎知識：ルールや技術用語の確認 実技：基本的な打ち方の体験（サーブ・ストローク基礎技術の紹介）			
第4回：実技：基本的な打ち方の体験（ラリーを続けられるような正確な技術習得）			
第5回：実技：基礎技術の習得（ハイクリア） ゲーム			
第6回：実技：基礎技術の習得（ドライブショット） ゲーム			
第7回：実技：基礎技術の習得（ヘアピン） ゲーム			
第8回：実技：基礎技術の習得（ドロップショット） ゲーム			
第9回：実技：基礎技術の習得（スマッシュ） ゲーム			
第10回：実技：基礎技術の習得（バックハンドショット） ゲーム			
第11回：実技：行動技術の習得（ステップ：クロス・リアクション・チャイナ） ゲーム			
第12回：実技：行動技術の習得・応用（ダブルス：サイド・バイ・サイド） ゲーム			
第13回：実技：行動技術の習得・応用（ダブルス：トップ&バック） ゲーム			
第14回：実技：行動技術の習得・応用（ダブルス：ダイアゴナル） ゲーム			
第15回：実技：行動技術の応用（作戦を生かしたゲームの展開） ゲーム			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

「バドミントン教本 基本編」日本バドミントン協会【編】ベースボール・マガジン社
(参考とする資料なので購入等の必要はありません。)

学生に対する評価

- 1) 毎回の授業において技術向上の取り組みに積極的に参画できていることが合格の基準となる。
- 2) バドミントンの特性の理解と基礎技術の習得において、正しい理解と取り組みが行われていることが評価の基準となる。

積極的参画（意欲的に授業に臨む態度等） 60点

運動技術の特性理解（ルール理解等） 20点

運動技術到達度（ゲーム記録等） 20点

計 100点

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：ピラ ティス)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：張 育綺 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 この講義を履修した学生は、 1.ピラティスの起源と運動効果の原理を理解できる。【知識・理解】 2.ピラティスの動きを正しく実演することができる。【技能】 3.健康、フィットネス、身体活動の関係を理解し、健康管理能力を向上させることができる。【態 度・習慣】			
授業の概要 ピラティスのテクニックを通して、正しい体の姿勢、効率的な体の使い方、体幹の強化などを 学びます。瞑想や呼吸法などの心身のテクニックとともに、自分の体への意識を高め、さまざ まな身体感覚を体験することで、自分の体を見つめ直し、心身のバランスのとれた状態を目指 します。			
授業計画 第1回目 ピラティスの起源、動作原理 第2回目 自身の体の状態を知る、ピラティス呼吸法、ピラティスの基本的な動きを学び 第3回目 ピラティスの基本動作：PELVIC CLOCK、DEADBUG、FEMUR ARCS 第4回目 ピラティスの基本動作：LEG CIRCLE、SPINE FLEXION/STRETCH、SPINE TWIST 第5回目 ピラティスの基本動作：CHEST LIFT、PRONE EXTENSION、BRIDGING 第6回目 グループ演習・ディスカッション 第7回目 実技試験 第8回目 ピラティスの基本動作：HALF ROLL DOWN、SINGLE LEG STRETCH、DART 第9回目 ピラティスの基本動作：MERMAID、SIDE TO SIDE、SIDE KICK 第10回目 ピラティスの基本動作：BOOK OPENING、HUNDRED、PRE SWIMMING 第11回目 ピラティスの基本動作：SWAN1、QUADRUPED、SIDE LIFT 第12回目 ピラティスの基本動作：ROLLING LIKE A BALL、STANDING ROLL DOWN、STANDING BALANCE 第13回目 グループ演習・ディスカッション 第14回目 実技試験 第15回目 授業のまとめ			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

『はじめてのピラティス・プログラム DVD付』 米田由紀 監修、朝日新聞出版(2018/11/20)

『みるみる美ボディ 魔法のピラティス』 B-life 著、実業之日本社出版(2020/6/1)

学生に対する評価

専門知識、専門用語の理解度、授業の参加意欲、学習に対する精神と態度、実技テストの結果を含む技能習熟度などの評価基準を用いて、総合的に判断し評価する。

専門用語、専門知識の理解度(10%) 授業への参加意欲と態度(50%) 実技テストの結果(40%)

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：ソフト ボール)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：中嶋 康博
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 この講義を履修した学生は、 ソフトボールの面白みを味わう。【態度・習慣】 ソフトボールのルールを理解する。【知識・理解】 ソフトボールの社会的背景を知る。【知識・理解】 試合、運営方法を理解する。【知識・理解】 ルールを理解し、審判の方法を覚える。【知識・理解】 用具の使い方や保管の仕方を理解する。【知識・理解】 身体能力の向上と、それぞれの運動能力を知る。【知識・理解】 ソフトボールの基礎的技術やチームワークを身につける。【技能】			
授業の概要 本授業は、ソフトボールというスポーツを通じて体を動かす楽しみを味わうとともに、ソフトボールが持つ生涯性を理解・体験し、それを伝えられる知識を習得するものである。又、スポーツ文化コース内の専門科目として中学・高等学校教諭免許状（保健体育）を取得するために必要な選択科目である。			
授業計画 主要なテーマと順序は次のとおりです。 第1回目 講義のすすめ方とガイダンス 第2回目 ソフトボールの基本的ルール・社会的背景説明・道具準備や準備体操等 第3回目 守備練習（キャッチボール、ボール回し、ゴロ処理、フライ補給）・安全確認 第4回目 試合（ミニゲーム）を通しての守備の確認・用具への理解向上 第5回目 試合（ミニゲーム）を通しての守備の確認・守備技術の向上 第6回目 打撃練習（トスバッティング・フリーバッティング・バント）・ミニゲーム 第7回目 試合（ミニゲーム）を通しての打撃の確認・用具への理解向上 第8回目 試合（ミニゲーム）を通しての守備・打撃の確認 第9回目 ソフトボール競技に合わせたトレーニングの模索・試合 第10回目 リーグ戦・大会設営・試合（個人技術の確認） 第11回目 リーグ戦・大会設営・試合（グループ・チームとしての確認） 第12回目 リーグ戦・大会設営・試合（個人・チームとしての戦術の確認）			

第13回目 リーグ戦・大会設営・試合（チーム内での役割を認識して試合を行う。）

第14回目 リーグ戦・大会設営・試合（勝ちにこだわる試合にする。）

第15回目 実技試験・リーグ戦・大会設営・試合、授業のまとめ。

天候に応じて会場が変更される場合があります。（晴：グラウンド、雨：体育館もしくは教室）

テキスト

なし

参考書・参考資料等

福田 五志（著）ソフトボールの戦い方、学術論文

（＊授業前での購入は不要、最初の授業時に説明します。）

学生に対する評価

専門用語及びルール、ソフトボールの理解度（20%）

授業への参加意欲と態度（30%）

ノートや試合運営の内容（20%）

実技テストの結果を含む技能習熟度（30%）

専門用語及びルール、ソフトボールの理解度、授業への参加意欲と態度、ノートや試合運営の内容、実技テストの結果を含む技能習熟度などの評価基準を用いて、総合的に判断し評価する。

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：サッカー)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：井上 功一郎 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) ゲームに必要なサッカーの基本的な技能を習得する。【技能】			
(2) 正しくルールを理解しゲームを実践できるようになる。【知識・理解】			
(3) チームで対戦したり，戦術を共有したりする中で，コミュニケーション能力を身につける。【態度・習慣】			
(4) 自分の身体に関心を持ち，運動能力や体力について分析できるようになる。【態度・習慣】			
授業の概要			
基盤共通教育の共通科目の健康・スポーツ領域における実技科目である。自らがスポーツを実施したり，観戦したりするための素養を養うことで，生涯にわたってスポーツに主体的に親しむ力を身につけるものである。			
授業計画			
第1回： ガイダンス			
第2回： ルールの学習，ゲーム			
第3回： 基本技術1（キック，トラップ），ゲーム			
第4回： 基本技術2（ドリブル，ヘディング），ゲーム			
第5回： シュートとパスの基本，ゲーム			
第6回： 攻撃の基本1（1対1），ゲーム			
第7回： 攻撃の基本2（複数対複数），ゲーム			
第8回： 守備の基本1（1対1），ゲーム			
第9回： 守備の基本2（複数対複数），ゲーム			
第10回： オーガナイズ1，コート工夫したゲーム			
第11回： オーガナイズ2，ゴール工夫したゲーム			
第12回： オーガナイズ3，ルール工夫したゲーム			
第13回： フルコートのゲームとポジショニング			
第14回： 大会形式とゲームの進め方			
第15回： まとめゲームと総括			
※履修者数や履修者の技能レベル，天候によって一部内容を変えたり，順番を変えたりすることがある。			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

JFAサッカー指導教本（日本サッカー協会著，日本サッカー協会）

学生に対する評価

サッカーの基礎的な力を身につけるために授業での活動に積極的・能動的に参画できていることを合格の基準とする。授業への参加意欲・関心・態度として評価する。授業内での説明を正しく理解し、行動できることを合格の基準とする。授業内容の理解度として評価する。自身やチームのプレーについて考え、それを授業記録で説明できることを合格の基準とする。授業記録の内容として評価する。

授業への参加意欲・関心・態度（50%）と授業内容の理解度（30%），授業記録の内容（20%）の合計得点をもって評点とする。

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：アダプ テッド・スポーツ)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：三枝 巧 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 1) ネット型を中心としたスポーツの基本技術を習得し、ゲームを楽しむことができる。【技能】 2) アダプテッド・スポーツのルールや特性、実践による効果を理解することができる。【知識・理解】 3) スポーツを通してコミュニケーションを図り、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を身につけることができる。【態度・習慣】 4) 障がいのある人の特徴に合わせてルールや用具を工夫し、アダプテッド・スポーツを実践する能力を身につけることができる。【態度・習慣】			
授業の概要 本授業は、アダプテッド・スポーツや様々なネット型スポーツを楽しむことを通して、障がいの有無にかかわらず、生涯にわたってスポーツを親しむ能力を養うものである。			
授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 ソフトバレーボール：ルールの習得 第3回 ソフトバレーボール：パス、スパイクの実践 第4回 ソフトバレーボール：連携プレーの構築、ゲーム 第5回 シットティングバレーボール 第6回 テニピン 第7回 ブラインドテニス 第8回 ブラインドサッカー 第9回 ウォーキングフットボール 第10回 ボッチャ：ペア 第11回 ボッチャ：グループ 第12回 卓球：ルールの習得、ゲーム 第13回 卓球バレー、サウンドテーブルテニス 第14回 スポーツウエルネス吹き矢 第15回 アダプテッド・スポーツの開発と実践、まとめ			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

教養としてのアダプテッド体育・スポーツ学（2018）．大修館書店　その他，参考資料を適宜配布します．

学生に対する評価

- 1) 各スポーツの基本技術を習得してゲームを楽しむために，授業に積極的に参加できていることを合格の基準とする．
- 2) 各スポーツのルールや特性，アダプテッド・スポーツの基本的理解ができることを合格の基準とする．
- 3) グループの中で積極的にコミュニケーションを取り，他者を尊重しながら協力して参加することを合格の基準とする．

授業参加度（活動意欲・態度）：60％，ルールや特性の理解・授業記録の内容・基本技術の習得：40％の合計得点をもって評点とする．

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：マルチ スポーツ)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：池田 めぐみ 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 1)スポーツにある様々な価値について自分の言葉で述べるができる。 2)それぞれのスポーツの基本的なルールを尊重しながら、参加者全員が楽しむためのルールを創造することができる			
授業の概要 この授業は、スポーツ実技を通して様々なスポーツに親しみ、スポーツにある多様な価値について理解を深めるためのものである。			
授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 コミュニケーション&交流ゲーム 第3回 バドミントン:基礎的なルールの習得、ゲーム 第4回 バドミントン：ルールを考察・ディスカッション、ゲーム 第5回 ボッチャ:基礎的なルールの習得、ゲーム 第6回 ボッチャ:ルールを考察・ディスカッション、ゲーム 第7回 テニピン：基礎的なルールの習得、ゲーム 第8回 テニピン：ルールを考察・ディスカッション、ゲーム 第9回 卓球（スリッパ含む）：基礎的な動きやルールの習得、ゲーム 第10回 卓球（スリッパ含む）：ルールを考察・ディスカッション、ゲーム 第11回 スポーツ鬼ごっこ：遊びやゲームの要素を共存させたスポーツの体験・考察 第12回 ユニホック：チームスポーツの体験・考察 第13回 アダプテッド・スポーツ：誰もが楽しめるスポーツの体験 第14回 アダプテッド・スポーツ：誰もが楽しめるスポーツの考察 第15回 新しいスポーツの開発、発表 様々な形態の種目を実施するが、天候や授業環境、受講人数によって予定や内容を変更する場 合がある。			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

適宜、紹介する.

学生に対する評価

- 1) 勝敗を決める以外のスポーツの価値を、自分の言葉で述べられるようになる
- 2) 他者を尊重し、協力しながら積極的にスポーツに参加することを合格の基準とします。
- 3) 授業への参加状況（出席・関心・発言・意欲・態度・服装等）をスポーツの技能（得意・不得意）よりも重視します。

授業への参加状況と運営への積極性、グループディスカッションへの参加意欲、ゲーム作成内容などから、総合的に評価します。

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：フィット トネス)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：池田 めぐみ 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1)「スポーツにある価値」や、「スポーツを通した価値」には、日常や人生、地域を豊かにし、よりよい未来を創るチカラがあることに気づくことができる			
2)様々な道具を使い、身体を動かしていく中で、「正しい」身体の使い方、姿勢、歩き方、エクササイズの方法を身につけ、日常生活にも応用することができるようになる			
3)スポーツを通して、ユニバーサルな物の見方、考え方を身につけ、誰もが共に楽しむことが可能なスポーツを創造して行くことを目的とする			
授業の概要			
基本的な人体の構造、機能的な体の使い方について理解しながら、様々なスポーツの体験を通し、スポーツは、国境や性別、男女、年齢や世代、運動神経を問わず、共に楽しめる世界共通の文化であることを理解する。また、色々な視点からスポーツの価値を考えることを通して、自らの人生や地域の未来をより良く創る能力の習得・向上を図る			
授業計画			
第1回ガイダンス			
第2回コミュニケーション&交流ゲーム			
第3回機能的に体を使う：正しい姿勢、歩き方、走り方の習得			
第4回機能的に体を使う：機能的な体の使い方を習得、ゲームでの実践			
第5回フィジカルエクササイズ：ムーブメントプレップ、コア			
第6回フィジカルエクササイズ：バランス、ストレングス			
第7回コーディネーション：脳神経系の機能と運動機能を意識した運動の実践			
第8回コーディネーション：ゲームでの実践			
第9回バランスの意識：バランスボールを用いたエクササイズ			
第10回 バランスの意識：体をコントロールためのエクササイズ、ゲームでの実践			
第11回遊びやゲームの要素を共存させたスポーツの体験・考察			
第12回アダプテッド・スポーツ：誰もが楽しめるスポーツの体験			
第13回アダプテッド・スポーツ：誰もが楽しめるスポーツの考察			
第14回新しいスポーツの開発(1)：ゲーム考案、ルール作成、実践			
第15回新しいスポーツの開発・発表			

様々な形態の種目を実施するが、天候や授業環境、受講人数によって予定を変更する場合があります。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

適宜、紹介する

学生に対する評価

授業への参加状況（関心・発言・意欲・態度・服装等）をスポーツの技能（得意・不得意）よりも重視します。また、他者を尊重し、協力しながら積極的に参加できることを合格の基準とする

授業への参加状況と運営への積極性、グループディスカッションへの参加意欲、ゲーム作成内容などから、総合的に評価します。

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：コンディショニング)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：池田 めぐみ 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 1.コンディショニングの基本概念を理解し、説明できるようになる。 2.自分の姿勢や動作を評価し、体の課題に対する適切な改善方法を考えられるようになる。 3.ストレッチや体幹トレーニングなどの基本的なコンディショニング手法を実践できる。			
授業の概要 本授業では、コンディショニングの基本概念を理解しながら、姿勢や動作の評価、体の整え方を学び、日常生活やスポーツパフォーマンスの向上に活かせる力を身につける。また、コンディショニングが年齢や競技レベルを問わず、健康維持やケガ予防に重要であることを理解し、自らのライフスタイルに応じた実践的な方法を習得する。さらに、コンディショニングを通じて、自分の体と向き合い、最適なコンディションを維持する習慣を身につけることで、より充実した生活を送る能力の習得・向上を図る。			
授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 コミュニケーション&交流 第3回 コンディショニングとは（目標/目的の確認） 第4回 身体の機能評価（体の課題） 第5回 肩こり・腰痛の原因を知る 第6回 関節の可動域について 第7回 コア（体幹）について 第8回 バランスについて 第9回 ストレngthについて 第10回 呼吸について 第11回 動作の修正 第12回 ハイパフォーマンスからライフパフォーマンスへ 第13回 トータルコンディショニング 第14回 身体の機能評価（目標・目的の再確認） 第15回 振り返り			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

①参考書：アスリートのためのトータルコンディショニングガイドライン

（著者）日本スポーツ振興センター久木留毅、清水和弘他

（発行）独立行政法人日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター

（編集協力）株式会社さんライフ企画

初版第一刷発行 2023年9月10日

②参考動画：スポーツ庁youtubeチャンネル

自分の身体知っていますか？～室伏広治のセルフチェック～

<https://sports.go.jp/movie/post-63.html>

学生に対する評価

授業への参加状況（関心・発言・意欲・態度・服装等）を重視します。また、他者を尊重し、協力しながら積極的に参加できることを合格の基準とします。

授業の参加状況と運営への積極性、グループディスカッションへの参加意欲などから総合的に評価します。

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：バレー ボール)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：大友 亮子 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 (1)ゲームに必要なバレーボールの基本的な技能を習得する。【技能】 (2)正しくルールを理解しゲームを実践できるようになる。【知識・理解】 (3)チームで対戦したり、戦術を共有したりする中で、コミュニケーション能力を身につける。【態度・習慣】 (4)自分の身体に関心を持ち、運動能力や体力について分析できるようになる。【態度・習慣】			
授業の概要 この授業は、バレーボールの練習やゲームを行うことで、他者と積極的にコミュニケーションを図り、自身の身体、運動に対する関心を高め、生涯を通じてスポーツや運動に親しむことを習得するものである			
授業計画 第1回 授業ガイダンス 第2回 バレーボールの特性・ルールの理解・試しのゲーム 第3回 オーバー、アンダーハンドパス～ゲーム 第4回 パス・対人パス・動きの中でパス～ゲーム 第5回 サーブ・レセプション(サーブレシーブ) 第6回 ディグ(レシーブ) ～ゲーム 第7回 スパイク～ゲーム 第8回 スパイク応用(各ポジションの理解・攻撃の特徴) 第9回 トスからのスパイク～ゲーム 第10回 コンビ(攻撃の種類理解・実践) ～ゲーム 第11回 サブレシーブからのコンビ・バックアタック 第12回 リーグ戦(ローテーションごとのポジションの確認) 第13回 リーグ戦(チームで攻撃パターンの確認) 第14回 リーグ戦(チームの総力戦 レセプションからの攻撃までの確認) 第15回 トーナメント(順位決定戦)			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

- ・ コーチングバレーボール(基礎編) 日本バレーボール協会編 大修館書店

学生に対する評価

- 1) 全授業回数の5分の4を出席していることを合格の基準とする。
- 2) パス、スパイク、サーブなどの基礎技術を習得していることを合格の基準とする。
- 3) 課題意識を持って練習や試合に積極的に参加し、他の受講者とのコミュニケーションを深め、バレーボールに親しむことを合格の基準とする。

- ・ 授業への参加意欲を評価する (50%)
- ・ 基礎技術の習得状況を中心に授業内容の理解度を評価する (25%)
- ・ 練習や試合に対する積極性やチーム等での対話の状況を中心に感心・態度を評価する (25%) これらの合計得点をもって評価する。

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：杖道・ 居合道)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：阿部 弘生 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 この杖道・居合道（スポーツ実技）を履修した学生は、 1）木刀や杖の操作法を説明できる。【知識・理解】 2）打突すべき個所に気・剣（杖）・体を一致させて的確に打突できる。【技能】 3）行動様式と心身技法の関連について、互いに意見を交わすことができる。【態度・習慣】			
授業の概要 この授業は、身体運動文化としての武道文化や武道理論について様々な視点から理論的に考察 することで、健全な批判精神に裏打ちされた幅広い知識を習得するものである。			
授業計画 第1回目 ガイダンスを行い、授業全体の流れをつかむ。 第2回目 日本刀の特性に触れ、礼法、納刀、抜刀を実践する。 第3回目 構え、抜きつけ、切りおろし、血振りについて、形を中心に実践する。 第4回目 受け流し、柄当ての技術について、形を中心に実践する。 第5回目 気攻め、片手突きについて、形を中心に実践する。 第6回目 添手突き、連続の切り下しについて、形を中心に実践する。 第7回目 様々な角度や高さへの切り下ろしについて、形を中心に実践する。 第8回目 中間発表 第9回目 杖の特性に触れ、構えと打ち（本手打、逆手打、引落打）を実践する。 第10回目 杖と太刀の相対動作を体験し、攻防について学ぶ。 第11回目 杖の構えと突き（返し突、逆手突）について実践し、攻防について学ぶ。 第12回目 巻落、繰付、繰放、体当を実践し、形とのつながりについて学ぶ。 第13回目 突外打、胴払打、体外打を実践し、残心について学ぶ。 第14回目 理合いについて学び、形による攻防を実践する。 第15回目 最終発表、まとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 ・松峯達男（2007）『居合の研究 夢想神伝流』＜上＞スキージャーナル ・松峯達男（2008）『居合の研究 夢想神伝流』＜下＞スキージャーナル			

- ・石堂倭文（2014）『道理を愉しむ居合道講座 全日本剣道連盟編』スキージャーナル
- ・石堂倭文（2017）『道理を愉しむ居合道講座 夢想神伝流』スキージャーナル
- ・全日本剣道連盟公式HP「剣道・居合道・杖道を知る」<https://www.kendo.or.jp/knowledge/>

学生に対する評価

- 1) 日本刀の特性に関する基礎的な事項について適切に説明できることを合格の基準とします。
- 2) 武道の基礎的な力を身につけるための授業での活動に積極的・能動的に参画できていることが合格の基準です。
- 3) 居合道・杖道における形を、見本をみずにスムーズに行えるかが合格の基準です。

- ・授業における積極的態度、協調的態度等の取り組み姿勢 60点
- ・技能、知識の習得度（技能の上達度および技術、ルール、マナーの理解度）40点

計 100点

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：マルチ スポーツ)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：沼田 尚 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
・様々なスポーツの基本的なルールを理解し、ゲームを通じて楽しさを味わうことができる。【知識・理解】 ・基礎的技術を向上させながら、主体的に参加できる。【技能】 ・用具の準備や審判などを役割分担し、率先して行動できる。【態度・習慣】 ・スポーツを単に楽しむだけではなく、スポーツを通して、コミュニケーションスキルを高めることができる。【態度・習慣】			
授業の概要			
現代社会において、心身の健康は、QOL（生活の質）を高めるために欠かすことのできない要素である。健康であるためには、普段から楽しみや生きがいをもち、健康や運動・スポーツの基礎的知識を持って、実践していくことが必要不可欠である。本授業では、運動・スポーツを体験することで、実践することの「楽しさ」を理解し、必要な基礎的運動技術を獲得することを目的とし、生涯、スポーツへと関わっていくための運動習慣やコミュニケーション能力の習得、養成、向上を図る。			
授業計画			
第1回目 講義の進め方とガイダンス（オンライン）			
第2回目 ベースボール型スポーツの導入：チーム分けと投球及び打撃技術練習（野球場）			
第3回目 ベースボール型1：キックベースボールの技術とゲーム（野球場）			
第4回目 ベースボール型2：ハンドベースボールの技術とゲーム（野球場及び体育館）			
第5回目 ベースボール型3：ティーボールの技術とゲーム（野球場）			
第6回目 ベースボール型4：ソフトボールの技術とゲーム（スローピッチ）（野球場）			
第7回目 ベースボール型5：ソフトボールの技術とゲーム（ウインドミル）（野球場）			
第8回目 ゴルフ型スポーツの導入：グリップ、スタンス、スイング技術（野球場）			
第9回目 ゴルフ型スポーツ1：バードゴルフの技術とゲーム（野球場）			
第10回目 ゴルフ型スポーツ2：グラウンドゴルフの技術とゲーム（野球場）			
第11回目 ラケット型スポーツの導入：卓球の基礎技術練習（体育館）			
第12回目 ラケット型スポーツ1：卓球の技術とゲーム（体育館）			
第13回目 ラケット型スポーツ2：テニスの基礎技術練習（テニスコート）			
第14回目 ラケット型スポーツ3：テニスの技術とゲーム（テニスコート）			

第15回目 マルチスポーツのまとめと評価

授業展開は、基本的には屋外施設中心に行うが、天候等によって環境状況が変化する為、上記の順番に行うとは限りません。また、習熟度等に応じ、授業内容及び回数は柔軟に対応します。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

図書館にある図書やインターネット上にある情報、映像が参考になる。

実施する種目によって、適宜紹介する。

学生に対する評価

出席状況が良く、授業への取り組む姿勢も主体的であり、技術到達度と理解度を向上する為に、積極的に授業に参加していることを、合格の規準とします。

基本的なルールを理解し、主体的にゲームに参加し、準備や審判などを率先して行う事が出来ていることを合格の規準とします。

チーム内外に問わず、コミュニケーションをしっかりとれている事を合格の規準とします。

適宜レポートの提出を求めることもあります。詳細は第1回目のガイダンスでも説明します。

平常点60%（授業への取り組む姿勢・態度、服装など）

用具の準備や審判などの、ゲーム以外での積極的な参加30%

授業の中での基礎的技術の到達度10%等を判断し、評価基準に合わせて総合的に評価する。

授業科目名：スポーツ実技(クラス名：バドミントン)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：高桑 秀郎 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1)バドミントンの基本的な技能を理解し、実践できる。【知識・理解】			
2)シングルス、ダブルスのルールを理解し、ゲームの審判とスコアを行うことが出来る。【技能】			
3)バドミントンを通じ、スポーツ技能の習得に興味を持ち、自らの技能を高めるための方法に気付く。【態度・習慣】			
4)生涯スポーツを実践するための基礎的な力を身につける。【態度・習慣】			
授業の概要			
この授業はバドミントンの基本技能の習得のために、繰り返しの技能練習を行い、自らの身体感覚を通じた運動の「知」を習得するものである。その過程において、問題発見や問題解決に対する姿勢、さらに主体的に学習に取り組む姿勢を評価する。			
またゲーム等を通じて、自己の技能の向上を実感し、ゲームを行う相手や仲間の存在について敬意を持って認識し、良好なコミュニケーション能力を構築する態度を養うものである。			
授業計画			
第1回目 ガイダンス(オンライン・webclass)			
第2回目 基本技能の習得1（グリップ、ストローク、フットワーク、サービス）			
第3回目 基本技能の習得2（クリアー、ドロップ、ヘアピン）			
第4回目 基本技能の習得3（スマッシュ、ドライブ）			
第5回目 基本技能のおさらい			
第6回目 シングルスゲームの実施①（ルールの把握と試行）			
第7回目 シングルスゲームの実施②（サービスの工夫）			
第8回目 シングルスゲームの実施③（フットワークとレシーブ）			
第9回目 シングルスゲームの実施④（サービスからの攻撃の流れの確認）			
第10回目 シングルスゲームの実施⑤（コート全面を使った返球）			
第11回目 シングルスゲームの実施⑥（個人技能の洗練）			
第12回目 ダブルスゲームの実施①（基礎戦術の確認）			
第13回目 ダブルスゲームの実施②（フットワーク・ポジション取り）			
第14回目 ダブルスゲームの実施③（連携した守備・攻撃）			
第15回目 ダブルスゲームの実施④（戦術の総合確認）			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

名倉康弘著　ぐんぐんうまくなる！バドミントン（ベースボールマガジン社）

注：購入を求めるものではありません。

学生に対する評価

授業に2/3以上出席し、バドミントンの基礎技能を身に付けるための授業での活動に積極的・能動的に参画できていることが合格の基準です。

平常点80点、ゲームなどの記録内容、受講態度・個人記録、準備、運営への協力など20点

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：バレー ボール)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：大友 亮子 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 (1) ゲームに必要なバレーボールの基本的な技能を習得する【技能】 (2) 正しくルールを理解しゲームを実践できるようになる【知識・理解】 (3) チームで対戦したり、戦術を共有したりする中で、コミュニケーション能力を身につける【態度・習慣】 (4) 自分の身体に関心を持ち、運動能力や体力について分析できるようになる【態度・習慣】			
授業の概要 この授業は、バレーボールの練習やゲームを行うことで、他者と積極的にコミュニケーションを図り、自身の身体、運動に対する関心を高め、生涯を通じてスポーツや運動に親しむことを習得するものである			
授業計画 第1回 授業ガイダンス 第2回 バレーボールの特性・ルールの理解・試しのゲーム 第3回 オーバー、アンダーハンドパス～ゲーム 第4回 パス・対人パス・動きの中でのパス～ゲーム 第5回 サーブ・レセプション（サーブレシーブ）～ゲーム 第6回 ディグ（レシーブ）～ゲーム 第7回 スパイク～ゲーム 第8回 スパイク応用（各ポジションの理解・攻撃の特徴）～ゲーム 第9回 トスからのスパイク&ブロック～ゲーム 第10回 トス・2段トス・3段攻撃～ゲーム 第11回 コンビ（攻撃の種類理解・実践）～ゲーム 第12回 リーグ戦（ローテーションごとのポジションの確認） 第13回 リーグ戦（チームで攻撃パターンの確認） 第14回 リーグ戦（チームの総力戦 レセプションからの攻撃までの確認） 第15回 トーナメント戦（順位決定戦）			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

コーチングバレーボール（基礎編）日本バレーボール協会編 大修館書店

学生に対する評価

- 1) 全授業回数の5分の4を出席していることを合格の条件とする
- 2) パス、スパイク、サーブなどの基礎技術を習得していることを合格の基準とする
- 3) 課題意識を持って練習や試合に積極的に参加し、いろんな人とのコミュニケーションを深めバレーボールを楽しめることを合格の基準とする

授業への参加意欲・関心・態度（50%）と授業内容の理解度（30%），授業記録の内容（20%）の合計得点をもって評点とする．

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：テニス)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：天野 和彦 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 この授業を履修すると 1)硬式テニスにおける基礎技術が修得できるようになります。【技能】 2)ゲーム、その運営を通じた生涯スポーツに向けた基礎能力の獲得できます。【技能/態度・習慣】 3)協働作業を通じて他人との対話能力や協調性などの社会的記述の基礎を獲得できます。【態度・習慣】			
授業の概要 この授業を通じて、高齢化社会において健全な市民の基礎としての生涯にわたる健康の維持や獲得を自主的にできる能力（基盤）が身につきます。また、他者との協働から社会での一体となって成果を創造していく為の基礎的な能力を身につけることを目的としています。			
授業計画 第1回目 ガイダンス、基礎知識の習得 第2回目 フォアハンドストロークの基本（グリップと打法） 第3回目 フォアハンドストロークの応用（コースの打ち分け） 第4回目 バックハンドストロークの基本（片手と両手） 第5回目 バックハンドストロークの応用（スライスの活用等） 第6回目 フォア・バックハンドストロークのフットワーク 第7回目 ストローク総合（打点の変更）、ラリーのテスト 第8回目 サービスの基礎（コンチネンタルグリップの理解） 第9回目 サービスの応用（回内動作の習得） 第10回目 サービス総合（リターン等）、サービスのテスト 第11回目 ボレーの基本(グリップ・打点) 第12回目 ボレーの応用（タッチと深度、角度） 第13回目 シングルのゲーム（コートの左右への対応） 第14回目 シングルのゲーム（コートの前後への対応） 第15回目 トーナメント、ボレーのテスト			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

中嶋康博(2015), 完全マスター テニスの基本, コスミック出版, ISBN:4774780456.

学生に対する評価

基本的には継続した運動体験（出席して実施すること）を重視します。

授業に臨む積極性も評価します。

目標技術の習熟に対して複数回の実技テストを行い、その習熟度も評価します。

具体的な配分は以下の通りです。

授業での運動実施行動（50）及び態度（25）、技能習熟度（25）、これらを踏まえ総合的に評価します。

- ・遅刻、欠席も含めて出席を管理します。
- ・複数回の技能テストをします
- ・授業態度は、協調性や積極性を主に評価対象とします。

授業科目名：スポーツ 実技（クラス名：バス ケットボール）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：小島 優子 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1) バスケットボールの基本戦術を習得し、バスケットボールの楽しさを理解することができる【技能】			
2) バスケットボールの競技特性や正確なルールを理解することができる【知識・理解】			
3) チームスポーツに必要な協調性と、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を身につけることができる【態度・習慣】			
授業の概要			
本授業は、健康スポーツや文化としてのバスケットボールの合理的実践を通して、将来にわたっての豊かなスポーツライフを計画・実践する能力を育成・習得しようとするものである			
授業計画			
第1回 授業ガイダンス、スキルテストの説明			
第2回 基礎技術の習得(shooting)、ピックアップゲーム			
第3回 基礎技術の習得(ball handling/shooting)、ミニゲーム(3on3)			
第4回 基礎技術の習得(dribble/shooting)、スキルテスト練習、ミニゲーム(3on3)			
第5回 スキルテスト①、ピックアップゲーム			
第6回 基礎技術の習得(dribble/pass/shooting)、ミニゲーム			
第7回 基礎技術の習得(pass/shooting)、個人技術(1on1)の習得、ミニゲーム			
第8回 ファンダメンタル、グループ戦術(2on1/3on2)の習得、ピックアップゲーム			
第9回 ファンダメンタル、グループ戦術(screen play)の習得、ルール・特性の理解度テスト			
第10回 ファンダメンタル習得、スキルテスト練習、ミニゲーム(3on3/5on5)			
第11回 スキルテスト②、ピックアップゲーム			
第12回 チーム戦術の理解(video戦術学習)、グループワーク			
第13回 ファンダメンタルの習得、リーグ戦①			
第14回 ファンダメンタルの習得、スキルテスト③、リーグ戦②			
第15回 ピックアップゲーム、ルール・特性の理解度テスト			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
2024 バスケットボール競技規則. 日本バスケットボール協会			

学生に対する評価

- 1) バスケットボールのルール・専門用語・戦術的特性について，適切に説明できることを合格の基準とする
- 2) バスケットボールの基礎的な技術を正しく発揮できることを合格の基準とする
- 3) チームワークの中で，他者を配慮しながら協働し，積極的に参画できることを合格の基準とする

授業参加度（活動意欲・態度）：70%

ルール・戦術的特性の理解度テスト・スキルテスト：30%

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：マ ルチスポーツ)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小島 優子
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 1) 各ボールゲームの基礎的な技術を身につけ、ボールゲームを楽しむことができる【技能】 2) 各ボールゲームの競技特性やルールを理解することができる【知識・理解】 3) コミュニケーション能力などの社会性や、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を身につけることができる【態度・習慣】			
授業の概要 本授業は、様々なボールゲームを楽しむことを通して、将来にわたっての豊かなスポーツライフを計画・実践する能力を育成・習得しようとするものである			
授業計画 第1回 授業ガイダンス 第2回 【ドッチボール】ルール・基礎技術の理解，ピックアップゲーム 第3回 【ドッチボール】基礎技術の習得，ゲーム 第4回 【バスケットボール 3X3】ルール・基礎技術の理解，ピックアップゲーム 第5回 【バスケットボール 3X3】基礎技術の習得（個人技術の確認），ゲーム 第6回 【バスケットボール 3X3】基礎技術の習得（グループ技術の確認），ゲーム 第7回 【バドミントン】ルール・基礎技術の理解，ピックアップゲーム 第8回 【バドミントン】基礎技術の習得，ゲーム 第9回 【バスケットボール 3X3・バドミントンボール】まとめ，各ボールゲーム特性・ルールの理解度テスト 第10回 【ソフトバレーボール】ルール・基礎技術の理解，ピックアップゲーム 第11回 【ソフトバレーボール】基礎技術の習得（個人技術の確認），ゲーム 第12回 【ソフトバレーボール】基礎技術の習得（グループ技術の確認），ゲーム 第13回 【フットサル】ルール・基礎技術の理解，ピックアップゲーム 第14回 【フットサル】基礎技術の習得，ゲーム 第15回 【ボールゲーム全て】まとめ，各ボールゲーム特性・ルールの理解度テスト			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

2024 バスケットボール競技規則. 日本バスケットボール協会

その他, 必要に応じて紹介または配布します

学生に対する評価

- 1) 各ボールゲームのルール・競技特性について, 理解できること
- 2) 各ボールゲームの基礎的な技術を理解できること
- 3) チームワークの中で, 他者を配慮しながら協働し, 積極的に参画できること

授業参加度 (活動意欲・態度) : 80%

ルール・戦術的特性の理解度テスト : 20%

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：卓球)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：竹田 隆一 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 ・卓球のルールを理解する。 ・卓球の基本的技術を習得する。			
授業の概要 生涯を通じて健康の維持増進や豊かな社会生活を送るための手段として身体活動をとらえ、実践していくための能力である身体リテラシーの向上を図る。			
授業計画 第1回 全体ガイダンス。種目分け。 第2回 個別ガイダンス。今の力でラリーを楽しもう。 第3回 グリップ、フットワーク、基本的な打ち方の説明。ラリーで試してみよう。 第4回 フォアハンドの練習。 第5回 スマッシュの練習。 第6回 各種打ち方を組み合わせたパターン練習。半面シングルスラリーを楽しむ。 第7回 各種打ち方を組み合わせたパターン練習。ダブルスラリーを楽しもう 第7回 各種打ち方を組み合わせたパターン練習。ゲーム形式のダブルスラリー。 第8回 個人対抗ゲーム（基本的技術の確認） 第9回 個人対抗ゲーム（戦術を考えたゲーム） 第10回 個人対抗ゲーム（基本技術と戦術を統合したゲーム） 第11回 メンバー表の作り方。トーナメント表の利用法。班内でダブルスゲームの予行演習。 第12回 班対抗ダブルスゲーム1回戦（ダブルスにおける基本的動き方の確認） 第13回 班対抗ダブルスゲーム2回戦（相手を意識した戦術を考えたゲーム） 第14回 班対抗ダブルスゲーム3回戦（これまでの技術・戦術を考慮したゲーム） 第15回 まとめ 自由練習・試合			
テキスト 田崎敏雄 監修：「卓球 基本と戦術」実業之日本			
参考書・参考資料等			

日本卓球協会：卓球コーチング教本

K・マイネル：スポーツ運動学

学生に対する評価

①卓球の知識、技能の基礎基本を修得し、個人およびグループでの活動における自らの役割を考え、積極的に動くことを学修する。

②探求的態度を身に付け、卓球の特性を理解し、実践することを学修する。

③生涯を通じて運動・スポーツに親しむ基礎を築くと共に、健康的な生活を送るための知識・技能を理解し、科学的認識を通して自ら課題に取り組むことを学修する。

・技術の習熟度（ゲーム結果による評価）

・積極的に授業に取り組む態度

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：テ ニス・卓球)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 天野 和彦
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 この授業を履修すると 1) ラケット競技である硬式テニスと卓球の基礎技術が修得できるようになります。【技 能】 2) ゲーム、その運営を通じた生涯スポーツに向けた基礎能力の獲得できる。【態度・習 慣】 3) 協働作業を通じて他人との対話能力や協調性などの社会的基礎となる能力を獲得でき る。【態度・習慣】			
授業の概要 この授業を通じて、高齢化社会において健全な市民の基礎としての生涯にわたる健康の維持や 獲得を自主的にできる能力（基盤）が身につきます。また、他者との協働から社会での一体と なって成果を創造していく為の基礎的な能力を身につけることを目的としています。			
授業計画 第1回目 ガイダンス、基礎知識の習得 第2回目 テニス ストローク(1) フォアハンド 第3回目 テニス ストローク(2) バックハンド 第4回目 テニス ストローク(3) 総合 課題テスト（ラリー） 第5回目 ラケットスポーツの理論Ⅰ【講義】 第6回目 テニス 試合(1) アンダーハンドサーブからの試合 第7回目 テニス ボレー 第8回目 テニス スマッシュ 第9回目 テニス ダブルスの基礎 第10回目 卓球 基礎1 フォアショート 第11回目 卓球 基礎2 フォアドライブロング 第12回目 卓球 基礎3 バックロング 第13回目 卓球 試合（シングルス）、課題テスト（ピッチ40） 第14回目 卓球 ダブルスのサーブ&レシーブ、練習試合（ダブルス） 第15回目 卓球 ダブルスの陣形、試合（班対抗団体戦）			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

中嶋康博(2015), 完全マスター テニスの基本, コスミック出版, ISBN:4774780456.

大江正人(2009)見てわかる!打って上達!卓球基本と練習メニュー. 池田書店

ISBN:4262163239.

学生に対する評価

基本的には継続した運動体験（出席して実施すること）を重視します。

授業に臨む積極性も評価します。

目標技術の習熟に対して複数回の実技テストを行い、その習熟度も評価します。

具体的な配分は以下の通りです。

授業での運動実施行動（50%）及び態度（25%）、技能習熟度（25%、但し天候などによってはレポートの替える）、これらを踏まえ総合的に評価します。

- ・遅刻、欠席も含めて出席を管理します。
- ・複数回の技能テストをします
- ・授業態度は、協調性や積極性を主に評価対象とします。

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：フ ィットネス)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 中嶋 康博
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
トレーニングの大枠を理解する。【知識・理解】			
人間の体・身体を知る。【知識・理解】			
トレーニング指導に必要なになってくる生理学や解剖学、栄養学、バイオメカニクスについ ての理解を深める。【知識・理解】			
用具の使い方や管理の仕方を理解する。【知識・理解】			
身体能力の向上と、それぞれの運動能力を知る。【知識・理解】			
トレーニングに関連する安全面を討議できるようになる。【態度・習慣】			
トレーニングの重要性について、討議することができる。【態度・習慣】			
授業の概要			
本授業は、トレーニングを通じて体を動かす楽しみを味わうとともに、トレーニングを実体験 し、今後、指導者として指導できる知識を習得するものである。又、スポーツ文化コース内の 専門科目として中学・高等学校教諭免許状（保健体育）を取得するために必要な選択科目であ る。			
授業計画			
主要なテーマと順序は次のとおりです。			
第1回目 講義のすすめ方とガイダンス、トレーニングの種類の紹介、安全面の確認			
第2回目 クライアントの面談の意味/意義、測定の意味/意義と実技、ウォームアップと クールダウンの説明・実技			
第3回目 トレーニングの考え方・BIG3 の説明・実技			
第4回目 フリーウエイトの紹介・実技・BIG3 の説明・実技			
第5回目 自重トレーニングの紹介・実技			
第6回目 有酸素トレーニングの紹介・実技			
第7回目 無酸素トレーニング、SAQ トレーニングの紹介・実技			
第8回目 筋系、呼吸系、心臓血管系の構造と機能の確認			
第9回目 ストレッチの座学と実技、トレーニングにおけるバイオメカニクの考え方			
第10回目 サーキットトレーニング			
第11回目 トレーニング計画・ピリオダイゼーション			

第12回目 トレーニング計画・ピリオダイゼーション・特別な人へのトレーニング

第13回目 トレーニング実技、実技試験（正しいフォームを意識して行う。）

第14回目 トレーニング実技、実技試験（自分の身体に合わせた重量を扱う。）

第15回目 トレーニング実技、授業のまとめ。

内容に応じて会場が変更される場合があります。（グラウンド、体育館、トレーニング室もしくは教室）

テキスト

NSCA 決定版 ストレングストレーニング&コンディショニング 第4版、学術論文
（授業前は購入不要、最初の授業で説明します。）

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

専門用語、専門知識の理解度（30%）

授業への参加意欲と態度（40%）

実技テストの結果を含む技能習熟度（30%）

専門用語、専門知識の理解度、授業への参加意欲と態度、実技テストの結果を含む技能習熟度などの評価基準を用いて、総合的に判断し評価する。

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：サッ カー・フットサル)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 笹瀬 雅史 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 サッカー・フットサルのルール、基礎的な個人技術、集団的な技術を身につけて、チームとしてプレイできるようになる。 (1) スポーツ実技（サッカー、フットサル）の基本構造が説明でき、それらを各領域で応用して考えることができる。【知識・理解】 (2) スポーツ実技（サッカー、フットサル）的な視点でスポーツを捉えることができ、そのことについて考察・討議することができる。【知識・理解】【態度・習慣】			
授業の概要 この授業は、サッカーについて様々な視点から理論的実践的に考察することで、健全な批判精神に裏打ちされた幅広い知識・技能を習得するものである。 この授業は、体育・スポーツ現象について、スポーツ実技（サッカー、フットサル）的な観点から論理的に分析し、改善案を提案する力を身につけるために編成される科目である。			
授業計画 第1回 種目選択とオリエンテーション 第2回 準備運動とボールタッチ 第3回 基礎的個人技術（リフティング、ドリブル）とゲーム 第4回 基礎的個人技術（インサイドキック、トラッピング）とゲーム 第5回 基礎的個人技術（アウトサイドキック、ヘディング）とゲーム 第6回 基礎的個人技術（インサイドキック、フェイント）とゲーム 第7回 基礎的個人技術（インフロントキック、シュート）とゲーム 第8回 基礎的個人実技（インステップキック、ロングキック）とゲーム 第9回 基礎的集団実技（ペア）とゲーム 第10回 基礎的集団実技（3人）とゲーム 第11回 基礎的集団実技（対人技術1－1）とゲーム 第12回 基礎的集団実技（3－2、4－2）とゲーム 第13回 基礎的集団実技（ハーフコート）とゲーム 第14回 基礎的集団実技（セットプレー）とゲーム 第15回 まとめ			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

図書館やインターネット上でサッカーに関する図書文献、映像があり、参考になる。

学生に対する評価

サッカーのルール、基礎的技術、運動量等を授業参加態度、習得状況により評価する。

- 1) まずは、授業の到達目標で示したスポーツ実技（サッカー、フットサル）の基本構造が適切に説明できることを合格の基準とします。
- 2) 次に、授業の到達目標で示した、スポーツ実技（サッカー、フットサル）的な視点でスポーツを捉えることができ、各領域でのそのことについて深く考察（論述）し、また討議にも積極的・能動的に参画できていることが合格の基準です。

また、ゲームできることが合格の基準です。

授業参加態度、意欲態度（50％）、ルール理解、基礎的技術の習得、運動量等の評価（50％）による。

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：卓球)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高桑 秀郎 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1)卓球の基本的な技能を理解し、実践できる。【知識・理解】			
2)シングルス、ダブルスのルールを理解し、ゲームの審判とスコアを行うことが出来る。【技能】			
3)卓球を通じ、スポーツ技能の習得に興味を持ち、自らの技能を高めるための方法に気付く。【態度・習慣】			
4)生涯スポーツを実践するための基礎的な力を身につける。【態度・習慣】			
授業の概要			
この授業は卓球の基本技能の習得のために、繰り返しの技能練習を行い、自らの身体感覚を通じた運動の「知」を習得するものである。その過程において、問題発見や問題解決に対する姿勢、さらに主体的に学習に取り組む姿勢を評価する。			
またゲームを通じて、自己の技能の向上を実感し、ゲームを行う相手や仲間の存在について敬意を持って認識し、良好なコミュニケーション能力を構築する態度を養うものである。			
授業計画			
第1回目 ガイダンス（オンライン・webclass）の予定			
第2回目 基本技能の習得1（グリップとフォアハンドのラリー）			
第3回目 基本技能の習得2（サービスとバックハンドのラリー）			
第4回目 基本技能の習得3（フットワークとコンビネーション）			
第5回目 シングルスゲーム総当たり戦 ①（ルールの把握と試行）			
第6回目 シングルスゲーム総当たり戦 ②（サービスの工夫）			
第7回目 シングルスゲーム総当たり戦 ③（フットワークとレシーブ）			
第8回目 シングルスゲーム総当たり戦 ④（サービスからの攻撃の流れの確認）			
第9回目 シングルスゲーム総当たり戦 ⑤（コースを狙った打ち分け）			
第10回目 シングルスゲーム総当たり戦 ⑥（個人技能の洗練）			
第11回目 ダブルスゲームのルールの理解と実施			
第12回目 ダブルスゲーム総当たり戦 ①（フットワーク・ポジション取り）			
第13回目 ダブルスゲーム総当たり戦 ②（連携した守備・攻撃）			
第14回目 ダブルスゲーム総当たり戦 ③（戦術の総合確認）			

第15回目 振り返りと復習第15回
テキスト なし
参考書・参考資料等 公益財団法人 日本卓球協会編 卓球コーチング教本 (大修館書店)
学生に対する評価 授業に2/3以上出席し、卓球の基礎技能を身に付けるための授業での活動に積極的・能動的に 参画できていることが合格の基準です。 平常点80点、ゲームなどの記録内容、受講態度・個人記録、準備、運営への協力など20点

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：バド ミントン)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 阿部 弘生 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 1) 技術の習得に取り組む過程において、バドミントンの運動構造を把握し、自分の身体感覚と向き合い、それを他者に説明することができる。【知識・理解】 2) ルールを理解し、作戦に応じて技能を生かすことができる。【技能】 3) 問題点を把握しながら、他者を認めつつ、改善に向けて言葉による伝え合いができる。【態度・習慣】			
授業の概要 この授業は、健康問題も含めて多様なスポーツ現象に対する考え方を学びながら、生涯にわたってスポーツに親しみ、実践していくための「身体」について理解を深めるものである。			
第1回目 ガイダンス 第2回目 グリップの持ち方、 第3回目 ラケット操作（水平方向への打ち出し、垂直方向への打ち出し） 第4回目 強く打つ技術（ハイクリアー、スマッシュ） 第5回目 やわらかく打つ技術（ドロップショット、ヘアピン） 第6回目 ロブ（フォア、バック）、他者と打ち合う技術 第7回目 簡易ゲーム（手前と奥の打ち分け、前後の動き） 第8回目 簡易ゲーム（左右の打ち分け、左右の動き） 第9回目 シングルス（ゲームの進行の仕方、ルールの理解） 第10回目 シングルス（作戦を生かしたゲームの展開） 第11回目 ダブルス（ゲームの進行の仕方、ルールの理解） 第12回目 ダブルス（動き方とフォーメーション） 第13回目 ダブルス（作戦を生かしたゲームの展開） 第14回目 ダブルス（ペアで問題点を改善しながらゲームに臨む） 第15回目 体験した技術のまとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 バドミントンのルールや歴史に関しては、日本バドミントン協会の公式ホームページを活用し			

てください。

公益財団法人日本バドミントン協会公式ホームページ、<https://badminton.or.jp/>

学生に対する評価

- 1) 毎回の授業において技術の向上の取り組みに積極的に参加できていることが合格の基準です。
- 2) バドミントンの特性の理解と基礎技術の習得において、自らの身体感覚を踏まえて適切に説明できるかが合格の基準です。
- 3) 他者と積極的に意見交換しながら、課題の改善に向けて取り組んでいるかが合格の基準です。

授業における積極的態度、協調的態度の取り組み姿勢 70点

特性理解を踏まえた技術習得 15点

身体感覚の言葉による説明 15点

計 100点

授業科目名：スポーツ 実技(クラス名：マル チスポーツ)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 清水 香 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 授業を通して、他者とのコミュニケーションを図ることができる【態度・習慣】 みんなでスポーツを楽しむことができる【態度・習慣】 様々なスポーツのルールや技術を習得し、スポーツを楽しむことができる【技能】			
授業の概要 本授業は様々なスポーツ活動を通して、他者と積極的なコミュニケーションを図り、生涯にわたってスポーツを楽しむ動機付けを図るものである。			
授業計画 第1回 講義の進め方とガイダンス 第2回 バドミントン：ルールの習得，ハイクリアの習得，ゲーム（ダブルス） 第3回 バドミントン：ドライブ・ドロップショットの習得，ゲーム（ダブルス） 第4回 バドミントン：ヘアピンの習得，ゲーム（ダブルス） 第5回 バドミントン：スマッシュの習得，ゲーム（ダブルス） 第6回 ドッチビー：ルールの習得，パス・ゲーム 第7回 ドッチビー：パス，ゲーム 第8回 ソフトバレー：ルールの習得，パス・サーブ・スパイクの習得 第9回 ソフトバレー：パス・サーブ・スパイク，ゲーム 第10回 ソフトバレー：パスをつなぐ，ゲーム 第11回 ソフトバレー：ゲーム 第12回 タグラグビー：ルールの習得，パスの習得，ゲーム 第13回 タグラグビー：パス，ゲーム 第14回 ボッチャ：ルールの習得，ゲーム 第15回 ボッチャ：ゲーム，授業のまとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 必要な資料やプリントを授業ごとに配布して紹介する。			

学生に対する評価

毎回の授業で他者と積極的にコミュニケーションを図り、意欲的に授業に参加できていることと、各スポーツの基本的ルールを説明できることを合格の基準とする。

授業参加状況・関心・態度：70%，ルール・技術習得：30%の合計100%で成績を評価する。

授業科目名：スポーツ実技（クラス名：スキー（アドバンスト1））	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 渡邊 信晃 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 スキー操作の技術を高め、さまざまな斜面に適した滑り方ができる。【技能】 冬の自然を体感しながら、スキーを楽しむことができる。【態度・習慣】 安全にスキーを行う手順について説明できる。【知識・理解】			
授業の概要 この授業は、ウインタースポーツであるスキーの技能修得を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむための動機付けをはかるものである。			
授業計画 【学内学習】 第1回 事前説明会①（現地学習の概要、日程、経費等の説明） 第2回 事前説明会②（実習までの準備と心得） 第3回 事前学習会①（スキー場における安全に関する予備知識の学習） 第4回 事前学習会②（スキー用具に関する予備知識の学習） 第5回 直前説明会（現地学習に関わる詳細の説明） 【現地学習（スキー場、2泊3日）】 第6回～第15回 基礎技術の復習（プルークターン、シュテムターン） 平行系技術（パラレルターン） 大回り系技術（主にテールコントロール） 横滑り技術 小回り系技術（主にテールコントロール） ステップ系技術（踏み替え、踏み蹴り） 実践滑降 新雪等条件に応じた技術の応用 総合滑降とまとめ ミーティング（実技の振り返り） ※第6回～第15回 の現地学習（2泊3日）は10回分に相当する。初日は午後の3時間、2日目は終日で5時間、3日目は午前の2時間がその内訳である。学内学習の現地学習を合わせて1単位を満たす授業構成となっている。			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

全日本スキー連盟著「日本スキー教程」（山と溪谷社）

学生に対する評価

スキー操作の技能上達度、様々な斜面に適した滑り方でスキーを楽しむことができるかについて、実習および講義への積極的な参加、現地実習で学んだ技術に対する理解度から評価する。

技能上達度（40％）、授業への参加態度・意欲（40％）、レポート（20％）で総合的に評価する。

授業科目名：スポーツ実技（クラス名：スキー（アドバンスト2））	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 井上 功一郎
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
スキー操作の技術を高め、さまざまな斜面に適した滑り方ができる。【技能】			
冬の自然を体感しながら、スキーを楽しむことができる。【態度・習慣】			
安全にスキーを行う手順について説明できる。【知識・理解】			
授業の概要			
この授業は、ウインタースポーツであるスキーの技能修得を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむための動機付けをはかるものである。			
授業計画			
【学内学習】			
第1回 事前説明会①（現地学習の概要，日程，経費等の説明）			
第2回 事前説明会②（実習までの準備と心得）			
第3回 事前学習会①（スキー場における安全に関する予備知識の学習）			
第4回 事前学習会②（スキー用具に関する予備知識の学習）			
第5回 直前説明会（現地学習に関わる詳細の説明）			
【現地学習（スキー場，2泊3日）】			
第6回～第15回 基礎技術の復習（プルークターン，シュテムターン）			
平行系技術（パラレルターン）			
大回り系技術（主にテールコントロール）			
横滑り技術			
小回り系技術（主にテールコントロール）			
ステップ系技術（踏み替え，踏み蹴り）			
実践滑降			
新雪等条件に応じた技術の応用			
総合滑降とまとめ			
ミーティング（実技の振り返り）			
※第6回～第15回 の現地学習（2泊3日）は10回分に相当する．初日は午後の3時間，2日目は終日で5時間，3日目は午前の2時間がその内訳である．学内学習の現地学習を合わせて1単位を満たす授業構成となっている．			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

全日本スキー連盟著「日本スキー教程」（山と溪谷社）

学生に対する評価

スキー操作の技能上達度、様々な斜面に適した滑り方でスキーを楽しむことができるかについて、実習および講義への積極的な参加、現地実習で学んだ技術に対する理解度から評価する。

技能上達度（40％）、授業への参加態度・意欲（40％）、レポート（20％）で総合的に評価する。

授業科目名：スポーツ実技（クラス名：スキー（ビギナー1））	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 三枝 巧
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
スキー操作の技術を高め、さまざまな斜面に適した滑り方ができる。【技能】			
冬の自然を体感しながら、スキーを楽しむことができる。【態度・習慣】			
安全にスキーを行う手順について説明できる。【知識・理解】			
授業の概要			
この授業は、ウインタースポーツであるスキーの技術修得を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむための動機づけをはかるものである。			
授業計画			
【学内学習】			
第1回 事前説明会①（現地学習の概要、日程、経費等の説明）			
第2回 事前説明会②（実習までの準備と心得）			
第3回 事前学習会①（スキー場における安全に関する予備知識の学習）			
第4回 事前学習会②（スキー用具に関する予備知識の学習）			
第5回 直前説明会（現地学習に関わる詳細の説明）			
【現地学習（スキー場、2泊3日）】			
第6回～第15回 現地学習（蔵王スキー場、2泊3日）			
基礎技術の復習（ブルークターン、シュテムターン）			
平行系技術（パラレルターン）			
大回り系技術（スキップディングとカービングターン、横滑り技術）			
小回り系技術（様々なショートターン）			
ステップ系技術（踏み替え、踏み蹴り）			
実践滑降			
コブ斜面や新雪等条件に応じた技術の応用			
総合滑降とまとめ			
ミーティング（実技の振り返り）			
※第6回～第15回 の現地学習（2泊3日）は10回分に相当する。初日は午後の3時間、2日目は終日で5時間、3日目は午前の2時間がその内訳である。学内学習の現地学習を合わせて1単位を満たす授業構成となっている。			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

全日本スキー連盟著「日本スキー教程」（山と溪谷社）

学生に対する評価

スキー操作の技能上達度，さまざまな斜面に適した滑り方でスキーを楽しむことができるかについて，実習および講義への積極的な参加，現地実習で学んだ技術に対する理解度から評価する。

技能上達度（40％），授業への参加態度・意欲（40％），レポート（20％）で総合的に評価する。

授業科目名：スポーツ実技（クラス名：スキー（ビギナー2））	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小松 恒誠
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
スキー操作の技術を高め、さまざまな斜面に適した滑り方ができる。【技能】			
冬の自然を体感しながら、スキーを楽しむことができる。【態度・習慣】			
安全にスキーを行う手順について説明できる。【知識・理解】			
授業の概要			
この授業は、ウィンタースポーツであるスキーの技術習得を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむための動機づけをはかるものである。			
授業計画			
【学内学習】			
第1回 事前説明会①（現地学習の概要、日程、経費等の説明）			
第2回 事前説明会②（実習までの準備と心得）			
第3回 事前学習会①（スキー場における安全に関する予備知識の学習）			
第4回 事前学習会②（スキー用具に関する予備知識の学習）			
第5回 直前説明会（現地学習に関わる詳細の説明）			
【現地学習（スキー場、2泊3日）】			
第6回～第15回 基礎技術の復習（プルークターン、シュテムターン）			
平行系技術（パラレルターン）			
大回り系技術（スキッディングとカービングターン、横滑り技術）			
小回り系技術（様々なショートターン）			
ステップ系技術（踏み替え、踏み蹴り）			
実践滑降			
コブ斜面や新雪等条件に応じた技術の応用			
総合滑降とまとめ			
ミーティング（実技の振り返り）			
※第6回～第15回 の現地学習（2泊3日）は10回分に相当する。初日は午後の3時間、2日目は終日で5時間、3日目は午前の2時間がその内訳である。学内学習の現地学習を合わせて1単位を満たす授業構成となっている。			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

全日本スキー連盟著「日本スキー教程」（山と溪谷社）

学生に対する評価

スキー操作の技能上達度，さまざまな斜面に適した滑り方でスキーを楽しむことができるかについて，実習および講義への積極的な参加，現地実習で学んだ技術に対する理解度から評価する。

技能上達度（40％）、授業への参加態度・意欲（40％）、レポート（20％），で総合的に評価する。

授業科目名：スポーツ 実技（クラス名：ス キー（ビギナー 3））	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 清水 香 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 スキー操作の技術を高め、さまざまな斜面に適した滑り方ができる。【技能】 冬の自然を体感しながら、スキーを楽しむことができる。【態度・習慣】 安全にスキーを行う手順について説明できる。【知識・理解】			
授業の概要 この授業は、ウィンタースポーツであるスキーの語術習得を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむための動機づけを測るものである。			
授業計画 【学内学習】 第1回 事前説明会①（現地学習の概要、日程、経費等の説明） 第2回 事前説明会②（実習までの準備と心得） 第3回 事前学習会①（スキー場における安全に関する予備知識の学習） 第4回 事前学習会②（スキー用具に関する予備知識の学習） 第5回 直前説明会（現地学習に関わる詳細の説明） 【現地学習（スキー場、2泊3日）】 第6回～第15回 基礎技術の復習（プルークターン、シュテムターン） 平行系技術（パラレルターン） 大回り系技術（スキッディングとカービングターン、横滑り技術） 小回り系技術（様々なショートターン） ステップ系技術（踏み替え、踏み蹴り） 実践滑降 コブ斜面や新雪等条件に応じた技術の応用 総合滑降とまとめ ミーティング（実技の振り返り） ※第6回～第15回 の現地学習（2泊3日）は10回分に相当する。初日は午後の3時間、2日目は終 日で5時間、3日目は午前の2時間がその内訳である。学内学習の現地学習を合わせて1単位を満 たす授業構成となっている。			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

全日本スキー連盟著「日本スキー教程」（山と溪谷社）

学生に対する評価

スキー操作の技能上達度，さまざまな斜面に適した滑り方でスキーを楽しむことができるかについて，実習および講義への積極的な参加，現地実習で学んだ技術に対する理解度から評価する．

技能上達度（40％），授業への参加態度・意欲（40％），レポート（20％），で総合的に評価する．

授業科目名：スポーツ セミナー(クラス名：フ ットボールの科学)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小松 恒誠、井 上 功一郎
			担当形態： オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 各種フットボールのルール，専門用語，戦術的特性及び歴史について理解し，適切に説明 できるようになる【知識・理解】			
2) 各種フットボールの基礎的な技術を身につけ、ゲームに参加することができる.【技能】			
3) フットボールを歴史・社会学の観点から考察することを通して，運動やスポーツを科学的 に考察できるようになる.【態度・習慣】			
授業の概要			
本授業は，フットボールを題材にして，スポーツが成立する背景やパフォーマンス向上のため の理論を学習し，実際にそれらを体験することで，将来にわたっての豊かなスポーツライフを 計画・実践する能力を育成・習得しようとするものである.			
授業計画			
第1回 ガイダンス（井上）			
第2回 フットボールの歴史①（フットボールとパブリックスクール）【講義】（小松）			
第3回 フットボールの歴史②（フットボールのプロ化と階級社会）【講義】（小松）			
第4回 フットボールの歴史③（フットボールの伝播と変容）【講義】（小松）			
第5回 フットボールの実践①（ラグビー・タグラグビー）【実技】（小松）			
第6回 フットボールの実践②（オーギーフットボール）【実技】（小松）			
第7回 フットボールの実践③（ゲーリックフットボール）【実技】（小松）			
第8回 フットボールの実践④（アメリカンフットボール・フラッグフットボール）【実技】 （小松）			
第9回 フットボールの実践⑤（サッカー）【実技】（井上）			
第10回 フットボールの実践⑥（ウォーキングサッカー）【実技】（井上）			
第11回 フットボールの実践⑦（ブラインドサッカー）【実技】（井上）			
第12回 フットボールの分析①（フットボールとデータ分析）【講義】（井上）			
第13回 フットボールの分析②（パフォーマンスの計測と評価）【演習】（井上）			
第14回 総合討論①（テーマの設定と課題の整理）【演習】（井上）			
第15回 総合討論②（プレゼンテーション）【演習】（井上）			
※講義と実技は天候状況によって前後することがあります.			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

日本サッカー協会著「サッカー指導の教科書」（東洋館出版社）

浅井武，布目寛幸著「見方が変わるサッカーサイエンス」（岩波書店）

浅井武編著「サッカーファンタジスタの科学」（光文社）

鈴木秀人編著「だれでもできるラグビー」（小学館）

鈴木秀人編著「スポーツの国 イギリス」（創文企画）

鈴木秀人著「変貌する英国パブリックスクール」（世界思想社）

その他，授業で使用するスライドはWeb Classからpdf形式の電子ファイルで配布する

学生に対する評価

- 1) フットボールのルール，専門用語，戦術的特性及び歴史について，適切に説明できることを合格の基準とする．
- 2) フットボールの基礎的な技術を正しく発揮できることを合格の基準とする．
- 3) 他者に配慮しながら協働し，積極的に参画できることを合格の基準とする．

授業への参加意欲・関心・態度（40％），授業内容の理解度（30％），レポート（30％）

授業科目名：スポーツ セミナー(クラス名： アダプテッド・スポ ーツ科学)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 三枝 巧 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 1) アダプテッド・スポーツに関する基礎的知識や理論，身心への効果について理解し，適切に説明できるようになる．【知識・理解】 2) アダプテッド・スポーツのルールや特性を理解し，楽しみ実践することができる．【技能】 3) アダプテッド・スポーツの実践による身心への効果について，考察することができる．【態度・習慣】			
授業の概要 本授業は，アダプテッド・スポーツの基本的事項を理解し，実際にそれらの実践を通して，アダプテッド・スポーツを楽しみ実践する能力を育成しようとするものである．			
授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 アダプテッド・スポーツとは【講義】 第3回 パラリンピックの概要とクラス分け【講義】 第4回 パラリンピックの競技性と意義，障害に応じたスポーツの工夫【講義】 第5回 パラリンピックとレガシー【講義】 第6回 シッティングバレーボールの実践と測定【演習】 第7回 ボッチャ（ペア）の実践と測定【演習】 第8回 ボッチャ（グループ）の実践と測定【演習】 第9回 ブラインドサッカーの実践と測定【演習】 第10回 ウォーキングフットボールの実践と測定【演習】 第11回 ブラインドテニスの実践と測定【演習】 第12回 卓球バレーの実践と測定【演習】 第13回 サウンドテーブルテニスの実践と測定【演習】 第14回 スポーツウェルネス吹き矢の実践と測定【演習】 第15回 まとめ・総合討論			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

教養としてのアダプテッド体育・スポーツ学（2018）．大修館書店　その他，参考資料を適宜配布します．

学生に対する評価

- 1) アダプテッド・スポーツ科学にまつわる用語や理論について，適切に説明できることを合格の基準とする．
- 2) グループの中で積極的にコミュニケーションを取り，他者を尊重しながら協力して参加することを合格の基準とする．
- 3) アダプテッド・スポーツと身心への効果との関係について理解し，それらに関する科学的知見について適切に説明できることを合格の基準とする．

授業参加度（活動意欲・態度）：40%，授業内容の理解度：30%，レポート：30%

授業科目名：スポーツ セミナー(クラス名：ス ポーツマネジメント入 門)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：張 育綺 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 1. スポーツマネジメントの理論や知識の基本的な理解。【知識・理解】 2. 文献検索や研究報告書の読み方の基本的なスキルを身につける。【技能】 3. スポーツマネジメントの実践例から問題を発見し、解決策を提案する能力を養う。【態度・習慣】			
授業の概要 スポーツマネジメントの基礎理論を理解する。スポーツ地域マネジメントとスポーツツーリズムの動向と経営を理解し、スポーツ経営に関する分析力、問題解決力を養う。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 スポーツツーリズムと地域づくり 第3回 フィールドワーク：慈恩寺見学 第4回 フィールドワーク：月山トラヤワイナリー見学 第5回 フィールドワーク：月山湖カヌー体験 第6回 フィールドワーク：大井沢伝承館見学 第7回 フィールドワーク：月山トレッキング 第8回 フィールドワーク：山形県立自然博物館ネイチャーセンター見学 第9回 フィールドワーク：弓張平公園パターゴルフ体験 第10回 フィールドワーク：弓張平公園テニス体験 第11回 フィールドワーク：西川町スポーツツーリズム発展の歴史と現状講義 第12回 フィールドワーク：にしかわイノベーションハブ TRAS見学 第13回 フィールドワーク：西川町の温泉・サウナ施設見学 第14回 発表 第15回 授業のまとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 「スポーツ地域マネジメント：持続可能なまちづくりに向けた課題と戦略」原田宗彦 著，学			

芸出版社（2020/7/23）

「スポーツマーケティング」原田宗彦（著），藤本淳也（著），松岡宏高（著），大修館書店；

改訂版（2018/4/28）

学生に対する評価

授業への参加意欲と態度（60％）

発表・レポート（40％）

グループ発表・レポート、フィールドワーク、グループワーク、毎回の授業でディスカッションの時間を設ける、総合的に判断し評価する。

授業科目名：英語Ⅰ (コミュニケーション英語)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： ECHENIQUE-DIAZ Lazaro
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
Students can speak extensively about their own personal experiences using a wide variety of expressions. Students have very little difficulty understanding common everyday conversation and can understand reasonably long utterances about basic issues if spoken slowly.			
(日本語訳)			
生徒は、さまざまな表現を使って、自分の個人的な経験について幅広く話すことができますようになります。生徒は、一般的な日常会話を理解するのにほとんど困難はなく、ゆっくり話されれば、基本的な事柄に関する長い発言も理解できるようになります。			
授業の概要			
This class will be conducted face to face and students will work on material provided by the teacher. Listening and speaking practices will be done using academic topics (in Science and Humanities).			
(日本語訳)			
このクラスは対面で行われ、生徒は教師が用意した教材に取り組みます。リスニングとスピーキングの練習は学術的なトピック（科学と人文科学）を使用して行います。			
授業計画			
第1回 Introduction (Orientation)			
(第1回) 初めに (オリエンテーション)			
第2回 Note-taking while listening (videos on "the water crisis").			
(第2回) 聞きながらメモを取る。（「水の危機」に関するビデオを見ながら）			
第3回 Note-taking while listening (videos on "natural resources").			
(第3回) 聞きながらメモを取る。（「天然資源」に関するビデオを見ながら）			
第4回 Note-taking while listening (videos on "evolution").			
(第4回) 聞きながらメモを取る。（「進化」に関するビデオを見ながら）			
第5回 Introduction to oral summaries.			

(第5回) 口頭による要約の紹介 第6回 Oral presentations based on Lessons 2-5 (Focused on Pausing and Intonation) (第6回) 授業2-5に基づいた口頭による発表 (休止とイントネーションに焦点を当てる) 第7回 Oral presentations based on Lessons 2-5 (Focused on Sound Links) (第7回) 授業2-5に基づいた口頭による発表 (音の繋がりに焦点を当てる) 第8回 Mid Term Examination on skills learned on lessons 2-7 and Commentary (第8回) 第2回～第7回までの授業のスキルに関する中間試験と解説 第9回 Introduction to interrogatives and giving opinions (argumentative writing and speaking). (第9回) 疑問文と意見の表明の入門 (議論文と議論スピーキング) 第10回 Closed and open questions (part I) (In daily life) (第10回) 閉ざされた質問と開かれた質問 (その1) (日常生活において) 第11回 Closed and open questions (part II) (In academics) (第11回) 閉ざされた質問と開かれた質問 (その2) (学術分野において) 第12回 Phrasal verbs and idiomatic expressions. (第12回) 句動詞と慣用表現 第13回 Oral presentations based on Lessons 9-13 (In daily life) (第13回) 授業9-13に基づいた口頭による発表 (日常生活において) 第14回 Oral presentations based on Lessons 9-13 (In academics) (第14回) 授業9-13に基づいた口頭による発表 (学術分野において) 第15回 Final Examination on skills learned on lessons 9-14 and Commentary (第15回) 第9回～第14回までの授業のスキルに関する期末試験と解説
テキスト なし
参考書・参考資料等 Materials will be provided by the teacher. E-learning software has been chosen to support TOEIC® preparation as part of English 1 studies. This study software offers practice and learning in all fields of English language study, including vocabulary, expressions and grammar. We suggest continued progress, completing a few lessons on a weekly basis. (日本語訳) 教材は教員が用意します。 「英語1」では、TOEIC®対策としてe-learning 教材を導入しています。このソフトウェアは、語彙や句、文法事項も含め、英語学習を全体的にサポートするものです。日頃から少しずつ、継続的に学習を進めてください。

学生に対する評価

Students will be evaluated based on achieving the goals of the class using the following criteria:

- 1- Students have understood the set of skills presented in the course.
- 2- Students are able to apply learned skills in activities other than those in the materials given in class (e.g. quizzes, exam questions, etc.)
- 3- Students show sufficient commitment to learning by participating in the course activities (class participation, presentations, Exams.)

Class Participation 20%, Exam 1-30 %, Exam 2-30 %, E-learning 20%

(日本語訳)

学生は、以下の基準を使用して、クラスの目標を達成したかどうかに基づいて評価されます

- 1- 学生は、コースで提示された一連のスキルを理解しているか。
- 2- 学生は、クラスで提供された資料以外のアクティビティ（例：クイズ、試験問題など）で習得したスキルを適用できるか。
- 3- 学生は、コースのアクティビティ（クラスへの参加、プレゼンテーション、試験）に参加することで、学習に十分な取り組みを示しているか。

クラスへの参加 20%、中間試験 30%、期末試験 30%、E ラーニング 20%

授業科目名：英語 I (コミュニケーション英語)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： PEPPARD Jason
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 Students have little difficulty in expressing themselves about routine topics and can participate in short, daily conversations. Students can understand reasonably long utterances if spoken slowly and clearly. (日本語訳) 生徒は日常的な話題について自己表現することにほとんど困難はなく、短い日常会話に参加することができます。生徒はゆっくりはっきりと話されれば、長い発言を理解することができます。			
授業の概要 This class will be conducted face-to-face and students will work on materials provided by the teacher. Each lesson will focus on a new conversation topic. (日本語訳) このクラスは対面で行われ、生徒は教師が用意した教材を使って学習します。各レッスンでは、新しい会話トピックに焦点を当てます。			
授業計画 第1回 Orientation (第1回) オリエンテーション 第2回 Introductions (第2回) 初めに 第3回 Topic 1 (Free time) (第3回) トピック1 (自分の自由時間について) 第4回 Topic 2 (Daily routines) (第4回) トピック2 (日々のルーティーンについて) 第5回 Topic 3 (Hometowns/Where you live) (第5回) トピック3 (出身地、住んでいる地域について) 第6回 Topic 4 (Food)			

(第6回) トピック4 (食べ物について) 第7回 Topic 5 (Sports and Exercise) (第7回) トピック5 (スポーツと運動について) 第8回 Midterm evaluation and Commentary (第8回) 中間試験及び解説 第9回 Topic 6 (Travel 1: Domestic Travel) (第9回) トピック6 (旅行1 : 国内旅行について) 第10回 Topic 7 (Travel 2: International Travel) (第10回) トピック7 (旅行2 : 国外旅行について) 第11回 Topic 8 (Movies 1: Starter conversations) (第11回) トピック8 (映画1 : 会話のきっかけ) 第12回 Topic 9 (Movies 2: Describing movies) (第12回) トピック9 (映画2 : 映画の説明) 第13回 Topic 10 (Reading) (第13回) トピック10 (読む) 第14回 Topic 11 (Family/Describing people) (第14回) トピック11 (家族、人物の説明) 第15回 Final evaluation and Commentary (第15回) 期末試験及び解説
テキスト なし
参考書・参考資料等 There is no required textbook for this class, but a good electronic dictionary is highly recommended. E-learning software has been chosen to support TOEIC preparation as part of English 1 studies. This study software offers practice and learning in all fields of English language study, including vocabulary, expressions and grammar. We suggest continued progress, completing a few lessons on a weekly basis. (日本語訳) このクラスでは教科書は必須ではありませんが、機能が優れている電子辞書を強くお勧めします。 「英語1」では、TOEIC®対策としてe-learning 教材を導入しています。このソフトウェアは、語彙や句、文法事項も含め、英語学習を全体的にサポートするものです。日頃から少しずつ、継続的に学習を進めてください。

学生に対する評価

Grades will be determined based on the criteria below. The midterm and final evaluations will consist of timed pair and group conversations with a focus on communicative fluency.

Class participation 30%

Midterm evaluation 20%

Final evaluation 20%

E-learning 20%

Quizzes and Homework 10%

*You will receive a failing grade if you do not attend at least 2/3 of the classes.

(日本語訳)

成績は以下の基準に基づいて決定されます。中間試験と期末試験は、コミュニケーションの流暢さに重点を置いた、時間制限のあるペアおよびグループの会話で構成されます。

授業参加 30%

中間試験 20%

期末試験 20%

Eラーニング 20%

クイズと宿題 10%

*授業の少なくとも 2/3 に出席しないと不合格となります。

授業科目名：英語Ⅰ (コミュニケーション英語)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 呉 蘭
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
身近な話題や日常生活に関して、短く簡潔な文で話すことができる。ゆっくり話されれば、日常的な会話の内容を大まかに理解できる。			
授業の概要			
外国紹介に関する映像や聞き取りやすい英語の映画を見てリスニングのトレーニングをするとともに、ペアワークやグループディスカッション、プレゼンテーション、映画感想を書くことなどを通じて様々なコミュニケーション活動を行う。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション			
第2回 アメリカ紹介の映像の視聴とペアワークの実施			
第3回 カナダ紹介の映像の視聴とペアワークの実施			
第4回 アニメ映画鑑賞（Part 1）とグループディスカッション1			
第5回 アニメ映画鑑賞（Part 2）とグループディスカッション2			
第6回 イングランド紹介の映像の視聴とペアワークの実施			
第7回 スコットランド紹介の映像の視聴とペアワークの実施			
第8回 コメディ映画鑑賞（Part 1）とグループディスカッション1			
第9回 コメディ映画鑑賞（Part 2）とグループディスカッション2			
第10回 ニュージーランド紹介の映像の視聴とペアワークの実施			
第11回 オーストラリア紹介の映像の視聴とペアワークの実施			
第12回 ドラマ映画鑑賞（Part 1）とグループディスカッション1			
第13回 ドラマ映画鑑賞（Part 2）とグループディスカッション2			
第14回 プレゼンテーション（1人目～13人目）			
第15回 プレゼンテーション（14人目～）と自己評価記入			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
授業前に授業資料をWebClassで公開します。			
参考書：「Which Side Are You on? -Forming Views and Opinions-」（成美堂）、「Smart			

Writing -Active Approach to Paragraph Writing-」(成美堂)

「英語1」では、TOEIC®対策としてe-learning 教材を導入しています。このソフトウェアは、語彙や句、文法事項も含め、英語学習を全体的にサポートするものです。日頃から少しずつ、継続的に学習を進めてください。

学生に対する評価

日常的な会話の内容を大まかに理解でき、身近な話題や日常生活に関して短く簡潔な文で話すことができる基礎的な力を身につけるためのこの授業での活動に積極的・能動的に参加できていることが合格の基準です。

E-learning 20%

授業参加 30%

提出物(映画感想) 20%

プレゼンテーション 30%

授業科目名：英語Ⅰ (コミュニケーション英語)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： WATTERS Eamon
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
Students can speak on topics that are familiar to them using simple everyday English. Students can generally understand basic dialogue if spoken slowly.			
(日本語訳)			
生徒は簡単な日常英語を使って、身近な話題について話すことができます。ゆっくり話されれば、生徒は一般的に基本的な会話を理解できます。			
授業の概要			
This class will be conducted face-to-face. The class is discussion-based. Students will read articles on a topic, think about the topic, discuss the topic with their classmates, and write a reaction on their discussion with their classmates.			
(日本語訳)			
この授業は対面で行われ、主に議論形式の授業です。生徒はトピックに関する記事を読み、そのトピックについて考えます。その後、クラスメイトとそのトピックについて話し合い、その話し合いに対する考えを書きます。			
授業計画			
第1回 Orientation			
(第1回) オリエンテーション			
第2回 Model Discussion			
(第2回) モデルディスカッション			
第3回 Topic 1: Nice to Meet You 1!			
(第3回) トピック1 (初めまして1)			
第4回 Topic 1: Nice to Meet You 2			
(第4回) トピック1 (初めまして2)			
第5回 Topic 2: My School Life			
(第5回) トピック2 (私の学校生活)			
第6回 Supplementary Activity 1: Hometowns			

(第6回) 補足活動1 : 故郷 第7回 Topic 3: Hobbies and Interests (第7回) トピック3 (趣味と興味) 第8回 Topic 4: Favorite Things (第8回) トピック4 (好きなこと) 第9回 Supplementary Activity 2: Quiz (第9回) 補足活動2 : クイズ 第10回 Topic 5: What do you think about ~? (第10回) トピック5 (～についてどう思いますか?) 第11回 Topic 6: Why did you~? (第11回) トピック6 (なぜ～したの?) 第12回 Supplementary Activity 3: First Contact (第12回) 補足活動3 : ファーストコンタクト 第13回 Topic 7: My University Life (第13回) トピック7 (私の大学生活) 第14回 Topic 8: My Future Life (第14回) トピック8 (私の人生) 第15回 Final Activity (第15回) 最終活動
テキスト なし
参考書・参考資料等 Materials provided by instructor. E-learning software has been chosen to support TOEIC® preparation as part of English 1 studies. This study software offers practice and learning in all fields of English language study, including vocabulary, expressions and grammar. We suggest continued progress, completing a few lessons on a weekly basis. (日本語訳) 授業の教材は教員が用意します。 「英語1」では、TOEIC®対策としてe-learning 教材を導入しています。このソフトウェアは、語彙や句、文法事項も含め、英語学習を全体的にサポートするものです。日頃から少しずつ、継続的に学習を進めてください。
学生に対する評価 As this is a discussion class, you must make an effort to communicate in class.

Also, you may be failed if you do not attend 2/3 or more classes.

E-learning 20%

Topic Work 40%

Participation 10%

Supplementary Activities 15%

Final Homework 15%

(日本語訳)

この授業は議論形式なので、授業内でコミュニケーションを取るよう努力する必要があります。また、2/3 以上の授業に出席しないと不合格になる場合があります。

E ラーニング 20%

トピック ワーク 40%

授業参加 10%

補足活動 15%

最終宿題 15%

授業科目名：データ解析基礎	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：脇 克志 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
1. デジタルデータを活用するために必要となるスキルを説明できる。【知識・理解】			
2. デジタルデータには、どんな種類・性質があるかを理解している。【知識・理解】			
3. デジタルデータを理解するために必要な可視化のスキルを実行できる。【技能】			
4. 実社会で、デジタルデータがどのように活用されているかを説明できる。【知識・理解】			
授業の概要			
データ解析を行う上で必要となるデータの基本的な処理方法と表現方法を修得して、今後のデータを活用した課題解決研究に備える。			
授業計画			
第01回：データ活用と必要なスキル、実社会で活かされるデータ紹介			
第02回：データの準備とデータのタイプ、データの数理的表現			
第03回：アンケートデータを要約しよう			
第04回：質的変数の分析へ			
第05回：量的変数を代表値で要約する			
第06回：量的変数をばらつきで要約する			
第07回：平均と標準偏差を活用しよう			
第08回：量的データを比較する			
第09回：平均値の比較をアイデア評価に応用する			
第10回：散布図を活用して関係性を分析する			
第11回：回帰分析を活用して関係性を分析する			
第12回：関係性の分析で改善点を見つけよう			
第13回：時系列データを分析しよう、経済データの利活用技術の紹介			
第14回：データ分析を活用するために知っておきたいポイント			
第15回：データサイエンス・AIの動向、データ駆動型社会への移行			
テキスト			
WebClassの教材をテキストとして活用する。			
参考書・参考資料等			
なし			

学生に対する評価

毎回の教材に対応する課題問題の達成率で評価する。

また、掲示板への書き込み状況で加点を行う。

課題問題の正解率(100%)

授業科目名： 教育原論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：森田 智幸 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ			
1. 学ぶこと、教えることとはどのようなことか、具体的経験と学習理論の展開とを関連付けて説明できる。【知識・理解】			
2. 教育の歴史・思想について理解し、一斉授業とはどのような授業なのかについて説明できる。【知識・理解】			
3. 教育の改造の歴史的展開、現在の教育改革について理解し、今後の教育についての考えを説明できる。【知識・理解】			
授業の概要			
本授業では、教育の思想、歴史に関する文献について協同的に探究し、教育の理念や歴史及び思想に関する基本的概念や理論、実践的展開について理解することを目指している。その際、「一斉授業とはどのような授業なのか」、「学ぶとはどのようなことか」、「教えるとはどのようなことか」を中心主題として探究する。教育の歴史、思想に関する探究には、高い想像性や論理性、また、文献を読み解く粘り強さが必要となる。広義だけでなく、グループ活動を適宜導入することを通して、学生同士の協働性を引き出し、理解の深まりと深い探究を目指す。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション（授業の進め方・授業で何が起こっているのか）(1)-1)2), (3)-1)2)			
第2回 一斉授業の思想的検討：どのような教育関係をつくろうとしているのか (1)-1)2), (2)-1)2), (3)-3)			
第3回 一斉授業の歴史的検討：教育と社会との接点の歴史的検討(2)-1)2)3), (3)-3)			
第4回 日本における授業の定型化：どのような教育関係をつくろうとしたのか (2)-1)2)3), (3)-3)			
第5回 日本における授業の定型化2：「公教育」の成立過程を検討する (2)-2)3), (3)-3)			
第6回 進歩主義教育の思想：理想的な教育とは (2)-1)3), (3)-1)2)3)			
第7回 進歩主義教育の実践2：普及とその失敗に学ぶ(2)-3), (3)-1)2)3)			
第8回 学校で何が教えられるべきか（1）：学習指導要領の歴史的展開 (2)-2)3)			
第9回 学校で何が教えられるべきか（2）：検定教科書をめぐって(2)-2)3)			
第10回 学校で何が学ばれているか：様々なレベルのカリキュラム (1)-1)2), (3)-1)3)			
第11回 学ぶことと教えることの哲学：メノンのパラドクス (1)-1)2), (3)-2)3)			
第12回 学習論の展開1：学習をどのようにとらえてきたのか (2)-3), (3)-2)3)			
第13回 学習論の展開2：学習をどのようにとらえられるようになってきたのか (2)-3), (3)-2)3)			
第14回 協同的な学びとは：実際に体験する (1)-1)2), (2)-3)			
第15回 協同的な学びの事例検討（最終課題に挑戦）(1)-1)2), (2)-3)			

テキスト

村瀬 公胤，武田 明典編集，森田智幸ほか著『教師と学生が知っておくべき教育原理』北樹出版、令和6年

参考書・参考資料等

今井康雄編著『教育思想史』有斐閣アルマ、平成22年、佐藤学『教育の方法』左右社、平成24年、田中智志編著『教育学の基礎』一芸社、平成24年。

学生に対する評価

毎回の課題および第15回の最終課題について以下の基準に基づいて成績評価を行う。最終成績に占める評価の割合は、毎回の課題60%、最終課題40%とする。

1. テキストの内容と授業中の指示に従って論理的に記述していること
2. 友達の考えを聴き、自らの考えをつくりかえられていること

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉田 誠 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
1. 教師に求められる資質能力とこれからの社会のあり方を踏まえた上で自らの理想とする教師像について、そのきっかけとなるエピソードを交えて明確に説明できる。【知識・理解】			
2. 理想の教師像を実現するための課題とその課題が生じた原因や要因について自我発達段階とチャッターに関する自己分析を踏まえながら明確に説明できる。【知識・理解】			
3. 理想の教師像を実現するための課題解決の方法を優先順位をつけて説明できる。【知識・理解】			
授業の概要			
本授業では小中学校を中心に幼稚園～高等学校教師になることの意義や教員の役割、教育公務員としての身分と服務、職務内容に関する知識を得た上で、現在の教師に求められる資質能力とこれからの社会における教師の役割を踏まえながら、自らの教師としての適性や意欲についての省察を深めてもらう。その上で、各自の理想とする教師像を明確にし、その実現に向けた学習計画と将来設計を行ってもらうことにする。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション（授業の進め方・今日の学校教育の課題）			
第2回 学校教育と教職の社会的意義			
第3回 教師に求められる資質能力：教育的愛情とマルトリートメント			
第4回 生涯学び続ける教師になるために：社会の発達段階と教師に求められる資質・能力の変遷			
第5回 教師の身分・服務：自我発達段階とマインドセット			
第6回 これからの社会と学校のあり方を考える（チーム学校運営への対応を含む）			
第7回 中間テスト・どんな教師になりたいのか？1：発達段階の重心を意識する			
第8回 どんな教師になりたいのか？2：陥りやすい課題を意識する			
第9回 どんな子どもに育てたいのか？1：指導のこだわりの背景にあるチャッターを知る			
第10回 どんな子どもに育てたいのか？2：チャッターを超えて発達を促す視点を知る			
第11回 なぜ教師になりたいのか？1：成長のアクセルにも発達のブレーキにもなるチャッター			
第12回 なぜ教師になりたいのか？2：魂の声に従って自分らしい教師像を考える			
第13回 新しい発達論の視点からこれからの教育を考える			
第14回 教師としての理想や目標を再設定する1：解像度を上げるには			
第15回 教師としての理想や目標を再設定する2：自分らしい教師像を再設定する）			
テキスト			
『「ちゃんとしなきゃ」から解放されて自分らしく成長する教師になる方法』（吉田誠著、東洋館出版社、令和6年）			

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、小学校学習指導要領解説総則編（平成29年6月 文部科学省）、中学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説総則編（平成30年7月 文部科学省）、山形県教育委員会 教職員の不祥事防止に係る有識者会議「信頼される学校教育を推進するために～教職員の不祥事防止に係る提言～」平成27年8月25日

学生に対する評価

第8回・第10回・第12回のレポート課題および第15回の最終課題について以下の基準に基づいて成績評価を行う。最終成績に占める評価の割合は、中間テスト10%、3回のレポート課題45%、最終課題45%とする。

1. テキストの内容と授業中の指示に従って論理的に記述していること
2. 具体的かつ当事者意識を持って記述していること

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：水谷 智彦 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 社会学的な概念を用いて教育現象を分析・理解し、説明できる。			
授業の概要 教育という身近な現象がもつ社会的な意義や、そのなかに潜む問題性を、データにもとづく社会学的な分析によって見出す方法を学ぶことを目的とする。 授業は主に配付資料を中心とした担当者による説明と、受講者によるディスカッションによって進める。また受講者は講義内容にもとづく調査と報告をおこない、教育を社会学的に分析する力を身に付ける。最後に定期試験を実施し、学習内容の定着を図る。			
授業計画 第1回：イントロダクション 教育とは何か 第2回：教育と学校の社会的機能 第3回：学校の歴史（1）学校・学級の成立 第4回：学校の歴史（2）近代公教育の成立と普及 第5回：子ども（1）社会統制のまなざし 第6回：子ども（2）教育と権力 第7回：学校の空間（1）ドラマとしての学校 第8回：学校の空間（2）児童生徒という主体 第9回：学校の機能（1）選抜と配分 第10回：学校の機能（2）平等と不平等 第11回：教師（1）職業的社会化 第12回：教師（2）授業のなかの秩序 第13回：教育を社会学する意義 第14回：学校と地域との連携・協働の意義および方法 第15回：学校安全の目的と安全上の課題に対する取組 定期試験：学習内容の定着をはかる			
テキスト 北澤毅・高橋靖幸・粕谷圭佑編『学校教育を考えるためのコアコンセプト（仮）』北樹出版（2026年刊行予定）			
参考書・参考資料等 参考文献等は適宜授業内に紹介する。			

学生に対する評価

平常点：20％ ／ レポート：20％ ／ 定期試験：60％（計 100 点）

平常点の評価は、ディスカッション後に記入するミニツペーパーによりおこなう。

レポートの評価は、調査課題の結果報告にもとづいておこなう。

定期試験では、授業のなかで扱った内容から出題する問題に回答してもらう。

授業科目名： 教育経営学		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：吉田尚史、澁江 学美
				担当形態：複数・オムニバス
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連 携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標				
1．我が国の学校及び教育行政組織の特徴を把握し、その経営に関する実態について理解する ことができる。				
2．教育制度改革を支える理念やその方向性及び課題について、自分の考えを持つことができ る。				
3．学校による地域課題への応答や保護者・地域住民との連携の在り方等、教育経営が抱える 今日的課題について、他者と討議することができる。				
授業の概要				
本授業の前半では、学校の組織・経営を支えている法律・制度・行政の基礎的事項を概説す る。その上で、後半では、学校現場にある諸問題を取り上げながら、学校の組織・経営の基礎 的事項を概説する。それらを通して、学校の制度・経営に関する今日的課題を考える。特に、 複数教員で担当する授業回については、事例を踏まえながら、教育現場で生じている課題の解 決に向けた具体的方策を考える。				
授業計画				
第 1 回 イントロダクションー学校経営とは何か？ー【担当：吉田・澁江】				
第 2 回 教育法規の基本原理と体系【担当：吉田】				
第 3 回 教育を受ける権利と公教育制度【担当：吉田】				
第 4 回 学校経営を支える中央教育行政【担当：吉田】				
第 5 回 学校経営を支える地方教育行政【担当：吉田・澁江】				
第 6 回 学校経営を支える関係機関との連携・協働【担当：吉田】				
第 7 回 小括（演習）：公教育の目的を実現する学校経営の課題【担当：吉田・澁江】				
第 8 回 学校の組織マネジメント【担当：吉田】				
第 9 回 学校の財務マネジメント【担当：吉田】				
第 1 0 回 教職員マネジメント（1）ー教員の養成・採用・研修ー【担当：吉田】				
第 1 1 回 教職員マネジメント（2）ーチームとしての学校と教職員の学びー【担当：吉田・澁江】				
第 1 2 回 教授・学習を支えるカリキュラム・マネジメント【担当：吉田】				
第 1 3 回 学校改善の方策としての学校と地域の連携・協働【担当：吉田】				
第 1 4 回 学校安全と学校の危機管理【担当：吉田】				
第 1 5 回 総括（演習）：地域課題を視野に入れた教育経営の課題【担当：吉田・澁江】				

テキスト
『教育の制度と学校のマネジメント』、加藤崇英・臼井智美編、（時事通信社）、2025年
参考書・参考資料等
『学校経営』、浜田博文編、（ミネルヴァ書房）、2019年
『新訂第5版 図解・表解教育法規 “確かにわかる” 法規・制度の総合テキスト』、坂田仰他 著、（教育開発研究所）、2024年
『基礎から学ぶ教育行政学・教育制度論』、阿内春生編、（昭和堂）、2024年
『教育政策・行政の考え方』、村上祐介・橋野晶寛著、（有斐閣ストゥディア）、2020年
学生に対する評価
授業期間中に課す提出課題（35%）、レポート（50%）、授業への参加状況（15%）で総合的に判断 する。

授業科目名： 発達心理学		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2 単位		担当教員名：藤岡久美子、 本島優子	
						担当形態：複数	
科 目		教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					
授業の到達目標及びテーマ							
・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。 ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 ・ 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。							
授業の概要							
人間の誕生から死に至る生涯発達の過程を、主として発達・教育心理学的な視点から概観する。前半は、諸機能の発達を解説し、後半には、発達段階ごとに諸機能の特性を解説する。							
授業計画							
第 1 回 オリエンテーション：発達研究とは 発達研究の課題及び方法を概説する。							
第 2 回 対人関係の発達 愛着理論を中心に乳児期から青年期にかけての対人関係の発達を解説する。							
第 3 回 感情と動機づけの発達 感情の種類、発達プロセス、感情コンピテンスの発達、動機づけについて解説する。							
第 4 回 知的機能の発達とその障害 知能研究の概略、知能検査、知的機能の障害について検討する。							
第 5 回 自我と自己の発達：エリクソンの理論を中心に							
第 6 回 思考の発達：ピアジェの理論・ヴィゴツキーの理論							
第 7 回 学習の原理とメカニズム：学習が成立する過程を説明する代表的な理論(行動理論、認知理論等)を解説する。							
第 8 回 概念の発達と学習：幼児期までの日常的概念の発達と学校における科学的概念の学習過程 中間試験							
第 9 回 乳児期の発達：身体発育、運動機能の発達と認知機能や対人関係の発達との関連を考察する。							
第10回 幼児期の発達：言語を中心とした認知機能の発達、及び、遊びと学習レディネスの形成を中心に解説する。							
第11回 児童期の発達：教授－学習過程と学習をめぐるつまずきを中心に、種々の発達障害の問題も取り扱う。							
第12回 青年期の発達：アイデンティティと対人関係を中心に青年期の発達課題の問題を解説する。							

第13回 成人期・老年期の発達：家族発達の観点から成人期以降の発達を解説する。
第14回 青年期までに見られる障害とその援助：障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達と援助を解説する。
第15回 まとめ：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を再考する。
定期試験
テキスト
特に指定しない
参考書・参考資料等
教育心理学 II－発達と臨床援助の心理学 下山晴彦編 東京大学出版会(1998)、 子どもの社会的発達 井上健治・久保ゆかり編 東京大学出版会(1997)、 図で理解する発達 川島一夫・渡辺弥生編著 福村出版(2010)
学生に対する評価
中間試験（50%）と期末試験（50%）により、授業内容の理解度について評価する。

授業科目名： 学習心理学		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：廣田信一 担当形態：単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		幼児，児童および生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標				
本授業では，児童・生徒の学習に関する基礎的な学習理論について身につけたうえで，発達の観点も踏まえた学習者の学習過程と教授者の学習指導の在り方について基礎的な考え方を理解することをねらいとする。 教授学習活動において活用できる基礎的な学習理論について身につける【知識・理解】				
授業の概要				
本授業では，主として心理学における学習理論の基盤となる行動主義的学習理論と発達心理学的な学習理論の基盤となる構成主義的および認知発達の学習理論に関して基礎的な理解を図る。 本授業では具体的な学習場面を設定し，学習理論を展開するための方法について検討する。 また基本的に毎回課題にとりくみ，討論することを通して理解を図る。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション：学習心理学の概要に関する説明と授業の進め方 (特に学習方法や取り組み方) について理解を図る				
第2回：学習過程における行動主義的観点について1（古典的条件づけを中心に検討する）				
第3回：学習過程における行動主義的観点について2（オペラント条件づけの原理を中心に検討する）				
第4回：学習過程における行動主義的観点について3（オペラント条件づけを学習環境に活用する）				
第5回：社会的学習理論における学習過程について1（モデリング理論の特徴を中心に検討する）				
第6回：社会的学習理論における学習過程について2（モデリングの下位過程を中心に検討する）				
第7回：社会的学習理論の活用について（学習集団としての教室やセルフエフィカシーやセルフコントロールなど学習過程における活用の可能性について検討する）				
第8回：教授学習過程に関連する動機づけ過程について（主として内発的動機づけなどについて検討する）				
第9回：教授学習理論への応用について（教授学習過程を支える学習理論として，主としてプログラム学習理論について検討する）				
第10回：学習理論における発達心理学的基礎について（主としてピアジェやブルーナーの認知発達理論について検討する）				
第11回：認知発達の観点からの教授学習理論について1（教授学習過程を支える学習理論として，主として発見学習について検討する）				
第12回：認知発達の観点からの教授学習理論について2（教授学習過程を支える学習理論として，主として有意味授業学習について検討する）				

第13回：教育評価の観点からの教授学習理論について1（教授学習過程を支える学習理論として、主として完全習得学習について検討する） 第14回：教育評価の観点からの教授学習理論について2（主として完全習得学習を踏まえながら、教育評価（診断・形成・総括）について検討する） 第15回：まとめ これまでの講義内容を横断的に検討する。 授業の展開順などは、受講生の理解に合わせて、変化する場合がある。
テキスト 第1回目の授業の時に、指定します。 適宜資料などを配布する。
参考書・参考資料等 人を伸ばす力（エドワード・L. デシ、リチャードフラスト著 新曜社出版） 社会的学習理論（A. バンデューラ著 金子書房出版）
学生に対する評価 成績評価基準：C（合格に必要な最低限度）基準 具体的事例を挙げながら、基本的な学習過程や教授学習活動について説明できる。 成績評価の方法 以下の項目に従って総合的に評価する ○講義内容を横断的に活用できるか確認するための毎回の討論（討論の記録も評価する）20% ○毎回出題する講義中の課題（毎回の講義を理解できているかを確認する）30% ○学期末レポート（講義内容を横断的に活用できるか確認する）50% 出席が3分の2回未満の場合、学期末レポートの採点および評価は行いません。

授業科目名： 特別支援教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：川村修弘 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマは、障害児教育の歴史的変遷及び種々の障害児の理解と支援である。 1．世界の特別支援教育の動向について理解できる。 2．日本の特別支援教育の歴史的変遷について理解できる。 3．障害児の特徴と教育的対応について理解できる。 4．障害児への教育課程編成の特徴について理解できる。			
授業の概要			
種々の障害児に対する教育について，世界や日本の教育事情，教育内容を歴史的に巡ると共に，21世紀の特別支援教育の在り方について，障害児の理解とその教育課程の編成について理解を深めていくことを目的とする。			
授業計画			
第1回：障害とは，障害種別について			
第2回：世界の障害児教育の変遷（アメリカ，イギリス，デンマーク，スウェーデン，アジア諸国などの障害児教育）			
第3回：日本の障害児教育の変遷（戦前戦後における障害児教育，特殊教育から特別支援教育への転換）			
第4回：視覚障害の理解と教育的対応（弱視の特徴と教育的対応，点字の意味理解と点字の読み等）			
第5回：聴覚障害の理解と教育的対応（難聴の特徴と教育的対応，手話の意味理解、手話を使った会話等）			
第6回：知的障害の理解と教育的対応（IQの特徴と教育的対応，IQの算出方法，ダウン症、自立活動、教科指導、合わせた指導等）			
第7回：肢体不自由・病弱児の理解と教育的対応（脳性麻痺、筋ジストロフィー、ペルテス等の特徴と教育的対応）			
第8回：病弱・身体虚弱児の理解と教育的対応（筋ジストロフィー，血友病等の特徴と教育的対応）			
第9回：学習障害の特徴と教育的対応（読み・書き・計算等の特徴，通級による指導での自立活動を中心とした教育的対応）			
第10回：注意欠如多動性障害の理解と教育的対応（多動性・衝動性・不注意の特徴の理解，通級による指導での自立活動を中心とした教育的対応）			

第11回：自閉症スペクトラム及び情緒障害（場面緘黙等）の理解と教育的対応（通級による指導での自立活動を中心とした教育的対応）

第12回：言語障害、重複障害、その他の障害（トゥレット症候群等）、二次障害（不登校）の理解と教育的対応（学校内連携、家庭・保護者との連携、医療機関との連携について）

第13回：特別支援学級および特別支援学校の教育課程編成とその特徴について

第14回：個別の教育支援計画および個別の指導計画についての理解

第15回：母国語が異なるため日本語指導が必要となる子供・経済的困難を抱える子供・不登校傾向のある子供・虐待や家庭環境に課題のある子ども等による教育的ニーズの理解・支援および組織的対応の必要性の理解

定期試験：全15回の授業終了後に筆記テスト（70点満点）を実施し、特別支援教育全般の知識の習得状況を評価する。

テキスト

三浦光哉・川村修弘『特別支援教育概論〔改訂版〕～障害のある子どもの学校学級経営～～障害幼児の早期発見・早期支援～』，ジアーズ教育新社，2024年9月．

参考書・参考資料等

特別支援教育と障害児の行動特性（河合康・小宮三彌編著、北樹出版 2018）

学生に対する評価

・基準

以下の評価の観点により、テスト及びビデオ視聴の感想・体験等の課題等を総合的に判断し評価する。

- 1．日本の「特殊教育から特別支援教育への転換」の内容について理解できたか。
- 2．種々の障害児の特徴と教育的対応について理解できたか。
- 3．特別支援学級や特別支援学校の教育課程編成の特徴を理解できたか。
- 4．特別支援学級や特別支援学校の学級経営について理解できたか。

・方法

筆記テスト（70％）、レポート課題（30％）として、総合的に評価する。

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：野口 徹
教育課程編成論	必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
・テーマ 学習指導要領を基に各学校で編成される教育課程の意義や編成方法，学習指導要領改訂の変遷について理解するとともに，各学校・幼稚園が児童・生徒の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義について理解する。			
・到達目標			
1 教育課程編成の基本原理及び学校教育における役割や機能，意義を説明出来る。			
2 学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容を説明出来る。			
3 教育課程全体でカリキュラム・マネジメントすることによって授業改善を図ることの意義およびその評価方法について説明出来る。			
授業の概要			
この授業では、教育課程の意義や基礎原理および学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷とその社会的な背景を知識として習得するとともに，各学校・幼稚園における教育課程編成上の実践的な課題の発見とそれらの課題を解決するためのカリキュラム・マネジメントの能力を身に付けることを目的とする。この授業は基本的に講義形式で実施するが，取り扱う内容についての情報交換などグループワークも取り入れて学生相互の意見を交わし合いながら思考する場面も設定する。各学校・幼稚園の事例について考察する際にはカリキュラム・マネジメントの視点から分析を行い，教育課程編成の具体的な方策や評価方法についても検討する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 教育課程とは何か			
第2回：教育課程の編成原理 1 スコープとシーケンス			
第3回：教育課程の編成原理 2 学問中心カリキュラム			
第4回：教育課程の編成原理 3 学習者中心カリキュラム			
第5回：教育課程の編成原理 4 領域を併存させたカリキュラム			
第6回：教育課程の編成原理 5 総合的な学習の時間			
第7回：学習指導要領の変遷 1 1947年版、1951年版			
第8回：学習指導要領の変遷 2 1958年版、1968年版			
第9回：学習指導要領の変遷 3 1977年版、1989年版			
第10回：学習指導要領の変遷 4 1998年版、2008年版、2017年版			
第11回：幼稚園教育要領の歴史的変遷および幼稚園の事例分析によるカリキュラム・マネジメントの検討			
第12回：事例研究 1 小学校の事例分析によるカリキュラム・マネジメントの検討			
第13回：事例研究 2 中学校の事例検討によるカリキュラム・マネジメントの検討			
第14回：事例研究 3 高校の事例検討によるカリキュラム・マネジメントの検討			
第15回：教育課程の編成（学校・学年・学級の教育課程）、評価方法			
テキスト			
平成29年	幼稚園教育要領 解説	平成29年	小学校学習指導要領解説 総則編
平成29年	中学校学習指導要領解説 総則編	平成30年	高等学校学習指導要領解説 総則編
(取得予定免許の学校種のもの)			
参考書・参考資料等			
平成29年	幼稚園教育要領	平成29年	小学校学習指導要領
平成29年	中学校学習指導要領	平成30年	高等学校学習指導要領
(取得予定免許の学校種のもの)			
学生に対する評価			
以下の評価の観点に則り、レポート及び発表内容等を中心に、総合的に判断し評価する。			
・ 教育課程編成の基本原理及び学校教育における役割や機能，意義を理解しているか。 (40%)			
・ 学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容を理解しているか。 (30%)			
・ 教育課程全体でカリキュラム・マネジメントすることによって授業改善を図ることの意義およびその評価方法を理解しているか。(30%)			

授業科目名： 教育方法・技術（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：坂本明美、佐久間大 担当形態：複数・オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）（幼） 教育の方法及び技術（小・中・高） 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法（小・中・高）		
授業のテーマ及び到達目標			
○これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法及び教育技術に関する、基礎的な知識・技能を身に付けることができる。			
○「単元の目標」と「本時の目標」を設定し、単元構成と本時の授業をデザインすることができる。			
○情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。			
授業の概要			
○我が国の子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な、教育方法の基礎的理論と実践を理解する。			
○授業を構成する基礎的な要件と、学習評価について理解し、授業を行う上での基礎的な技術を身に付け、学習指導案を作成する。			
○情報通信技術の活用の意義と理論を理解し、児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身に付けるため、情報通信技術に関する教材を用いた演習を行うこともある。			
授業計画			
第1回：「学び」について（担当：坂本明美）			
学びについて理解を深め、21世紀に求められる学習観の変化や、学習のメカニズムについて学ぶ。			
第2回：我が国の子どもたちに求められる資質・能力（担当：坂本明美）			
学習指導要領を踏まえ、日本の教育において求められる資質・能力について理解する。また、OECDのPISA（国際学力調査）などを踏まえ、国際的な視点から、日本の教育の特徴を考える。			
第3回：「探究学習」について（担当：坂本明美）			
探究学習の目的と必要性を理解し、主体的・対話的で深い学びの実践方法を学ぶ。問題解決型学習（PBL）やプロジェクト型学習を取り入れた事例との関連を考察する。			

第4回：世界の教育事情（担当：坂本明美）
第5回：日本の「複式学級」と、海外の「異学年学級（異年齢学級）」における実践 各国の教育制度や学習環境の違いを比較し、多様な教育アプローチを理解する。（担当：坂本明美）
第6回：授業を構成する基礎的要件と、学習指導案の基本的要件（担当：坂本明美） 授業の基本構造を整理し、学習指導案作成の基本を学ぶ。教育目標の設定、授業の流れ、評価の視点を明確にし、授業設計の理論と実践を結びつける。
第7回：学習指導案の単元構成（担当：坂本明美） 学習指導要領に基づいた単元構成の考え方を整理し、学習内容の系統性や評価との関連を検討できる。
第8回：学習指導案の本時案の作成／授業設計とメディア教材の関連（担当：坂本明美・佐久間大） 学習指導案の作成の仕方や、コンピュータを活用した学習（CAI・CSCL）や情報活用能力（情報モラルを含む）について学ぶ。
第9回：教育のD X ／ 学習者分析と学習環境・教材との関連（担当：佐久間大） 様々な教育の情報システム（校務支援システム、学習管理システム）とその活用方法、セキュリティ、学習者への特別な配慮、関連する教材の特性等について学ぶ。
第10回：教材構造の分析と学習環境・教材の設計演習（担当：佐久間大） 各教科・領域の特性を踏まえた上で、遠隔教育（e-learning）の考え方、ICT支援員や外部リソースを活用した学習環境・教材の設計を行う。
第11回：情報通信技術を用いた模擬授業の準備（担当：佐久間大） コンセプトマップ等の思考可視化技術を用いて、実際の授業設計活動やデジタル教材の作成方法について体験する。
第12回：情報通信技術を用いた模擬授業の実践と評価（担当：佐久間大） 小グループ単位で、情報通信技術を用いた模擬授業を実践し、省察する体験を得る。
第13回：情報通信技術を効果的に活用した学習支援と評価（1）（担当：佐久間大） 学習履歴・行動ログなどのデータ分析と適切な評価方法（テスト問題、パフォーマンス、ポートフォリオ、ルーブリック）との関連について学ぶ。
第14回：情報通信技術を効果的に活用した学習支援と評価（2）（担当：佐久間大） アプリケーションや学習評価の支援ソフトウェア等の技術を活用し、形成的評価の観点から、テスト・パフォーマンス等のデータ分析を演習する。
第15回：最先端のテクノロジーと教育・学習（担当：佐久間大） 教育分野において最先端技術を活用した事例について調査し、議論・考察する。
テキスト
なし

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領（平成29年3月告示）（文部科学省 著、東山書房）

小学校学習指導要領（平成29年3月告示）（文部科学省 著、東洋館出版社）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示）（文部科学省 著、東山書房）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）（文部科学省 著、東山書房）

参考文献・参考資料についてはその都度、紹介する。

学生に対する評価

三分の二以上の回数を出席していることを前提に、①と②のように評価する。

① 第1～7.5回（50%）

- ・レポートの提出（25%）
- ・指導案の提出（25%）

② 第7.5～15回（50%）

- ・レポートの提出（25%）
- ・小テストの実施（25%）

授業科目名： 幼児の理解	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：本島 優子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児理解の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 保育における子ども理解について扱い、子ども理解の意義と方法、保育者の基本的姿勢について理解し、具体的事例を通して子どもを理解するための視座を広げ、子どもへの対応や援助のあり方について考察し、実践的理解を深める。			
授業の概要 保育における子ども理解の意義とその方法について解説し、子どもを捉える保育者の基本的な姿勢や態度について説明する。また、幼稚園において観察実習を行い、実際の事例やエピソードを通して子どもの理解と対応のあり方について討議し、実践的理解を促す。			
授業計画 第1回：保育の出発点としての子ども理解 第2回：子どもを理解するための手法①発達についての知識・理論 第3回：子どもを理解するための手法②検査・観察 第4回：子ども理解を深めるための保育者の基本的姿勢 第5回：子ども理解に関わる事例検討①：遊び場面における事例 第6回：子ども理解に関わる事例検討②：葛藤やいざこざの事例 第7回：子ども理解に関わる事例検討③：ビデオ視聴での事例 第8回：保育援助に関わる事例検討①：子どもへの対応 第9回：保育援助に関わる事例検討②：子どもとの信頼関係 第10回：親についての理解と対応の基本 第11回：親の理解と対応に関わる事例検討（グループ討議） 第12回：保育者としての自己の理解 第13回：幼稚園における観察実習 第14回：観察の振り返りと事例検討（グループ討議） 第15回：子ども理解のまとめと期末試験			
テキスト 子ども理解と保育実践（塚本美智子編、萌文書林）			
参考書・参考資料等 保育のための発達心理学（藤崎眞知代他、新曜社）			

学生に対する評価

以下の観点に基づいて、レポート課題（60％）および期末試験（40％）で評価する。

- ・保育における子ども理解の意義と方法、保育者の基本的姿勢について理解し、説明できる。
- ・子どもを理解するための視点を広げ、子どもについての理解や対応のあり方に関して考察できる。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：関口雄一 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業では、教育相談の意義や理論、学校カウンセリングの基礎的な理論と技法に関する講義を通して、将来学校教員になった際に、幼児・児童生徒の様々な問題の理解と対応ができるようになることを目的とする。具体的な到達目標は以下の4点である。 ①教育相談の意義と理論を説明することができる。 ②教育相談にかかわるカウンセリングの基礎的理論や技法を説明することができる。 ③幼児・児童生徒の多様な問題行動の背景とその予防のための「常態的・先行的な」教師の取り組みについて説明することができる。 ④教育相談の具体的な進め方や学校内外の関係者を含めた「チーム学校」としての連携のポイントについて説明することができる。			
授業の概要			
本授業は、教育相談の目的や意義といった基本的事項や、教育相談にかかわるカウンセリングの基礎的な理論、予防的・開発的カウンセリングの理論と技法、発達課題や問題行動について講義を通して理解を深める。また、相談技法に関しては、グループワークによる体験的な学習を行う。それらの基礎的な理論と技法を習得した上で、事例を通して、幼児・児童生徒の支援方法について議論を行う。その際に、教員間や多職種による連携についても論じる。			
授業計画			
第1回：教育相談とは何か（教育相談の目的、意義などの原理について）			
第2回：幼児・児童生徒の発達課題と問題（身体運動発達、認知発達、社会性の発達、吃音、チック、分離不安、場面緘黙、起立性調節障害、自傷行為、摂食障害、抑うつ、不安等の概説）			
第3回：カウンセリング①（主に人間性心理学と学習理論に基づく理論を概説する）			
第4回：カウンセリング②（カウンセリングマインド、受容、傾聴、共感）			
第5回：予防的・開発的カウンセリング①（予防教育に関する理論と具体例の紹介）			
第6回：予防的・開発的カウンセリング②（対人関係ゲーム、構成的グループエンカウンター）			
第7回：発達障害①（ASD、ADHD、LDの特徴、アセスメント、対応について概説する）			
第8回：発達障害②（発達障害の生徒と交流する通常学級の生徒の事例検討を行う）			
第9回：発達障害③（通常学級の生徒達と特別支援学級の生徒達の交流を促す予防教育）			
第10回：いじめ①（いじめの定義、統計、査定、対応を概説する）			
第11回：いじめ②（いじめ重大事態の事例検討及び第三者委員会の調査報告書の検討）			

第12回：不登校①（本邦の不登校の定義，統計，経過，査定，対応を概説する）
 第13回：不登校②（適応指導教室との連携による不登校支援，COCOLOプランの解説）
 第14回：逆境的環境におかれた幼児・児童生徒の支援（虐待・非行の統計，査定，対応を概説）
 第15回：学校における危機対応（学校危機対応の事例検討と支援者間連携について概説する）

定期試験

テキスト

生徒指導提要（令和4年12月 文部科学省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する

学生に対する評価

試験（50点）とレポート（25点×2回）によって総合的に評価する。試験は，教育相談の原理，幼児・児童生徒の発達課題と問題行動，カウンセリングの基本的な理論に関する理解度を評価する。レポートでは，学級全体の心理的健康度を高め，いじめの深刻化を防ぎ，子ども同士の向社会的な交流を促すための常態的・先行的な学校全体の取り組みを含む具体的な支援計画の立案を求める内容を課す予定である。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習		単位数：2単位		担当教員名：教職担当教員 吉田誠、 教科担当教員 平林真伊	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数 145人(選択課題・演習等では志望校種・教科別に最大でも20名以内のグループに分かれて履修する)					
教員の連携・協力体制					
教職担当教員と教科担当教員が協働して科目担当するが、県教育委員会指導主事をゲストティーチャーとして、幼稚園・小学校・中学校あるいは高校での教職経験者(教職大学院生の現職教員を含む)をゲストスピーカーとして招く他、履修者の履修履歴に応じて教科に関する科目と教職に関する科目を担当した大学教員(教職大学院の実務家教員を含む)に教科指導や学級経営・生徒指導に関するフィールドワーク、事例研究、ロールプレイ、演習等の活動及び発表の評価の際にゲストティーチャーとして授業に参加してもらう。					
授業のテーマ及び到達目標					
4年次前期までに学んだ教科に関する専門的な知識・技能を児童・生徒の発達段階・学習課題に合わせて学習指導できる授業力を身に付け、また、幼児・児童・生徒の発達課題に合わせて個人あるいは学級・学年集団に対して生徒指導・学級経営できる技術を修得する。また、教員としての使命や服務・倫理を自覚し、教科指導及び学級経営の学習活動を行う際に協働作業を通してコミュニケーション能力を身につける。					
授業の概要					
学校の教員として必要最低限の資質能力を修得していることの確認を主たるねらいとし、求められる教科指導力及び生徒指導力等を確実に身に付けさせるための内容を中心に据え、「履修カルテ」を参照し、各自自己の学修課題に即して指導教員の助言を得ながら学修する。					
授業計画					
第1回：本授業のねらいの説明と「履修カルテ」の確認(担当：吉田、平林)					
第2回：教員としての倫理・服務について考える(担当：吉田(実務家教員をゲストティーチャーとする))					
第3回：教員としての使命感等について考える(現職教員との意見交換) (担当：吉田、平林)					
第4回：ICT教育に関する学校現場の実態と教師に求められる知識・技能 (担当：吉田(県教育委員会指導主事をゲストティーチャーとする))					
第5回：補完指導①：「履修カルテ」を参照し、学級経営力及び教科指導力について学生個別の課題を見つけ、目標設定を行う(担当：吉田、平林) (以下第15回まで、「教科に関する科目」及び「教職に関する科目」担当教員と協同して授業を進める。)					
第6回：補完指導②：各自で設定した目標を基に選択課題の履修計画を立てる (担当：吉田、平林)					
第7回：選択課題(教科指導)①：各教科における教材分析、学習指導案の作成、フィールドワーク、事例研究、事例研究等の事前指導及び活動(担当：吉田、平林)(以下第8回まで各教科専門教員がグループ毎に指導)					
第8回：選択課題(教科指導)②：各教科における教材分析、学習指導案の作成、フィールドワーク、事例研究、事例研究等の活動(担当：吉田、平林)					
第9回：補完指導③：教科指導の選択課題での学習成果の発表と共有(担当：吉田、平林)					
第10回：選択課題(学級経営・生徒指導)①：発達の理解、学級経営、生徒指導等に関するロールプレイ、演習等の事前指導及び活動(担当：吉田、平林)(以下第12回まで各分野専門教員がグループ毎に指導)					
第11回：選択課題(学級経営・生徒指導)②：発達の理解、学級経営、生徒指導等に関するロールプレイ、演習等の活動(担当：吉田、平林)					
第12回：選択課題(学級経営・生徒指導)③：発達の理解、学級経営、生徒指導等に関するロールプレイ、演習等の活動のまとめと事後指導(担当：吉田、平林)					
第13回：補完指導④：学級経営・生徒指導の選択課題での学習成果の発表と共有 (担当：吉田、平林)					

第14回：補完指導⑤：各自で設定した目標の達成度の評価と今後の課題の明確化

（担当：吉田、平林）

第15回：補完指導⑥：授業全体の学習成果の総括と成果の共有（担当：吉田、平林）

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領』東山書房、文部科学省『小学校学習指導要領』東洋館出版社、
文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房、文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房

参考書・参考資料等

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 平成30年、文部科学省『小学校学習指導要領解説総則編』東洋館出版社 平成29年、文部科学省『中学校学習指導要領解説総則編』東山書房 平成29年、文部科学省『高等学校学習指導要領解説総則編』東洋館出版社 平成30年、山形県教育委員会 教職員の不祥事防止に係る有識者会議「信頼される学校教育を推進するために～教職員の不祥事防止に係る提言～」平成27年8月25日

学生に対する評価

以下の評価の観点により倫理・服務・使命感等についてのレポート（20%）、選択課題（教科指導）レポート（30%）、選択課題（学級経営・生徒指導）レポート（30%）、総括レポート（20%）で評価する。

1. 教員としての倫理・服務・使命感について当事者意識を持った説明ができる。
2. 履修カルテに基づいて適切な目標と履修計画を設定、実行し、目標を達成することができる。
3. 教科指導及び学級経営・生徒指導について最低限度の実践力を身につけると共に課題を自覚できている。

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

授業科目名： 道徳教育の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉田 誠 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業の到達目標及びテーマ 1. 道徳教育の必要性、歴史、現状と課題について説明できる。 2. 道徳科のさまざまな指導法の特徴と課題について説明できる。 3. 適切な指導法を選択し、道徳科の学習指導案を作成することができる。			
授業の概要 本授業では、小中学校の道徳科の授業を行うために必要な心構えと基本的な知識を習得した上で、適切な指導法を選択して道徳科の学習指導案を作成できるようになることを目的とする。 本授業は基本的に講義形式で行うが、毎回の授業の初めに考察課題を与え、授業内容を踏まえて自分の考えをコミュニケーションカードに記入してもらうことにする。記入内容から優れたものや課題の残るものについて次回の授業の最初に紹介するので自分とは異なる他者の考え方も参考にしながら多面的・多角的に思考できるよう主体的に取り組んでもらいたい。また、授業の最後の5回で与えられた教材についてグループで教材分析、発問検討、指導案作りを行った上で、指導案の発表会を行い、優れた指導案を作成したグループの代表者に模擬授業を行ってもらうので、グループワークに積極的に取り組んでもらいたい。			
授業計画 第1回：道徳教育における信念対立と正しさを決める四つのアプローチ（道徳とは何か） 第2回：道徳教育の歴史に通底する信念対立（道徳教育の歴史） 第3回：よい道徳教育とは何か（道徳とは何かを含む） 第4回：20世紀の道徳と21世紀の道徳（進化心理学と認知神経科学に基づく道徳観：心の成長と道徳性の発達を含む） 第5回：道徳授業のねらいに基づく8類型（多様な指導方法の特徴） 第6回：道徳授業の発問の構成法（道徳科の目標・内容とねらいに基づく発問構成） 第7回：道徳科の学習指導案の作成法（ねらいに沿った学習指導案の作成） 第8回：道徳科の評価（道徳科の特性を踏まえた評価のあり方） 第9回：各授業類型のねらいと発問の特徴（教材の特性を踏まえた教材分析の例示） 第10回：学校現場における道徳教育の取り組みの現状と課題（年間指導計画と教科等横断的な指導を含む） 第11回：教材分析の視点に基づく教材分析演習（いじめ及び情報モラルに関する教材を扱う） 第12回：発問構成演習（いじめ又は情報モラルに関する教材から選択して授業設計） 第13回：学習指導案作成演習（いじめ又は情報モラルに関する教材から選択して学習指導案づくり） 第14回：学習指導案発表会（作成した学習指導案の評価） 第15回：模擬授業と事後検討（授業改善の検討を含む）			

テキスト

『道徳科 初めての授業づくり』（吉田誠・木原一彰編著、大学教育出版 平成30年）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成29年7月 文部科学省）、中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編（平成29年7月 文部科学省）

学生に対する評価

以下の評価の観点により考察課題（50％）と学習指導案（50％）を基に評価する。

1. 道徳教育の必要性、歴史、現状について理解しているか
2. 道徳の授業の指導法に応じたねらいと発問を構成できるか
3. 児童生徒の実態を想定して評価可能なねらいを設定し、適切な発問と予想される反応を構成することができるか

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：野口 徹
総合的な学習の時間論	必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める	総合的な学習の時間の指導法（小）		
科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法（中・高）		
授業のテーマ及び到達目標			
・ テーマ			
総合的な学習の時間の意義と特質、指導方法について理論的・実践的に理解することを目的とする			
・ 到達目標			
・ 総合的な学習の時間の意義と、その基盤となる問題解決的な教育思想を説明出来る。			
・ 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標の位置づけと「探究」の意味。その実践上の課題について説明できる。			
・ 総合的な学習の時間を実践する具体的な手立てや総合的な学習の時間の単元計画の作成方法を説明出来る			
授業の概要			
総合的な学習の時間の意義と指導方法について、理論と実践の両面から概観し、具体的な授業イメージを獲得することを目指していく。教科書の無い、児童が主体となった学びが、実際に児童の姿を大きく変容させていく総合的な学習の時間の魅力を根本から知るように指導することの意義を追究する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 「総合的な学習の時間」とは			
第2回：我が国における総合的な学習の時間の実践例の検討①兵庫県たつの市立小宅小学校の実践			
第3回：我が国における総合的な学習の時間の実践例の検討②徳島県阿南市立伊島小学校の実践			
第4回：我が国における総合的な学習の時間の実践例の検討③神奈川県横浜市立大岡小学校の実践			
第5回：我が国における総合的な学習の時間の実践例の検討④山形県寒河江市立寒河江小学校の実践			
第6回：我が国における総合的な学習の時間の実践例の検討⑤山形県山形市立山寺中学校の実践			
第7回：我が国における総合的な探究の時間の実践例の検討⑥山形県立山形中央高校の実践			
第8回：教科・道徳・特別活動と総合的な学習の時間との関連について			
第9回：総合的な学習の時間の単元計画の作成方法について			
第10回：総合的な学習の時間の単元計画作成ワークショップ			
第11回：総合的な学習の時間の単元計画発表交流会			
第12回：近・現代の教育思想の変遷—イギリスの新教育思想			
第13回：近・現代の教育思想の変遷—アメリカの進歩主義			
第14回：近・現代の教育思想の変遷—日本の新教育思想			
第15回：総合的な学習の時間の学習内容の相互交流・討議			

テキスト

小学校学習指導要領（平成29年3月告示）解説 総合的な学習の時間編（文部科学省 著、東洋館出版社）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示）解説 総合的な学習の時間編（文部科学省 著、東山書房）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）解説 総合的な探究の時間編（文部科学省 著、学校図書株式会社）
（取得予定免許の学校種のもの）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年3月告示）（文部科学省 著、東洋館出版社）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示）（文部科学省 著、東山書房）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）（文部科学省 著、東山書房）

（取得予定免許の学校種のもの）

学生に対する評価

以下の評価の観点に則り、レポート及び発表内容等を中心に、総合的に判断し評価する。

- ・ 総合的な学習の時間の意義と、問題解決的な教育思想を理解しているか。 （30％）
- ・ 学習指導要領における総合的な学習の時間の目標の位置づけと「探究」の意味。その実践上の課題について説明できるか。 （30％）
- ・ 総合的な学習の時間を実践する具体的な手立てや総合的な学習の時間の単元計画の作成方法を理解しているか。 （40％）

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：野口 徹
特別活動論	必修科目	2単位	担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 ・テーマ 特別活動について目的や特質や教育的な意義等を理解し、実践上の課題を考えるとともに、学級活動の指導案を作成して模擬授業を行う活動を通して、実践的指導力を育成することをねらう。 ・到達目標 1 特別活動の歴史及び意義、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点から学校教育における特別活動の意義や目標及び主な内容を説明出来る。 2 「合意形成」「意思決定」に向けた集団活動を通して実践する特別活動の指導の在り方を説明出来る。			
授業の概要 特別活動の歴史的意義、学校教育上の位置や役割、各活動内容の目的・概要・指導上の留意点等を具体的な事例等を紹介しながら講義するとともに、学級活動の指導案を作成し、模擬授業を実施するなどの演習を後半に取り入れて進めていく。			
授業計画 第1回：特別活動の学校の教育課程における位置・役割 第2回：昭和22年学習指導要領の「自由研究」、昭和26年学習指導要領の「教科以外の活動」「特別教育活動」 第3回：昭和33年学習指導要領の「特別教育活動」・「学校行事等」、昭和43年学習指導要領の「特別活動」 第4回：昭和52年・平成元年の学習指導要領の特別活動 第5回：平成10年・平成20年の学習指導要領の特別活動 第6回：平成29年の学習指導要領の特別活動 第7回：学級活動の理論と実践①（指導案の作成方法） 第8回：学級活動の理論と実践②（授業実践例の分析） 第9回：児童会活動・生徒会活動の理論と実践 第10回：学校行事の理論と実践と家庭・地域社会との連携 第11回：クラブ活動・部活動の理論と実践と家庭・地域社会との連携 第12回：学級活動の指導案作成 第13回：学級活動の模擬授業① 第14回：学級活動の模擬授業② 第15回：学級活動の授業検討			
テキスト 平成29年 小学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年 中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成30年 高等学校学習指導要領解説 特別活動編 （取得予定免許の学校種のもの）			
参考書・参考資料等 平成29年 小学校学習指導要領・平成29年 中学校学習指導要領・平成30年 高等学校学習指導要領（取得予定免許の学校種のもの）			
学生に対する評価 以下の評価の観点に則り、レポート及び発表内容等を中心に、総合的に判断し評価する。 ・特別活動の歴史及び意義、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点から学校教育における特別活動の意義や目標及び主な内容を理解している。 (50%) ・「合意形成」「意思決定」に向けた集団活動を通して実践する特別活動の指導の在り方を理解している。 (50%)			

授業科目名： 教材開発演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：吉田誠・平林真伊・菊田尚人・石垣和恵・廖曦彤・江間史明 担当形態：複数・オムニバス
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標 教育実習の経験をもとに、小学校国語科、社会科、算数科、図画工作科、家庭科、道徳科の各教科の教育の目標・内容・方法について理解を深め、実践的に教材開発及び指導法を研究することができる			
授業の概要 本授業は教育実習の経験をもとに、小学校国語科、社会科、算数科、図画工作科、家庭科、道徳科の各教科の教育の目標・内容・方法について理解を深め、児童理解に基づいた教材及び指導法を考案できるようになることを目的とする。指導計画および学習指導案の作成はグループに分かれて実施し、模擬授業・実験授業、発表会はグループで順番に実施する。			
授業計画 第1回：教育実習の成果と課題、近年の研究の成果と子どもの実態（吉田・平林・菊田・石垣・廖・江間） 第2回：育成すべき資質・能力とその教育方法（吉田） 第3回：教材開発の視点と方法（吉田・平林・菊田・石垣・廖・江間） 第4回：テーマの設定、グループ編成（吉田・平林・菊田・石垣・廖・江間） 第5回：単元の指導計画の作成（吉田・平林・菊田・石垣・廖・江間） 第6回：学習指導案の作成（吉田・平林・菊田・石垣・廖・江間） 第7回：教材及び学習指導案の発表と討論（吉田・平林・菊田・石垣・廖・江間） 第8回：模擬授業あるいは実験授業、検討会（グループA）（吉田・平林・菊田・石垣・廖・江間） 第9回：模擬授業あるいは実験授業、討論会（グループB）（吉田・平林・菊田・石垣・廖・江間） 第10回：模擬授業あるいは実験授業、討論会（グループC）（吉田・平林・菊田・石垣・廖・江間） 第11回：教材及び指導案の再考（吉田・平林・菊田・石垣・廖・江間） 第12回：全体発表会の準備（吉田・平林・菊田・石垣・廖・江間） 第13回：全体発表会（発表グループa）（吉田・平林・菊田・石垣・廖・江間） 第14回：全体発表会（発表グループb）（吉田・平林・菊田・石垣・廖・江間） 第15回：全体の振り返りとまとめ（吉田・平林・菊田・石垣・廖・江間）			
テキスト 『小学校学習指導要領解説 国語編』、『小学校学習指導要領解説 社会編』、『小学校学習指導要領解説 算数編』、『小学校学習指導要領解説 図画工作編』、『小学校学習指導要領解説 家庭編』、『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』（文部科学省）			
参考書・参考資料等 必要に応じて授業時に紹介，配布する。			
学生に対する評価 教科目標、題材の目標に応じた教材を開発し、児童理解に基づいた授業を構成できること、及び他者の開発した教材や授業について理解し、積極的にかつ批判的に模擬授業や討論会に参加できることを合格の基準とする。			

上記の基準に基づき模擬授業とレポートで評価する。以下のように配点し、その6割以上が合格となる。①模擬授業・討論・発表への取り組み（50点）、②レポート・学習指導案（50点）の合計100点

授業科目名： 生徒指導・進路指導		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤宏平・吉田尚史
				担当形態： 複数・オムニバス
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標				
生徒指導や進路指導の基本的な概念を説明できる。 学校で生じるさまざまな問題行動の背景やメカニズムを説明できる。 学校で生じるさまざまな問題行動のあるべき対応について説明できる。				
授業の概要				
本講義では、学校における生徒指導、及び相談活動で対象となる問題について概説し、こうした問題に対して、教員がスクールカウンセラーや地域の専門機関と連携しながら、どのように対処しうるのか、事例を通して論じる。また、相談活動が円滑に機能するためにはどのような点に留意することが必要なのか、さらに予防も含めて機能的な学校システムとはどのようなものかに関しても学ぶ。加えてキャリア発達を踏まえた進路指導のあり方について論じる。				
授業計画				
第1回：生徒指導とは？（生徒指導および教育相談の定義・歴史・位置づけと意義、生徒指導および教育相談の対象となる問題行動、さまざまな教育活動における生徒指導・教育相談（組織・体制、生徒指導における年間指導計画を含む）、校則・懲戒（退学、停学、出席停止）・体罰、生活習慣の指導、自己肯定感と自己有用感、3段階の援助サービス）（佐藤）				
第2回：生徒指導で対象となる問題理解と対応ー不登校（1） 不登校の理解（定義、統計、教育機会確保法と多様な学びのスタイル、不登校児童生徒の進路と予後不登校の状態像とその類型）（佐藤）				
第3回：生徒指導で対象となる問題の理解と対応ー不登校（2） 対応の視点と指導・援助体制①（不登校児童生徒の理解の視点とその対応・校内連携と校外（専門機関・関係機関）連携、チーム学校、未然防止と早期発見・早期対応の大切さ）（佐藤）				
第4回：生徒指導で対象となる問題の理解と対応ー不登校（3） 対応の視点と指導・援助体制②（保護者との連携、保護者コンサルテーションの要点）（佐藤）				
第5回：生徒指導で対象となる問題の理解と対応ーいじめ① いじめとは？（定義、統計、類型、SNSやインターネット上のいじめ、いじめ防止対策推進法）（佐藤）				
第6回：生徒指導で対象となる問題の理解と対応ーいじめ② 対応の視点と指導・援助体制（未然防止、早期発見・早期対応、重大事態への対応、組織的対応と個への指導と援助）（佐藤）				

第7回：生徒指導で対象となる問題の理解と対応－発達障害（定義、統計、類型、対応の視点と指導・援助体制（専門機関・関係機関との連携を含む））（佐藤）

第8回：生徒指導で対象となる問題の理解と対応－児童虐待（定義、統計、類型、対応の視点と指導・援助体制（専門機関・関係機関との連携を含む））（佐藤）

第9回：生徒指導で対象となる問題の理解と対応－精神医学的問題①（児童期を中心に（理解とその対応（専門機関・関係機関との連携を含む））（佐藤）

第10回：生徒指導で対象となる問題の理解と対応－精神医学的問題②（思春期・青年期を中心に（理解とその対応（専門機関・関係機関との連携を含む））（佐藤）

第11回：生徒指導で対象となる問題の理解と対応－暴力行為・非行・反社会的な問題行動（理解とその対応（集団指導と個別指導、専門機関・関係機関との連携を含む））（佐藤）

第12回：学級集団に対する予防的アプローチ（自己の存在感を育む構成的グループエンカウンター・SST等）（佐藤）

第13回：進路指導とは？（進路指導・キャリア教育の意義と理論、4領域8能力と基礎的・汎用的能力、進路指導における組織的指導体制および家庭や関係機関との連携）（吉田・佐藤）

第14回：キャリア教育の実践①（ガイダンスとしての指導（職場体験、インターンシップ）、さまざまな教育活動におけるキャリア教育）（吉田・佐藤）

第15回：キャリア教育の実践②（カウンセリングとしての指導（キャリア・カウンセリングの理論と実際、自己評価とポートフォリオの活用の在り方（キャリア・パスポート））（佐藤）

テキスト 長谷川 啓三・佐藤 宏平・花田 里欧子（編著） 2024 事例で学ぶ 生徒指導・進路指導・教育相談：中学校・高等学校編第4版 遠見書房

参考書・参考資料等

長谷川 啓三・花田 里欧子・佐藤 宏平（編著） 2024 事例で学ぶ 生徒指導・進路指導・教育相談：小学校編第3版 遠見書房

文部科学省 2022 生徒指導提要改訂版 東洋館出版社

学生に対する評価

到達目標に従い、期末レポート（50%）とミニレポート課題（50%）にて総合的に評価する。尚、試験は持ち込み可（資料・テキストのみ）とするが、事前に十分に準備をして試験に臨むこと。

授業科目名： 地域学校協働インター ンシップ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2位	担当教員名： 安藤耕己・吉田誠
			担当形態：複数・オムニバス
科 目	教育実践に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	学校体験活動		
授業のテーマ及び到達目標			
1) 学校内での学習支援スタッフの役割を体験的に理解できるようになる。 2) 放課後の子どもたちを受け入れる学童保育や放課後子供教室、さらには主に不登校児童生徒を受け入れるフリースクール等の実態について、指導員あるいはスタッフとして実際に活動することにより具体的に理解することができるようになる。 3) 1) 2) をふまえ、多様な地域人材から構成される学校内の支援スタッフと教員との連携、また学校と学童保育やフリースクール等の学校外の組織・団体等との連携・協働のあり方について、具体的な見通しを口頭もしくは文章にて示せるようになる。			
授業の概要			
本授業では学校外でのインターンシップ活動を通して、4年間の大学での学習および教育実習を総括し、学校と地域の協働体制の実態についての理解を深めながら地域学校協働活動に取り組む教員としての実践力を高めることを目的とする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション①：本授業の概要と配当先希望調査の実施（安藤・吉田） 第2回：事前指導（講義）（安藤） 第3回：オリエンテーション②：配当先の調整（安藤・吉田） 第4回：配当先でのインターンシップ実施：フリースクール（一般社団法人terra）（安藤・吉田） 第5回：配当先でのインターンシップ実施：フリースクール（クローバーの会@やまがた）（安藤・吉田） 第6回：配当先でのインターンシップ実施：高瀬小学校地域学校協働活動（安藤・吉田） 第7回：配当先でのインターンシップ実施：大曾根小学校放課後子ども教室（安藤・吉田） 第8回：配当先でのインターンシップ実施：高楯中学校地域学校協働活動（安藤・吉田） 第9回：配当先でのインターンシップ実施：千歳小学校地域学校協働活動（安藤・吉田） 第10回：山形市教育委員会主催の地域学校協働活動研修会参加（安藤・吉田） 第11回：配当先でのインターンシップ実施：第五小学校学童クラブ（安藤・吉田） 第12回：配当先でのインターンシップ実施：第八小学校学童クラブ（安藤・吉田） 第13回：配当先でのインターンシップ実施：山大附属小学校学童クラブ（安藤・吉田） 第14回：ふりかえりワークショップ（吉田） 第15回：事後指導とまとめ（安藤・吉田）			
テキスト			
オリエンテーションや講義においては、毎回、適宜必要な資料等を配付する。			
参考書・参考資料等			
文部科学省「地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン 参考の手引き」平成29年4月25日			
学生に対する評価			
提出された日誌の内容（30％）、振り返りワークショップ（30％）、最終レポート（40％）で評価する。到達目標1) 2) については、インターンシップ活動に積極的・能動的に参加できていることが合格の基準となる。到達目標3) については、ふりかえりワークショップでの意見交換および最終レポートにおいて、論理的かつ具体的に示すことができることを合格の基準とする。			

授業科目名： 障害児教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：川村 修弘 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマは、障害児教育の歴史的変遷及び種々の障害児の理解と支援である。 1. 日本の「特殊教育から特別支援教育への転換」の内容について理解できる。 2. 種々の障害児の特徴と教育的対応について理解できる。 3. 特別支援学級や特別支援学校の教育課程編成の特徴を理解できる。 4. 特別支援学級や特別支援学校の学級経営について理解できる。			
授業の概要			
1年次の「特別支援教育総論」で学習した、世界や日本の障害児教育の変遷、様々な障害種別の理解と支援について、さらに詳しく学習するとともに、その教育課程、教育制度、福祉制度、医療との連携等も含めて広く理解を深めていくことを目的とする。			
授業計画			
第1回：特別支援教育の理念及び障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムを踏まえた特別支援教育の展開①（特別支援教育の理念，障害者の権利に関する条約，インクルーシブ教育システム）			
第2回：特別支援教育の理念及び障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムを踏まえた特別支援教育の展開②（特別支援教育の展開）			
第3回：特別支援教育制度における特別支援学校が有する機能・役割について①（特別支援教育に関連する法律，特別支援教育制度，通常の学級，特別支援学級，通級による指導）			
第4回：特別支援教育制度における特別支援学校が有する機能・役割について②（特別支援学校が有する機能・役割，教育相談，地域支援，センター的役割について）			
第5回：障害のある子どもの教育に関する歴史、特殊教育の果たしてきた役割や障害者施策を巡る動向，特別支援教育制度の成立と展開（特殊教育から特別支援教育に至るまでの変遷）			
第6回：現代社会における特別支援学校における教育課題について（歴史および障害者施策）			
第7回：特別支援教育の思想および理念や実際の特別支援学校の教育について①（知的障害特別支援学校，ダウン症、重複障害，教育課程，自立活動、教科指導、合わせた指導等）			
第8回：特別支援教育の思想および理念や実際の特別支援学校の教育について②（肢体不自由障害特別支援学校，教育課的，重複障害，教育課程，自立活動、教科指導、合わせた指導等）			
第9回：特別支援教育の思想および理念や実際の特別支援学校の教育について③（病弱特別支			

援学校、教育課的、重複障害、教育課程、自立活動、教科指導、合わせた指導等) 第10回：特別支援学校を巡る近年の様々な状況の変化および近年の特別支援教育政策の動向 第11回：特別支援学校の目的及び教育目標と教育課程 第12回：特別支援学校の学校・学級経営①（個別の教育支援計画及び個別の指導計画、自立活動における個別の指導計画） 第13回：特別支援学校の学校・学級経営②（学校学級行事、就学相談、進路指導、教育相談） 第14回：特別支援学校の学校・学級経営③（交流及び共同学習、保護者との連携・協働、医療との連携・協働、福祉との連携・協働、関係機関との連携・協働） 第15回：特別支援学校の学校・学級経営④（障害者福祉制度）、講義のまとめと確認
テキスト 特別支援学級担任のための学級経営サポートQ&A（三浦光哉編著、ジアース教育新社）
参考書・参考資料等 特別支援教育と障害児の心理・行動特性（河合康・小宮三彌編著、北樹出版）
学生に対する評価 ・基準 以下の評価の観点により、テスト及びビデオ視聴の感想・体験等の課題等を総合的に判断し評価する。 1. 特別支援教育の理念とともに特別支援学校に関する制度との相互の関係を理解することができたか。 2. 障害のある幼児、児童又は生徒の教育に関する歴史、特殊教育の果たしてきた役割や障害者施策を巡る動向の変化を踏まえつつ、現代に至るまでの特別支援教育の基本的な考え方及び特別支援学校の変遷を理解することができたか。 3. 特別支援教育の思想と特別支援教育の理念や実際の特別支援学校の教育との関わりを理解することができたか。 4. 特別支援学校教育要領・学習指導要領に規定する自立活動や知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科、重複障害者等に関する教育課程の取扱いの基礎的な考え方を理解しているか。 5. 特別支援学級や特別支援学校の幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた学級経営の基本的な考え方を理解できたか。 ・方法 テスト 70 点、レポート課題 30 点として、総合的に評価する。

授業科目名： 知的障害児の心理・ 生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大村 一史 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に 関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標			
（１）知的障害児の障害特性に関する最近の理論や実験的研究を中心に概観することによって、知的障害の背景にある身体に関連性を心理学・生理学・病理学の他面的な観点から捉えることができる。 （２）実際の教育現場で出会う知的障害児に対して、児童又は生徒一人ひとりの障害特性を科学的知識に基づいて理解することが可能となり、効果的な教育支援及び家庭や関係機関との連携を展開できる。			
授業の概要			
知的障害児の障害特性に関する最新の理論や実験的研究を中心に概観することによって、知的障害の背景にある心と身体に関連性を心理学・生理学・病理学の多面的な観点から捉え、知的障害児の示す認知行動上の特性を生物学的基盤（特に神経基盤）に基づいて理解する科学的知識の習得とともに、家庭や関係機関との連携を理解することを目的とする。			
授業計画			
第１回：知的障害研究における心理学・生理学・病理学			
第２回：知的障害の障害特性を理解するための心理学的基礎			
第３回：知的障害の障害特性を理解するための生理学的基礎			
第４回：知的機能と適応行動			
第５回：知的障害の定義とアセスメント			
第６回：知的障害の発生要因			
第７回：知的障害児の感覚・知覚			
第８回：知的障害児の言語			
第９回：知的障害児の記憶			
第１０回：知的障害児の注意			
第１１回：知的障害児の学習			
第１２回：知的障害児の問題解決・数概念・運動機能			
第１３回：知的障害児の実行機能			
第１４回：知的障害児に対する教育支援・家庭や関係機関との連携			
第１５回：定期試験および解説			

テキスト

授業支援システムWebClassによりダウンロード配布

参考書・参考資料等

知的障害者の心理・生理・病理（勝二博亮（編著）、2022 北大路書房）

知的障害の心理学（小池敏英・北島善夫、2001 北大路書房）

発達障害児の医療・療育・教育（松本昭子・土橋圭子（編著）、2014 金芳社）

特別支援教育-理解と推進のために-【改訂版】（石部元雄・柳本雄次（編著）、2011 福村出版）

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成 30 年 3 月告示 文部科学省）

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成 30 年 3 月告示 文部科学省）

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成 30 年 3 月告示 文部科学省）

その他、講義中に適宜推薦図書を示す

学生に対する評価

・基準

- 1) 心理学の基礎知識を理解した上で、知的障害児の障害特性を正しく説明できること。
- 2) 知的障害児の示す認知行動上の特性を理解し、その背景にある生物学的基盤を正しく説明できること。
- 3) 授業を通して学得した知識を論理的に考察し、論述できること。
- 4) 授業でおこなう活動に積極的・能動的に参画できていること。

・方法

- 1) レポート課題（20 点）＋ 定期試験（80 点）として、総合的に評価する。

授業科目名： 肢体不自由児の心理 ・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北川 貴章 大内田 裕
			担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に 関する科目 (中心領域：肢)		
授業のテーマ及び到達目標 授業のテーマ及び到達目標 【心理】 (1) 肢体不自由児の心理的特性について、医学的基礎知識に基づいて理解することができる。 (2) 肢体不自由児の教育・指導において、肢体不自由児の心理的特性を把握することができる。 【生理・病理】 (1) 基礎知識の統合：肢体不自由の原因となる主要な疾患の病理（病気の仕組み）と、それが引き起こす身体の生理的变化（機能低下、適応不全）を関連付けて説明できる。 (2) 臨床的応用：学んだ生理的・病理的知識に基づき、肢体不自由者が直面する日常生活上の困難（例：疲れやすさ、姿勢の維持、疼痛）や合併症のリスクを予測し、その予防的支援の必要性を論理的に説明できる。			
授業の概要 特別支援教育における肢体不自由児への理解を深めるために、肢体不自由児の教育・指導に関わる者に必要な医学的知識にもとづきながら、肢体不自由児の心理的・生理的・病理的特性を把握する能力を獲得することを目的とする。			
授業計画 【心理】 第1回：肢体不自由児の心理理解の基礎 ― 起因疾患と心理的特徴（担当：北川） 第2回：感覚機能の発達と心理的影響 ― 認知・学習へのつながり（担当：北川） 第3回：知能発達と認知特性 ― 観察と検査からの理解（担当：北川） 第4回：情緒と社会性の発達 ― 心理的適応と課題（担当：北川） 第5回：家庭・医療・関係機関との連携 ― 心理支援の視点から（担当：北川）			

【生理・病理】

第6回：神経系の基礎1 中枢神経系の生理と解剖（担当：大内田）

第7回：神経系の基礎2 末梢神経系の生理と解剖（担当：大内田）

第8回：運動器 筋骨格系の仕組みと働き（担当：大内田）

第9回：感覚器 体性感覚など自己受容器の仕組みと働き（担当：大内田）

第10回：脊髄 脊髄の機能と役割（担当：大内田）

第11回：身体運動を生成するメカニズム（末梢編） 筋肉と関節の生理と解剖
（担当：大内田）

第12回：身体運動を生成するメカニズム（中枢編） 脳の大脳皮質と大脳基底核
（担当：大内田）

第13回：中枢神経損傷による運動障害 脳性麻痺を中心に（担当：大内田）

第14回：脊髄損傷による運動障害 二分脊椎や頸髄損傷など（担当：大内田）

第15回：筋・骨格系の損傷による運動障害 筋ジストロフィー症など（担当：大内田）

テキスト

よくわかる肢体不自由教育 第2版 安藤隆男・藤田継道（著者）、2023年、ミネルヴァ書房
その他、毎講義で資料を配布する。

参考書・参考資料等

・特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省）および特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）、特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）

・肢体不自由教育（特別支援教育をつなぐ Connect & Connect 2）一木薫（編著）、2024年、北大路書房

その他、講義中に適宜推薦図書を示す

学生に対する評価

【心理】

・基準

- 1) 肢体不自由児の心理に関する基礎知識を理解し、正しく説明できること。
- 2) 肢体不自由児の心理特性を理解し、その背景にある考え方を正しく説明できること。
- 3) 授業を通して学得した知識を論理的に考察し、論述できること。
- 4) 授業でおこなう活動に積極的・能動的に参画できていること。

・方法

授業態度(20点)、筆記試験(80点)について、総合的に評価する。

【生理・病理】**・基準**

- 1) 肢体不自由児の生理・病理に関する基礎知識を理解し、正しく説明できること。
- 2) 肢体不自由児の病理特性を理解し、その背景にある考え方を正しく説明できること。
- 3) 授業を通して学得した知識を論理的に考察し、論述できること。

・方法

毎授業ごとに小レポート課題（100 点）を課し評価する。

上記、評価を踏まえ、心理（35%）、生理・病理（65%）の合計 100%で評価を行う。

授業科目名： 病虚弱児の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村上 由則 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：病）		
授業のテーマ及び到達目標			
（１）慢性疾患児・病弱児の置かれた課題状況を理解できるようになる。 （２）慢性疾患児・病弱児の経験する困難を擬似体験を通して、論理的に推論することができるようになる。 （３）慢性疾患児・病弱児の適応とその支援が、病状の改善のみではなく、病気を抱えながらの生活の質の向上であることを理解できるようになる。 （４）慢性疾患児・病弱児の知識にもとづき、その指導・支援内容を具体的に考えることができるようになる。			
授業の概要			
特別支援学校や地域の学校等での指導実践や小児病院などでの療育活動について紹介しながら、障害や教育的ニーズの側面から明確な概念規定が難しい慢性疾患児・病弱児の置かれた生活行動における課題状況の分析と指導方法・内容を検討することを目的とする。			
授業計画			
第１回：オリエンテーション：病気と人間のかかわり			
第２回：時代の変化と病気：疾病構造の変化と病弱教育			
第３回：病弱とは：障害としての慢性疾患			
第４回：慢性疾患の生活・行動・病理的側面１：病状変動の要因			
第５回：慢性疾患の生活・行動・病理的側面２：病状変動の認知			
第６回：慢性疾患の生活・行動・病理的側面３：生活行動様式の変更			
第７回：慢性疾患の生活・行動・病理的側面４：生活行動様式の維持			
第８回：慢性疾患児への教育的支援１：病状変動要因の認知の促進			
第９回：慢性疾患児への教育的支援２：病状変動初期症状の認知の促進			
第１０回：慢性疾患児への教育的支援３：生活行動様式変更と動機づけ			
第１１回：慢性疾患児への教育的支援４：生活行動様式維持と動機づけ			
第１２回：病気と心理発達１：乳児期～幼児期			
第１３回：病気と心理発達２：学童期～青年期			
第１４回：超重症疾患児への教育的支援：身体状況と行動との関連			
第１５回：病弱教育とは何かー支援学校と院内学級			

テキスト
特に指定しない
参考書・参考資料等
特別支援児の心理（梅谷・生川・堅田編、北大路書房（ISBN:4762824860）） 特別支援教育への招待〔改訂版〕（宮城教育大学特別支援教育講座編、教育出版（ISBN:4316804156）） 他は講義内で適宜紹介する
学生に対する評価
・基準 1）慢性疾患児・病弱児の置かれた課題を理解し、その指導・支援内容を具体的に考えることができること。 2）慢性疾患児・病弱児の経験する困難の擬似体験を通して、彼らの支援が、病状の改善のみではなく、病気を抱えながらの生活の質の向上であることを理解できること。
・方法 講義終了後の試験（集中講義のため15回目以外にもテストを行う場合がある）により評価（100%）

授業科目名： 知的障害児の教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 川村 修弘
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に 関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマは、知的障害児教育の理解と支援である。			
1. 知的障害児の特徴と教育的対応について理解できる。			
2. 知的障害特別支援学級や知的障害特別支援学校の教育課程編成の特徴を理解できる。			
3. 知的障害特別支援学級や知的障害特別支援学校の学級経営について理解できる。			
授業の概要			
1年次の「特別支援教育総論」の中で学習した知的障害の理解と支援について、さらに詳しく学習するとともに、その教育課程、教育制度、福祉制度も含めて理解を深めていくことを目的とする。			
授業計画			
第1回：知的障害の定義と知的障害特別支援学校の概要			
第2回：知的障害特別支援学校の学習指導要領と解説			
第3回：知的障害児の教育課程（年間計画、週時程）			
第4回：知的障害児の授業（指導案）			
第5回：知的障害児の授業（学習環境、日常生活の指導、生活科、ICTの活用）			
第6回：知的障害児の授業（生活単元学習）			
第7回：知的障害児の授業（作業学習、職業科）			
第8回：知的障害児の授業（国語科、算数科及び各教科、ICTの活用、教材・教具の工夫）			
第9回：知的障害児の授業（自立活動及び自立活動と各教科との関連）			
第10回：知的障害児の個別の教育支援計画・個別の指導計画及び自立活動における個別の指導計画			
第11回：知的障害児へ指導を想定した模擬授業			
第12回：知的障害児の福祉・制度			
第13回：知的障害児の就学支援			
第14回：知的障害児の進路指導及びキャリア教育			
第15回：知的障害児の教育のまとめと確認			

テキスト

特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省）、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）、特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）
知的障害教育の「教科別の指導」と「合わせた指導」（三浦光哉編著、ジアース教育 新社）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

・基準

以下の評価の観点により、テスト及びビデオ視聴の感想・体験等の課題等を総合的に判断し評価する。

知的障害児の特徴と教育的対応について理解できたか。

知的障害特別支援学級や知的障害特別支援学校の教育課程編成の特徴を理解できたか。

知的障害特別支援学級や知的障害特別支援学校の学級経営について理解できたか。

・方法

成績 100 点満点（テスト 50 点、模擬授業 50 点）として、総合的に評価する。

模擬授業は 50 点とし、その内訳は（指導案 15 点、教材教具 15 点、授業内容 20 点）とする。

授業科目名： 知的障害児の教育経営	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 大村 一史、池田 彩乃
			担当形態：複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標			
・ 見学を通して特別支援学級、特別支援学校の教育経営の在り方を理解できるようになる			
・ 小中学校に在籍している知的障害児、及び特別な教育的ニーズ児に接しながら、障害を体験的に理解できるようになり、支援の在り方の基礎を身につける			
・ 特別支援学校に在籍している知的障害児に接しながら、障害を体験的に理解できるようになり、支援の在り方の基礎を身につける			
授業の概要			
小中学校の特別支援学級、特別支援学校に在籍している知的障害児、通常学級に在籍している学力不振児および学力低下等に伴って特別な教育的ニーズを必要としている児童生徒を対象とした教育課程の編成、実態把握の仕方、指導内容および方法について、小中学校・特別支援学校での観察・参加による体験的な学習を通して学ぶ。			
授業計画			
第 1 回：小中学校における知的障害児の特別支援教育体制			
第 2 回：知的障害特別支援学級、通級指導教室、および特別支援学校と教育経営			
第 3 回：知的障害特別支援学級、通級指導教室の見学			
第 4 回：知的障害特別支援学校の見学			
第 5 回：特別な教育的ニーズ児への指導体験 1(教育経営方針と教育課程)			
第 6 回：特別な教育的ニーズ児への指導体験 2(各教科等の指導)			
第 7 回：特別な教育的ニーズ児への指導体験 3(自立活動の指導)			
第 8 回：特別な教育的ニーズ児への指導体験 4(学級全体への指導)			
第 9 回：知的障害児への指導体験 1(教育経営方針と教育課程)			
第 1 0 回：知的障害児への指導体験 2(実態把握と指導目標の立案)			
第 1 1 回：知的障害児への指導体験 3(各教科等の指導)			
第 1 2 回：知的障害児への指導体験 4(個別での自立活動の指導)			
第 1 3 回：知的障害児への指導体験 5(集団での自立活動の指導)			
第 1 4 回：知的障害児への指導体験 6(学級全体への指導)			
第 1 5 回：体験の発表、討論、まとめ			

テキスト

テキストは特に指定しない。

参考書・参考資料等

自身が取得を予定している校種(小学校・中学校)の学習指導要領『特別な配慮を要する児童生徒への対応』部分および特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)(平成30年3月告示 文部科学省)をいつも確認できる状況にしておくことが望ましい。

学生に対する評価

レポート課題(50%)、小学校及び特別支援学校での実地体験への参加・実践記録(50%)により総合的に評価する。

授業科目名： 肢体不自由児の教育		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：池田 彩乃 担当形態：単独
科 目		特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に 関する科目（中心領域：肢、含む領域：知、病）		
授業のテーマ及び到達目標				
①肢体不自由児の障害特性や配慮事項に関する事項について説明できる。				
②肢体不自由教育に関連する他の障害種の障害特性や配慮事項に関する基礎的な事項について理解できる。				
③肢体不自由児の障害特性をふまえた個別の指導計画を作成することができる。				
④肢体不自由児教育に関する今日的な課題について、討議することができる。				
授業の概要				
肢体不自由児に対する教育への理解を深めるため、障害特性に関する基礎的な知識を得るとともに、肢体不自由児教育の歴史、制度、教育課程、指導の実際についての理解を深めることを目的とする。				
授業計画				
第1回：肢体不自由の定義				
第2回：肢体不自由児の障害特性と配慮事項				
第3回：特別支援教育の変遷と肢体不自由教育の位置づけ				
第4回：肢体不自由教育の歴史				
第5回：肢体不自由教育における教育課程と関連法規				
第6回：重度・重複障害児の障害特性と配慮事項				
第7回：肢体不自由と関連する障害の障害特性と配慮事項				
第8回：個別の指導計画と個別の教育支援計画の定義や関連法規				
第9回：個別の指導計画と個別の教育支援計画の作成手続き				
第10回：事例を通じた個別の指導計画の作成				
第11回：個別の指導計画と個別の教育支援計画の実際と課題				
第12回：肢体不自由児に対する教科指導				
第13回：肢体不自由児に対する自立活動の指導				
第14回：肢体不自由教育に関する現代的な課題				
第15回：講義のまとめと確認				
テキスト				
特に指定しませんが、特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省）および特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・				

小学部・中学部）（平成 30 年 3 月告示 文部科学省）、特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成 30 年 3 月告示 文部科学省）、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成 30 年 3 月告示 文部科学省）はいつでも確認できる状態にしておくことが望ましいです。

参考書・参考資料等

特に指定しませんが、特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省）および特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）、特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）はいつでも確認できる状態にしておくことが望ましいです。

学生に対する評価

・基準

授業の到達目標で示した肢体不自由教育に関する基礎的な概念や用語について正しく理解していることを合格の基準とします。

・方法

期末テスト 60%、提出物（演習のまとめやミニレポート等）や授業参加点（ディスカッションやミニレポート等） 40%の配分とする。

授業科目名： 病虚弱児の教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 深澤（矢内）美華恵 池田 彩乃 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に 関する科目（中心領域：病、含む領域：知、肢）		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 特別支援教育における病弱児教育の制度の現在やその成立過程を理解すると同時に、今後の 展望及び課題を説明することができる。 ・ 病弱児教育のそれぞれの場において教育課程が有する意義を理解し、対象児童生徒の実態や 教育実践に則した教育課程編成の方法及びカリキュラムマネジメントの考え方を説明できる。 ・ 病気や障害の状態、特性、及び心身の発達段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事 項を理解するとともに、自立活動や自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を設定した 授業設計を行う方法を身に付けている。			
授業の概要 我が国の病弱児教育制度の成立過程と現在を概観した上で、小児医療や教育の変化に伴い生じ ている課題や今後の展望を学習する。そして、特別支援学校（病弱）や特別支援学級（病弱・ 身体虚弱）等の概況や、教育実践についての理解を深める。さらに、病弱児の発達上、学習上 の特性や心理特性を、発達心理学等の観点から理解し、対象児の実態に合わせた各教科の指導 及び自立活動の指導について授業設計を行うための方法を学ぶ。			
授業計画 第1回：病弱児教育対象児童・生徒の実態（担当：深澤） 第2回：病弱児教育の意義（担当：深澤） 第3回：病弱児教育の教育形態・教育制度（担当：深澤） 第4回：病弱児教育における教育課程の編成・カリキュラムマネジメント（担当：深澤） 第5回：病弱児の心理と支援①乳・幼児期（担当：深澤） 第6回：病弱児の心理と支援②児童期・青年期（担当：深澤） 第7回：病弱児教育における社会性の発達及び認知の特性の理解（担当：深澤） 第8回：病気の理解と指導（各教科等及び自立活動）①アレルギー性疾患等（担当：深澤） 第9回：病気の理解と指導（各教科等及び自立活動）②小児がん等（担当：深澤） 第10回：病気の理解と指導（各教科等及び自立活動）③心臓疾患等（担当：深澤） 第11回：病気の理解と指導（各教科等及び自立活動）④腎疾患・糖尿病等（担当：深澤） 第12回：病気の理解と指導（各教科等及び自立活動）⑤心身症・精神疾患等（担当：深澤）			

第13回：病弱児教育における個別の指導計画（担当：池田）

第14回：病弱児教育における自立活動の指導（担当：池田）

第15回：まとめ（確認テスト）（担当：深澤）

テキスト

・配付資料

・特別支援学校幼稚部教育要領／小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）,文部科学省，海文堂出版，2018，ISBN:9784303124243

・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月），文部科学省，開隆堂出版，2018，ISBN：9784304042294

・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月），文部科学省，開隆堂出版，2018，ISBN：9784304042317

参考書・参考資料等

・標準「病弱児の教育」テキスト，日本育療学会，ジアース教育新社，2019，ISBN：9784863714939

・病弱教育における各教科等の指導，全国特別支援学校病弱教育校長会，2015，ISBN：4863713339

・病気の子どもの教育入門，全国病弱教育研究会，クリエイツかもがわ，2013，ISBN：9784863421165

・病気の子どものガイドブック，全国特別支援学校病弱教育校長会編著，ジアース教育新社，2012，ISBN：9784863711808

その他授業時に適宜紹介する。

学生に対する評価

授業における発言や毎時のリアクションペーパーの内容等の授業への貢献度を10%、中間レポート又は中間テスト（2回）を60%、学期末の確認テスト（又はレポート）を30%として、これらを合わせて総合的に評価する。

授業科目名： 障害児の発達	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 池田 彩乃
			担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：知、含む領域：肢、病)		
授業のテーマ及び到達目標			
①障害児の障害特性や配慮事項に関する基礎的な事項について説明できる。 ②アセスメントに関する基礎的な知識を身に付ける。 ③障害児の発達段階に応じた指導について考え、教材を作成することができる。			
授業の概要			
知的障害および関連領域における障害特性の基礎的知識を身に付けるとともに、アセスメントの活用等を通して、知的障害児の発達特性を踏まえた指導の在り方を理解することができる。			
授業計画			
第1回：障害の定義（知・肢・病） 第2回：知的障害児の生理と病理 第3回：関連する障害（肢・病）の生理と病理 第4回：知的障害児の障害特性と配慮事項 第5回：障害教育の変遷と今日的課題 第6回：知的障害教育における教育課程と関連法規 第7回：障害児に対するアセスメント 第8回：発達段階に応じた自立活動の指導：意義と課題 第9回：発達段階に応じた自立活動の指導：指導の実際 第10回：発達段階に応じた各教科等の指導：教材の検討 第11回：発達段階に応じた各教科等の指導：協議を通じた改善点の検討 第12回：発達段階に応じた各教科等の指導：指導方法の検討 第13回：重複障害児の指導 第14回：知的障害教育に関連する研究 第15回：講義のまとめと確認			

テキスト

特に指定しませんが、特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省）および特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）、特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）はいつでも確認できる状態にしておくことが望ましいです。

参考書・参考資料等

特に指定しませんが、特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示 文部科学省）および特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）、特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）はいつでも確認できる状態にしておくことが望ましいです。

学生に対する評価

・基準

授業の到達目標で示した知的障害に関する基礎的な障害特性や発達段階について正しく理解し、教材教具の作成に反映させていることを合格の基準とします。

・方法

レポート60%及び演習・プレゼンテーション40%の配分とする。

授業科目名： 障害児の心理研究法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大村 一史 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：知、含む領域：肢、病)		
授業のテーマ及び到達目標			
(１) 知的障害児および発達障害児を中心とした障害児研究における心理学の知見に基づいた科学研究方法の知識を習得するとともに、その適切な活用を理解することができる。 (２) 習得した知識を基に、自らの研究目的を達成するための実験や調査を立案・計画し、取得したデータを適切に解析し、報告することができる。			
授業の概要			
知的障害児および発達障害児を中心とした障害児研究における心理・行動実験や質問紙調査を用いた心理学の知見に基づいた科学的研究方法を演習・実習形式で学習する。実験・調査計画の立案から統計的なデータ解析までを含む基本的な研究手法の知識を習得するとともに、習得した知識を自らの研究様式に合わせて適切に運用できる応用力を身につけることを目的とする。			
授業計画			
第1回：障害研究における実験や調査とは 第2回：障害研究における論文の書き方1（はじめに、目的） 第3回：障害研究における論文の書き方2（方法、結果） 第4回：障害研究における論文の書き方3（考察、引用文献） 第5回：障害特性理解のためのデータ解析の考え方と基本知識 第6回：データの要約と記述 第7回：相関と回帰 第8回：推定と検定 第9回：心理・行動実験のデータ解析：t検定と分散分析の基礎 第10回：心理・行動実験を用いた障害研究1（心理実験プログラムの作成） 第11回：心理・行動実験を用いた障害研究2（反応時間・誤答率の取得と解析） 第12回：心理・行動実験を用いた障害研究3（生理指標の活用） 第13回：質問紙調査のデータ解析：多変量解析の基礎 第14回：質問紙調査を用いた障害研究1（紙筆版質問紙の作成と解析） 第15回：質問紙調査を用いた障害研究2（オンライン調査の活用）			

テキスト

授業支援システム WebClass によりダウンロード配布

三訂版 心理学論文の書き方（松井豊、2022 河出書房新社）

Q&A 心理データ解析（服部環・海保博之、1996 福村出版）

参考書・参考資料等

心理学基礎実習マニュアル（宮谷真人・坂田省吾（代表編集）、2009 北大路書房）

心理統計学の基礎－統合的理解のために－（南風原朝和、2002 有斐閣アルマ）

その他、講義中に適宜推薦図書を示す

学生に対する評価

・基準

- 1) 障害児研究における心理研究法の基礎知識を理解し、正しく説明できること。
- 2) 数値データの意味を正しく理解し、適切にデータを解析・解釈できること。
- 3) 授業を通して学得した知識を論理的に考察し、論述できること。
- 4) 授業でおこなう活動に積極的・能動的に参画できていること。

・方法

- 1) レポート課題（20 点）＋ 演習・実習における各種課題（80 点）として、総合的に評価する。

授業科目名： 発達障害児の心理・ 生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大村 一史 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 (中心領域：発達)		
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 発達障害児の障害特性に関する最近の理論や実験的研究を中心に概観することによって、発達障害の背景にある心と身体に関連性を心理学・生理学・病理学の多面的な観点から捉えることができる。 (2) 実際の教育現場で出会う発達障害児に対して、児童又は生徒一人ひとりの障害特性を科学的知識に基づいて理解することが可能となり、効果的な教育支援及び家庭や関係機関との連携を展開できる。			
授業の概要			
発達障害児の障害特性に関する最新の理論や実験的研究を中心に概観することによって、発達障害の背景にある心と身体に関連性を心理学・生理学・病理学の多面的な観点から捉え、発達障害児の示す認知行動上の特性を生物学的基盤（特に神経基盤）に基づいて理解する科学的知識の習得とともに、家庭や関係機関との連携を理解することを目的とする。			
授業計画			
第1回：発達障害研究における心理学・生理学・病理学			
第2回：脳神経系のしくみと働き			
第3回：認知神経科学から迫る発達障害の障害特性			
第4回：発達障害と知的障害			
第5回：認知発達の基礎			
第6回：発達障害の定義とアセスメント			
第7回：発達障害児の言語			
第8回：発達障害児の注意			
第9回：発達障害児の記憶			
第10回：発達障害児の実行機能			
第11回：LDの障害特性と神経基盤			
第12回：ADHDの障害特性と神経基盤			
第13回：ASDの障害特性と神経基盤			

第14回：発達障害児の教育支援・家庭や関係機関との連携

第15回：定期試験および解説

テキスト

授業支援システムWebClassによりダウンロード配布

参考書・参考資料等

発達障害の心理学（北洋輔・平田正吾（編著）、2019 福村出版）

発達障害児の医療・療育・教育（松本昭子・土橋圭子（編著）、2014 金芳社）

特別支援教育-理解と推進のために-【改訂版】（石部元雄・柳本雄次（編著）、2011 福村出版）

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月告示 文部科学省）

その他、講義中に適宜推薦図書を示す

学生に対する評価

・基準

- 1) 心理学の基礎知識を理解した上で、発達障害児の障害特性を正しく説明できること。
- 2) 発達障害児の示す認知行動上の特性を理解し、その背景にある生物学的基盤を正しく説明できること。
- 3) 授業を通して学得した知識を論理的に考察し、論述できること。
- 4) 授業でおこなう活動に積極的・能動的に参画できていること。

・方法

- 1) レポート課題（20点）＋ 定期試験（80点）として、総合的に評価する。

授業科目名： 発達障害・重複障害 児の教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：川村 修弘 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：発達、含む領域：重複)		
授業のテーマ及び到達目標 1. 発達障害の定義を理解し、支援の仕方を体得する。 2. いくつかの障害を併せ持ったり、2次障害を起こしたりしている子供の支援策を理解する。			
授業の概要 通常の学級に在籍している発達障害児（学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害）について知識を習得するとともに、通常の学級における発達障害児への授業づくりや通級指導教室での自立活動の指導内容・指導方法について、事例を通して理解を深めていくことを目的とする。更に関連して、重複障害児、言語障害児、不登校児など特別な教育的ニーズがある子供たちへのアプローチの仕方についても学ぶ。			
授業計画 第1回：通常の学級の教育課程を基盤とした通級による指導および特別支援学級における特別の教育課程について（発達障害児及び重複障害児の理解，特別の教育課程の編成） 第2回：学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症児の特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、通級による指導や特別支援学級における特別の教育課程の編成について 第3回：学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症児の特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、自立活動における個別の指導計画の作成とその取扱い 第4回：個別の指導計画の評価と改善（教育課程の評価と改善，PDCA サイクルでの見直し，カリキュラム・マネジメント） 第5回：学習障害児の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、各教科等の指導において生じる「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し、個に応じた「手立て」の検討 第6回：注意欠陥多動性障害児の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、各教科等の指導において生じる「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し、個に応じた「手立て」の検討 第7回：自閉症児の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、各教科等の指導において生			

じる「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し、個に応じた「手立て」の検討し指導 第8回：学習障害児の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえたICTや適切な教材・教具の活用及び学習環境の整備について 第9回：注意欠陥多動性障害児の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえたICTや適切な教材・教具の活用及び学習環境の整備について 第10回：自閉症児の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえたICTや適切な教材・教具の活用及び学習環境の整備について 第11回：学習障害児の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた自立活動及び自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の学習指導案の作成 第12回：注意欠陥多動性障害児の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた自立活動及び自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の学習指導案の作成 第13回：自閉症児の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた自立活動及び自立活動の指導との関連を踏まえた各教科等の学習指導案の作成 第14回：子供の重複障害の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメント（重複障害（視覚、聴覚） 第15回：子供の重複障害の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校の教育実践に即した教育課程の編成の方法とカリキュラム・マネジメント（重複障害（知的、肢体不自由、病弱）	
テキスト	特別支援教育のステップアップ指導方法100（三浦光哉編著、ジアース教育新社 2019）
参考書・参考資料等	小1プロブレムを防ぐ保育活動（理論編）（三浦光哉・井上孝之、クリエイツかもがわ 2013） 新版・キーワードブック特別支援教育（玉村公二彦・黒田学・向井啓二・平沼博将・清水貞夫編、クリエイツかもがわ、2019年）
学生に対する評価 ・基準 ・発達障害の定義を理解し、支援の方法を体得することができたか。 ・個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成することができたか。 ・方法 テスト（70点）、レポート課題（30点）により総合的に評価する。	

授業科目名： 視覚障害児の心理と 教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：奈良 里紗 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：視)		
授業のテーマ及び到達目標 ・盲児、弱視児それぞれの生理・病理に関する基礎的な知識を得る。 ・使用文字や感覚特性に応じた指導上の配慮事項や教材・教具の工夫の考え方を理解する。 ・視覚障害児の発達課題や早期支援の重要性について理解する。 ・視覚障害教育における自立活動やキャリア教育の特徴について、基本的な理解をする。			
授業の概要 視覚障害教育に携わるためには、視覚障害児童生徒の実態を把握し、見え方や発達の状況、感覚活用等を十分に考慮し、指導を行う能力が必要です。また、視覚障害児童生徒の指導においては、視覚障害教育における教育課程や自立活動の特徴を理解しておくことも必要です。 そこで、本講義では、視覚のメカニズムについて生理学的に解説し、盲学校の児童生徒によくみられる眼疾患について病理学的に解説します。また、見えない、見えにくいことが発達に及ぼす影響が何か、また、視覚の代替となる触覚や聴覚の感覚の特性とは何か、視覚障害が心に及ぼす影響とは何かについて心理学的に解説します。それらを踏まえ、盲学校の教育課程、自立活動の内容、盲児や弱視児に特徴的な指導内容・教材教具について、具体例をあげながら説明します。			
授業計画 第1回：視覚障害の定義・分類・実態 第2回：様々な視機能の理解（視力・視野・コントラスト） 第3回：眼疾患と視覚障害 第4回：様々な視機能の理解（色覚・光覚） 第5回：教育的視機能評価の意義・内容・方法 第6回：視覚障害の教育課程、多様な学びの場に応じた指導事例 第7回：視覚障害教育における教材・教具 第8回：視覚障害児の発達特性と指導の工夫 第9回：視覚障害児の感覚特性と指導の工夫 第10回：視覚障害児の指導の基礎（点字使用・全盲） 第11回：視覚障害児の指導の基礎（墨字・拡大文字・弱視） 第12回：視覚障害児・者と自立活動の指導（点字・歩行・視覚補助具） 第13回：視覚障害児・者とコミュニケーションの指導 第14回：視覚障害児・者と心のケア 第15回：視覚障害児・者とキャリア教育 定期試験			

テキスト 指定なし。授業中に適宜参考資料を提示		
参考書・参考資料等 五訂版 視覚障害教育に携わる方のために（香川邦夫、慶應義塾大学出版会）		
学生に対する評価 授業中の確認テストによる評価（40％） 最終評価レポート（40％） 参加態度（20％）		

授業科目名： 聴覚障害児の心理と 教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：菅井 裕行 担当形態：単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：聴)		
授業のテーマ及び到達目標 ・聴覚障害教育の目的及び方法・生理・心理・病理についての基本的な知識について理解することができる。 ・聴覚障害児への教育課程の編成、指導内容や指導方法について理解することができる。			
授業の概要 聴覚の障害についての基本的知識を把握するとともに、聴覚障害児者への教育的支援の基本を習得することを目的とする。			
授業計画 第 1 回：「聴覚障害」をどのようにとらえるか：障害理解と心理社会的側面の導入 第 2 回：聞こえの障害とは：聴覚器官の生理・病理的基礎とその心理的影響 第 3 回：聴覚障害とライフステージ：発達段階に応じた心理的支援と関係機関連携 第 4 回：聞こえの障害の教育的評価：認知面・情緒面の特性評価と教育的配慮 第 5 回：聴覚検査と聴覚障害：心理的負担への配慮を含めた検査の理解 第 6 回：手話の活用について：アイデンティティ形成と視覚言語の教育的意義 第 7 回：補聴システムと発音・語：音声言語と発達の困難さへの支援 第 8 回：コミュニケーションモード：多様性の尊重と心理的安全性の確保 第 9 回：コミュニケーションの発達：聴覚障害がもたらすコミュニケーション発達への影響と教育課程の編成 第 10 回：超早期・幼児期の聴覚障害とコミュニケーション：言語力の育成につながる発達段階を踏まえたコミュニケーション手段の選択・活用と学習指導要領に基づく環境整備・教育課程への反映 第 11 回：ろう重複障害のコミュニケーション発達：多様なコミュニケーション手段の活用と個々の特性に合わせた配慮・連携を踏まえた創意工夫ある教育課程の編成とカリキュラム・マ			

マネジメント

第 12 回：社会性とアイデンティティ：人間関係の基礎を形成する力の育成と教育課程編成における目標設定・評価改善の視点

第 13 回：聴覚障害教育の教育課程：学校教育目標との関連と創意・工夫及び学習指導要領・関連法規を基準とした教育課程編成とカリキュラム・マネジメントの在り方

第 14 回：自立活動の在り方：個々の教育的ニーズに基づく個別指導計画の作成と指導の実際及び教育課程との関連

第 15 回：まとめと今後の課題：学校全体で継続的に行う編成・実施・評価の連続によるマネジメントの在り方と今後の聴覚障害教育の課題

テキスト

特に指定なし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

- ・聴覚障害教育の基本と実際（中野善達・根本匡文著、田研出版 2008）
- ・聴覚障害教育これまでとこれから（脇中起余子著、北大路書房 2009）

学生に対する評価

・基準

- ・聴覚障害教育の目的及び方法・生理・心理・病理についての基本的な知識について理解することができたか。
- ・聴覚障害児への教育課程の編成、指導内容や指導方法について理解することができたか。

・方法

授業態度・課題レポートによって評価する。（授業でのディスカッション等が 30%、課題レポートが 70%）